

分布調査報告書(27)

2001

山形県教育委員会

分布調査報告書(27)

平成13年3月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成11年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

平成7年度を初年度とする第四次山形県教育振興計画では「感性豊かな教育と文化の創造」をテーマとし、その中で、文化財の保存と活用については、文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に努めることが大きな柱とされました。

遺跡詳細分布調査は、本県の「新総合発展計画」に基づく各種開発計画と埋蔵文化財包蔵地の保護のための調整を第一目的としています。また、山形県教育委員会では、現在、いわゆるIT（情報技術）による遺跡情報の整備に取り組んでおりますが、その基本的な情報としての大切な資料となるものでもあります。

本書は、平成11年度の各種開発事業計画と埋蔵文化財包蔵地保護の調整の結果及び経過を記録したものであると同時に、調査結果に基づいて埋蔵文化財包蔵地のこれまでの所見を必要に応じ改訂し、その結果の周知を図ることも併せもつものです。今後の文化財保護に活用していただければ幸いです。

平成13年3月

山形県教育委員会

教育長 木村 幸

例 言

- 1 本書は、平成11年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成11年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 報告書の作成は、山形県教育庁文化財課の長橋 至・渋谷孝雄・佐藤庄一の3名が担当した。
- 3 第Ⅰ章に平成11年度の調査遺跡一覧を、第Ⅱ章に個々の調査結果を記した。新規発見遺跡・登録抹消遺跡・範囲・位置の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。なお、第Ⅱ章2以下はこれをさらに縮小して使用した。第Ⅱ章1の遺跡地名表の番号は当該事業の遺跡位置図の番号と一致する。
- 5 挿図及び文中の記号は以下のとおりである。
T、TTは発掘溝、試掘溝、TP・○は試掘坑を表す。挿図中の赤色部分は遺構・遺物検出、黒色部分は遺構・遺物未検出を示す。
遺跡位置図の赤色部分は遺跡範囲を示す。
RP－土器、RQ－石器、ST－竪穴住居跡、SB－建物跡、SK－土坑、SD－溝跡、EB－掘り方、SP・EP－柱穴、SX－性格不明落込み、SG－河川跡を示す。
- 6 図版の遺物は2分の1と3分の1を原則とし、2分の1縮尺以外は各図版に縮尺率を示した。
- 7 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者の御協力を得た。ここに記して感謝申し上げます。

目 次

I	調査の目的、方法と経過	
1	調査の目的、方法	1
2	調査の経過	1
II	調査の概要	
1	遺跡地名表	
(1)	県農林事業関係遺跡	4
(2)	建設省直轄事業関係遺跡	18
(3)	日本道路公団事業関係遺跡	18
(4)	県土木事業他関係遺跡	32
2	試掘調査の概要	
(1)	中川原C遺跡	42
(2)	中台遺跡群(中台1～6遺跡)	42
(3)	白鳥館跡	52
(4)	高在家館跡	56
(5)	内方館跡	58
(6)	北小屋屋敷遺跡	60
(7)	金城館跡	62
(8)	二タ子A遺跡	64
(9)	かっぱ遺跡	72
(10)	二階堂氏屋敷遺跡	76
(11)	飛泉寺跡遺跡	78
(12)	渋江遺跡	80
(13)	石田遺跡	82
(14)	八ヶ森遺跡	84
(15)	坂ノ上遺跡	86
(16)	沼向遺跡	90
(17)	永源寺跡遺跡	92
(18)	長表遺跡	96
(19)	四ツ塚遺跡	100
(20)	高揃南遺跡	102
3	記録保存の概要	
(1)	梅在家遺跡	106
(2)	宮ノ下遺跡	116
(3)	山形城三の丸跡	122
(4)	大樽遺跡	154
(5)	鶴ヶ岡城跡	178
(6)	名勝史跡 山寺	182
III	まとめ	
1	新規発見遺跡	184
2	範囲・名称の変更及び登録を抹消する遺跡	185
	附表目次	
	表-1 平成11年度分布調査遺跡一覧	
	表-2 調査工程表	
	表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引	

挿図目次

第 1 図	県農林事業関係遺跡位置図 (1)	6
第 2 図	県農林事業関係遺跡位置図 (2)	7
第 3 図	県農林事業関係遺跡位置図 (3)	8
第 4 図	県農林事業関係遺跡位置図 (4)	9
第 5 図	建設省事業関係遺跡位置図	18
第 6 図	日本道路公団事業関係遺跡位置図 (1)	20
第 7 図	日本道路公団事業関係遺跡位置図 (2)	21
第 8 図	日本道路公団事業関係遺跡位置図 (3)	22
第 9 図	日本道路公団事業関係遺跡位置図 (4)	23
第 10 図	県土木部他事業関係遺跡位置図 (1)	34
第 11 図	県土木部他事業関係遺跡位置図 (2)	35
第 12 図	県土木部他事業関係遺跡位置図 (3)	36
第 13 図	中川原 C 遺跡概要図、検出遺構平面図・断面図	42
第 14 図	中台遺跡群位置図	44
第 15 図	中台 1～4 遺跡概要図	45
第 16 図	中台 5・6 遺跡概要図	46
第 17 図	中台 2・4 遺跡平面図・断面図	47
第 18 図	中台 5・6 遺跡平面図・断面図	48
第 19 図	白鳥館跡概要図	52
第 20 図	白鳥館跡平面図・断面図	53
第 21 図	高在家館跡概要図	56
第 22 図	内方館跡概要図	58
第 23 図	北小屋屋敷遺跡概要図	60
第 24 図	金城館跡概要図	62
第 25 図	二タ子 A 遺跡概要図	64
第 26 図	二タ子 A 遺跡平面図・断面図	65
第 27 図	二タ子 A 遺跡出土遺物 (1)	66
第 28 図	二タ子 A 遺跡出土遺物 (2)	67
第 29 図	かっぱ遺跡概要図	72
第 30 図	かっぱ遺跡検出遺構平面図・土層断面図	73
第 31 図	二階堂屋敷遺跡概要図	76
第 32 図	飛泉寺跡遺跡概要図	78
第 33 図	洪江遺跡概要図	80
第 34 図	石田遺跡概要図	82
第 35 図	八ヶ森遺跡概要図	84
第 36 図	八ヶ森遺跡平面図・断面図	85
第 37 図	坂ノ上遺跡概要図	86
第 38 図	坂ノ上遺跡平面図・断面図	87
第 39 図	沼向遺跡概要図	90
第 40 図	沼向遺跡検出遺構平面図・土層断面図	91
第 41 図	永源寺跡遺跡概要図	92
第 42 図	永源寺跡遺跡平面図・断面図	93
第 43 図	長表遺跡概要図	96
第 44 図	長表遺跡平面図・断面図	97

第 45 図	四ツ塚遺跡概要図	100
第 46 図	四ツ塚遺跡検出遺構平面図・断面図	101
第 47 図	高揃南遺跡概要図	102
第 48 図	高揃南遺跡検出遺構平面図・断面図、遺物実測図	103
第 49 図	梅在家遺跡概要図	106
第 50 図	梅在家遺跡遺構全体図	109
第 51 図	梅在家遺跡トレンチ平面図・断面図	110
第 52 図	梅在家遺跡遺構平面図・断面図	111
第 53 図	梅在家遺跡出土遺物実測図	112
第 54 図	宮ノ下遺跡概要図	116
第 55 図	宮ノ下遺跡遺構平面図	117
第 56 図	宮ノ下遺跡遺構平面図・断面図	118
第 57 図	山形城三の丸跡位置図	122
第 58 図	山形城三の丸跡概要図	123
第 59 図	山形城三の丸跡西 1 トレンチ検出遺構平面図	127
第 60 図	山形城三の丸跡西 1 トレンチ検出遺構断面図	128
第 61 図	山形城三の丸跡西 2 トレンチ平面図・断面図	129
第 62 図	山形城三の丸跡西 3 トレンチ平面図・断面図	131
第 63 図	山形城三の丸跡西 4 トレンチ平面図・断面図 (1)	133
第 64 図	山形城三の丸跡西 4 トレンチ断面図 (2)	135
第 65 図	山形城三の丸跡東 1 トレンチ平面図・断面図	136
第 66 図	山形城三の丸跡東 2 トレンチ平面図・断面図	137
第 67 図	山形城三の丸跡東 3 トレンチ平面図・断面図	139
第 68 図	大樽遺跡概要図	154
第 69 図	大樽遺跡遺構配置図他	156
第 70 図	大樽遺跡検出遺構平面図・断面図 (1)	157
第 71 図	大樽遺跡検出遺構平面図・断面図 (2)	158
第 72 図	大樽遺跡出土土器 (1)	160
第 73 図	大樽遺跡出土土器 (2)	161
第 74 図	大樽遺跡出土土器 (3)	162
第 75 図	大樽遺跡出土土器 (4)	163
第 76 図	大樽遺跡出土土器 (5)	165
第 77 図	大樽遺跡出土石器	166
第 78 図	鶴ヶ岡城跡概要図	178
第 79 図	鶴ヶ岡城跡 T T 1 平面図	179
第 80 図	鶴ヶ岡城跡検出遺構平面図・断面図	180
第 81 図	名勝史跡 山寺概要図	182

図版目次

図版 1	県農林事業関係遺跡 (1)	10
図版 2	県農林事業関係遺跡 (2)	11
図版 3	県農林事業関係遺跡 (3)	12
図版 4	県農林事業関係遺跡 (4)	13
図版 5	県農林事業関係遺跡 (5)	14
図版 6	県農林事業関係遺跡 (6)	15
図版 7	県農林事業関係遺跡 (7)	16
図版 8	県農林事業関係遺跡 (8)	17
図版 9	建設省事業関係遺跡	19
図版 10	日本道路公団事業関係遺跡 (1)	24
図版 11	日本道路公団事業関係遺跡 (2)	25
図版 12	日本道路公団事業関係遺跡 (3)	26
図版 13	日本道路公団事業関係遺跡 (4)	27
図版 14	日本道路公団事業関係遺跡 (5)	28
図版 15	日本道路公団事業関係遺跡 (6)	29
図版 16	日本道路公団事業関係遺跡 (7)	30
図版 17	日本道路公団事業関係遺跡 (8)	31
図版 18	県土木部他事業関係遺跡 (1)	36
図版 19	県土木部他事業関係遺跡 (2)	37
図版 20	県土木部他事業関係遺跡 (3)	38
図版 21	県土木部他事業関係遺跡 (4)	39
図版 22	県土木部他事業関係遺跡 (5)	40
図版 23	県土木部他事業関係遺跡 (6)	41
図版 24	中川原C遺跡	43
図版 25	中台遺跡群 (1)	49
図版 26	中台遺跡群 (2)	50
図版 27	中台遺跡群 (3)	51
図版 28	白鳥館跡 (1)	54
図版 29	白鳥館跡 (2)	55
図版 30	高在家館跡	57
図版 31	内方館跡	59
図版 32	北小屋屋敷遺跡	61
図版 33	金城館跡	63
図版 34	二タ子A遺跡 (1)	68
図版 35	二タ子A遺跡 (2)	69
図版 36	二タ子A遺跡 (3)	70
図版 37	二タ子A遺跡 (4)	71
図版 38	かっぱ遺跡 (1)	74
図版 39	かっぱ遺跡 (2)	75
図版 40	二階堂氏屋敷遺跡	77
図版 41	飛泉寺跡遺跡	79
図版 42	渋江遺跡	81
図版 43	石田遺跡	82
図版 44	八ヶ森遺跡	85

図版 45	坂ノ上遺跡 (1)	88
図版 46	坂ノ上遺跡 (2)	89
図版 47	沼向遺跡	91
図版 48	永源寺跡遺跡 (1)	94
図版 49	永源寺跡遺跡 (2)	95
図版 50	長表遺跡 (1)	98
図版 51	長表遺跡 (2)	99
図版 52	四ツ塚遺跡	101
図版 53	高揃南遺跡 (1)	104
図版 54	高揃南遺跡 (2)	105
図版 55	梅在家遺跡 (1)	113
図版 56	梅在家遺跡 (2)	114
図版 57	梅在家遺跡 (3)	115
図版 58	宮ノ下遺跡 (1)	119
図版 59	宮ノ下遺跡 (2)	120
図版 60	宮ノ下遺跡 (3)	121
図版 61	山形城三の丸跡 (1)	141
図版 62	山形城三の丸跡 (2)	142
図版 63	山形城三の丸跡 (3)	143
図版 64	山形城三の丸跡 (4)	144
図版 65	山形城三の丸跡 (5)	145
図版 66	山形城三の丸跡 (6)	146
図版 67	山形城三の丸跡 (7)	147
図版 68	山形城三の丸跡 (8)	148
図版 69	山形城三の丸跡 (9)	149
図版 70	山形城三の丸跡 (10)	150
図版 71	山形城三の丸跡 (11)	151
図版 72	山形城三の丸跡 (12)	152
図版 73	山形城三の丸跡 (13)	153
図版 74	大樽遺跡 (1)	166
図版 75	大樽遺跡 (2)	167
図版 76	大樽遺跡 (3)	168
図版 77	大樽遺跡 (4)	169
図版 78	大樽遺跡 (5)	170
図版 79	大樽遺跡 (6)	171
図版 80	大樽遺跡 (7)	172
図版 81	大樽遺跡 (8)	173
図版 82	大樽遺跡 (9)	174
図版 83	大樽遺跡 (10)	175
図版 84	大樽遺跡 (11)	176
図版 85	大樽遺跡 (12)	177
図版 86	鶴ヶ岡城跡	181
図版 87	名勝史跡 山寺	183

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成11年度以降に予定されている開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、今年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1) A 調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B 調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C 調査（記録保護のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年5～6月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月上旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成11年4月から平成12年3月まで表-2の工程で、表-1に示した各遺跡の調査を行うとともに事業予定地区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、抹消した遺跡、位置、範囲、遺跡名を訂正した遺跡はⅢ章のまとめに示した。

表-1 平成11年度分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
1	県営大區画ほ場整備事業	十六合地区	横立川				沼川
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	野中地区	泉原			○	C
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台		○		1
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台		○		2
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台		○		3
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台		○		4
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台		○		5
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台		○		6
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	木の下の地区	蓮花		○		城瀬
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	木の下の地区	鷺の		○		山瀬
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	羽黒南部地区	川代		○		E
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	羽黒南部地区	ぐみの木		○		小場
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	白鳥		○		館
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	念仏壇		○		A
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	念仏壇		○		B
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	トウモロコシ		○		ウ
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	アコウギ		○		1
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	アコウギ		○		2
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	外ノ内・窪田地区	高在		○		家館
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	外ノ内・窪田地区	内方		○		館
県営ほ場整備事業(担い手育成型)	外ノ内・窪田地区	北金		○		敷館	
県営ほ場整備事業(担い手育成型)	家根合地区	家根		○		合館	
県営ほ場整備事業(担い手育成型高度利用型)	天童東部地区	庄前				4	
2	中山間地域総合基盤整備事業生産基盤	下青沢地区	二タ子		○		A
	中山間地域総合基盤整備事業生産基盤	上青沢地区	姥ヶ				沢
	中山間地域総合基盤整備事業生産基盤	日向流地区	泥沢		○		樋
	中山間地域総合基盤整備事業生産基盤	日向流地区	鷺畑		○		B
	中山間地域総合整備事業	ふじの里地区東部	新田古		○		墳
	中山間地域総合整備事業	ふじの里地区東部	西山古		○		墳
	中山間地域総合整備事業	ふじの里地区東部	西山		○		2
	中山間地域総合整備事業	ふじの里地区東部	藤九郎清水		○		A
	中山間地域総合整備事業	ふじの里地区東部	藤九郎清水		○		D
	中山間地域総合基盤整備事業	ふじの里地区東部	丸森		○		山口
	中山間地域総合整備事業	ZAO花の森地区	立小路		○		口
	中山間地域総合整備事業	立小路地区	大か		○		ば
3	一般農道整備事業	成生地区	二階堂氏屋敷		○		
	一般農道整備事業	北目地区	宮ノ下		○	○	
4	農免農道整備事業	大石田地区	長峯山				B
5	ふるさと農道緊急整備事業	大沖地区	手塚				館
	ふるさと農道緊急整備事業	本郷高瀬地区	手平A		○	○	B
6	中山間地域総合農地防災事業	八沢地区	水沢		○		館
7	ふるさと水と土ふれあい事業	三中地区	八ツ沼		○		城館
8	県営かんがい排水事業	梨郷地区	梨郷南		○		館
9	国道47号新庄南バイパス	新庄市福田	福田山		○		B
10	須川河川敷改修事業	山形市反田	梅在		○		家
11	横川ダム建設工事	小国町市野々	飛泉寺		○		跡
12	東北中央自動車道相馬尾花沢線	山形南東根間	洪石		○		江田
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	山形南東根間	長本		○		樋反
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		田橋
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		反田
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		橋向
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		森水
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		北畑
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		口田
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		田
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		2
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		
	東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢	八島		○		

表一 平成11年度分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
12	東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線 東北中央自動車道相馬尾花沢線	東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間 東根尾花沢間	壁山 2	○			
			北原 3	○			
			沼田 4	○			
			沼田 2	○			
			八合 2	○			
			北森 1	○			
			道原 1	○			
			百枚 1	○			
			百枚 2	○			
			今宿 C	○			
13	山形新都市整備事業 山形新都市整備事業	山形市松原 山形市松原	八ヶ森 森		○		
			長者屋 敷		○		
14	都市計画街路事業東原村木沢線 都市計画街路事業羽黒橋加茂町線	山形市城南 鶴岡市馬場町	山形城三の丸			○	
			小田岡島				○
15	都市公園整備事業弓張平公園	西川町弓張平	弓張平 N		○		
16	道路改築国道287号和合バイパス 特殊改良一般国道344号 道路改良一般国道347号 主要地方道山形羽生線 主要地方道山形羽生線 主要地方道山形羽生線 一般県道網木西米沢停車場線 一般県道成沢長谷道線	朝日町和合 真室川町秋山 村山市白鳥池 天童市今塚塚 天童市高塚 小米沢町大館 山形市片谷地	沼田山 向	○	○		
			秋山 山	○			
			白鳥池 源	○			
			今塚塚 沢		○		
			高塚塚 北		○		
			大館山 前		○		
17	最上川下流域下水道藤島余日幹線 最上川下流域下水道酒田市広野 最上川流域下水道事業天童幹線管理施設事業	藤島町藤島 酒田市広野 天童市蔵増	藤島城 城				○
			大蔵日 塚				○
			増押 切			○	
18	北沢荒廃砂防事業 嵯峨町荒廃砂防事業 寺の沢都市対策砂防事業 上河原急傾斜地崩壊対策事業 武道作沢都市対策砂防事業	南陽市小岩 舟形町志茂山 金山町金内 鶴岡市宮内	日沼沢 向	○	○		
			沼沢 手	○			○
			志茂山 城	○			
			宮内 南	○			
20	救護施設みやま壮施設整備事業	河北町吉田	四ツ塚	○	○		
21	庄内広域水道用水供給事業	松山町松山	松山城				○
22	村山農業高等学校第二体育館解体工事 左沢高校朝日分校解体工事	村山市北町 朝日町宮宿	村山農高 龍館南	○			○
23	総合交通安全センター整備事業	天童市高擗	高擗南		○		
24	史跡現状変更確認	山形市山寺史跡	山寺史跡		○		

表二 調査工程表

事業名	平成11年				平成12年			平成13年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月	2月
農林・土木事業関係	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
東北中央自動車道相馬～尾花沢間関係	-													
史跡現状変更確認						-								
平成12年度以降の埋蔵文化財包蔵地に係る開発事業計画の聴き取り				-										
遺物資料整理									-	-	-			
報告書原稿作成										-	-		-	

II 調査の概要

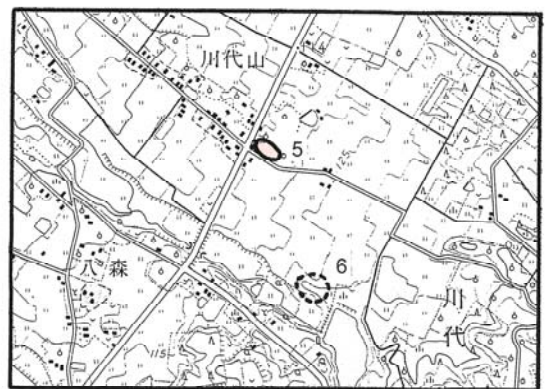
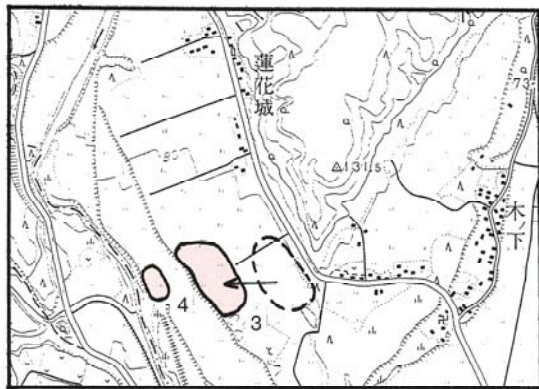
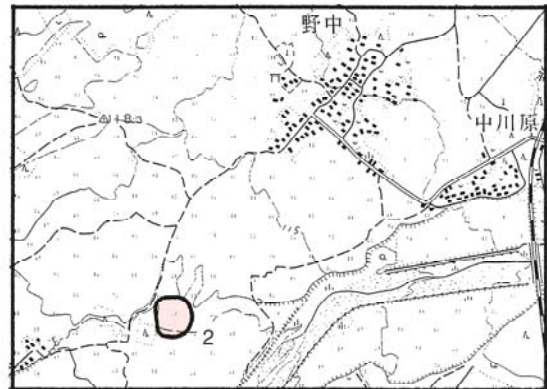
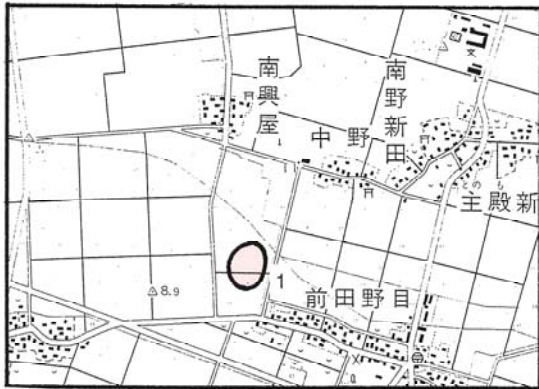
1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	よこ横 ぬま沼	東田川郡余目町大字前田野日字横沼	平安時代	平地 (9.5m)	水田
2	集落跡	たち立 いずみ かわ川	新庄市大字十日町字立泉川	縄文時代 (中～後期)	段丘 (108m)	水田
3	散布地	れん蓮 げ花 じょう城	最上郡真室川町大字木の下字蓮花城399他	縄文時代 (前期?)	段丘 (75～77m)	水畑 田地
4	散布地	さぎ鷺 の せ瀬	最上郡真室川町大字木の下	縄文時代 (後期?)	段丘 (72m)	水畑 田地
5	包蔵地	かわ代山 E	東田川郡羽黒町大字川代字川代山	縄文時代	台地 (118m)	果樹園
6	—	ぐみの木小場	東田川郡羽黒町大字川代字西増山	—	台地 (125m)	水田
7	散布地	ねん念 ぶつ仏 だん壇 A	村山市大字白鳥字石田1878他	縄文時代 (中～後期)	丘陵 (100m)	畑果樹 地園
8	散布地	ねん念 ぶつ仏 だん壇 B	村山市大字白鳥字念仏壇1842他	縄文時代 (中～後期)	丘陵 (100m)	果樹園
9	散布地	トウボウ	村山市大字白鳥字須巻沢2722他	縄文時代 (中期)	丘陵 (145m)	果樹園地
10	散布地	アコウギ 1	村山市大字白鳥字アコウギ3288—1他	縄文時代 (後・晩期)	丘陵 (115m)	畑果樹 地園
11	散布地	アコウギ 2	村山市大字白鳥字アコウギ3066—75他	縄文時代 (時期不明)	段丘 (100m)	畑果樹 地園林
12	集落跡	か家 ね根 あい合	東田川郡余目町大字家根合字五輪塚他	平安時代 (縄文時代)	自然堤防 (6m)	水田
13	散布地	しょう庄 ぜん前 4	天童市大字奈良沢字庄前	縄文時代 平安時代	山麓 (161m)	水畑 地田
14	—	うば姥 がケ さわ沢	飽海郡八幡町大字上青沢字姥ヶ沢	—	段丘 (141m)	水田
15	集落跡	どろ泥 ざわ沢	飽海郡八幡町泥沢字大峯83他	縄文時代 (中・晩期)	台地 (260m)	畑宅 地地
16	城館跡	どろ泥 ざわ沢 たて楯	飽海郡八幡町泥沢	鎌倉時代	山頂 (220m)	山林
17	散布地	さぎ鷺 はた畑 B	東田川郡藤島町大字鷺畑字西山4—125他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	丘陵 (21～23m)	畑果樹 地林
18	古墳	しん新 だん田 古墳	東田川郡藤島町大字鷺畑字新田	古墳時代	丘陵 (23m)	畑果樹 地園
19	古墳	にし西 やま山 古墳	東田川郡藤島町大字添川字西山	古墳時代	丘陵 (20m)	荒山 地林
20	散布地	西山 2 遺跡	東田川郡藤島町大字添川字西山	縄文時代 (時期不明) 平安時代	丘陵 (20～30m)	畑果樹 地園

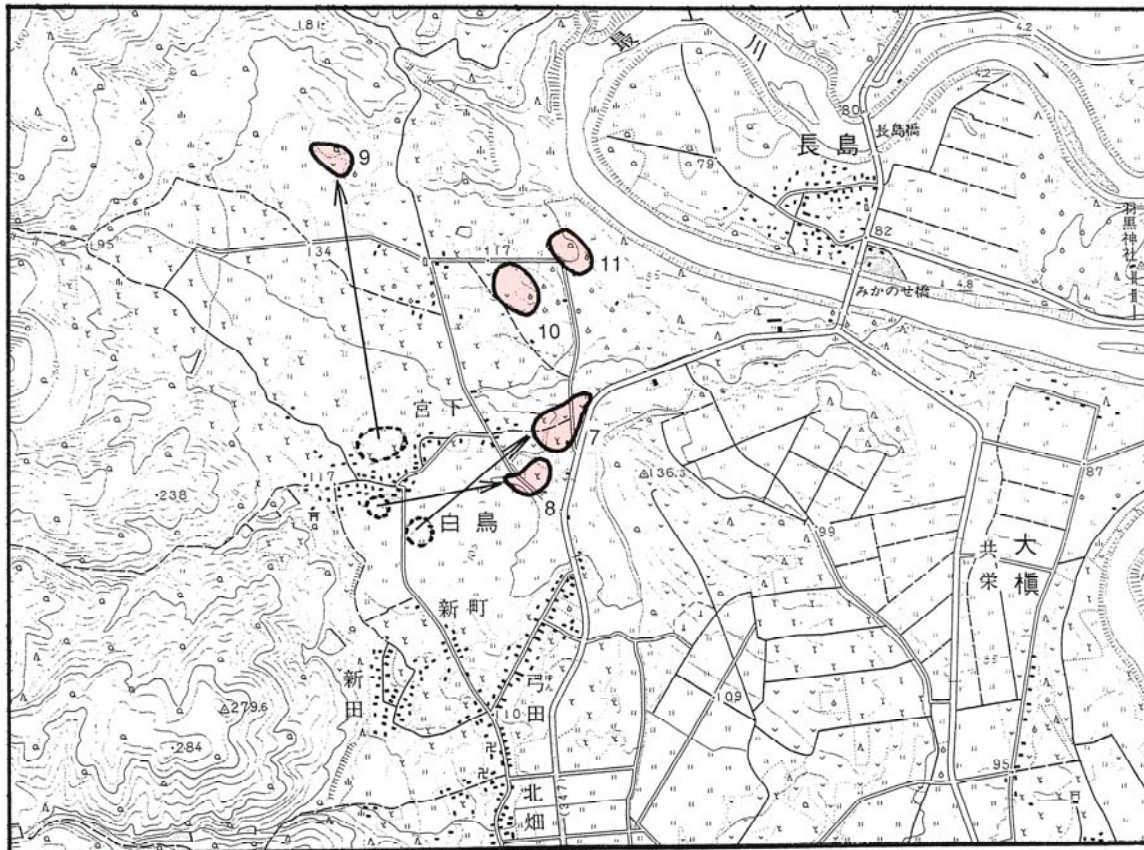
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 羽越本線西袋駅の南東2.1kmの平地に立地する。今回の水路設置予定地の立会調査では赤焼土器甕の破片が1点出土するに留った。	赤焼土器	平成10年度登録 平成11年8月県教委立 会調査実施
J R 奥羽本線新庄駅の北西3.5kmに位置し、泉田川右岸の段丘上に立地する。捨場の一部の発掘調査で多量の遺物が出土した。	縄文土器(中期末~後期初)、 石器など約100箱	昭和56年度登録 平成11年7~8月県教 委発掘調査実施
J R 奥羽本線羽前豊里駅の北西1.7kmの中位段丘上に立地する。水田と畑地で遺物の散布を確認した。東西130m、南北280mの範囲となる。	縄文土器片、石匙、石鏃、剥片	No1010 遺跡位置要訂正
J R 奥羽本線羽前豊里駅の北西1.8kmの低位段丘上に立地する。東西70m、南北120mの範囲内で遺物の散布が認められた。	縄文土器片、石鏃、剥片	平成11年度登録
羽黒町南部、庄内平野を臨む丘陵に立地する。今回は遺跡東側隣接地について試掘調査を実施した。遺構・遺物は検出されなかった。	なし	No1832 平成11年10月県教委試 掘調査実施
丘陵を開田した水田に立地する。全域事業地区内となるが、試掘調査の結果、開田で遺跡は壊滅している状況を呈したため登録抹消とする。	なし	登録抹消 No1842 平成11年10月県教委試 掘調査実施
みかのせ橋の南西1.1kmに位置する。北側を東流する小河川で開析された丘陵に立地し、東西220m、南北120mの範囲に遺物が散布している。	縄文土器片(中期末)、剥片	No607 遺跡位置要訂正
みかのせ橋の南西1.2kmに位置する。念仏壇A遺跡の南側の丘陵に立地する。隣接地の試掘調査では遺構・遺物とも未発見である。	なし	No608 遺跡位置要訂正
みかのせ橋の西北西1.8kmの南向きの丘陵斜面に立地する。東西150m、南北100mの範囲で遺物の散布を確認した。	縄文土器片、剥片	No609 遺跡位置要訂正
みかのせ橋の西方1.1kmの丘陵頂部に立地する。東西130m、南北180mの範囲内で遺物の散布を確認した。	縄文土器片、剥片	平成11年度登録
みかのせ橋の西方0.8kmに位置し、最上川左岸の段丘上に立地する。東西100m、南北160mの範囲内で遺物の散布を確認した。	縄文土器片、剥片	平成11年度登録
余目町家根合地区南東500mの水田中に位置する。今回は遺跡東側の範囲確定の試掘調査を実施。遺構・遺物は検出されなかった。	なし	No1706 平成11年10月県教委試 掘調査実施
J R 奥羽本線天童駅の南東4kmに位置する。今回の用水管理設に伴う立会調査では遺構の存在は確認できなかったが、遺物の出土があった。	須恵器、赤焼土器片	平成10年度登録
南ノ前田集落の南方400mに位置する。今回の立会調査で台地直下の表土層から剥片が出土したが、大蒸野遺跡からの流れ込みと判断される。	剥片(二次堆積)	No2258 平成11年8月立会調査 実施。要登録抹消
日向小学校の南東2.3kmに位置し、南方を西流する沢、西を北流する沢で囲まれた台地上に立地する。東西170m、南北70m程の範囲となる。	縄文土器片、剥片	No2252
日向小学校の南々東1.5kmに位置する。標高差20mの山頂に立地し、土塁や空堀等の遺構が認められる。	なし	平成8年度登録(山形 県中世城館遺跡調査報 告書第3集)
羽黒高等学校の北東2.2kmの丘陵上に立地する。東西140m、南北320mの範囲内に主として平安時代の遺物が散布する。	石鏃、剥片、須恵器片、赤焼土器片	No1726
鶯畑B遺跡の範囲内にあり、北西側に張出す丘陵端部に立地する。東西約30m、南北約20m程の前方後円墳とみられる。	なし	平成11年度登録
鶯畑B遺跡の北端部の丘陵端に立地する。直径が15m程の円墳であり、高さは1m程度と低い。西、南側に周溝が存在する。	なし	平成11年度登録
鶯畑B遺跡から水田部を挟んだ西側の舌状台地に立地する。東西100m、南北350mの範囲内に縄文・平安時代の遺物が散布する。	縄文土器片、石鏃、剥片、須 恵器、赤焼土器片	平成11年度登録

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
21	散布地	にしやま 西山3遺跡	東田川郡藤島町大字添川字西山	縄文時代 (時期不明)	丘陵 (64~67m)	畑果樹 地園
22	散布地	とうくろうしみず 藤九郎清水A	東田川郡藤島町大字東堀越字五輪田沢40-1他	平安時代	丘陵 (25m)	畑宅 地
23	散布地	とうくろうしみず 藤九郎清水D	東田川郡藤島町大字東堀越字五輪田沢272他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	丘陵 (25m)	果樹園 畑地
24	集落跡	まるやま 丸山	上山市大字小笹字丸山	縄文時代 (中期)	段丘 (267m)	畑水 地田
25	——	おおさわぐち 大沢口	最上郡最上町大字立小路字大沢口	縄文時代 平安時代	段丘 (252m)	水畑 地
26	散布地	ながみねやま 長峯山B	北村山郡大石田町大字田沢字長峯山	縄文時代 (中期)	丘陵 (80m)	荒畑 地
27	城館跡	てづかだて 手塚館	長井市五十川	中世	平地 (198m)	宅水 地田
28	集落跡	むかいひら 向平A・B	東田川郡朝日村大字本郷字向平	向平A(1915) 縄文時代 向平B(1916) 平安時代	段丘 (96m)	畑荒果樹 地園
29	城館跡	みずさわだて 水沢館	鶴岡市大字水沢字楯の下他	中世	山上 (100m)	山林
30	城館跡	やつぬまじょう 八ツ沼城	西村山郡朝日町字八ツ沼	中世 (戦国期)	丘陵 (286m)	山林 畑地
31	城館跡	りんごうみなみだて 梨郷南館	南陽市梨郷字館の廻	中世 (戦国期)	段丘 (205m)	水畑 地

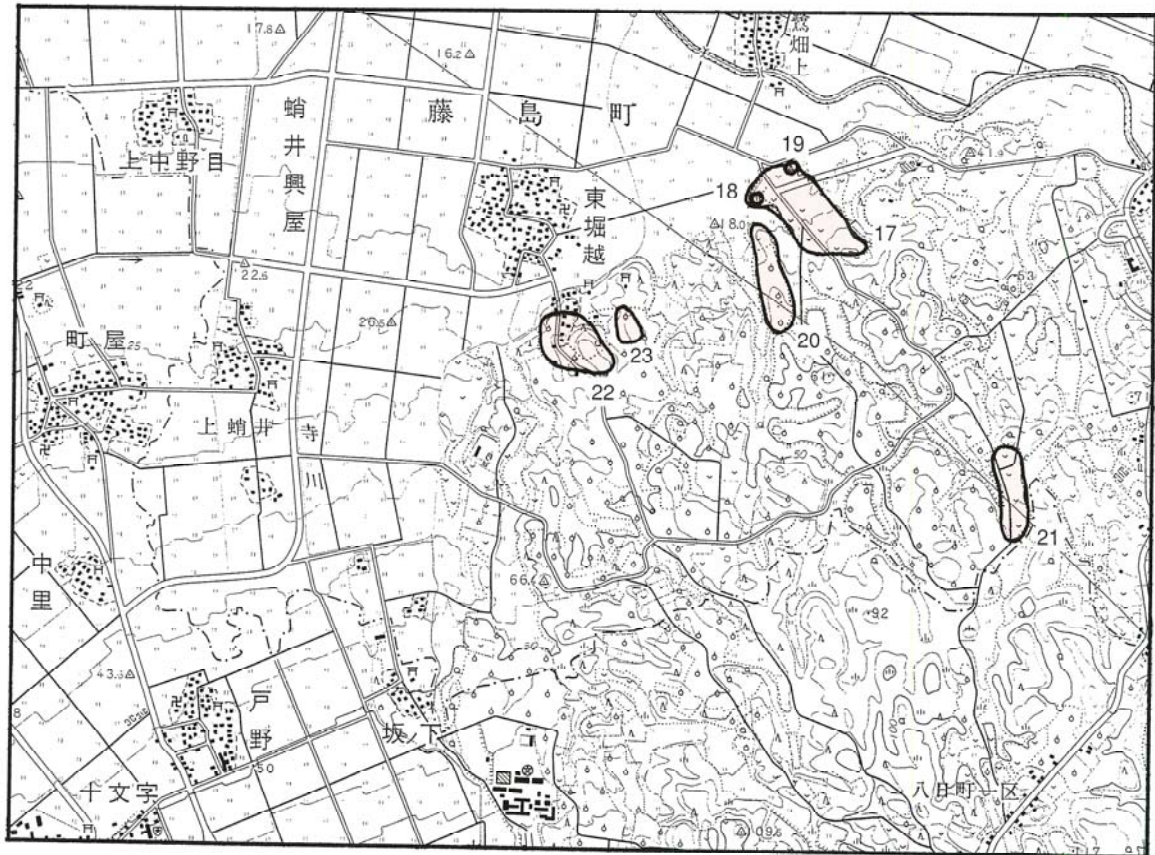
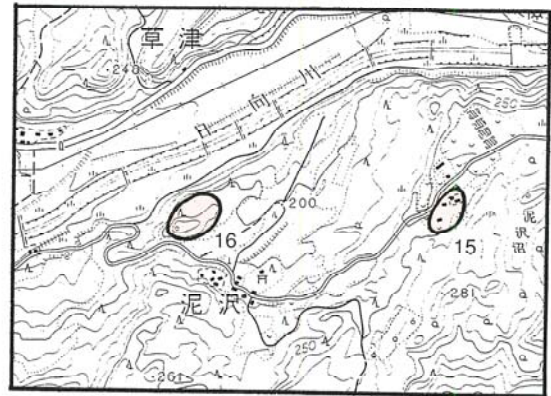
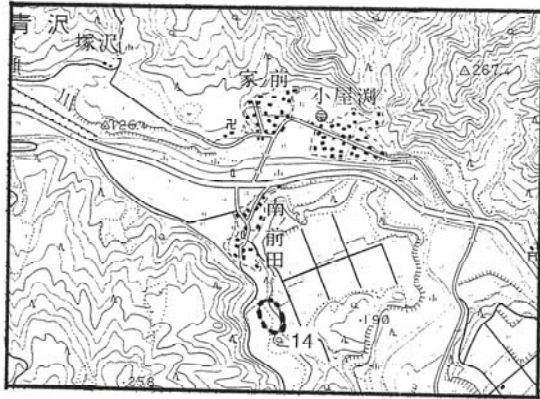
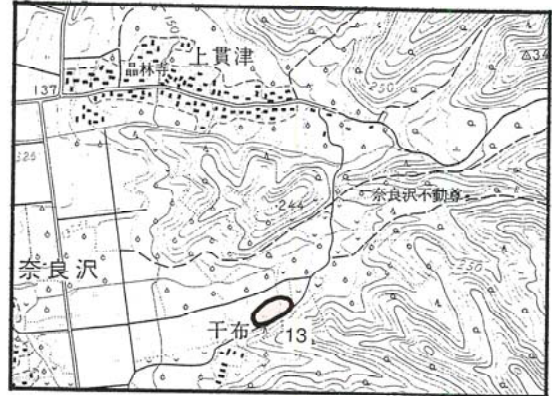
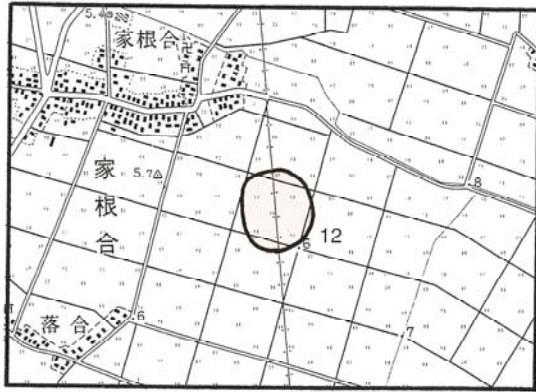


第1図 県農林事業関係遺跡位置図(1)

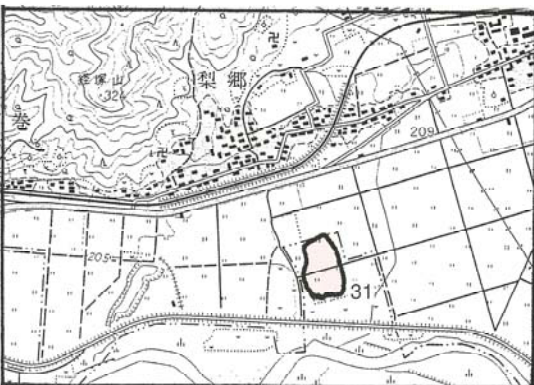
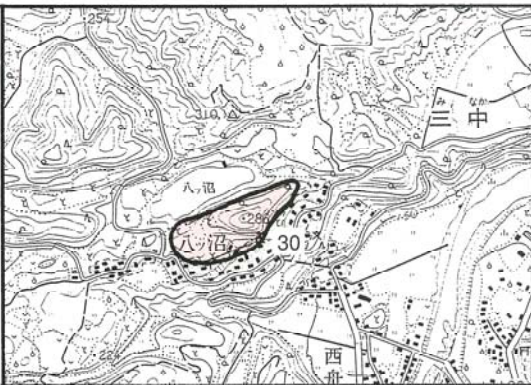
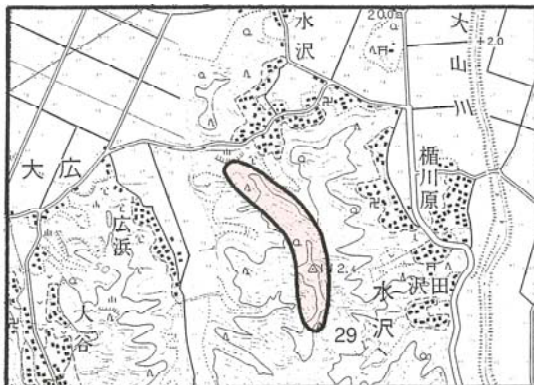
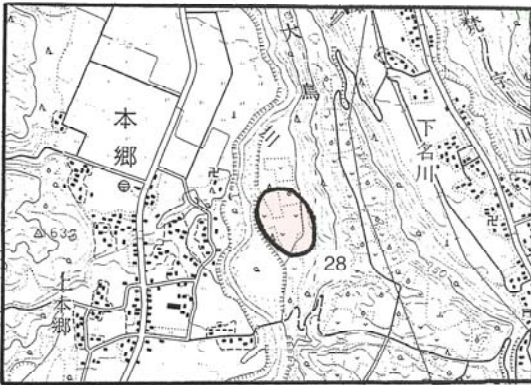
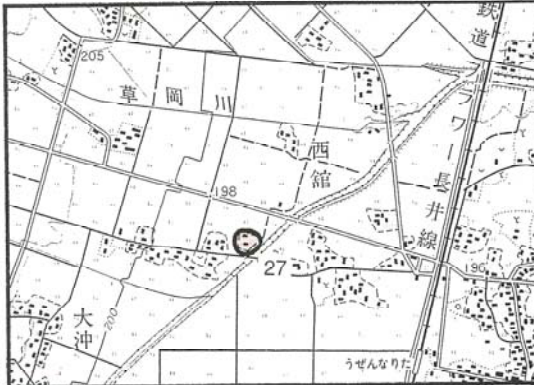
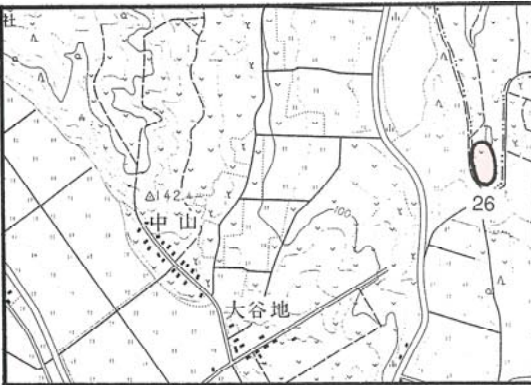
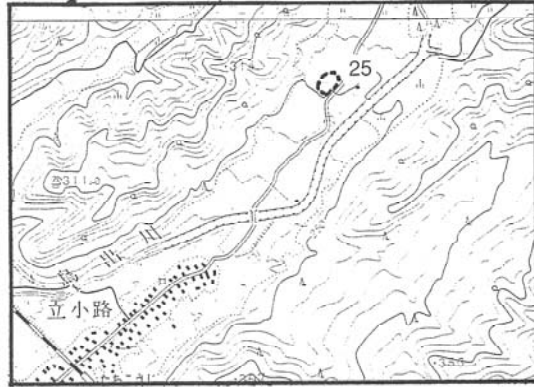
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
羽黒高等学校の東北東2kmの丘陵上に立地する。農道を挟んで東西80m、南北160mの範囲内に縄文時代の遺物が散布している。	縄文土器片、削器、剥片	平成11年度登録
羽黒高等学校の北1.5kmの丘陵端部に立地する。周囲は宅地となっているが、宅地内の畑地や道路切通し部に遺物の散布が認められる。	赤焼土器片	No1739
藤九郎清水A遺跡の東方の丘陵に位置する。西向きの斜面で平安時代の赤焼土器片が採取された。	赤焼土器片	No1742
小笹地区の南方300m、宮川右岸に立地する。試掘調査の結果、事業地区内からは遺構・遺物は検出されなかった。遺跡はこの西側にあたる。	なし	No211 平成11年11月県教委試掘調査実施
J R陸羽東線立小路駅北東1.3km、烏出川右岸に立地する。試掘調査の結果、遺構・遺物は全く検出されなかった。登録抹消とする。	なし	登録抹消 No925 平成11年11月県教委試掘調査実施
田沢小学校の南方1.7kmの南側に張出す舌状丘陵の南端部に位置する。農道拡幅工事に伴う立会調査では遺構・遺物とも検出されなかった。	なし	No852 平成11年9月県教委立会調査実施
フラワー長井線羽前成田駅の北西0.7kmの草岡川左岸の微高地に立地する。土塁や堀の痕跡が残るが、立会地域まで及ばないことを確認。	なし	平成6年度登録 平成11年6月県教委立会調査実施
大鳥川右岸の河岸段丘上、本郷地区東側400mに位置する。農道予定地内を密に試掘調査したが、対象地では遺構・遺物は検出されなかった。	なし	No1915、1916 平成11年12月県教委試掘調査実施
J R羽越本線羽前水沢駅南側約1kmの山上尾根頂部に位置する。事業予定地に隣接するが、工事は遺跡範囲外で実施される。	なし	平成8年度登録（山形県中世城館遺跡調査報告書第3集）
朝日町役場の北西1.8kmの通称楯山に築かれた山城である。遊歩道にかかる空堀部の調査では、工事域は覆土、崩壊土に収まることが判明。	なし	平成7年度登録 平成11年11月県教委試掘調査実施
フラワー長井線梨郷駅の南西600m、国道南の最上川沿いに築かれた平城である。圃場整備によって土塁等は消滅した。事業地区外である。	なし	平成7年度登録



第2図 県農林事業関係遺跡位置図（2）



第3図 県農林事業関係遺跡位置図(3)



第4図 県農林事業関係遺跡位置図(4)



横沼遺跡調査区近景（南から）



横沼遺跡調査トレンチ全景（東から）



横沼遺跡出土遺物



立泉川遺跡調査地点近景（北から）



立泉川遺跡包含層土層断面（南東から）



立泉川遺跡包含層堆積状況（北東から）

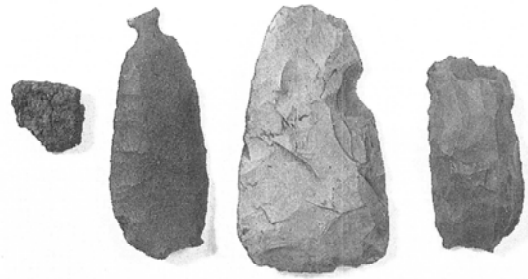


蓮花城遺跡近景（東から）



蓮花城遺跡近接地試掘溝全景（南東から）

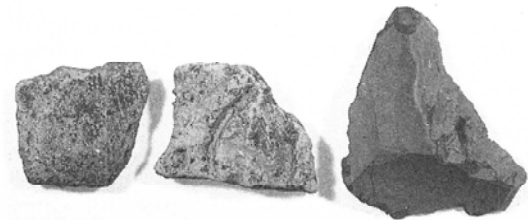
図版1 県農林事業関係遺跡（1）



蓮花城遺跡採集遺物



鷺の瀬遺跡近景（北から）



鷺の瀬遺跡採集遺物



川代山E遺跡近景（東から）



川代山E遺跡T P 1土層断面（南から）



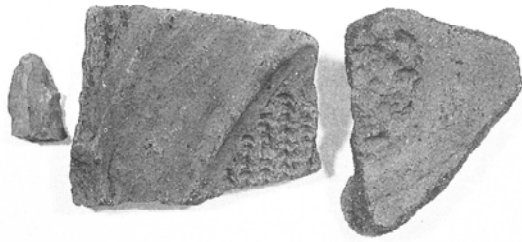
ぐみの木小場遺跡遠景（東から）



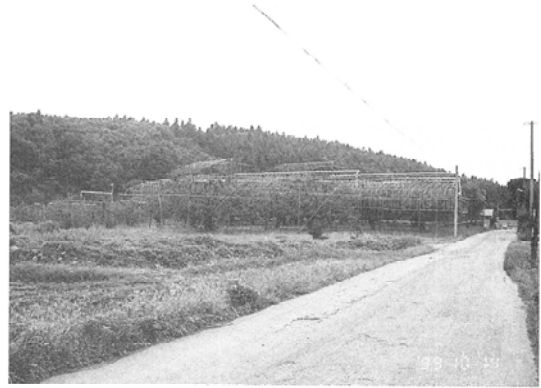
ぐみの木小場遺跡トレンチ状況（南から）



念仏壇A遺跡近景（西から）



念仏壇A遺跡採集遺物



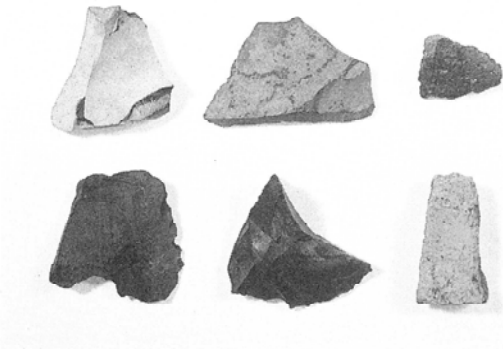
念仏壇B遺跡近景（西から）



念仏壇B遺跡隣接地試掘溝全景（東から）



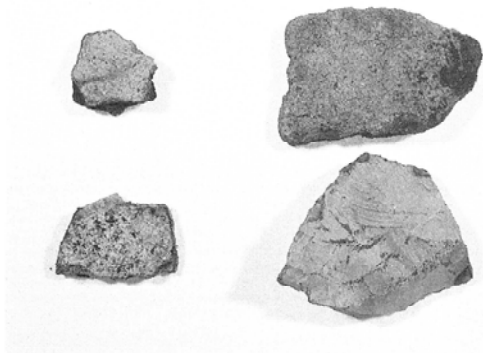
トウボウ遺跡近景（南から）



トウボウ遺跡採集遺物



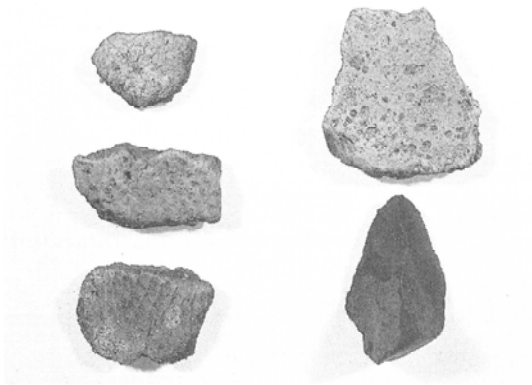
アコウギ1遺跡近景（北から）



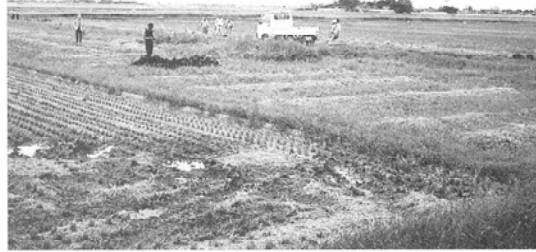
アコウギ1遺跡採集遺物



アコウギ2遺跡近景（西から）



アコウギ2 遺跡採集遺物



家根合遺跡近景（南西から）



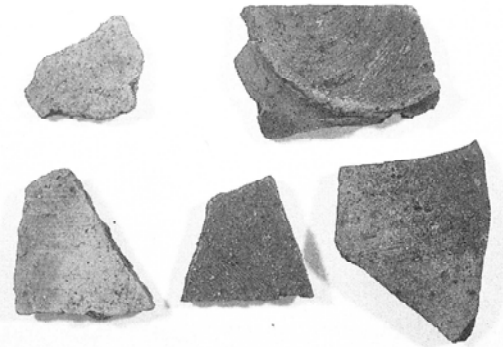
家根合遺跡 T P 8 土層断面（南から）



庄前4 遺跡調査区近景（東から）



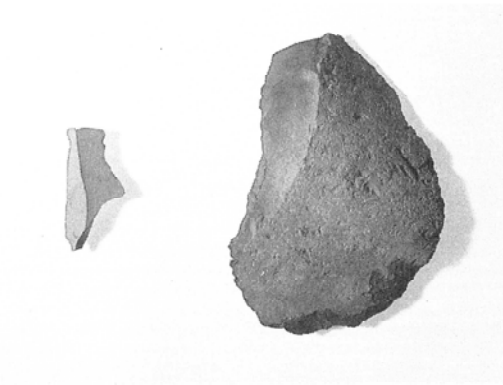
庄前4 遺跡調査状況（西から）



庄前4 遺跡出土遺物



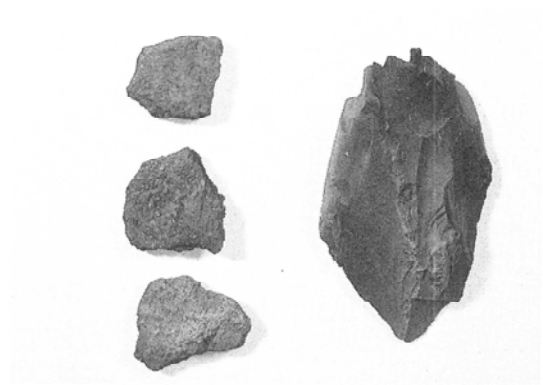
姥ヶ沢遺跡調査区近景（南から）



姥ヶ沢遺跡出土遺物



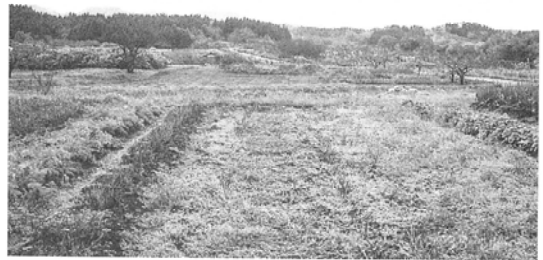
泥沢遺跡近景（南から）



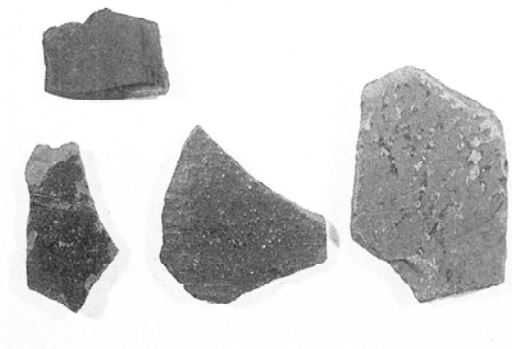
泥沢遺跡採集遺物



泥沢橋跡近景（南東から）



鷺畑B遺跡近景（北西から）



鷺畑B遺跡出土遺物



新田古墳遠景（南から）



新田古墳近景（北東から）



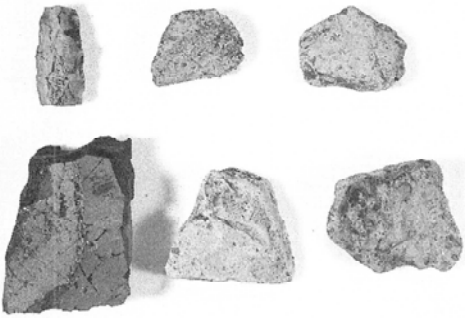
西山古墳遠景（南から）



西山古墳近景（西から）



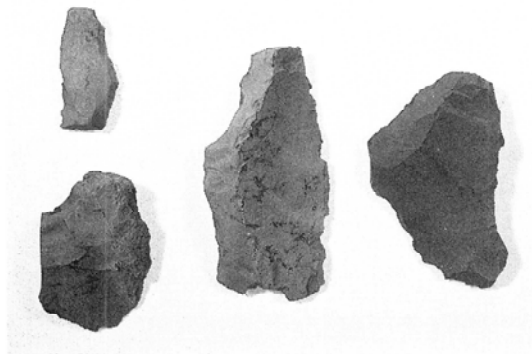
西山2遺跡近景（南東から）



西山2遺跡採集遺物



西山3遺跡近景（南から）



西山3遺跡採集遺物



藤九郎清水A遺跡近景（南西から）



藤九郎清水A遺跡採集遺物



藤九郎清水D遺跡近景（北西から）



藤九郎清水D遺跡採集遺物



丸山遺跡近景（西から）



丸山遺跡T P 2土層断面（南から）



大沢口遺跡近景（北から）



大沢口遺跡T P 2土層断面（東から）



長峯山B遺跡近景（北から）



長峯山B遺跡T 4土層断面（南西から）



手塚館跡近景（南東から）



手塚館跡調査状況（東から）



向平A・B遺跡近景（東から）



向平A・B遺跡TP2土層断面（東から）



水沢館跡近景（右側杉林東から）



水沢館跡隣接地工事状況（西から）



ハツ沼城跡遠景（南東から）



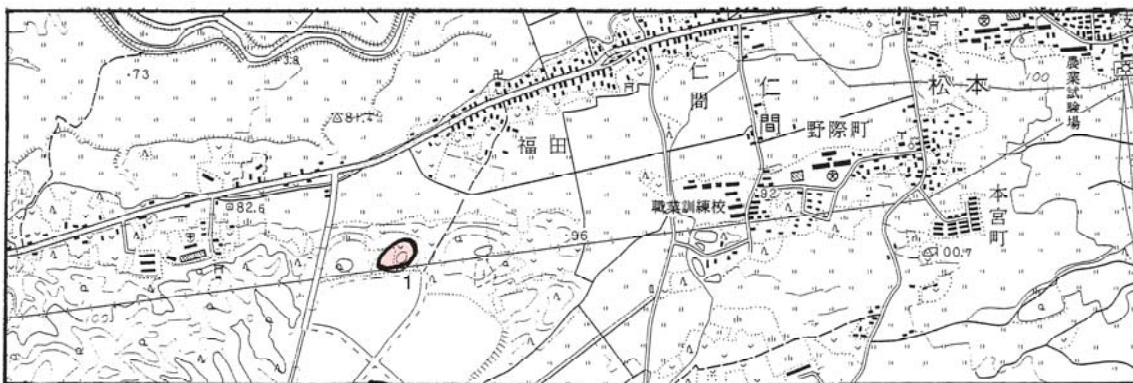
ハツ沼城跡試掘坑（南から）



梨郷南館跡近景（東から）

(2) 建設省事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	ふくだやま 福田山 B	新庄市大字福田字福田山	縄文時代 (時期不明)	丘陵 (95m)	畑 山地



第5図 建設省事業関係遺跡位置図

(3) 日本道路公団事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	なが 長瀬本館	東根市大字長瀬字本館	中世	自然堤防 (82m)	水畑 果樹 田地園
2	集落跡	はっ 八反	東根市大字長瀬字八反	平安時代	自然堤防 (80m)	畑果 樹地園
3	散布地	かわしま 河島八反	村山市大字河島元塩川字八反 529—3他	平安時代	自然堤防 (80m)	水畑 田地
4	散布地	せみ 蟬田	村山市大字名取字蟬田943他	平安時代	平地 (85m)	水畑 宅地地
5	散布地	まつ 松橋	村山市大字名取字松橋8—1 他	平安時代 中世	山麓斜面 (88m)	宅畑 地地
6	散布地	た 田むかえ向	村山市大字名取字田向3318— 16他	縄文時代 (中期)	山麓斜面 (90m)	水畑 田地
7	散布地	きょう 経塚もり森	村山市大字名取字経塚森3328 —20他	平安時代	山麓斜面 (105m)	畑果 樹地園
8	散布地	し 清みず水	村山市大字名取字清水2005他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	山麓斜面 (110m)	畑宅 地地
9	散布地	し 清みず水 きた北	村山市大字名取字清水北2005 他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	山麓斜面 (110m)	宅畑 地地
10	散布地	ひがし 東熊野 なえ 苗畑	村山市大字本飯田字熊の山 2515他	縄文時代 (中期)	山麓斜面 (95m)	荒畑 果樹 地地園
11	散布地	おお 大原 ぐら 口	村山市大字本飯田字大原口 2514—1他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	痩せ尾根 (110m) 山麓	山畑 林地
12	散布地	さわ 沢田	村山市大字本飯田字沢田4232 他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	山麓斜面 (88m)	畑水 地地
13	散布地	きた 北原 2	村山市大字本飯田字北原2160 —54他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	山麓斜面 (85m)	畑 地
14	散布地	かべ 壁山 2	村山市大字本飯田字壁山3481 —4他	縄文時代 (時期不明)	山麓斜面 (88m)	畑 地

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
新庄中核工業団地の北側に隣接する小丘陵上に立地する。試掘調査の結果、道路予定地区内から遺構・遺物は全く検出されなかった。	なし	No894 平成11年12月県教委試掘調査実施



福田山B遺跡遠景（北東から）

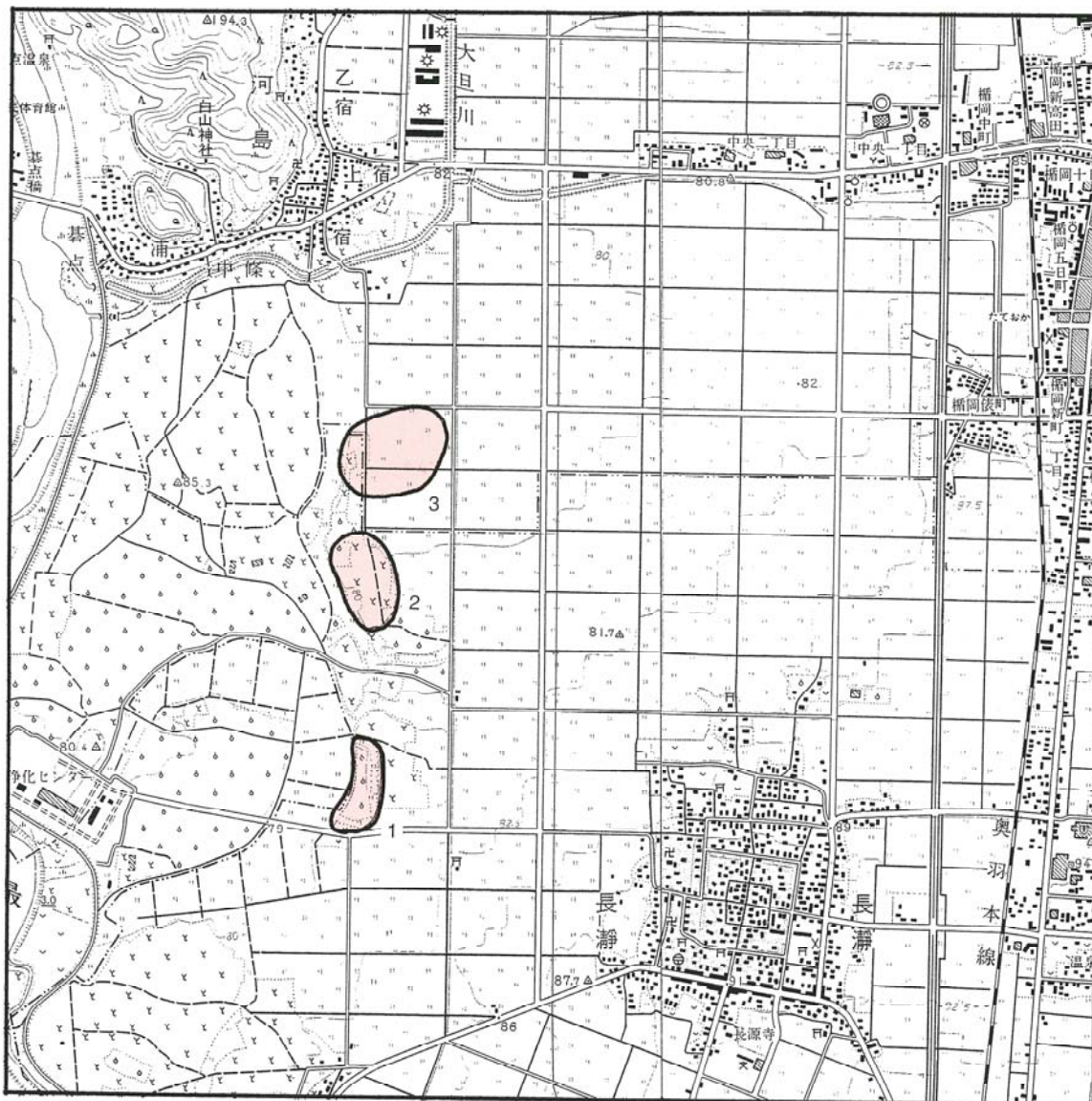


福田山B遺跡T T 2 状況（西から）

図版 9 建設省事業関係遺跡

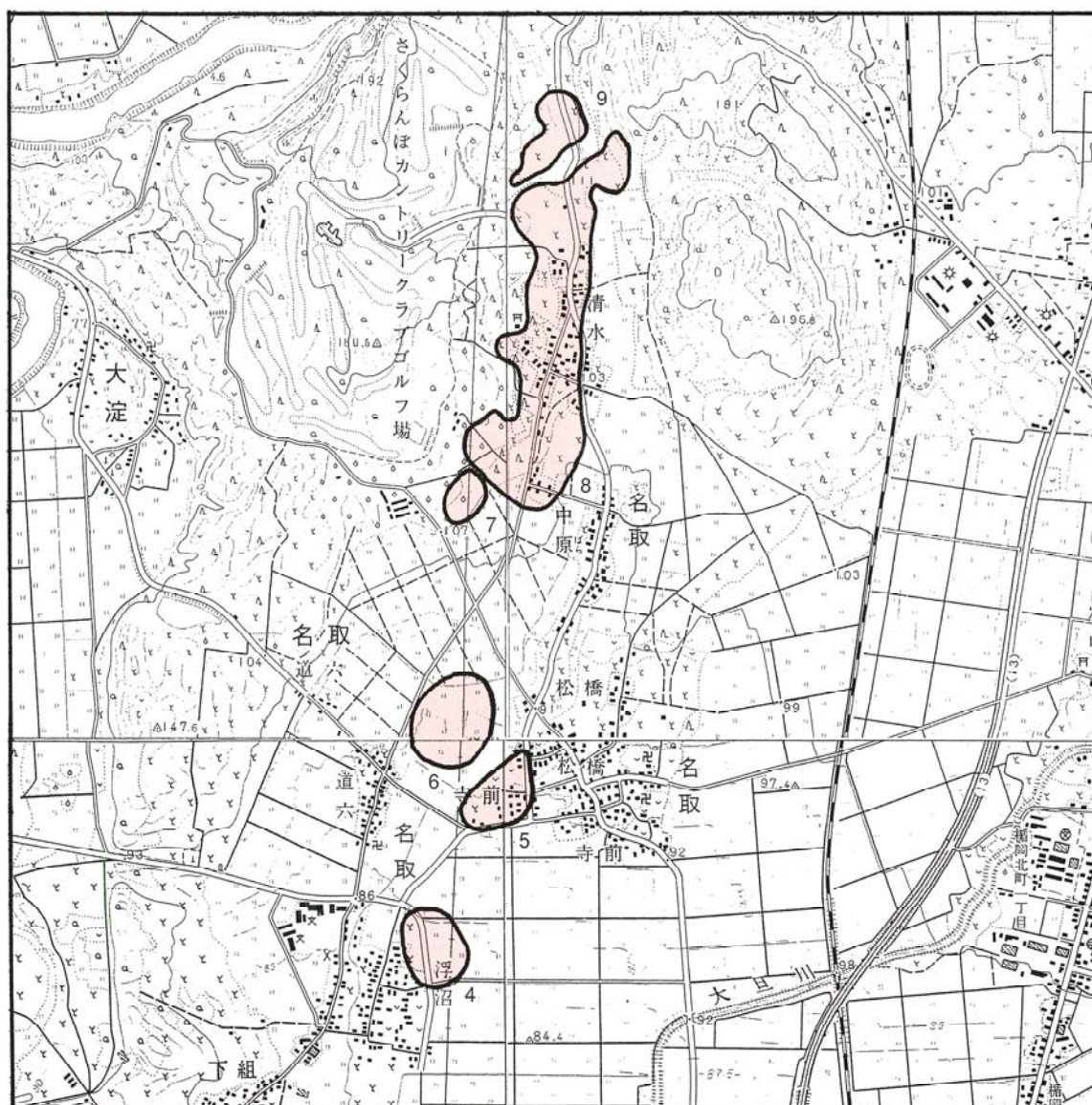
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 東根駅の北西2.5kmに位置する。北、東、南を堀で限られる東西120m、南北330mの規模をもつ。	なし	No722
J R 東根駅の北西3.0kmの自然堤防上に立地する。東西220m、南北260mの範囲内の畑地に平安時代の土器が散布している。	須恵器、土師器、赤焼土器片	No723
J R 楯岡駅の南西2.2km、八反遺跡の北400mに位置する。畑地や水田の転作地に平安時代の土器が散布する。範囲は東西・南北とも330m。	須恵器、赤焼土器片	平成11年度登録
J R 楯岡駅の北西2.7kmに位置する。畑地で若干の平安時代の遺物が採集された。範囲は東西210m、南北290mと推定される。	須恵器、赤焼土器片	昭和53年度登録
J R 楯岡駅の北西3.0kmに位置する。宅地周辺の畑地に平安時代の土器や中世陶器片が散布。範囲は東西260m、南北250mと推定される。	土師器、須恵器、赤焼土器、中世陶器片	平成11年度登録
J R 楯岡駅の北西3.4kmの南向きの緩斜面に立地する。畑地に遺物が散布しており、範囲は東西、南北とも230mと推定される。	縄文土器片、石鏃、剥片	平成11年度登録
J R 楯岡駅の北北西4.0kmの南東向きの緩斜面に立地する。畑地に平安時代の土器が散布しており、東西100m、南北170mの範囲となる。	土師器、須恵器片	平成11年度登録
経塚森遺跡の北に隣接し、東西380m、南北1,300mの範囲内に平安時代を中心とする多数の土器片が散布する大規模な遺跡である。	縄文土器、石鏃、剥片、土師器、須恵器、赤焼土器	平成11年度登録
清水遺跡の北に沢を挟んで隣接し、東西120m、南北300mの範囲内に主として平安時代の遺物が散布している。	剥片、土師器、須恵器、赤焼土器片	平成11年度登録
J R 袖崎駅の南々西2.5kmの東向きの緩斜面に立地する。東西190m、南北240mの範囲内の畑地に多数の縄文土器片が散布している。	縄文土器片、剥片	No628
J R 袖崎駅の南々西2.0kmに位置し、丘陵の痩せ尾根と西側の山麓が遺跡範囲となり、西側山麓部に平安時代の遺物が散布している。	土師器片	No627
J R 袖崎駅の南々西1.4kmの南向きの緩斜面と平地に立地する。東西180m、南北160mの範囲内に縄文時代、平安時代の遺物が散布している。	縄文土器片、石鏃、須恵器、赤焼土器片	平成11年度登録
J R 袖崎駅の南々西1.1kmの北向きの緩斜面に立地する。畑地に縄文時代と平安時代の遺物が散布し、範囲は東西160m、南北150mとなる。	縄文土器片、石鏃、赤焼土器片	平成11年度登録
J R 袖崎駅の南西0.9kmの東向きの緩斜面に立地する。東西40m、南北150mの範囲内に縄文土器片が散漫に分布する。	縄文土器片	平成11年度登録

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
15	散布地	きたほら原 3	村山市大字本飯田字北原2160—54他	縄文時代 (時期不明)	山麓斜面 (88m)	畑地
16	散布地	きたほら原 4	村山市大字本飯田字北原2160—66他	縄文時代 (中期) 平安時代	山麓斜面 (83m)	畑地
17	散布地	ぬま沼 た田	村山市大字土生田字沼田3340—5他	縄文時代 (晩期) 平安時代	山麓斜面 (86m)	畑地 樹園
18	散布地	ぬま沼 た田 2	村山市大字土生田字沼田4040他	縄文時代 (中期) 平安時代	河岸段丘 (78m)	畑地 樹園
19	散布地	はち八 ご合 だ田	村山市大字土生田字八合田2565—1他	縄文時代 (中期) 弥生時代 (後期)	河岸段丘 (76m)	畑地 樹園
20	散布地	きた北 じま島	村山市大字土生田字北島1756他	縄文時代 (中期)	山麓斜面 (78m)	畑地 地
21	散布地	もり森 の ほら原	村山市大字土生田字鼠田1363—12他	縄文時代 (時期不明) 平安時代	台地 (74m)	果樹園地 畑地
22	散布地	どう道 でい出	村山市大字土生田字道出1638—1他	縄文時代 (後・晩期)	山麓斜面 (73m)	畑地



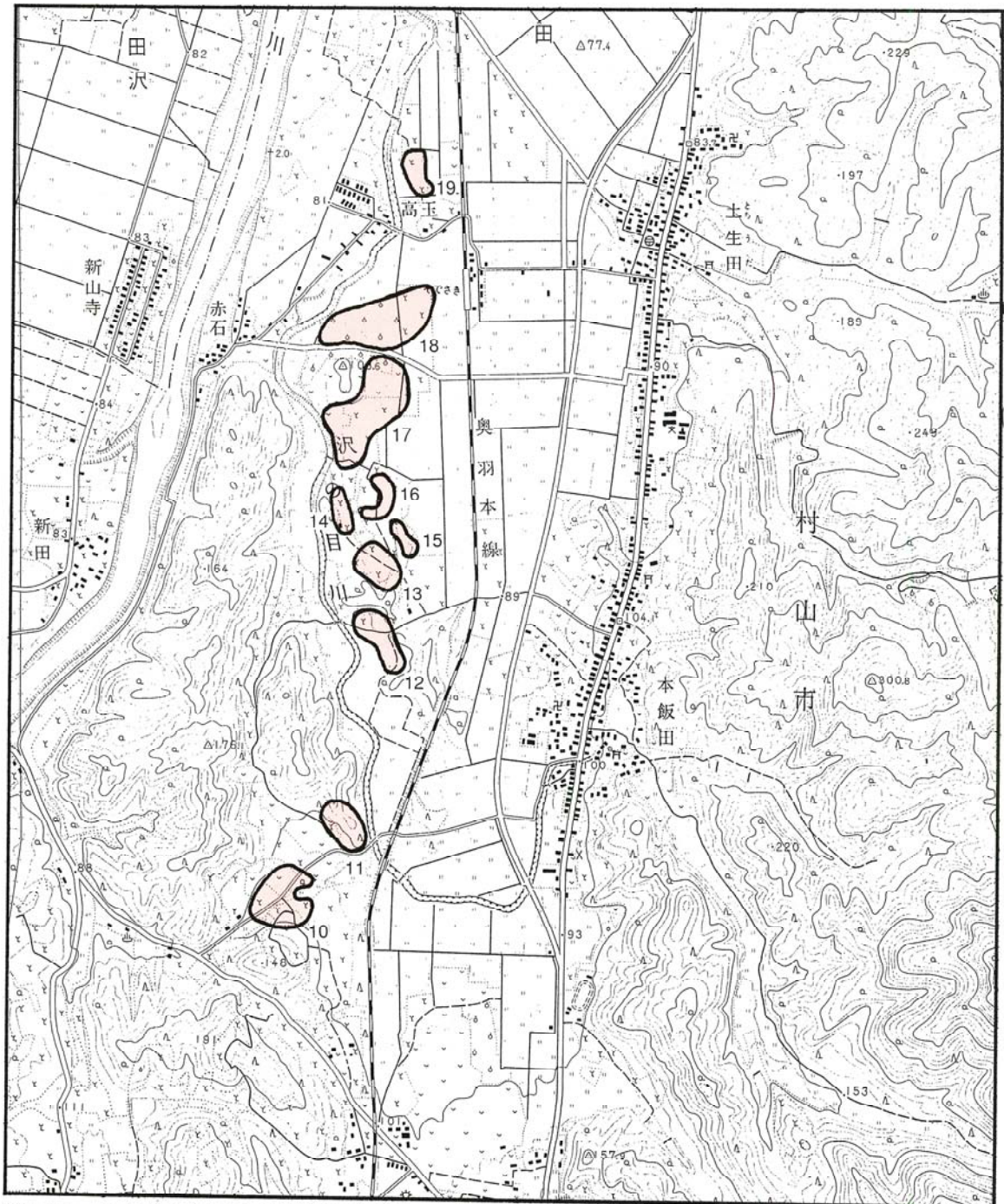
第6図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(1)

遺跡概要	出土遺物	
J R 袖崎駅の南々西1.0kmの西向き及び北向きの緩斜面に立地する。畑地内に若干の縄文時代の遺物が散布している。東西70m、南北140m。	縄文土器片、剥片	平成11年度登録
J R 袖崎駅の南々西0.9kmの南向き及び西向きの緩斜面に立地する。東西140m、南北160mの範囲内の畑地に縄文・平安時代の遺物が散布。	縄文土器片、石錐、剥片、須恵器片	平成11年度登録
J R 袖崎駅の南西0.7kmの南向きの緩斜面に立地する。東西270m、南北400mの広範囲に縄文・平安時代の遺物が多数散布している。	縄文土器片、石鏃、石筥、剥片、土師器、須恵器、赤焼土器片	昭和52年度登録
J R 袖崎駅の西南西0.3kmの河岸段丘上に立地する。東西320m、南北210mに及ぶ範囲に縄文・平安時代の遺物が散布している。	縄文土器、剥片、須恵器	平成11年度登録
J R 袖崎駅の北々西0.5kmの河岸段丘上に立地する。畑地に縄文・弥生時代の遺跡が若干散布する。範囲は東西80m、南北170m程である。	縄文土器片、削器、剥片、弥生土器	平成11年度登録
J R 袖崎駅の北東1.4kmに位置し、南西向きの緩斜面に立地する。畑地に縄文時代の遺物が散布し、範囲は東西150m、南北270mとなる。	縄文土器片	平成11年度登録
J R 袖崎駅の北々東1.4kmに位置する。周囲より一段高い畑地に縄文時代、平安時代の遺物が散布する。範囲は東西100m、南北390m。	縄文土器片、剥片、須恵器、赤焼土器片	No639
J R 袖崎駅の北東1.8kmに位置し、南向きの緩斜面に立地する。縄文時代、平安時代の遺物が東西500m、南北170mの範囲に散布している。	縄文土器片、須恵器片	平成11年度登録



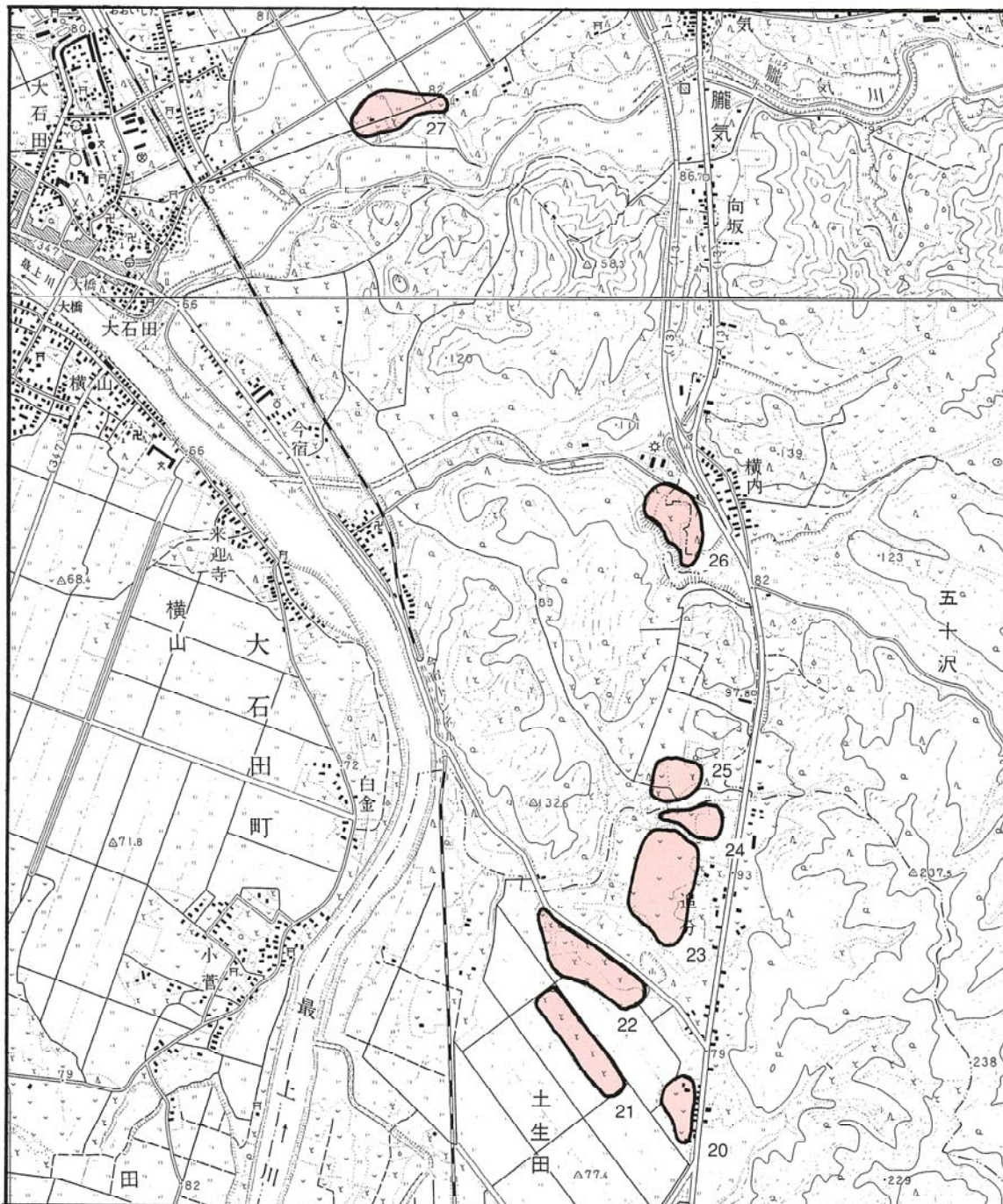
第7図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(2)

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
23	散布地	ひやくまい 百枚 1	村山市大字土生田字百枚3475—5他	縄文時代 (中～晩期)	丘陵 (85m)	畑果樹 地園
24	散布地	ひやくまい 百枚 2	村山市大字土生田字百枚2791他	縄文時代 (後期)	丘陵 (86m)	畑地
25	散布地	いましゆく 今宿 C	北村山郡大石田町大字今宿932他	縄文時代 (後期) 弥生時代	丘陵 (83m)	畑荒地 地
26	散布地	いえノまわり 家ノ廻り	北村山郡大石田町大字今宿字大窪原、尾花沢市大字五十沢字家廻	縄文時代 (中期)	河岸段丘 (85m)	畑地
27	散布地	にしはら 西原	尾花沢市大字尾花沢字西原	縄文時代 (早期)	河岸段丘 (79m)	畑水 地田



第8図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(3)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	
J R 袖崎駅の北東2.1kmに位置する。小高い丘陵上に立地し、東西220m、南北360mの範囲で、特に南半と北端部に遺物の散布量が多い。	縄文土器片、剥片	平成11年度登録
百枚1遺跡と沢を挟んだ北側の丘陵上に立地する。東西280m、南北170mの範囲内に縄文時代の遺物の散布が認められる。	縄文土器片、剥片	平成11年度登録
J R 大石田駅の南東3.6 km、百枚1遺跡と水田となる低地を挟む北側に立地する。東西190 m、南北150mの範囲に縄文時代の遺物が散布する。	縄文土器片、剥片	平成 3 年度登録
J R 大石田駅の南東2.9kmに位置し、南向きの段丘上に立地する。東西180m、南北200mの範囲内の畑地に若干の遺物が散布している。	縄文土器片、剥片	平成11年度登録
J R 大石田駅の東南東1.2km、隴気川右岸の段丘上に立地する。範囲は東西300m、南北170mになると推定され、縄文時代の遺物が散布する。	縄文土器片、石錐	平成11年度登録



第9図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(4)



長瀬本橋館北側堀跡（東から）



長瀬本橋館東側堀跡（北から）



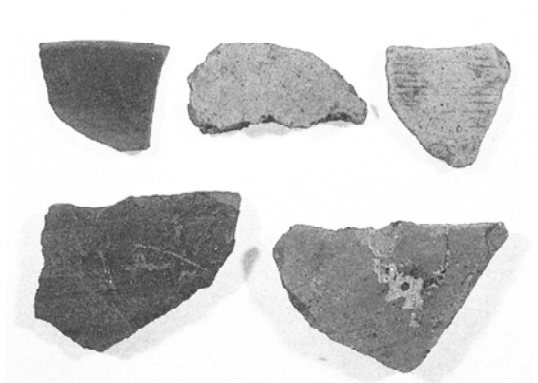
長瀬本橋館南東隅張出（北東から）



長瀬本橋館南側堀跡（西から）



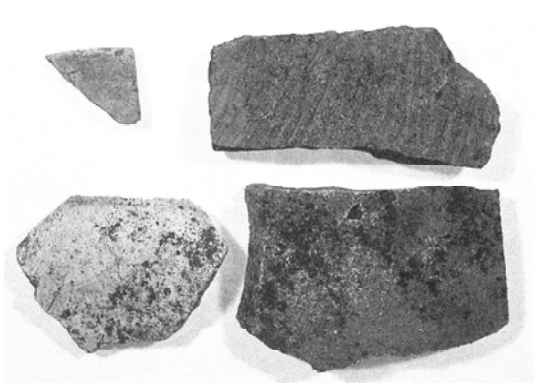
八反遺跡近景（南西から）



八反遺跡採集遺物



河島八反遺跡近景（南から）



河島八反遺跡採集遺物



蝉田遺跡近景（南東から）



蝉田遺跡採集遺物



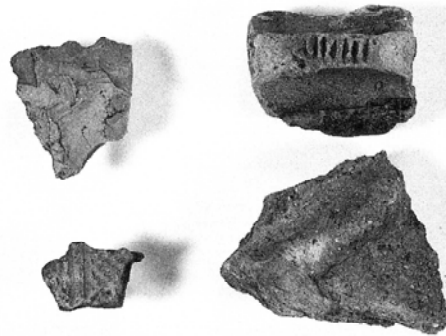
松橋遺跡近景（西から）



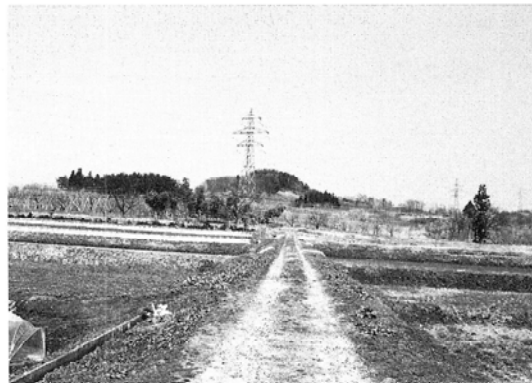
松橋遺跡採集遺物



田向遺跡近景（北から）



田向遺跡採集遺物



経塚森遺跡近景（南から）



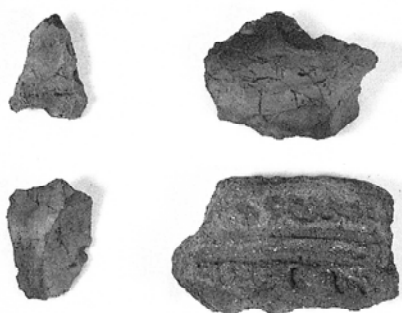
経塚森遺跡採集遺物



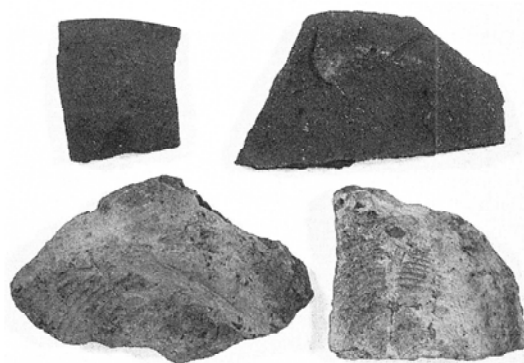
清水遺跡遠景（東から）



清水遺跡南半部近景（北から）



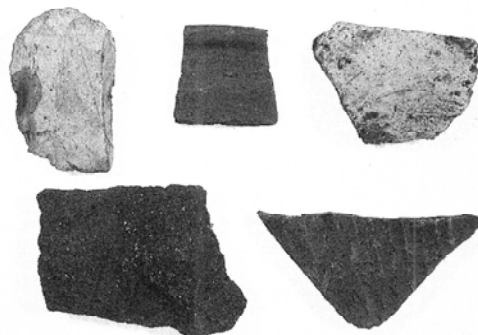
清水遺跡採集遺物（1）



清水遺跡採集遺物（2）



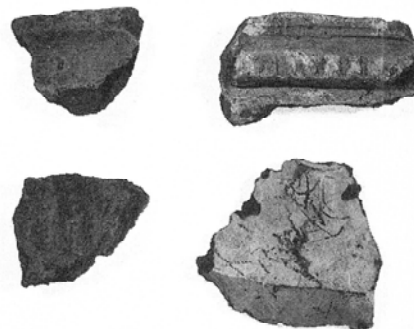
清水北遺跡近景（南東から）



清水北遺跡採集遺物



東熊野苗畑遺跡近景（北東から）



東熊野苗畑遺跡採集遺物



大原口遺跡遠景（南東から）



大原口遺跡近景（南から）



大原口遺跡採集遺物



沢田遺跡近景（南から）



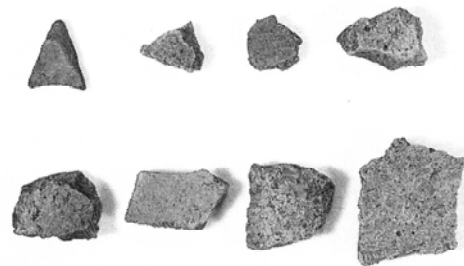
沢田遺跡採集遺物（1）



沢田遺跡採集遺物（2）



北原2遺跡近景（北東から）



北原2遺跡採集遺物（1）



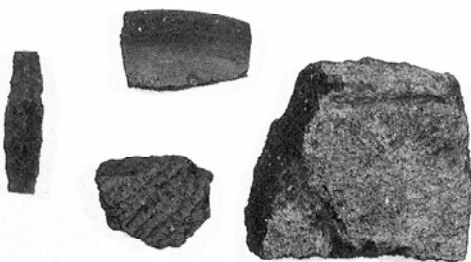
北原 2 遺跡採集遺物 (2)



壁山 2 遺跡採集遺物



北原 3 遺跡採集遺物



北原 4 遺跡採集遺物



壁山 2 遺跡近景 (南東から)



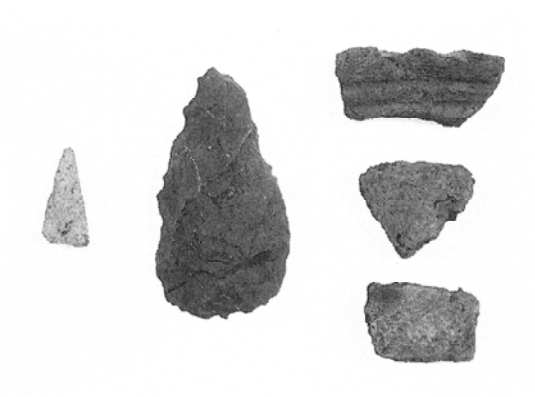
北原 3 遺跡近景 (北西から)



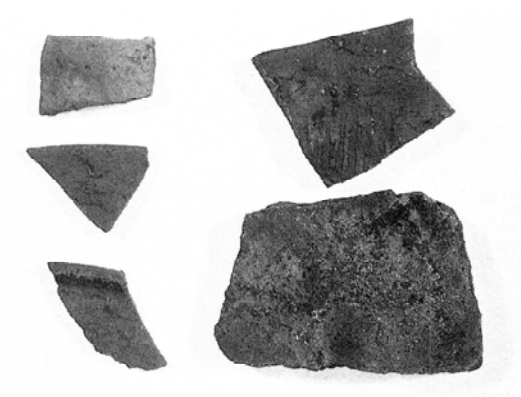
北原 4 遺跡近景 (北西から)



沼田遺跡近景 (南東から)



沼田遺跡採集遺物 (1)



沼田遺跡採集遺物 (2)



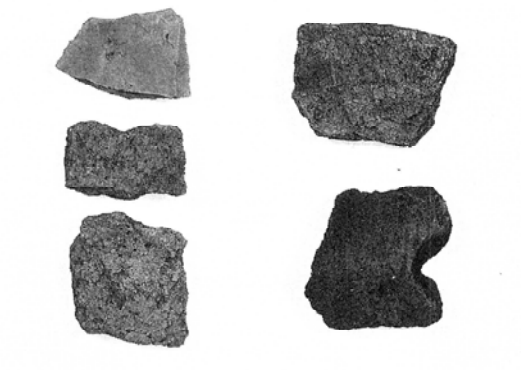
沼田2遺跡近景 (北から)



沼田2遺跡採集遺物



八合田遺跡近景 (北から)



八合田遺跡採集遺物



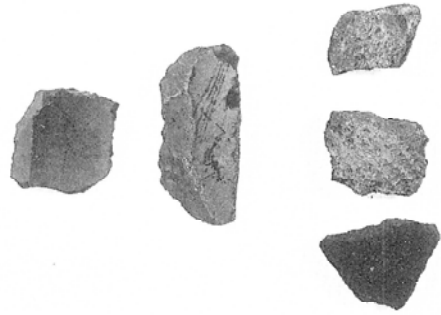
北島遺跡近景 (南西から)



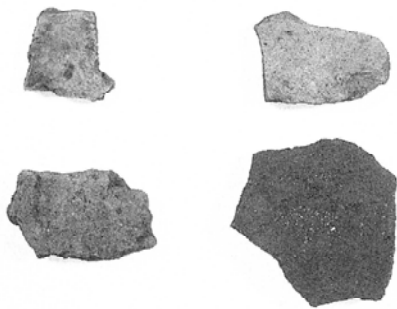
北島遺跡採集遺物



森の原遺跡遠景（南から）



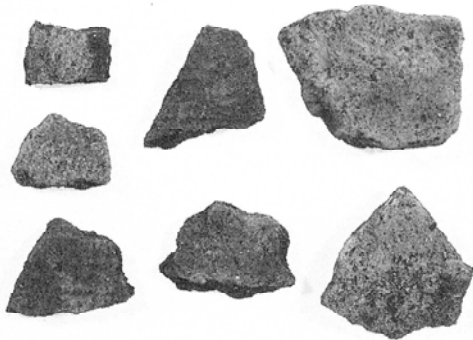
森の原遺跡採集遺物（1）



森の原遺跡採集遺物（2）



道出遺跡近景（西から）



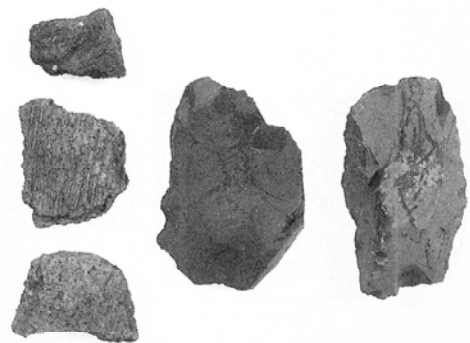
道出遺跡採集遺物



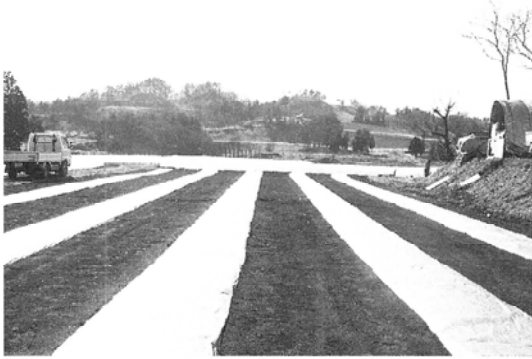
百枚1遺跡南半近景（南東から）



百枚1遺跡北半近景（北から）



百枚1遺跡採集遺物



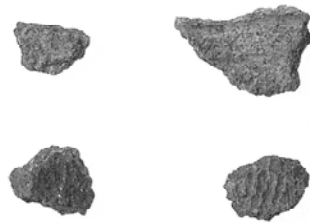
百枚2遺跡近景（東から）



百枚2遺跡採集遺物



今宿C遺跡近景（南東から）



今宿C遺跡採集遺物



家ノ廻り遺跡近景（南から）



家ノ廻り遺跡採集遺物



西原遺跡近景（北西から）

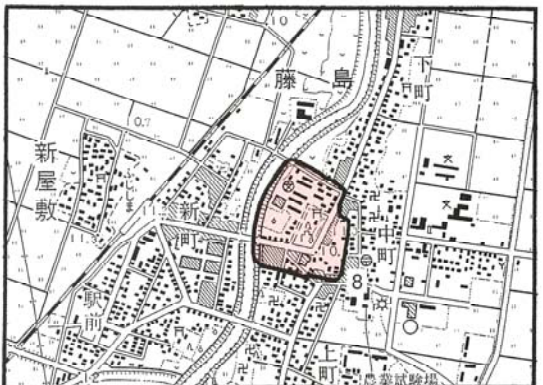
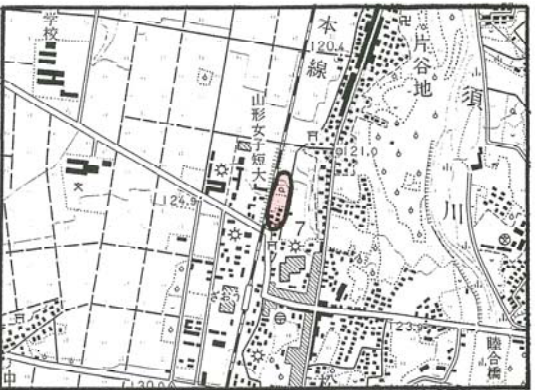
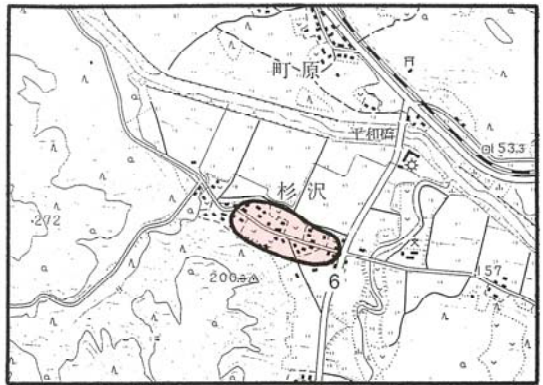
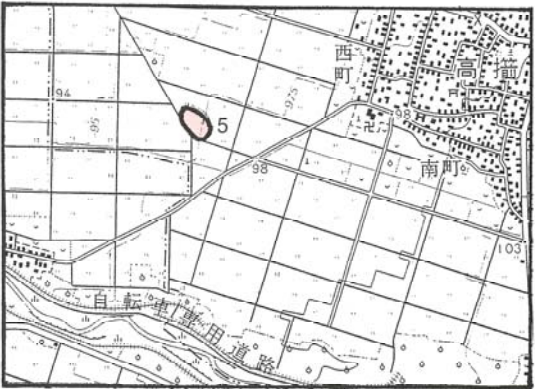
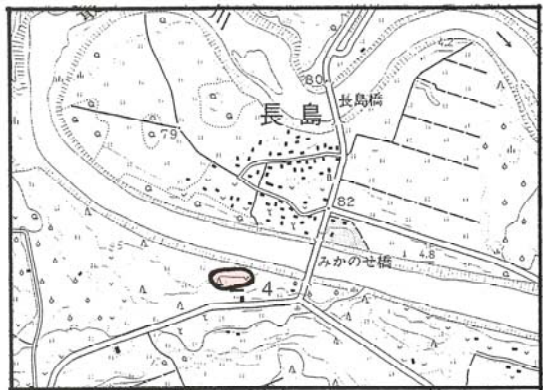
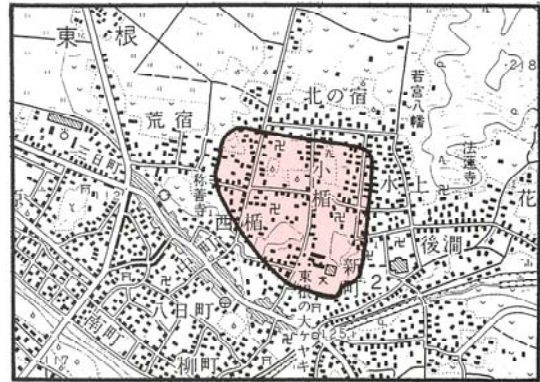
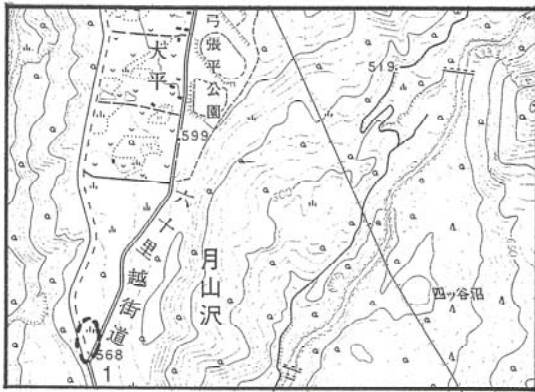


西原遺跡採集遺物

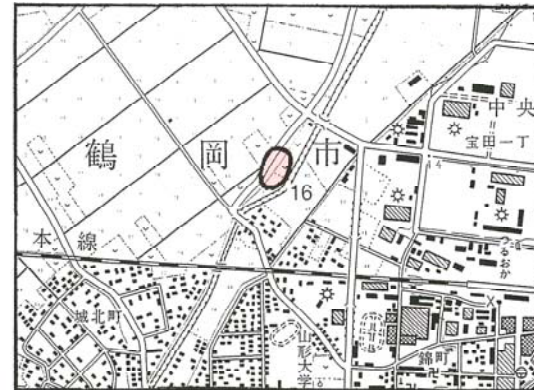
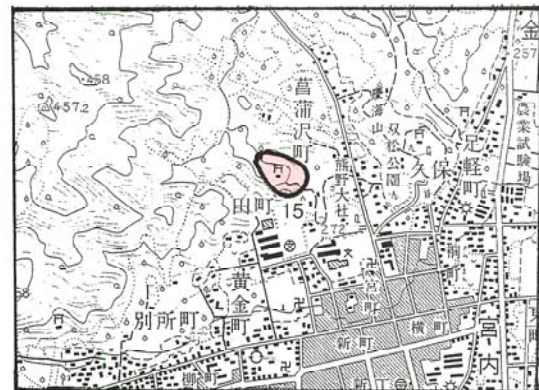
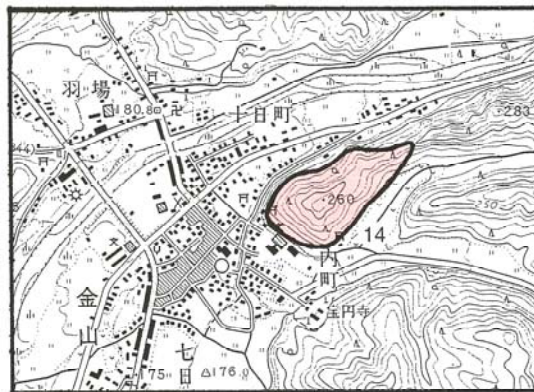
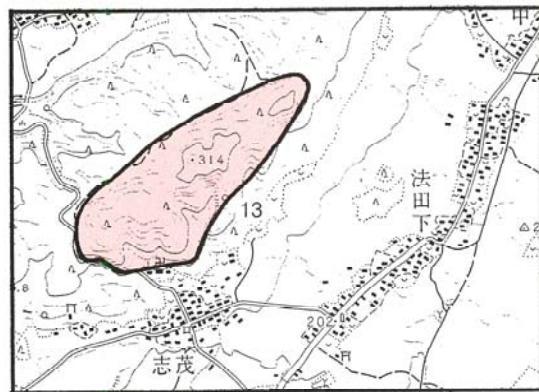
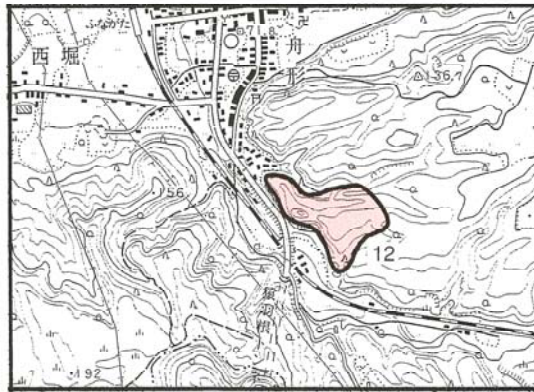
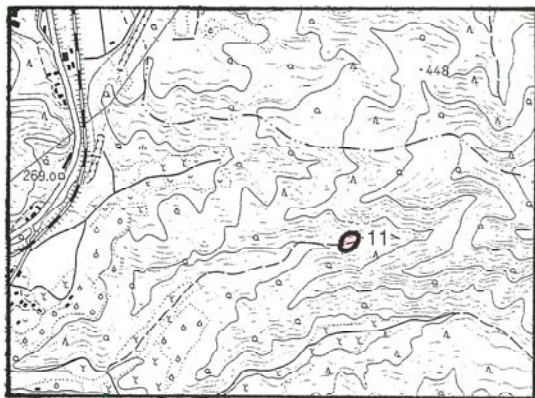
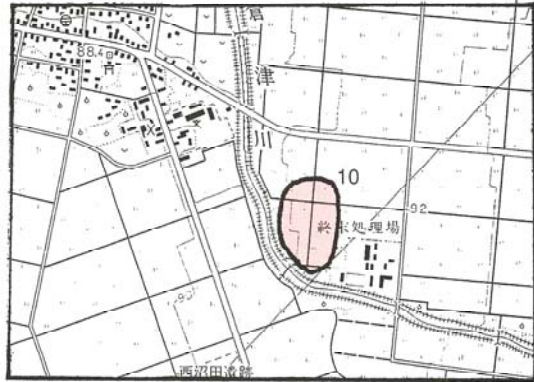
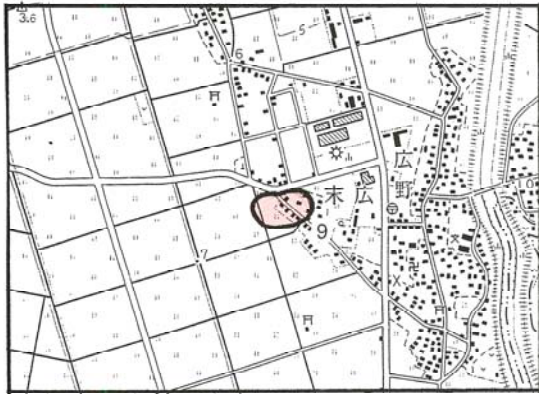
(4) 県土木部、企画調整部、健康福祉部、企業局、教育庁、警察本部事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	——	ゆみ はり だい 弓 張 平 N	西村山郡西川町大字志津字弓張平	——	泥流台地 (568m)	荒地
2	城館跡	お だ し ま じ ょ う ぁ と 小 田 島 城 跡	東根市大字東根字東根本丸他	中 世 縄文・弥生・ 奈良～平安時代	段 丘 (130m)	宅公境 地園内
3	散布地	あ き や ま 秋 山 B	最上郡真室川町大字木ノ下字新林1017他	旧石器時代 縄文時代 (時期不明)	台 地 (125～130m)	畑宅 地地
4	散布地	お ぐ に さ わ 小 国 沢	村山市大字白鳥字小国沢3067	縄文時代 (早・前期) 奈良時代	段 丘 (100m)	果樹園
5	集落跡	か げ さ わ き た 影 沢 北	天童市大字高揃字影沢北	平安時代 中 世 近 世	平 地 (96m)	水農 田道
6	包蔵地	だ ん の ま え 壇 の 前	西置賜郡小国町大字杉沢字壇の前	縄文時代	段 丘 (153m)	宅畑 地地
7	集落跡	か た や ち 片 谷 地	山形市大字片谷地	平安時代	平 地 (124m)	宅畑水 地地田
8	城館跡	ふ じ し ま じ ょ う ぁ と 藤 島 城 跡	東田川郡藤島町大字藤島字古楯跡	中 世	平 地 (10m)	学神宅 校社地
9	集落跡	だ い に ち づ か 大 日 塚	酒田市大字広野字土橋114他	平安時代 南北朝時代	平 地 (5～6m)	水宅 田地
10	集落跡	く ら ぞ う お し き り 蔵 増 押 切	天童市大字蔵増字押切	古墳時代 奈良時代 平安時代 中 世	平 地 (90m)	水道 出路
11	散布地	ひ な た 日 向	南陽市小岩沢字日向	縄文時代 (中期)	段 丘 (330m)	山原荒 林地
12	城館跡	ぬ ま ざ わ な て 沼 沢 館	最上郡舟形町大字舟形字裏の山	室町時代	山 頂 (140m)	山 林
13	城館跡	し も の て な て 志 茂 の 手 館	最上郡最上町大字志茂字上野	戦国時代	山 頂 (300m)	山 林
14	城館跡	か ね や ま じ ょ う 金 山 城	最上郡金山町大字金山字楯山	戦国時代	山 頂 (260m)	山 林
15	城館跡	み や う ち み な み だ て 宮 内 南 館	南陽市宮内字イモガミ堂	戦国時代	丘 陵 (320m)	山畑 林地
16	集落跡	に ほ ん こ く 日 本 国	鶴岡市大字大宝寺字日本国	平安時代	平 地 (14m)	水畑宅 田地地
17	城館跡	まつ や ま じ ょ う 松 山 城	飽海郡松山町大字松嶺	江戸時代	山 麓 (20m)	宅道 地路
18	——	む ら や ま の う こ う 村 山 農 高	村山市楯岡字西大目	縄文時代 (時期不明)	平 地 (11m)	学校敷地
19	城館跡	ほう り ゅう だ て 豊 龍 館	西村山郡朝日町大字宮宿字経ヶ崎	戦国時代	台 地 (190m)	公境 園内

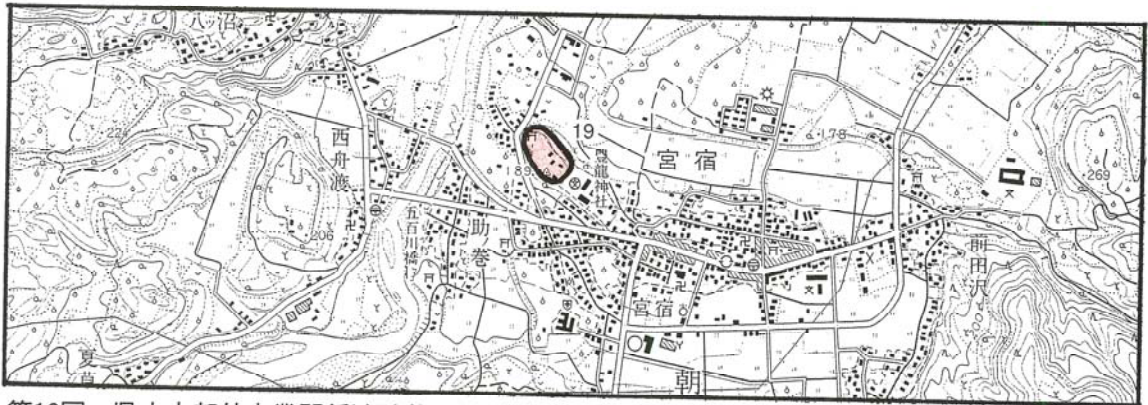
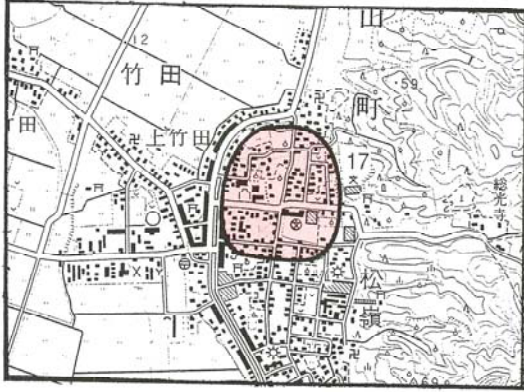
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
国道112号月山新道と旧六十里越街道の分岐点から北に1.2kmに位置する。今回の調査で包含層は既に残っていないことが判明した。	なし	昭和54年度登録 平成11年7月試掘調査実施。要登録抹消
東根市街地北側、白水川河岸段丘の高台に位置する。今回は道路予定地内の樹木移植に伴う立会い調査。柱穴2基検出。(竜興寺沼北側)	なし	No668 平成11年4月県教委立 会調査実施
真室川中学校の東南東0.6kmに位置する。遺跡の範囲は東西180m、南北180mと推定され、畑地部分にわずかに遺物が散布している。	剥片	No1013
みかのせ橋の西方0.2kmの最上川左岸の段丘上に立地する。かつて、縄文時代早期から前期の土器、須恵器が採集されている。	なし	No610
高楯地区の西方1km・立谷川右岸の平地上に立地する。西隣の東北中央自動車道内で平安時代の遺構が検出されているが今回はなかった。	なし	平成2年度登録 平成11年11月県教委試 掘調査実施
横川左岸、現杉沢集落一帯が遺跡範囲となる。今回は現道拡幅部分について立会い調査を実施。遺跡東端部のため遺構は未検出であった。	石器剥片	平成2年度登録 平成11年7月県教委立 会調査実施
須川左岸、J R奥羽本線ぞおう駅北側約300mに位置する。今回は遺跡南東部の道路予定地について試掘。遺構・遺物共検出されなかった。	なし	No79 平成11年12月県教委試 掘調査実施
藤島町中心部に位置する。今回は、下水道埋設部分(藤島橋～県道間の町道)について町教委と合同で調査。中世の遺構・遺物は未検出。	なし	No1716 平成12年1月他県教委・ 藤島町教委立 会
広野小学校の西方0.6kmの平地に位置する。下水道工事に伴う立会調査を実施したが、調査地では遺構、遺物とも検出されなかった。	なし	No2069 平成12年1・2月県教委 立会調査実施
天童終末処理場の北西200m、倉津川右岸の沖積地および自然堤防上に立地する。東北中央道関連調査によって大集落跡が検出されている。	磁器片	平成9年度登録 平成11年12月県教委立 合調査実施
J R奥羽本線中川駅の東北約1km、北沢砂防ダムのすぐ下にある。遺跡は土採取によってかなり破壊されている。	なし	昭和61年度登録 平成11年7月県教委試 掘調査実施
J R舟形駅の南東0.8kmの山頂部に主郭を構える館で堀切、曲輪、土塁、畝状堅堀などの遺構が良好に残存する。沼沢新左エ門の築域。	なし	No955
J R大堀駅の北1.2kmの山頂部に主郭があり、大規模な土塁、堀切をもつ最上郡折指の館跡で、工事計画の変更で、遺構は現状保存となった。	なし	No949(旧名水の手館) 平成12年1月県教委立 会調査実施
金山小学校の北東にある標高260mの山頂部に主郭を構える館跡である。主郭の西に7,000㎡程の平場があり、その下に腰曲輪を配している。	なし	平成8年度登録(山形 県中世城館遺跡調査報 告書第3集)
フラワー長井線宮内駅の北方1km、宮沢城跡の北西部丘陵に立地する。南館の山頂には、山王山「愛宕神社」が祀られている。	なし	平成7年度登録
J R羽越本線鶴岡駅の北西1km、青龍寺川の左岸微高地に立地する。調査の結果、中世以前に遡る遺構は検出されなかった。	赤焼土器片、近世磁器片	No1534 平成11年12月県教委試 掘調査実施
旧松山里仁高等学校一帯の高台に立地する。調査の結果、近世の堀跡と推定される落ち込みを1条検出した。	なし	No2278 平成11年12月県教委立 合調査実施
大且川の左岸、県立村山農業高等学校の敷地内に位置する。調査の結果、遺構と遺物は全く検出されなかった。(登録抹消)	なし	No567 平成11年8月立合調査 実施。要登録抹消
朝日町役場の北東0.7kmに位置し、最上川との比高差60mの舌状台地の先端部に立地する。朝日分校の校舎までは遺構の分布が延びない。	なし	平成7年度登録(山形 県中世城館跡調査報告 書第3集)



第10図 県土木部他事業関係遺跡位置図 (1)



第11図 県土木部他事業関係遺跡位置図(2)



第12図 県土木部他事業関係遺跡位置図 (3)



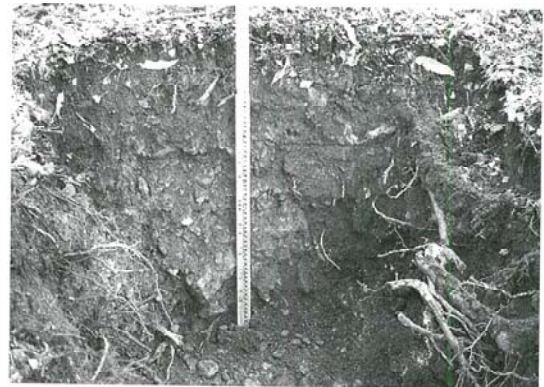
弓張平 N 遺跡近景 (南西から)



弓張平 N 遺跡試掘溝全景 (西から)



小田島城近景 (南から、イチヨウ移植)



小田島城 T P 1 (東から)

図版18 県土木部他事業関係遺跡 (1)



秋山B遺跡近景（北西から）



秋山B遺跡採集遺物



小国沢遺跡近景（南東から）



影沢北遺跡遠景（西から）



影沢北遺跡T T 1 土層断面（北から）



影沢北遺跡T T 3 状況（北から）



壇の前遺跡近景（南から）



壇の前遺跡立会い状況（南から）



壇の前遺跡採集遺物



片谷地遺跡隣接地調査風景（西から）



片谷地遺跡トレンチ（西から）



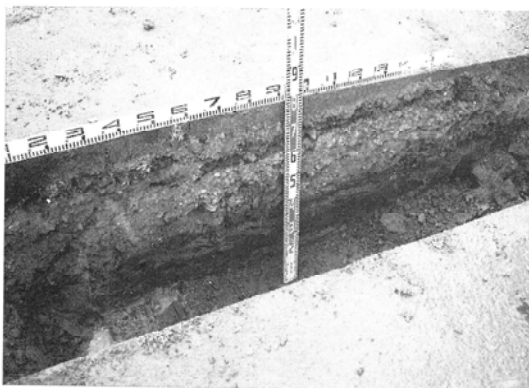
藤島城跡立会い状況（東から）



藤島城跡下水道掘削状況（東から）



大日塚遺跡調査地点近景（西から）



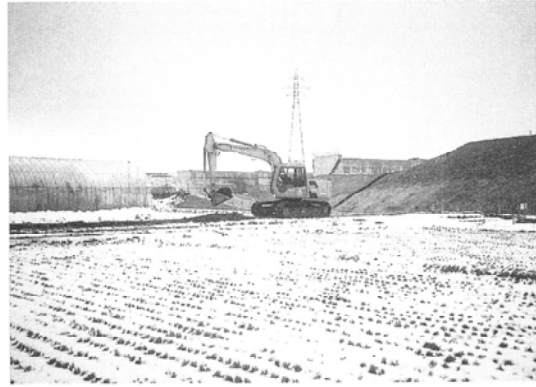
大日塚遺跡立会い区(水道管)土層断面（南から）



大日塚遺跡立会い区(本管)調査状況（南東から）



大日塚遺跡立会い区(本管)土層断面 (東から)



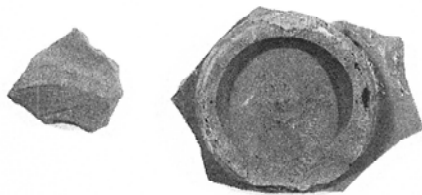
蔵増押切遺跡調査状況 (北東から)



蔵増押切遺跡立会い区状況 (西から)



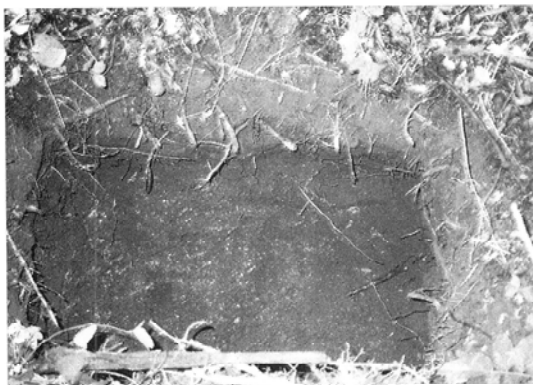
蔵増押切遺跡立会い区土層断面 (西から)



蔵増押切遺跡出土遺物



日向遺跡近景 (西から)



日向遺跡 T P 5 状況 (南から)



日向遺跡主郭部土塁 (西から)



沼沢館跡主郭部東の堀切（北東から）



志茂の手館跡頂部堀切（南東から）



志茂の手館跡工事区域近景（南東から）



金山城跡遠景（南西から）



金山城跡主郭部虎口（東から）



宮内南館跡遠景（北から）



日本国遺跡近景（北東から）



日本国遺跡 T T 1 土層断面（東から）



日本国遺跡 T T 2 状況 (西から)



日本国遺跡出土遺物



松山城跡立会い調査状況 (南から)



松山城跡立会い区状況 (西から)



村山農高遺跡立会い区状況 (北東から)



村山農高遺跡立会い区土層断面 (南から)



豊龍館跡近景 (東から)



豊龍館跡標柱 (南東から)

2 試掘調査の概要

(1) 中川原C遺跡 (平成8年度登録)

所在地 山形県新庄市大字十日町字中川原

調査員 長橋 至

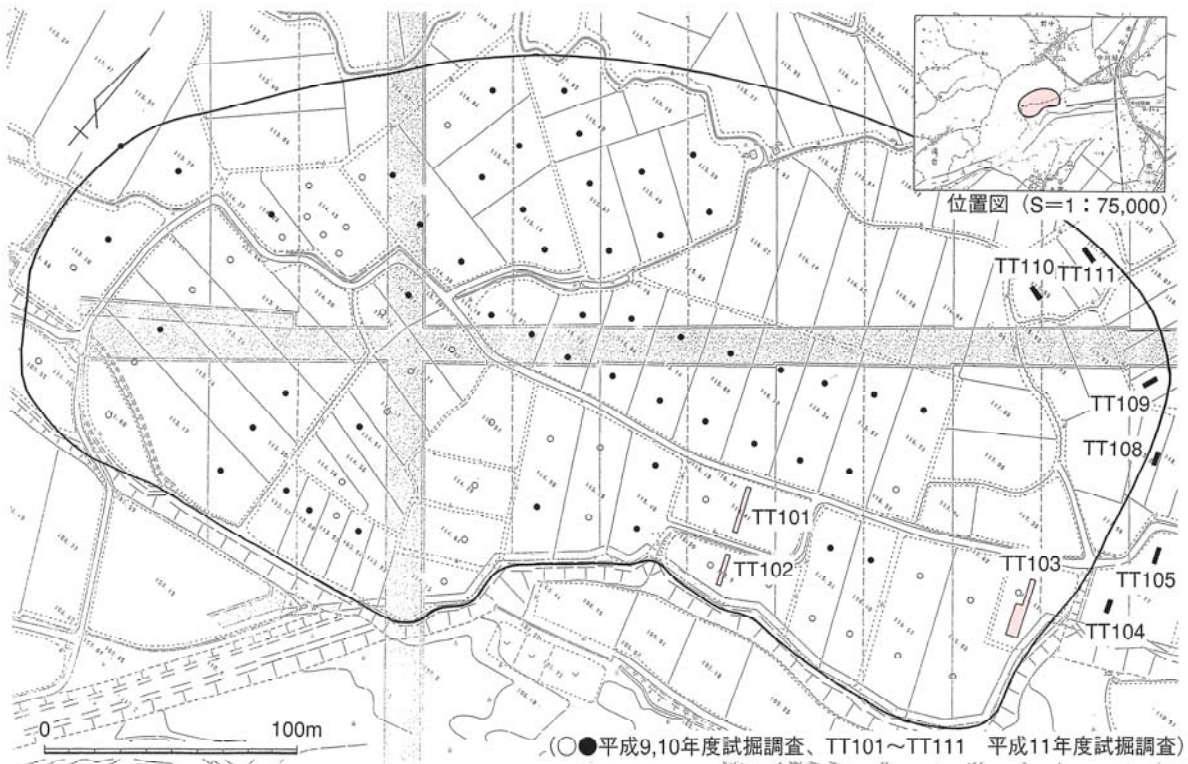
調査期日 平成11年11月25～26日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (野中地区)

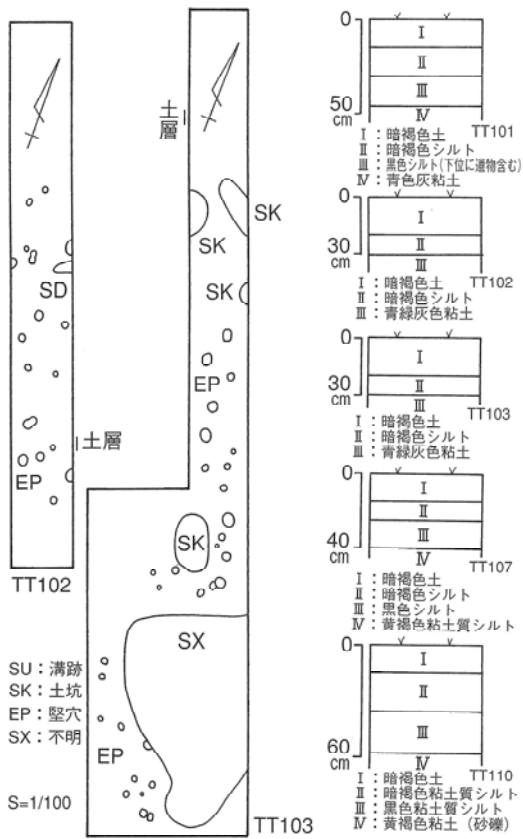
遺跡環境 新庄盆地を流れる泉田川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は水田、標高は113～117mを測る。周辺には、中川原・立泉川遺跡等縄文時代の遺跡が所在している。本遺跡については、平成11年度に、当該年度事業地区のうち工事で影響を受ける範囲、約6,900平米の緊急発掘調査を財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。その結果、1000箱を越える遺物の出土や、集落の一部、逆茂木の遺存する落とし穴等が検出され、縄文時代中期の良好な遺跡であることが明らかとなっている。

試掘状況 平成12年度事業予定地区のうち、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、平成10年度試掘結果を踏まえ追加調査を行った。計画田面高の調整のため、TT101～103、遺跡周辺部の状況把握のためTT104～111を設定した。調査は重機 (バックホー0.25立米) を使用し、地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 TT102～103では遺構が密に分布する状況が確認された。遺構の時期は覆土 (黒色土が多い) から新しい時代 (中近世) の所産の可能性もある。遺物は有舌尖頭器片1点、縄文時代後期の土器片・石器片が2袋程度出土した。TT104～111では遺構・遺物は検出されなかった。109～111では、地山が小礫層となる。



第13図 中川原C遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



TT 2 検出遺構 (南から)

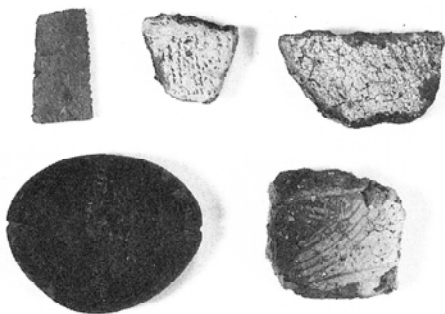
第13図2 中川原C遺跡検出遺構・土層断面



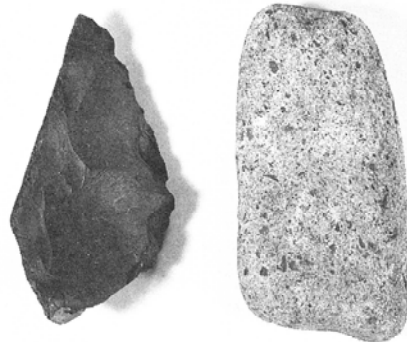
TT 2 土層断面 (西から)



TT 3 検出遺構 (北から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(2) ^{なかだい いせきぐん}中台遺跡群 (平成10、11年度登録)

所在地 山形県最上郡真室川町大字釜淵字中台

調査員 渋谷孝雄

調査期日 A調査：平成11年5月11・12日、B調査：平成10年10月4～8日

起因事業 担い手育成基盤整備事業 (八敷代地区)

遺跡環境 JR奥羽本線釜淵駅の北北東約3kmに所在する縄文時代の遺跡である。中台1、5、6の各遺跡は真室川の河床から数えて3番目の段丘に立地し、中台2～3の各遺跡は1段低い2番目の段丘上に立地する。標高は中台1遺跡で160m、中台2遺跡で150m、中台3遺跡で151m、中台4遺跡で151～152m、中台5遺跡で162m、中台6遺跡で169mを測る。地目は大半が水田であるが、中台1遺跡は線路東が畑地、西は荒地となる。一帯は過去に重機によるほ場整備が実施されている。

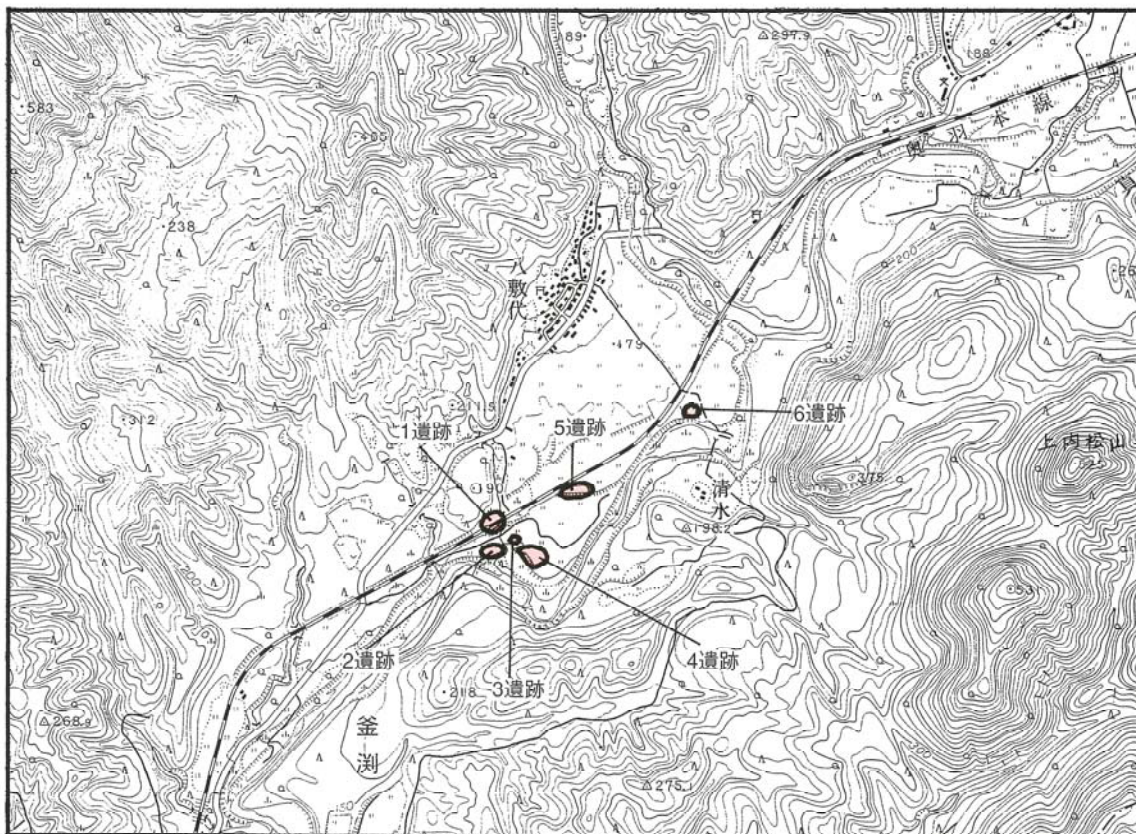
試掘状況

中台1遺跡——ほ場整備事業区内となる奥羽本線の東側の畑地に1×1mの試掘坑を4ヶ所設定して坪掘りを行った。

中台2遺跡——バックホーのバケット幅(1.3m)の試掘溝を9本設定して、遺構確認面までの掘り下げを行った。

中台3遺跡——2遺跡と同様の試掘溝を3本設定して、地山までの掘り下げを行った。

中台4遺跡——2遺跡と同様の試掘溝を4本、1×1mの試掘坑を4ヶ所設定して、遺



第14図 中台遺跡群位置図 (S = 1 : 25,000)

構確認面までの掘り下げを行った。

中台5遺跡——5月の調査で剥片等の散布を確認した段丘崖のすぐ上に、2遺跡と同様の試掘溝を4本、1×1mの試掘坑を5ヶ所設定して遺構確認面までの掘り下げを行った。

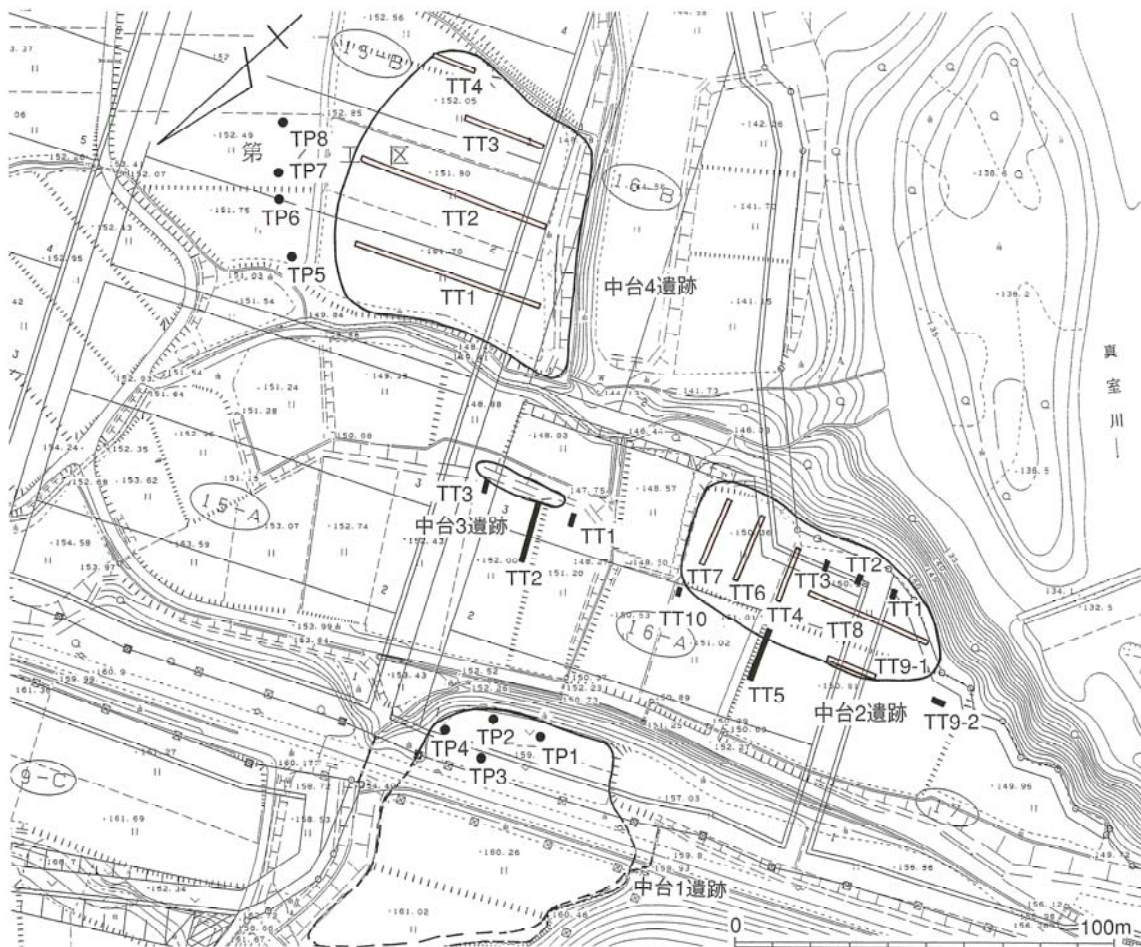
中台6遺跡——5月の調査では、遺物の散布が少なく、遺跡可能性地として把握していた。2遺跡と同様の試掘溝を3本設定して遺構確認面までの掘り下げを行った。

調査結果

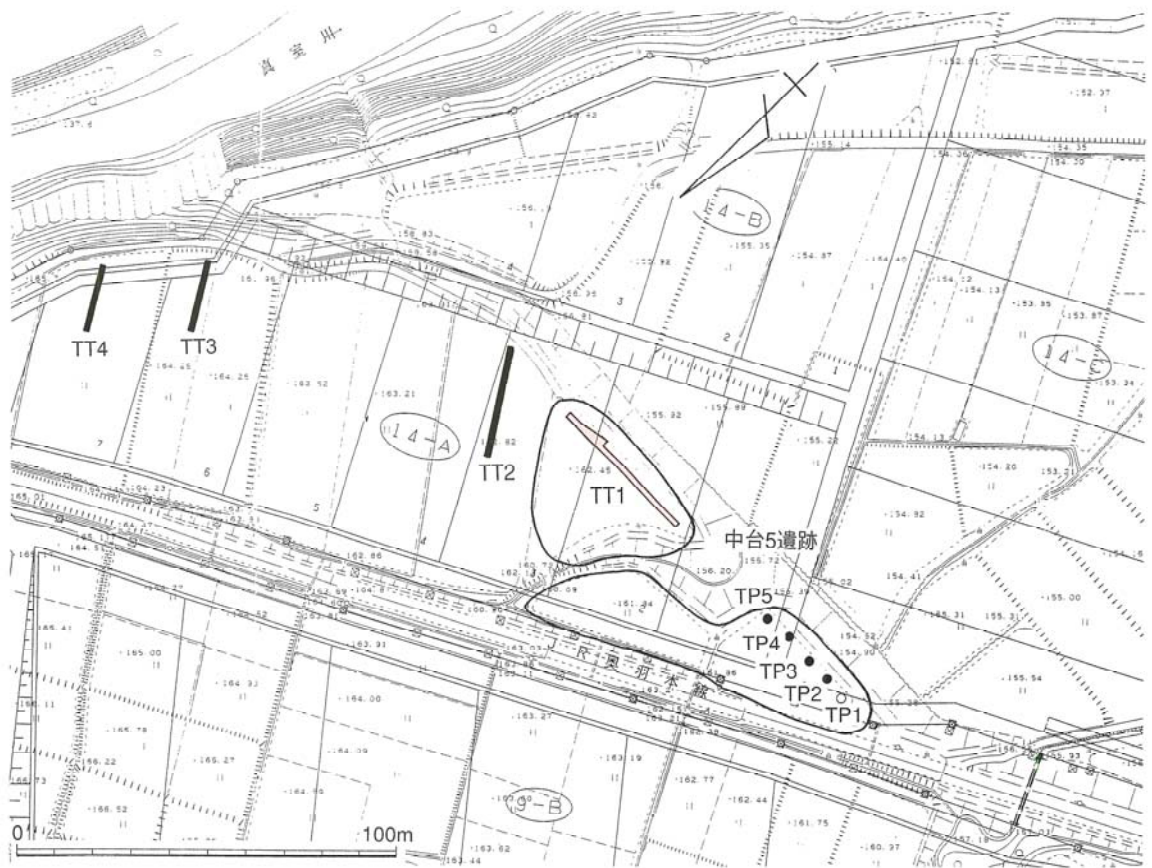
中台1遺跡——試掘坑では、遺構・遺物とも検出されなかった。しかし、畑地内には剥片が散布している。遺跡の範囲は東西60m、南北70m、面積4,800m²となる。

中台2遺跡——TT4、6、7、8の各試掘溝で、竪穴住居跡や土坑と考えられる土色変化が確認された。TT9では縄文土器片が出土した。TT1～3、5では遺構、遺物とも未検出である。なお、各トレンチから出土した土器は縄文時代中期末葉から後期初頭のものである。石器は石錐、石匙、石篋、削器が出土している。遺跡の範囲は東西75m、南北33m、面積2,100m²となる。

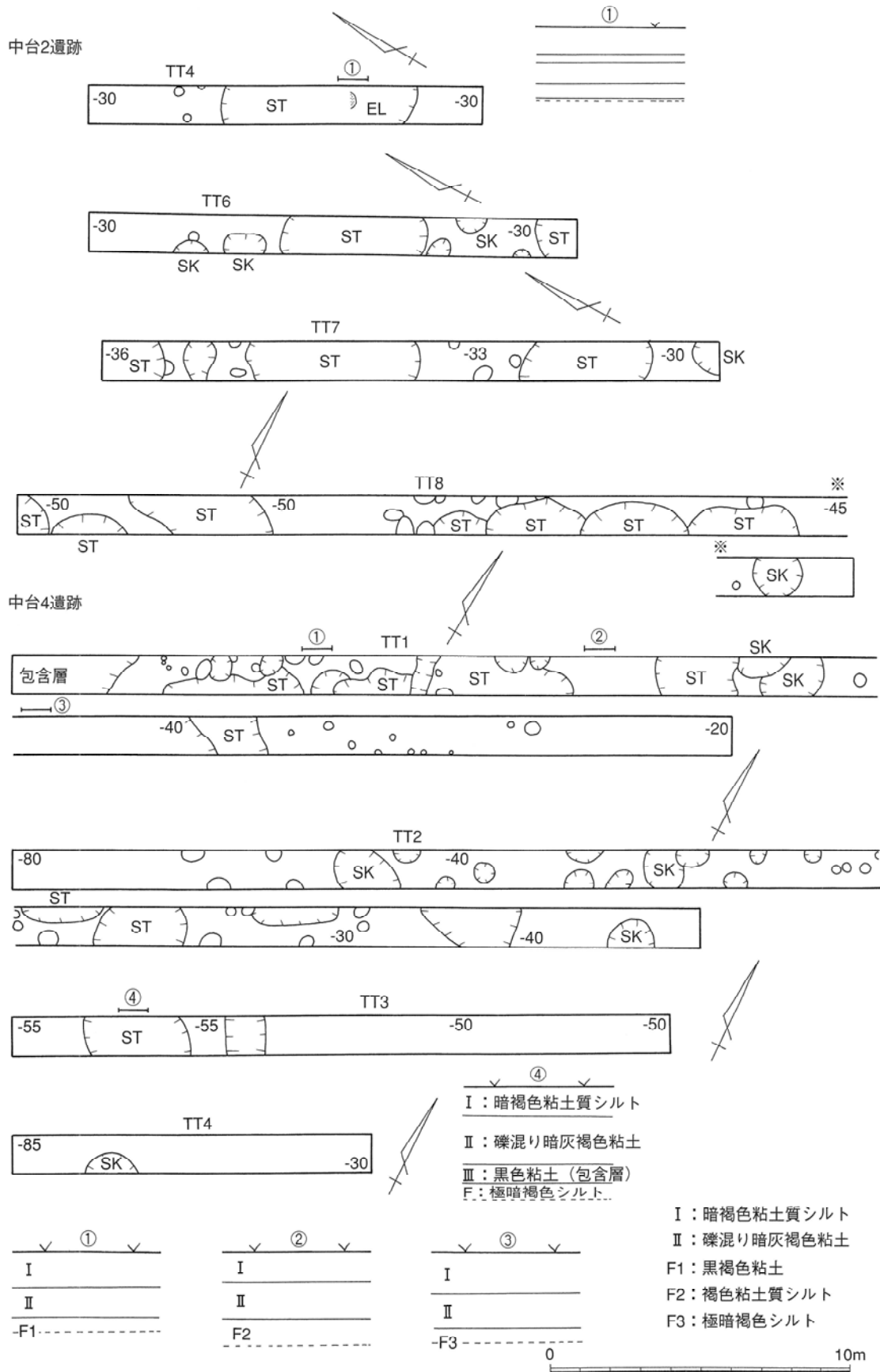
中台3遺跡——3本の試掘溝とも、攪乱が著しく、試掘溝内では遺構・遺物とも検出されなかった。ただし、崖面の露頭部分には、縄文時代中期・晩期の包含層が確実に存在することから、遺跡の大部分はすでに、破壊されたものと考えられる。土器の他、石篋が出



第15図 中台1～4遺跡概要図



第16図 中台5・6遺跡概要図



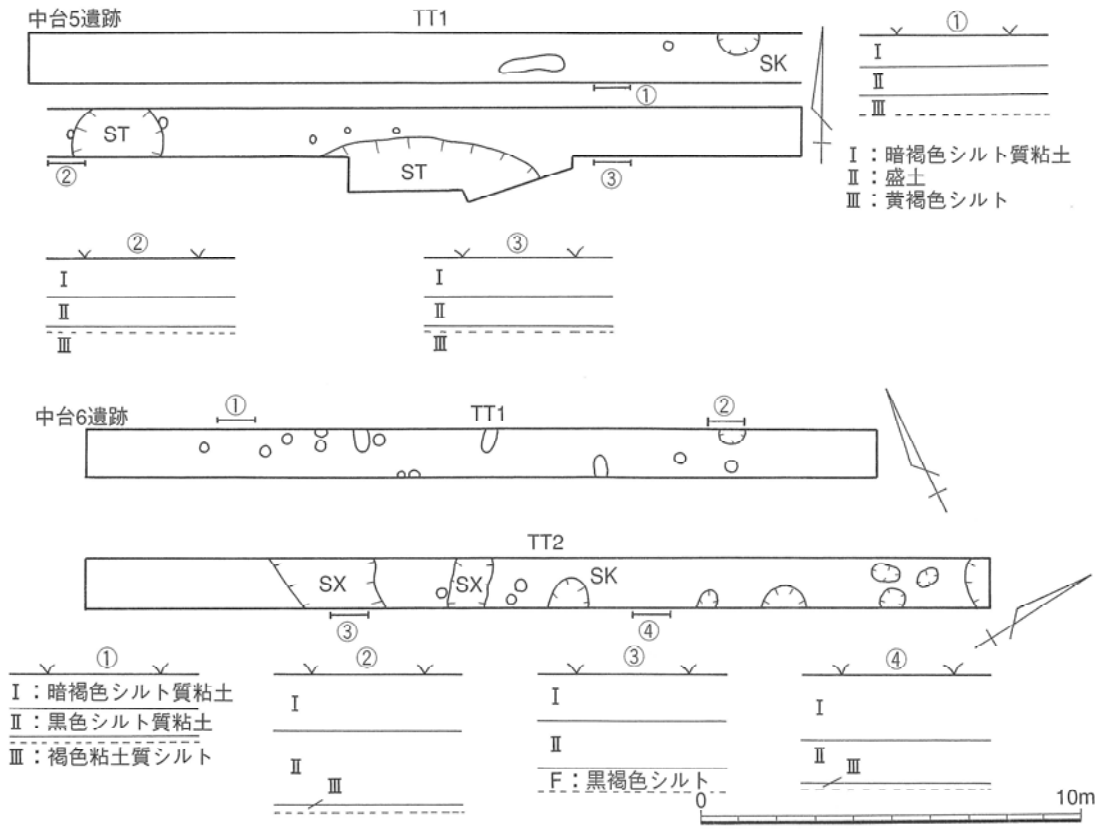
第17図 中台2・4遺跡平面図・断面図

土している。残っている遺跡の範囲は最大でも東西25m、南北5m程と見られる。

中台4遺跡——TT1～4の各トレンチで、竪穴住居跡や土坑、柱穴、落ち込みなどの遺構が確認された。各トレンチとも西半部に遺構が密集する様子が窺え、遺構確認面も西半部が深くなっている。過去のは場整備により、北東側が削られて、南西側に土が盛られたことを示すものと考えられる。出土した縄文土器は、中期末から後期初頭のものである。農道を挟む北東側の4ヶ所の試掘坑では、遺構・遺物とも検出されなかった。遺跡の範囲は東西65m、南北60m、面積3,900m²に及ぶものと推定される。

中台5遺跡——南北の沢によって分断された、東側の段丘崖のすぐ上の試掘溝TT1で、竪穴住居の可能性のある土色変化と土坑と見られる土色変化を確認した。また、西側の試掘坑ではTP1で柱穴と見られる土色変化が確認された。TT2～4では遺構、遺物とも検出されなかった。遺物は縄文土器片と剥片が出土しているが、時期は不明である。遺跡の範囲は東西120m、南北50m、面積2,250m²となる。

中台6遺跡——TT1、2から竪穴住居跡や土坑、柱穴と見られる土色変化が確認された。TT1では東側で遺構確認面が深くなっており、過去のは場整備によって、西から東への土の移動があったことを示している。TT3からは、遺構・遺物とも未発見である。TT1・2からは縄文土器と剥片が出土した。土器に時期を明らかにできる文様は確認されなかったが、中期の可能性が高い。遺跡範囲は東西50m、南北60m、面積2,600m²となる。



第18図 中台5・6遺跡平面図・断面図



中台1遺跡近景（南から）



中台1遺跡T P 1全景（南から）



中台1遺跡T P 3全景（南から）



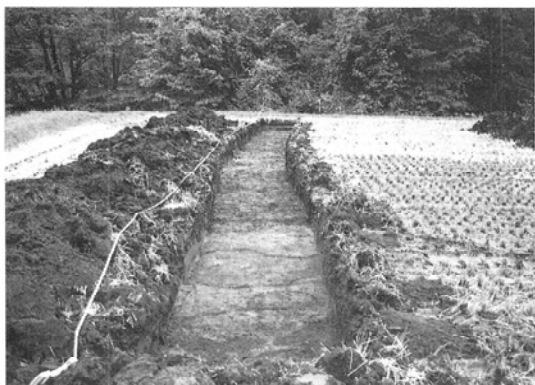
中台1遺跡出土遺物



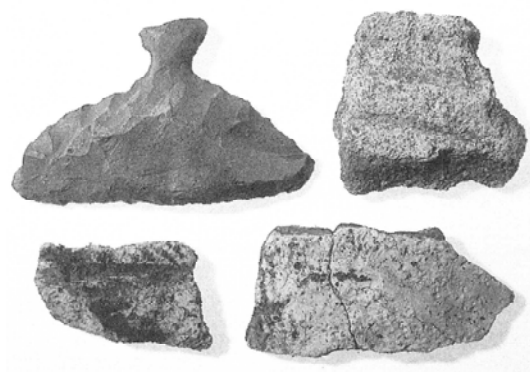
中台2遺跡近景（南西から）



中台2遺跡T T 4全景（南東から）



中台2遺跡T T 7全景（北西から）



中台2遺跡出土遺物



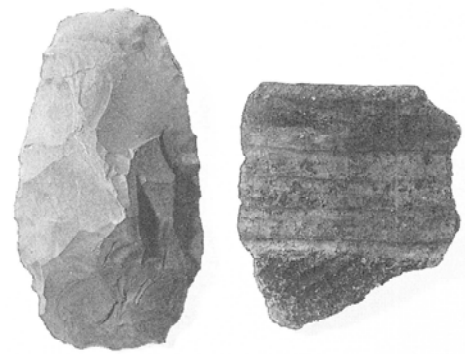
中台3遺跡近景（東から）



中台3遺跡TT1土層断面（南から）



中台3遺跡TT2全景（南東から）



中台3遺跡出土遺物



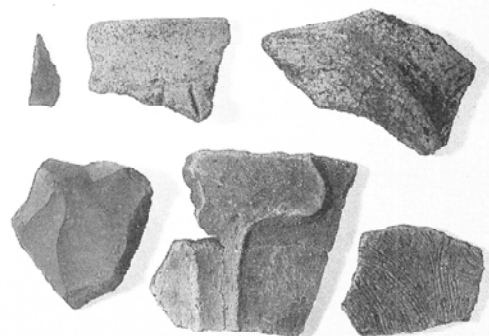
中台4遺跡近景（北から）



中台4遺跡TT1検出状況（南から）



中台4遺跡TT2検出状況（南西から）



中台4遺跡出土遺物



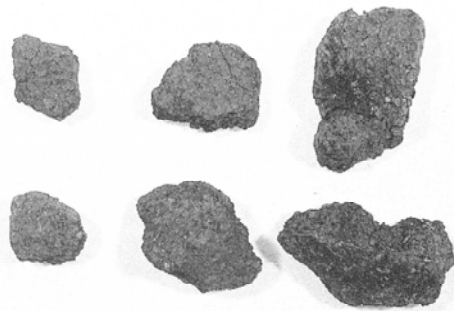
中台5遺跡近景（東から）



中台5遺跡遺構検出状況（西から）



中台5遺跡T T 1全景（東から）



中台5遺跡出土遺物



中台6遺跡近景（西から）



中台6遺跡T T 1全景（東から）



中台6遺跡T T 2全景（南から）



中台6遺跡出土遺物

しろとりたてあと
(3) 白鳥館跡 (平成11年度登録)

所在地 山形県村山市大字白鳥字宮下

調査員 渋谷孝雄

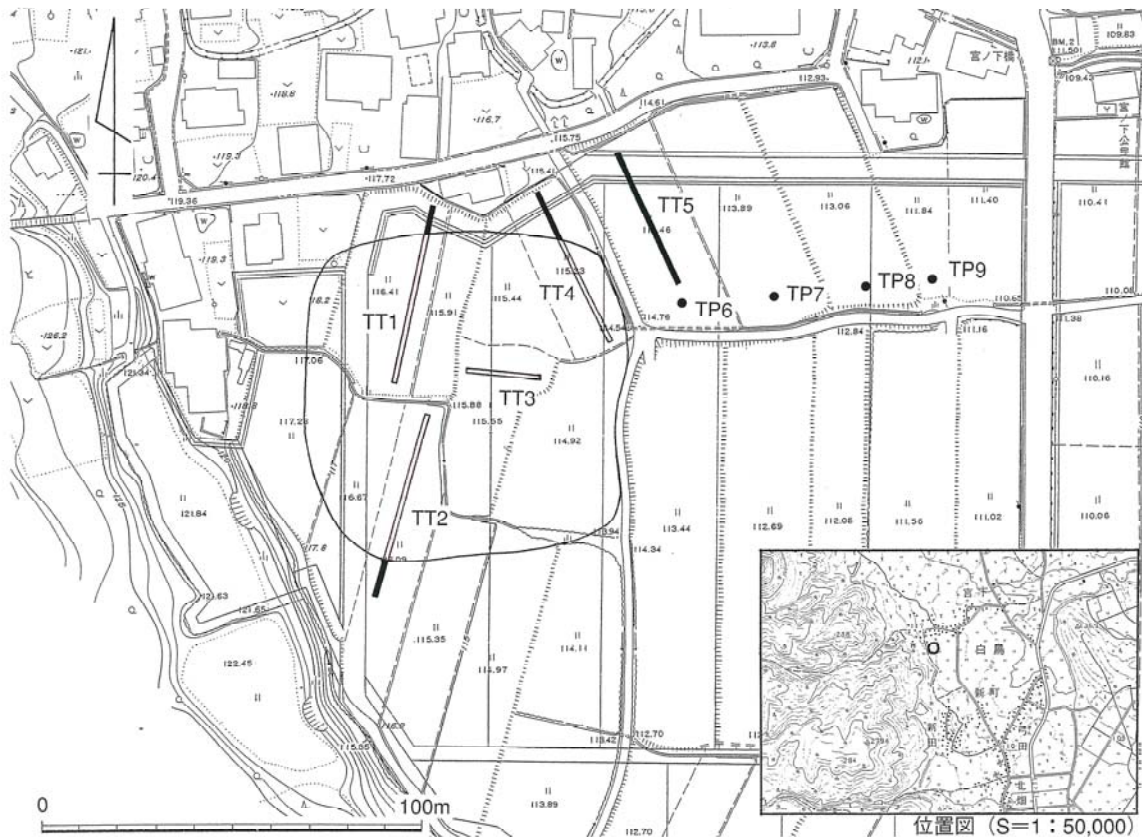
調査期日 平成11年10月12～14日

起因事業 県営ほ場整備事業担い手育成型 (宮下地区)

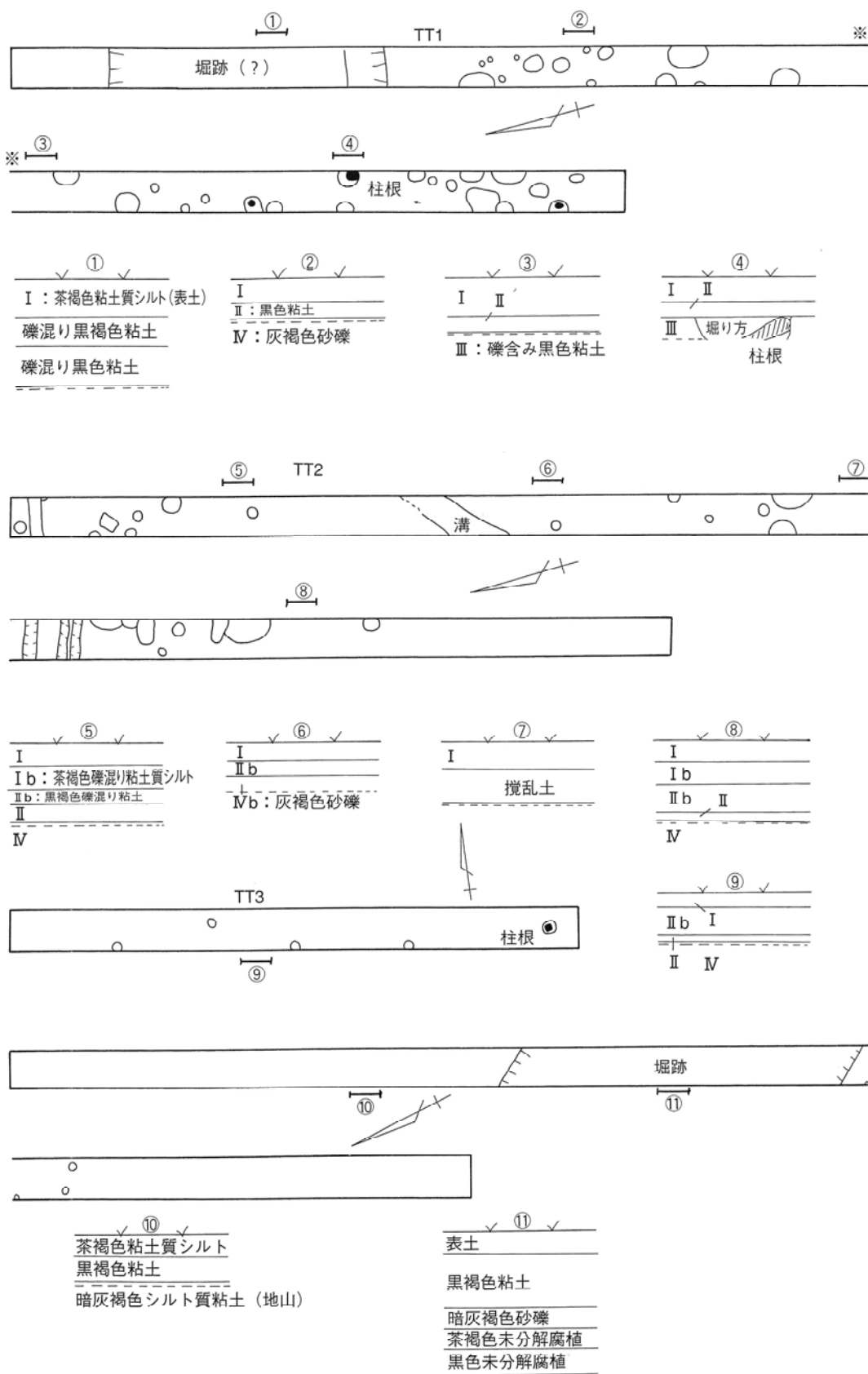
遺跡環境 JR奥羽本線楯岡駅の北西約8kmに位置する。山地と平地の境界に位置し、標高は約115mを測る。地目は水田、隣接地に村山市指定文化財である宮の下宝篋印塔、宮の下六面幢が存在する。南方1.6kmには白鳥城があり、南西350mにある標高226mの山頂に堀切や2段帯曲輪の認められる毛倉森が存在する。本遺跡は白鳥氏の居館のあった場所として地元で伝承が残っていた。

試掘状況 今回の調査地は縄文時代の念仏壇A遺跡として登録されていた。この地にバックホーのバケット幅の試掘溝5ヶ所、1×1mの試掘坑を4ヶ所設定し、調査を進めた。

調査結果 5本の試掘溝の内4本で、中世、あるいは古代の所産と見られる柱根を伴う掘り方や、ピット、土坑、溝跡等が検出された。この検出範囲から、遺跡は東西、南北とも約80m程の広がりをもつことが明らかとなった。出土した遺物は中世陶器と須恵器片であり、縄文時代の遺物は確認されなかった。また、遺跡地図に記載ミスがあった念仏壇A遺跡の本来の位置も明確となったため、今回の調査地は、伝承どおりかどうかは不明確ながら、中世の居館である可能性が強まったといえることができる。



第19図 白鳥館跡概要図



第20図 白鳥館跡平面図・断面図



遺跡近景（北から）



T T 1 全景（北から）



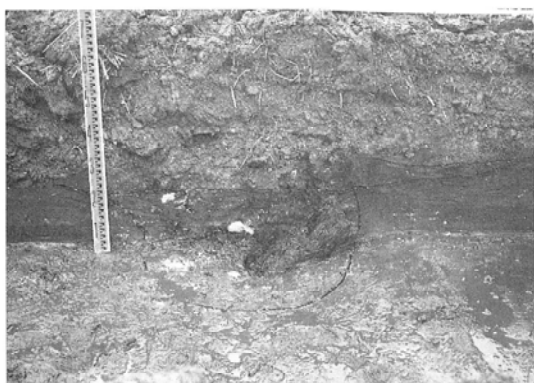
T T 1 北半部検出状況（北西から）



T T 1 掘り方検出状況（西から）



T T 1 掘り方検出状況（西から）



TT1④土層断面（西から）



TT1②土層断面（西から）



TT2全景（北から）



TT2北部遺構検出状況（北から）



TT3全景（西から）



TT3掘り方検出状況（西から）



TT2⑧土層断面（西から）



出土遺物

(4) ^{たかざい けたて}高在家館跡 (米沢市遺跡地名表 J 496)

所在地 山形県米沢市窪田町窪田字高在家

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年10月8日

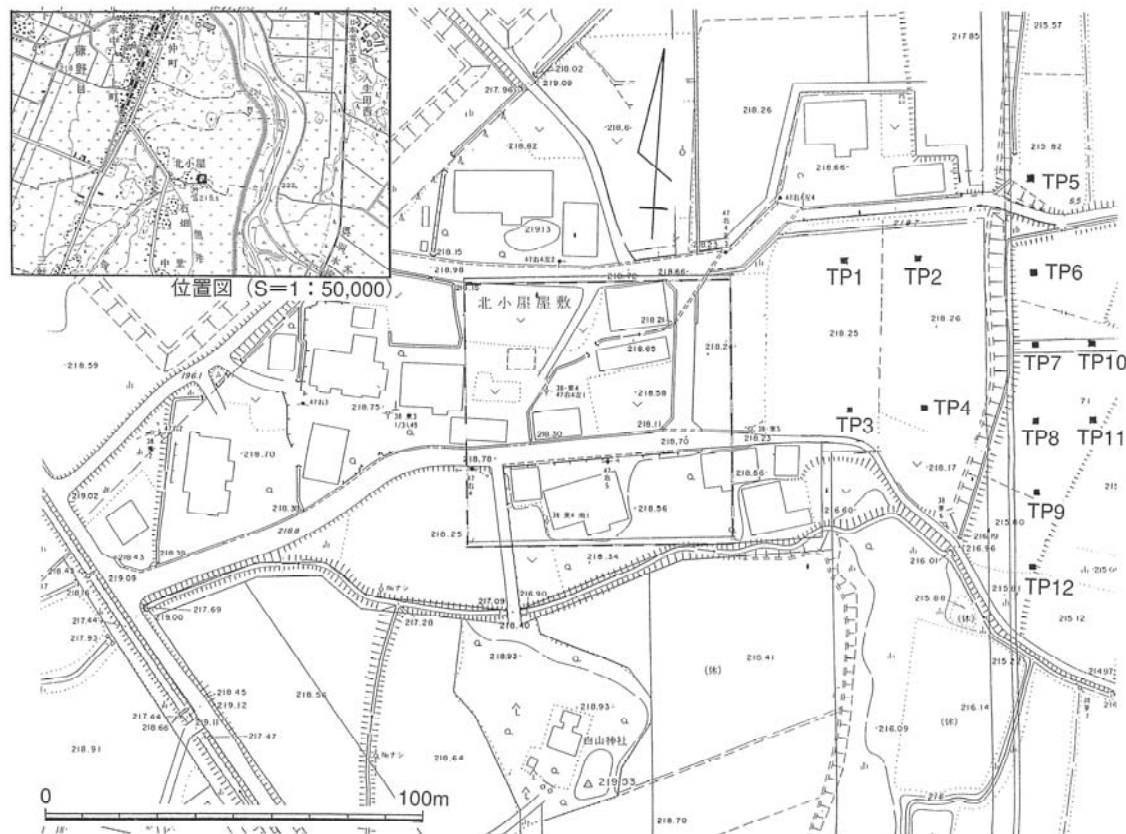
起因事業 担い手育成基盤整備事業 (外ノ内・窪田地区)

遺跡環境 米沢盆地を流れる最上川左岸の沖積地上に立地する。地目は水田・畑地・宅地等で、標高は218mを測る。周辺には、古墳時代の中里遺跡や内方館・田中屋敷等の館跡が所在している。本遺跡について米沢市遺跡地名表では、字切り図の検討等から約70m四方の方形館跡を推定している。

試掘状況 平成13年度事業予定地区のうち、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、TP1～12を設定した。調査はすべて人力で行った。

調査結果 TP1～4は、河岸段丘の一段高い面に設定したものである。各TPとも地表下20cmで基盤の硬い褐色シルト層に達し、その下が砂混りのシルト層となる。遺構・遺物は全く認められない。TP6～12は河岸段丘の一段低い面に設定したものである。各TPとも地表下20～40cmで基盤の青灰色シルト層に達する。南側に行くほどシルト層が深くなり、泥炭層も認められる。全体的に水性の堆積層で、遺構はほとんど認められない。遺物も近代遺構の陶磁器が数点出土しただけである。

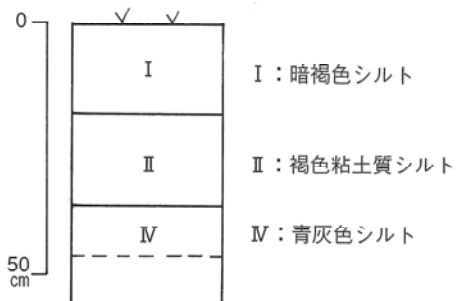
遺跡は今回の事業予定地区には入らず、西側の高台に分布するものと思われる。



第21図 高在家館跡概要図



遺跡近景（北から）



TP 5 土層柱状図



西側低地試掘状況（南から）



TP 2 土層断面（北から）



TP 9 土層断面（南から）

うちかたて
(5)内方館跡 (米沢市遺跡地名表J 494)

所在地 山形県米沢市窪田町窪田字内方

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年10月5～7日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (外ノ内・窪田地区)

遺跡環境 米沢盆地を流れる最上川左岸の沖積地上に立地する。地目は水田・宅地等で、標高は219mを測る。周辺には、古墳時代の中里遺跡や高在家館・田中屋敷等の館跡が所在している。本遺跡について米沢市遺跡地名表では、字切り図の検討等から約75m四方の方形館跡を推定している。

試掘状況 平成13年度事業予定地区のうち、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、TT1～5、TP11～14を設定した。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 TT1～5は、遺跡の推定地に十字形のトレンチを設定したものである。各TTとも地表下40～80cmで基盤の青灰色シルト層に達する。全体的に水性の堆積層で、遺物・遺構はほとんど認められない。TT2～4で浅い溝跡が数条検出されたが、いずれも埋土が新しく、遺物も近代遺構の陶磁器が数点出土しただけである。TP11～14も同様な様子を示し、遺構・遺物は全く認められない。

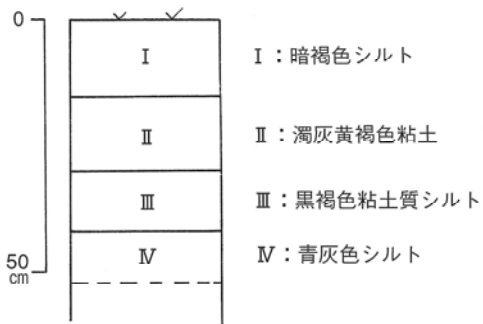
遺跡は今回の事業予定地区には入らず、西側の宅地に分布するものと思われる。



第22図 内方館跡概要図



遺跡近景（東から）



T T 3 土層柱状図



T T 3 土層断面（北から）



T T 3 溝跡検出状況（西から）



T T 5 遺構状況（東から）

(6) ^{きたごややしき}北小屋屋敷遺跡 (米沢市遺跡地名表J495)

所在地 山形県米沢市窪田町窪田字北小屋屋敷

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年10月6～7日

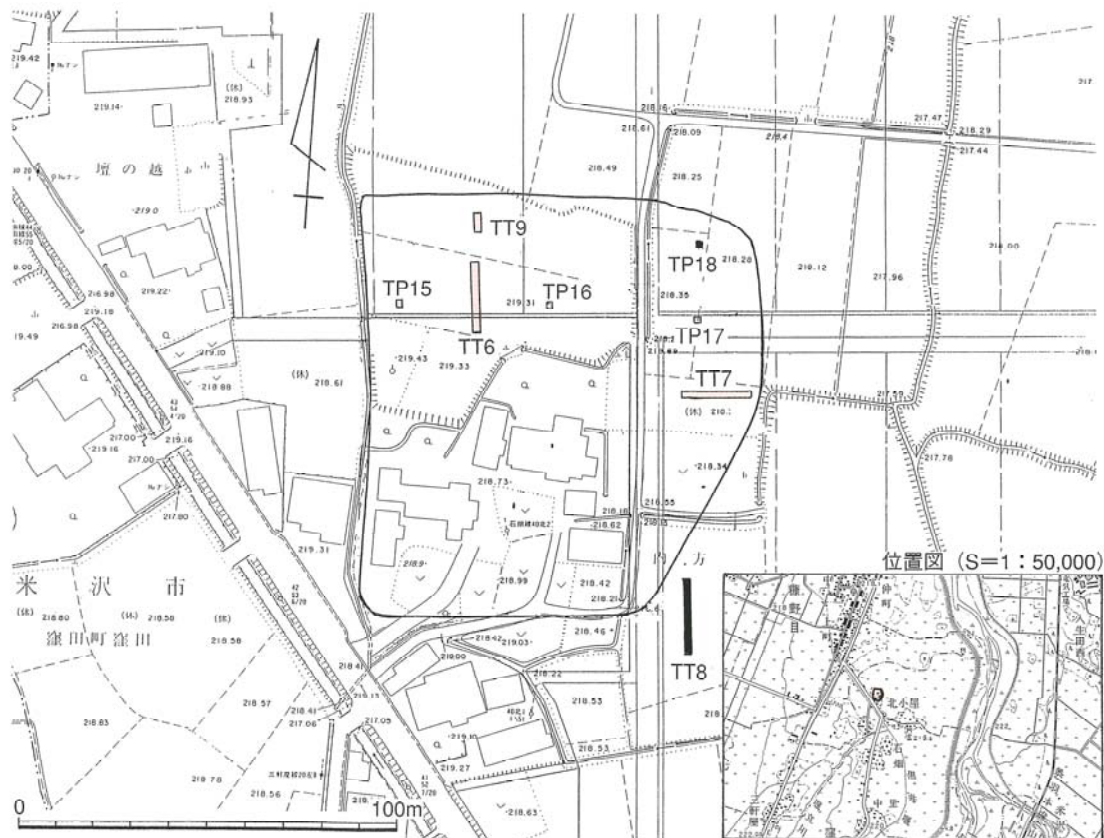
起因事業 担い手育成基盤整備事業 (外ノ内・窪田地区)

遺跡環境 米沢盆地を流れる最上川左岸の沖積地上に立地する。地目は水田・宅地等で、標高は218mを測る。本遺跡について米沢市遺跡地名表では、字切り図の検討等から約90m四方の方形館跡を推定している。

試掘状況 平成13年度事業予定地区のうち、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、TT6～9、TP15～18を設定した。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 TT6・9とTP15・16は、遺跡推定地北側の水田にトレンチ等を設定したものである。各区とも地表下40cmで柱穴や溝跡が多く分布し、古墳時代の土師器も出土している。TT7とTP17はTT6より一段低い面であるが、地表下40cmに黒褐色の炭化物層が堆積し、古墳時代の土師器も出土している。TT8は遺跡推定地南東隅の水田にトレンチを設定したものであるが、泥炭層が厚く堆積し、遺構は認められない。

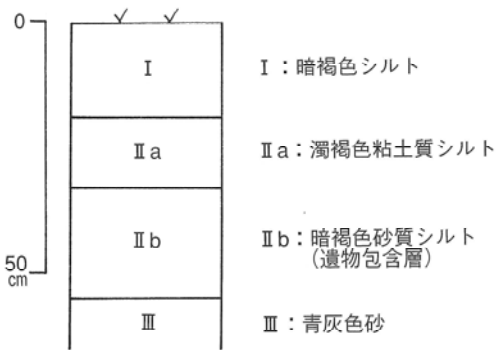
本遺跡は中世の城館跡として登録されているが、今回中世の遺物・遺構は確認されず、それ以前の古墳時代のものが検出されたため、古墳時代の集落跡として再登録する。



第23図 北小屋屋敷遺跡概要図



遺跡近景（北から）



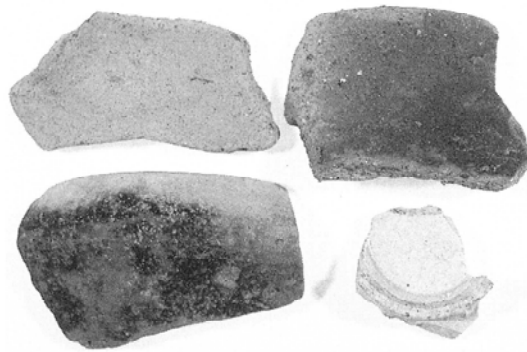
T T 6 土層柱状図



T T 6 遺構検出状況（北から）



T T 7 遺物出土状況（南から）



出土遺物

かなしるだて
(7)金城館跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県長井市大字九野本字金城

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年11月10～11日

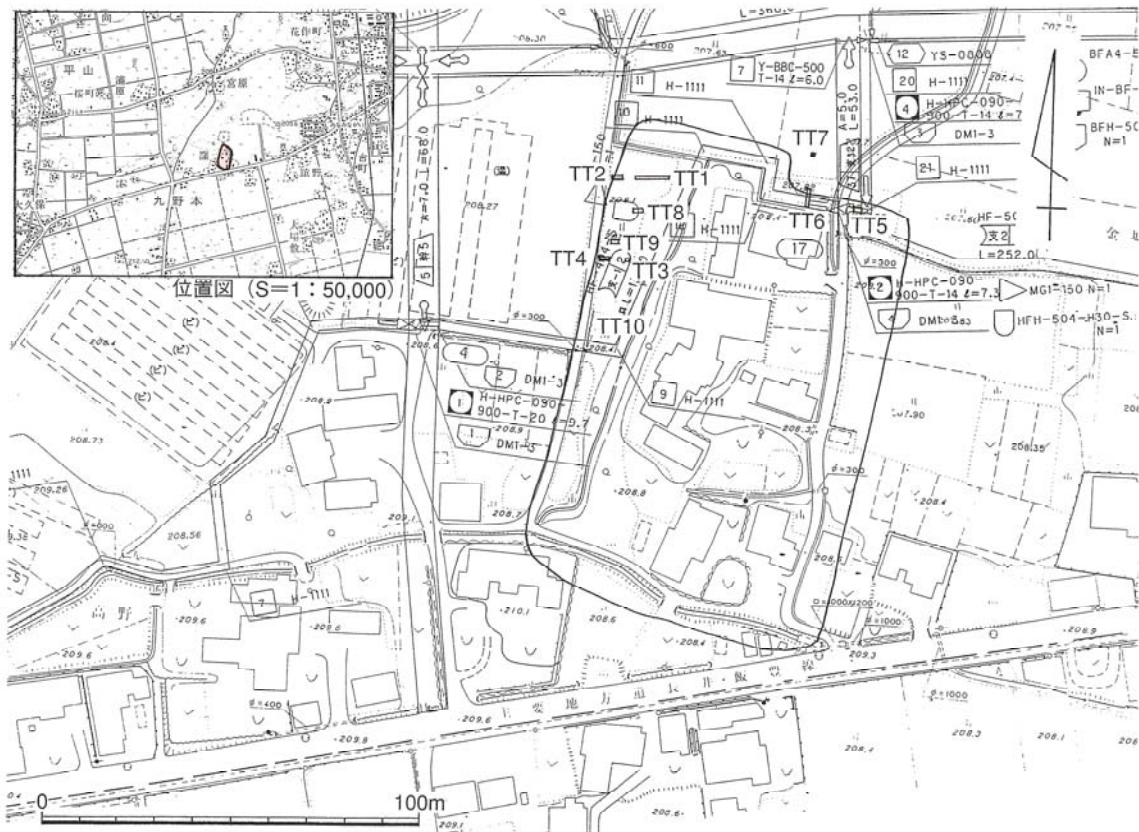
起因事業 担い手育成基盤整備事業 (宮原地区)

遺跡環境 長井市街地の北側を流れる野川右岸の自然堤防上に立地する。地目は宅地・水田等で、標高は208mを測る。現在館跡の西側土塁及び北側土塁の一部が残っている。また、周辺には正福寺館や浦原館等の中世城館跡が所在している。

試掘状況 平成13年度事業予定地区のうち館跡に関わる約3,000㎡について、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、TT1～10の10本のトレンチを設定した。調査はすべて人力で行った。

調査結果 TT1から2にかけて幅6m、深さ80cmの堀跡が検出された。遺物はⅡ層濁灰褐色砂質シルトから陶磁器片が少量出土している。TT3・4・8～10は館跡推定地西側の水田にトレンチ等を設定したもので、各TTとも地表下20～30cmでⅣ層青灰色シルトに達する。細い溝跡や土坑が検出されている。TT5～7は館跡推定地北東部の畑地にトレンチ等を設定したもので、TT6から北側堀跡の一部が検出されている。

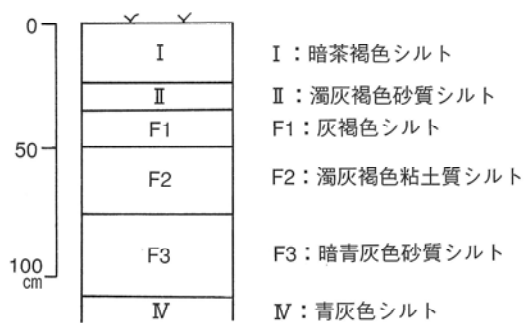
これらの地区は金城館跡の西側・北側土塁の外側にあたるが、今回の調査によってこの部分にも堀跡等の遺構が分布することが判明した。



第24図 金城館跡概要図



遺跡近景（東から）



T T 1 堀跡土層柱状図



北側土塁・堀跡近景（西から）



T T 1・2 調査状況（東から）



T T 1 堀跡土層断面（南から）

(8)ニタ子遺跡 (遺跡番号2,255)

所在地 山形県飽海郡八幡町大蔵字ニタ子

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成11年10月25・26日

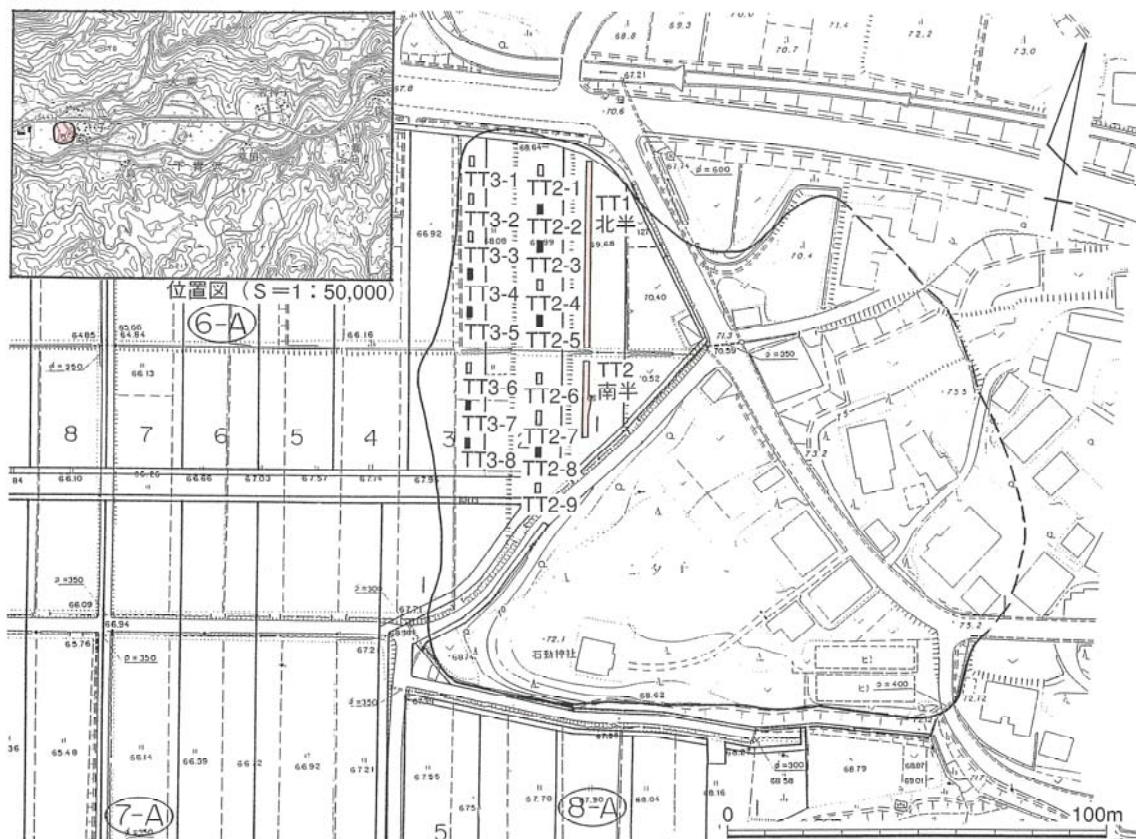
起回事業 中山間地域総合整備事業 (下青沢地区)

遺跡環境 八幡町役場の東方約5kmに位置し、荒瀬川右岸の段丘上に立地する。地目は水田、畑地、神社境内となっており標高は68~72m前後を測る。

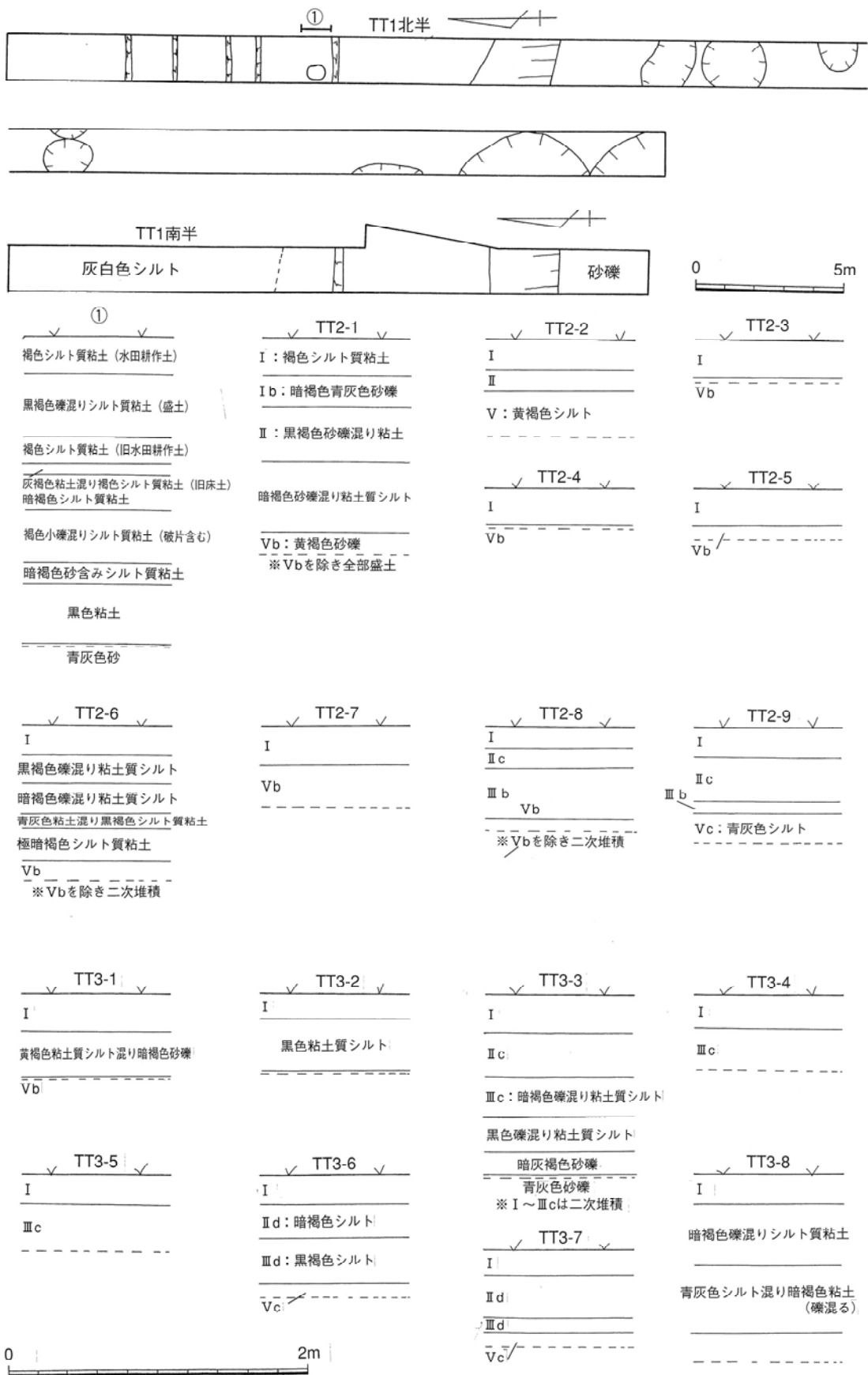
試掘状況 事業予定地にバックホーのバケット幅のトレンチを設定して調査を進めた。TT1は連続した試掘溝であるが、TT2、3は断続的に設定した。

調査結果 TT1北半で1次的な遺物包含層や遺構の存在が確認された。それ以外のトレンチでは遺物は出土するが、過去のは場整備ですでに破壊されたことが明確となった。TT1の北側は縄文時代から弥生時代の河道の近接地で、急激に落ち込む斜面を利用した、捨て場であったと考えられる。

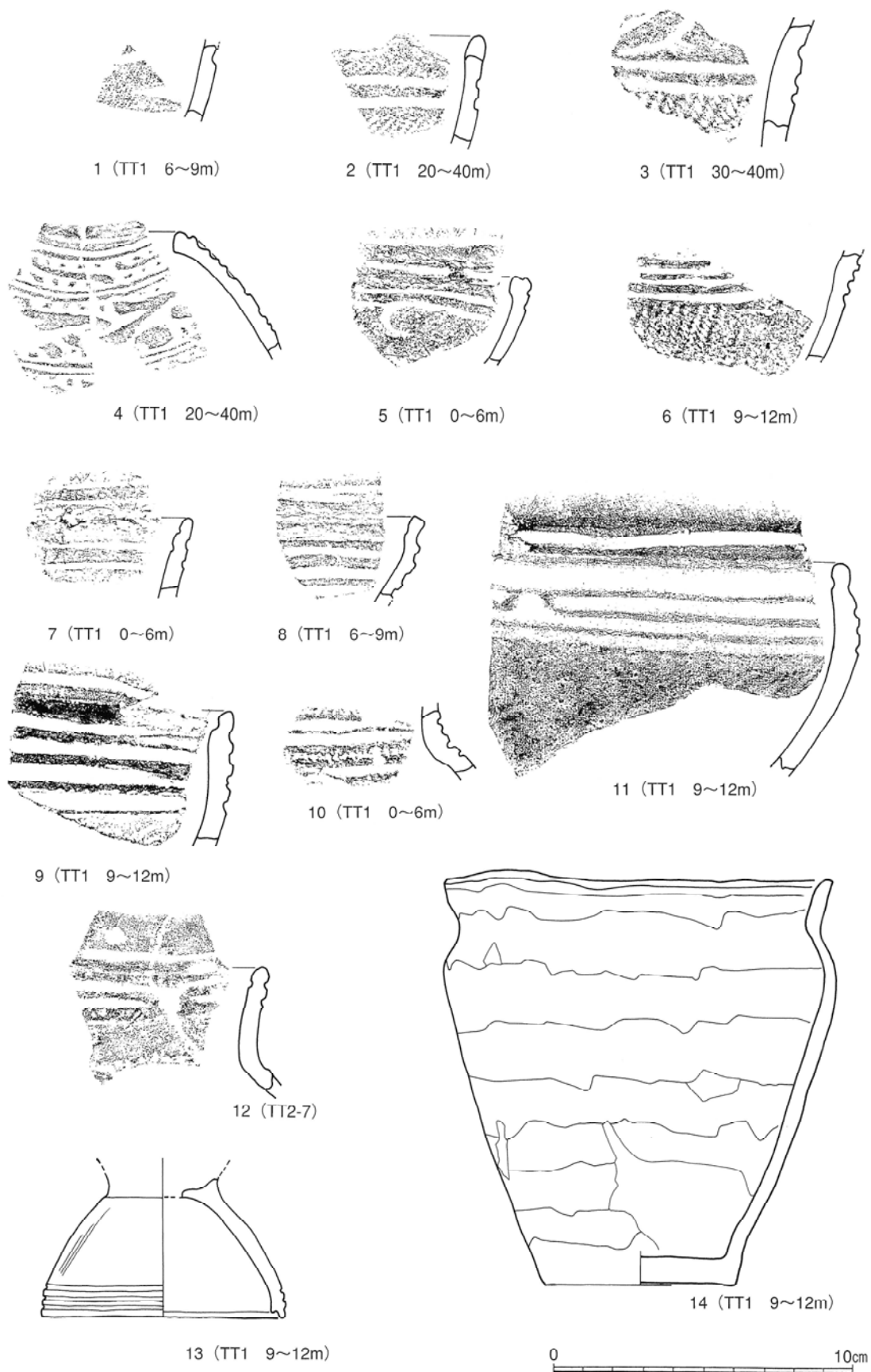
出土した土器から、本遺跡は縄文時代晩期から弥生時代にかけての遺跡であることが明らかとなった(第27・28図)。1~3は大洞B式、4は大洞BC式、5~8は大洞C2式、9~14は大洞A式、15~20は大洞A'式、21~25は弥生土器である。26は石鏃、27はつまみ部にアスファルトが付着した石匙である。本遺跡は中山間地域で初期農耕を担った人々の遺跡であることに疑いはない。



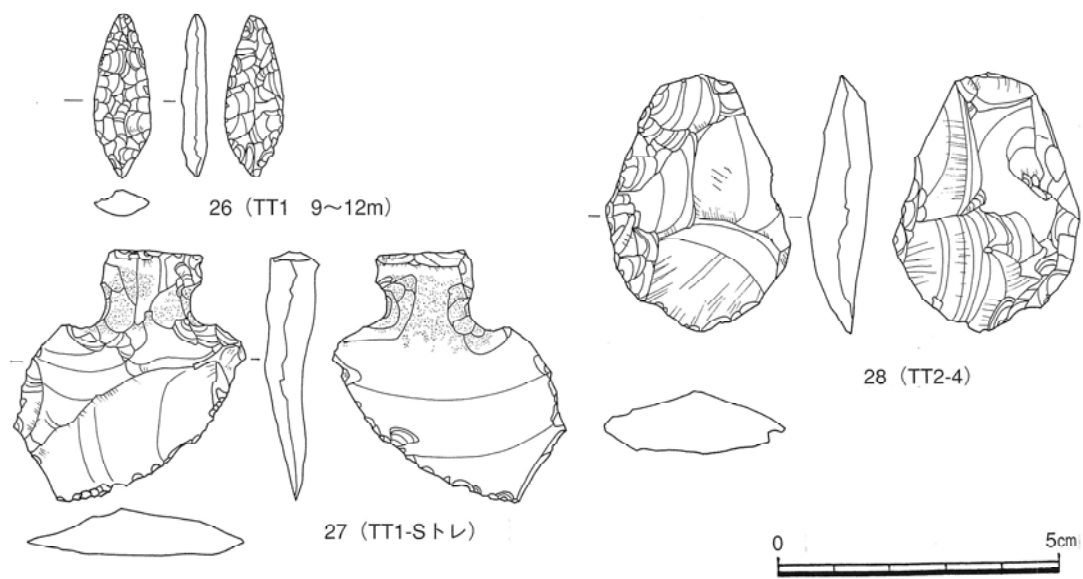
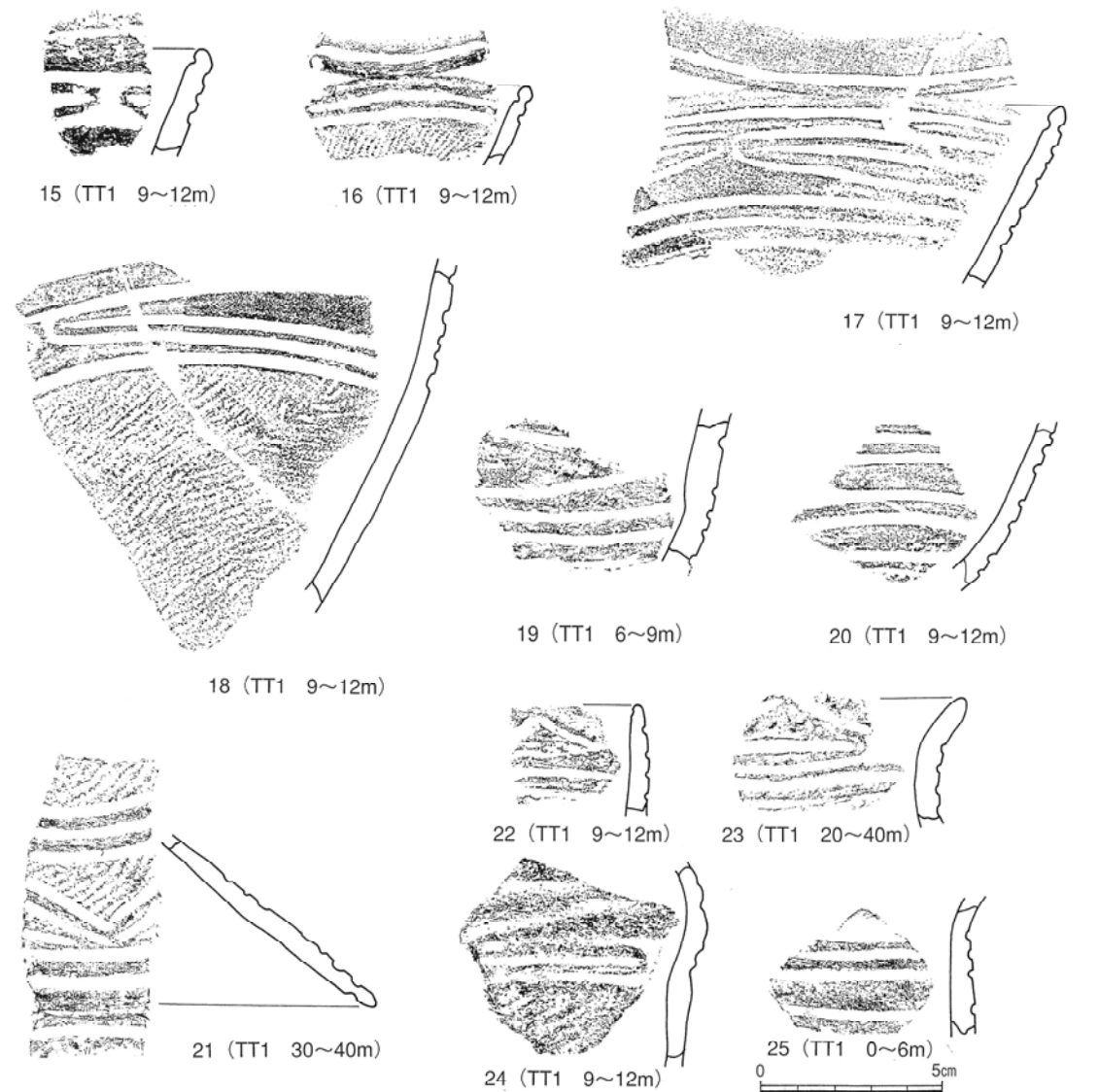
第25図 ニタ子A遺跡概要図



第26図 二太子A遺跡平面図・断面図



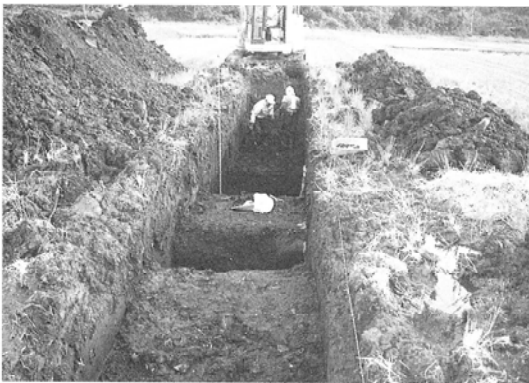
第27図 二太子A遺跡出土遺物 (1)



第28図 二太子A遺跡出土遺物 (2)



遺跡近景（南西から）



TT1 調査状況（北から）



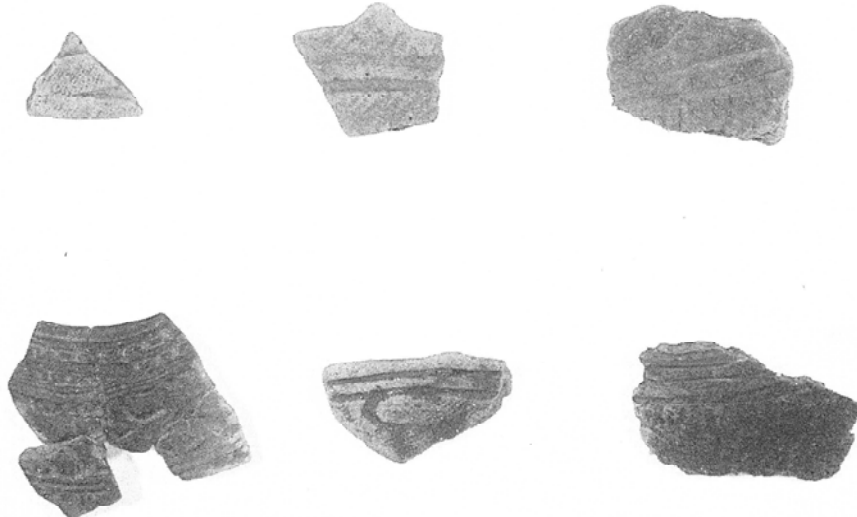
TT1 全景（北から）



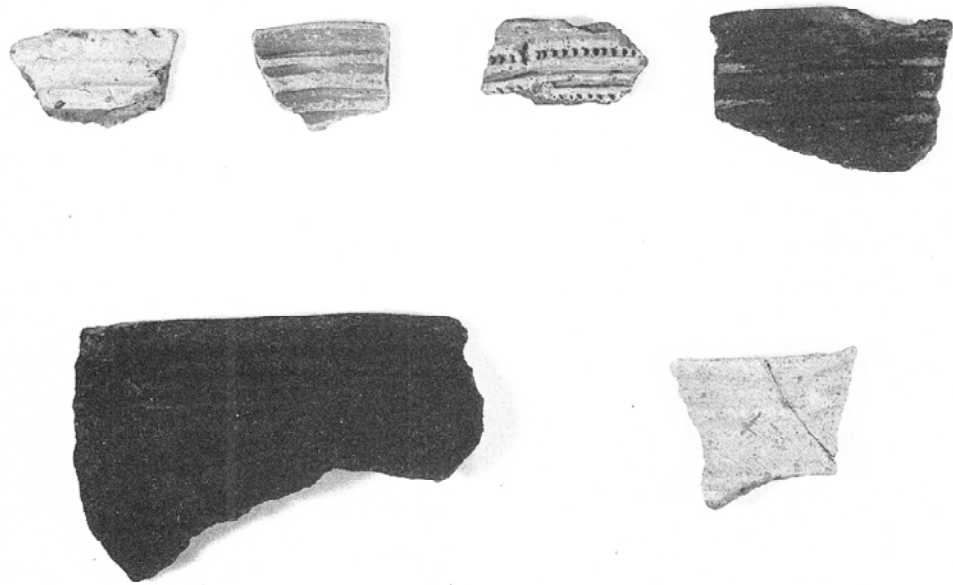
TT1 北から10m地点柱穴（北から）



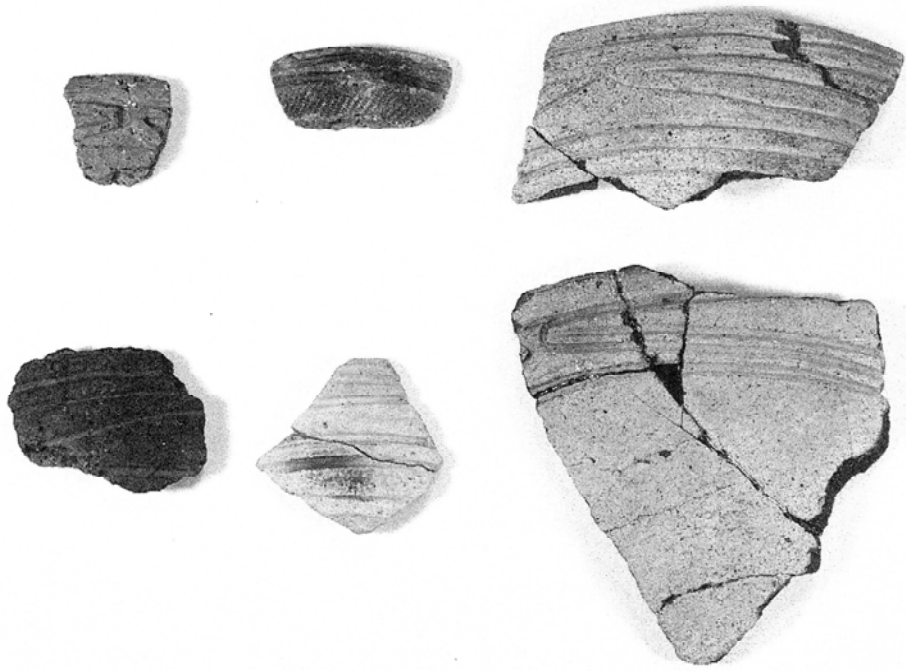
TT1 北から10m地点土層断面（西から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物（3）



出土遺物（4）



出土遺物 (5) (S ≒ 1/2.5)



出土遺物 (6) (S ≒ 1/2)



出土遺物 (7) (S = 1/1)

(9) かつば遺跡 (遺跡番号923)

所在地 山形県最上郡最上町大字富沢字合羽

調査員 長橋 至

調査期日 B調査：平成11年10月5～6日、11月29日

起因事業 中山間地域総合整備事業 (立小路地区)

遺跡環境 小国川の支流、鳥出川により形成された狭隘な沢の右岸の段丘上、JR陸羽東線立小路駅から北東約1.3kmの水田・畑地に立地する。標高は247～248mを測る。

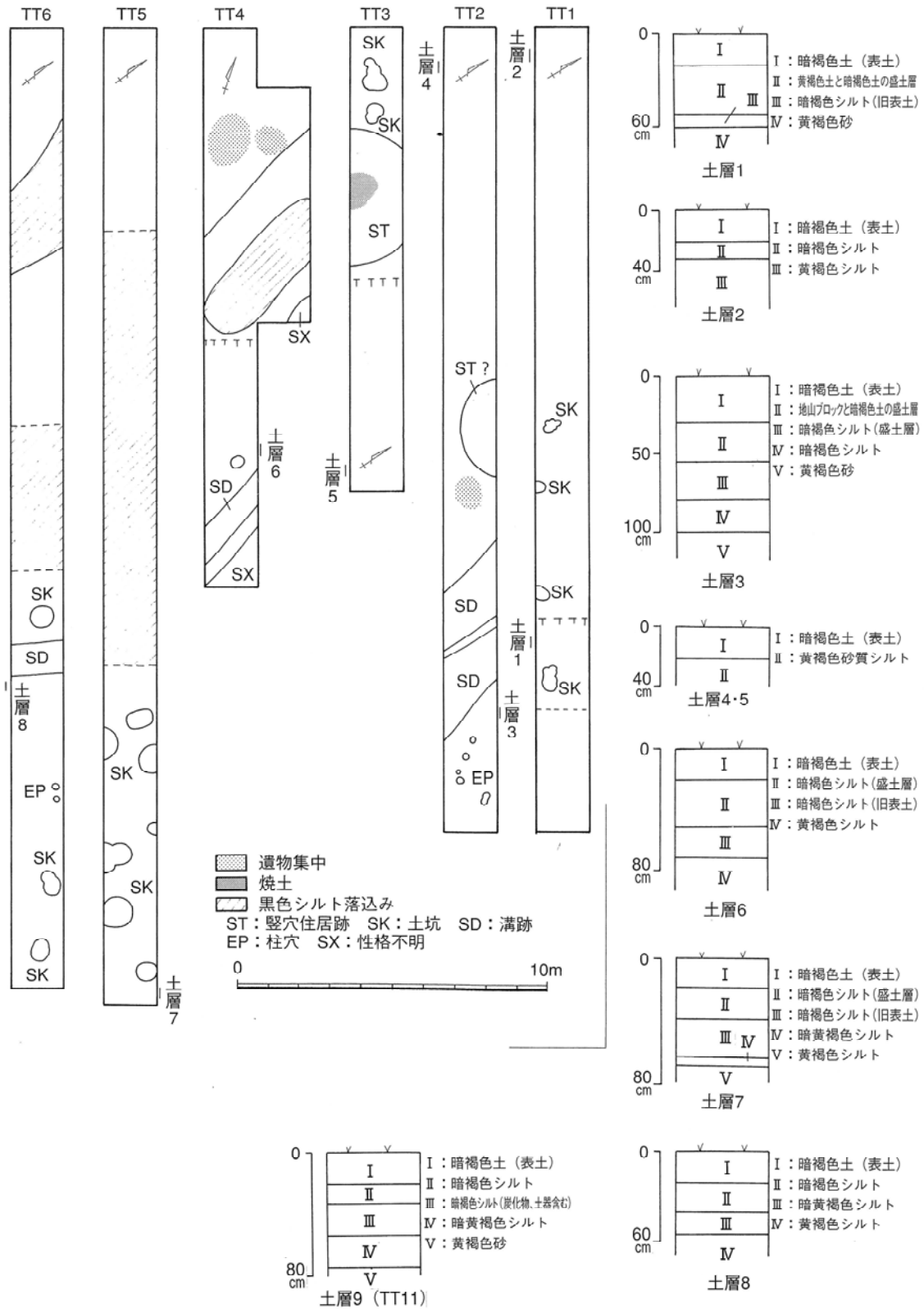
試掘状況 幅1.7m、長さ10～32mのトレンチを9本 (10月)、2～3mのトレンチを5本 (11月) 設定し、重機で表土等を掘削後、人力で遺構・遺物の検出を行った。

調査結果 調査対象地のうち、南西側の一段高い段丘部を中心に遺構・遺物が検出された。北側の一部は作付け中のため調査から除外している。北側TT7～9では全体に盛土整地層がみられ、遺構・遺物は検出されなかった。また、一段低い水田に設定したTT10～11では、大半が改田で切り土されていたが、TT11で遺物がややまとまって出土した。

以上の状況から遺構・遺物の集中する区域を中心に遺跡範囲を想定した。遺構は土坑・柱穴・溝跡などの他、竪穴住居跡とみられる円形の土色変化が2箇所で見られる。下段の水田部では黒色シルトを覆土とするやや広い範囲の落ち込みや遺物の集中域もみられる。遺物は今回の試掘調査では整理箱に約2箱程出土した。縄文時代後期中葉の遺物が中心である。刺突文の土錘なども出土した。



第29図 かつば遺跡概要図



第30図 かつば遺跡検出遺構平面図・土層断面図



遺跡近景（南から）



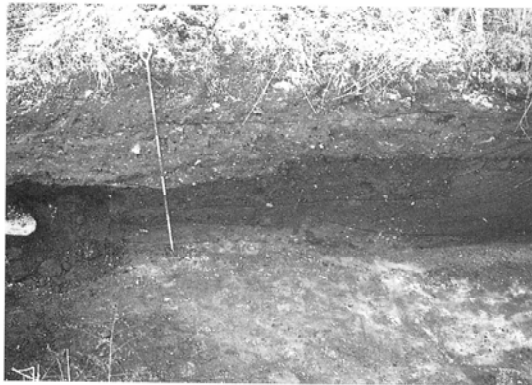
T T 1 遺構検出状況（東から）



T T 2 遺構検出状況（東から）



T T 2 遺構検出状況（南から）



T T 2 土層断面（北から）



T T 3 遺構検出状況（西から）



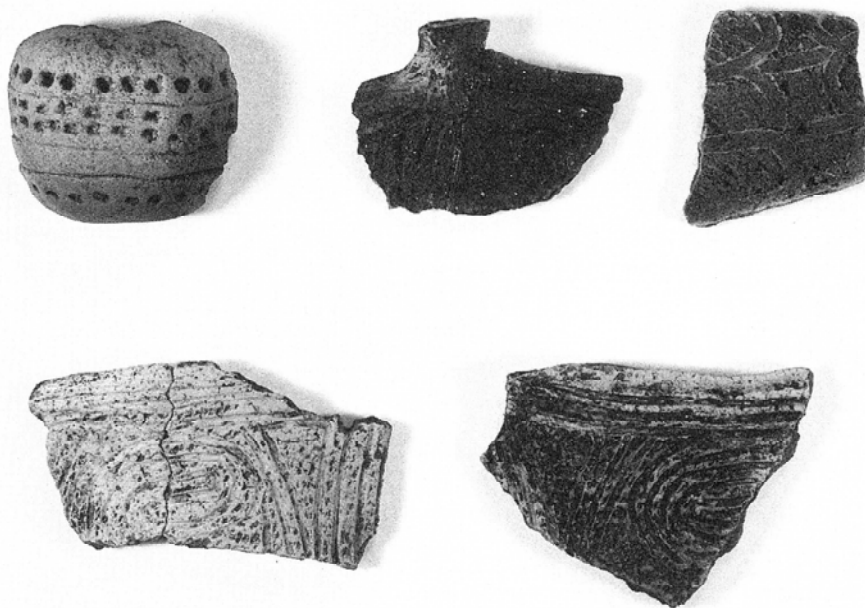
T T 5 遺構検出状況（東から）



T T 6 遺構検出状況（東から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

にかいどううじやしき
(10)二階堂氏屋敷遺跡 (遺跡番号301)

所在地 山形県天童市大字大清水字二階堂

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年12月14～15日

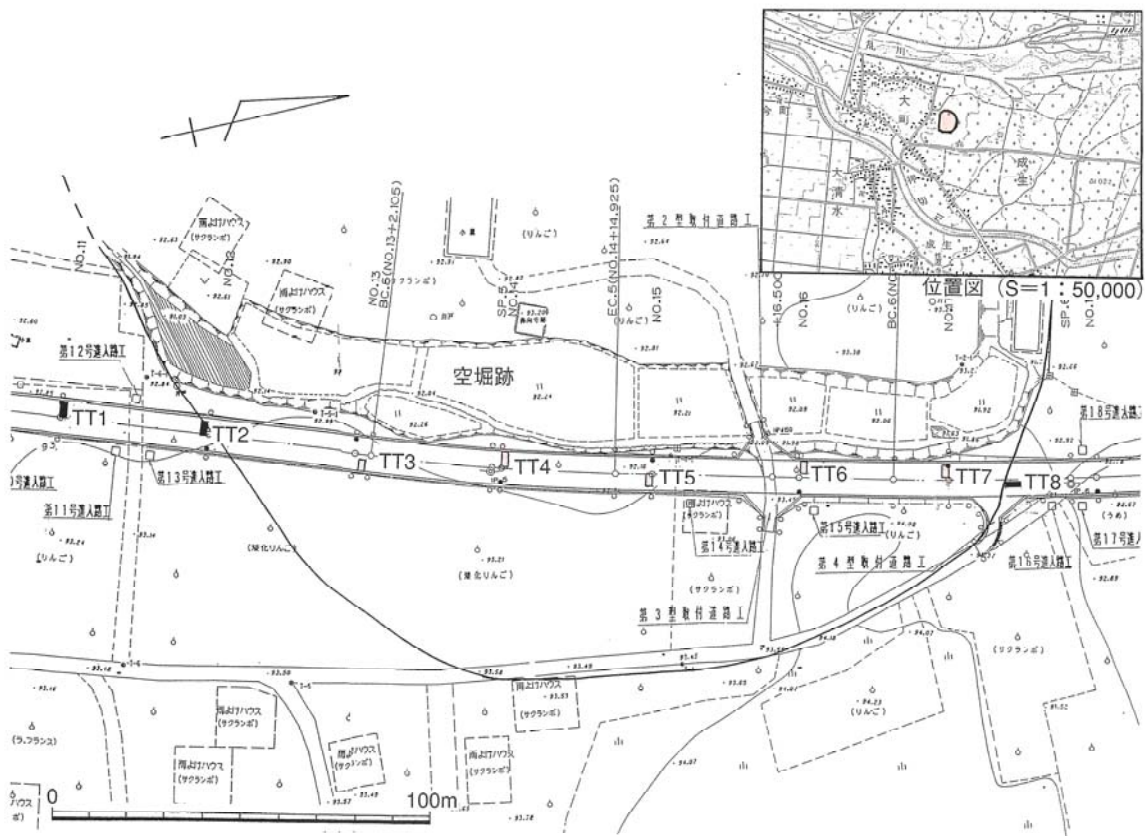
起因事業 一般農道整備事業 (天童市成生)

遺跡環境 乱川扇状地の扇端、乱川左岸の自然堤防上に立地する。地目は畑地・水田等で、標高は93mを測る。現在北側と東側に明瞭な堀の跡を残すが、ほぼ一町四方堀によって囲まれていたことは地籍図でもうかがえる。二階堂の地名からして、成生庄の地頭に補任された二階堂氏に関連する遺跡ともみられる。

試掘状況 平成13年度事業予定地区のうち遺跡に関わる約700㎡について、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、TT1～8のトレンチを設定した。調査はすべて人力で行った。

調査結果 8本のトレンチのうち、中央の5ヶ所 (TT3～7) から土坑や溝跡等の遺構が密に検出された。各TTとも地表下30～50cmでⅢ層の暗黄褐色シルトに達する。遺物はTT4・5のⅡ層から陶磁器片が少量出土している。詳しい時期は不明である。

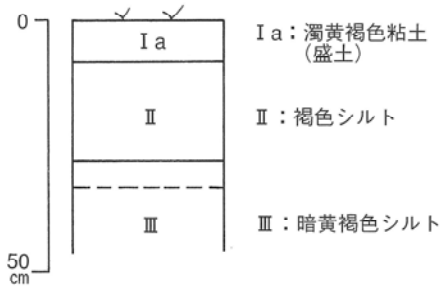
この地区は遺跡東堀跡の外側にあたるが、今回の調査によってさらに東側に関連遺構が分布することが判明した。なお、南端のTT1・2と北端のTT8は、水性の堆積層が厚く分布していることから、遺跡外と推定される。



第31図 二階堂氏屋敷遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



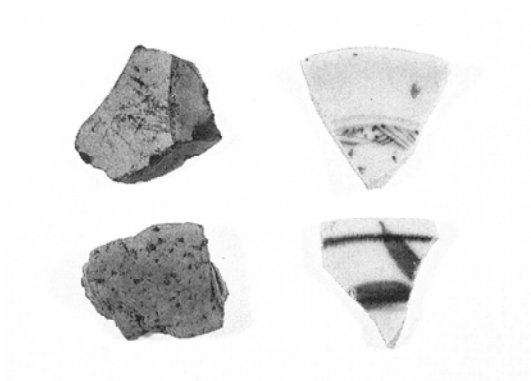
T T 4 土層柱状図



T T 4 西壁土層断面（東から）



T T 5 遺構検出状況（東から）



出土遺物

ひせんじあと
(11) 飛泉寺跡遺跡 (昭和55年小国町史跡指定)

所在地 山形県西置賜郡小国町大字市野々

調査員 長橋 至

調査期日 平成11年9月16日～17日

起因事業 横川ダム建設事業

遺跡環境 市野々地区内の横川右岸、河岸段丘上の緩傾斜地に立地する。

試掘状況 本遺跡については、事業の進捗に合わせ、平成8年度に遺跡の範囲確認（人力による試掘調査）、平成9年度に重機により遺構・遺物の分布状況把握のための試掘調査（TT1～12）を実施している。今年度は緊急発掘調査を前提とした追加試掘調査（TT～A～H）を実施した。

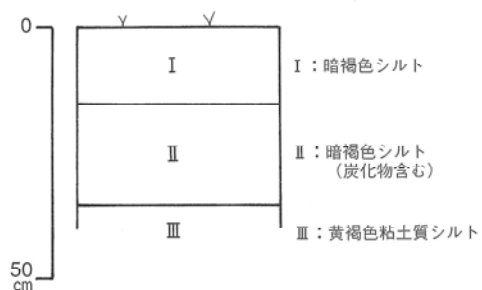
調査結果 平成9年度の調査では、TT8を除く各トレンチから柱穴を中心とする遺構が検出された。遺物包含層は全域で認められず、また遺物の出土もなかった。今回は緊急発掘調査の資料を得るため、9年度の試掘区の間をさらに密に調査を行った。その結果、遺構は柱穴群・土坑群が9年度の調査結果とほぼ同じように分布することが追認された。検出遺構のうちいくつかについて半截掘り下げを試みたが、覆土中からの遺物は今回も出土しなかった。旧飛泉寺跡は概要図中の拡張区に所在したとされるが、先の調査では近現代の寺院遺構が確認された。平成9・11年度試掘調査で検出された遺構については、明確な時期は不明だが遺構覆土から縄文時代・中世の所産の可能性がある。



第32図 飛泉寺跡遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TT～I 土層柱状図



トレンチ試掘状況（西から）



TT～G 検出遺構（北から）



TT～H 検出遺構（東から）

(12) 渋江遺跡 (遺跡番号160)

所在地 山形県山形市大字渋江字田中

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年6月23～24日

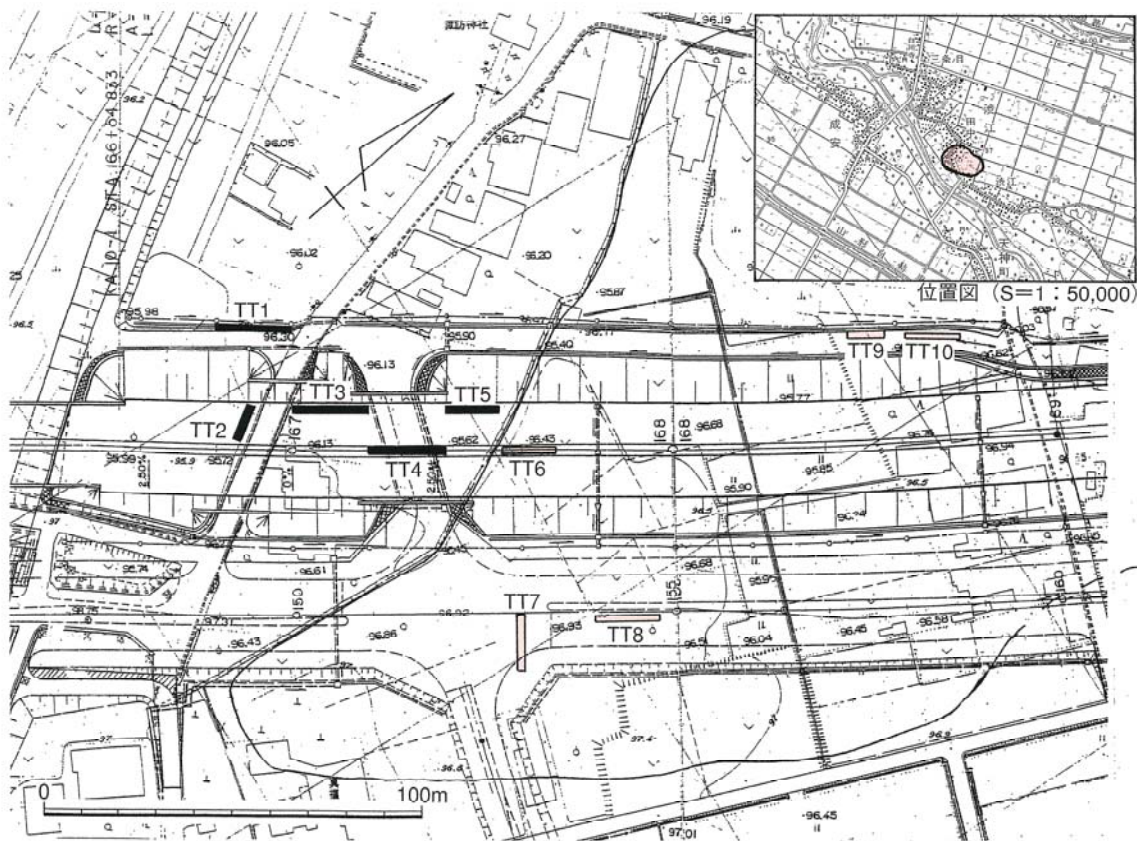
起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～尾花沢間)

遺跡環境 遺跡は山形市の北西部明治地区に位置し、馬見ヶ崎川の支流である白川右岸の自然堤防上に立地する。中央自動車道の東側に主要地方道山形羽入線の地方特定道路整備事業が予定されている。地目は畑地・宅地等で、標高は96mを測る。

試掘状況 平成13年度事業予定地区のうち遺跡に関わる約23,000m²について、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、TT1～10の10本のトレンチを設定した。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 10本のトレンチのうち、中央の53ヶ所 (TT6～8) から古墳時代の竪穴住居跡や土坑・溝跡等の遺構が検出された。各TTとも地表下50cmでⅢ層の暗灰褐色粘土質シルトに達する。遺物は古墳時代中期の土師器がⅢ層から出土している。ただし土色の識別が難しく、遺構のプラン確認が困難であった。また北西隅のTT9・10からは、古墳時代中期の土師器とともに平安時代の遺物も少量出土している。南側のTT1～5は、水性の堆積層が厚く分布しており、白川寄りの旧河川流路と考えられる。

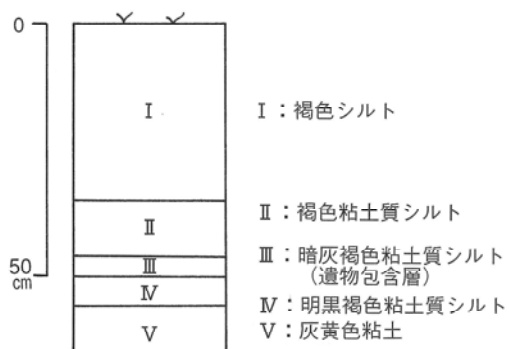
調査から、遺跡の範囲は用水路北の一段高い畑地から北側に広がるものと推定される。



第33図 渋江遺跡概要図



遺跡近景（東から）



T T 6 土層柱状図



T T 7 土層・遺構検出状況（南から）



遺跡北西部調査状況（北から）



T T 8 土器出土状況（西から）

(13)石田遺跡 (遺跡番号82)

所在地 山形県山形市大字谷柏字石田

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年6月22日

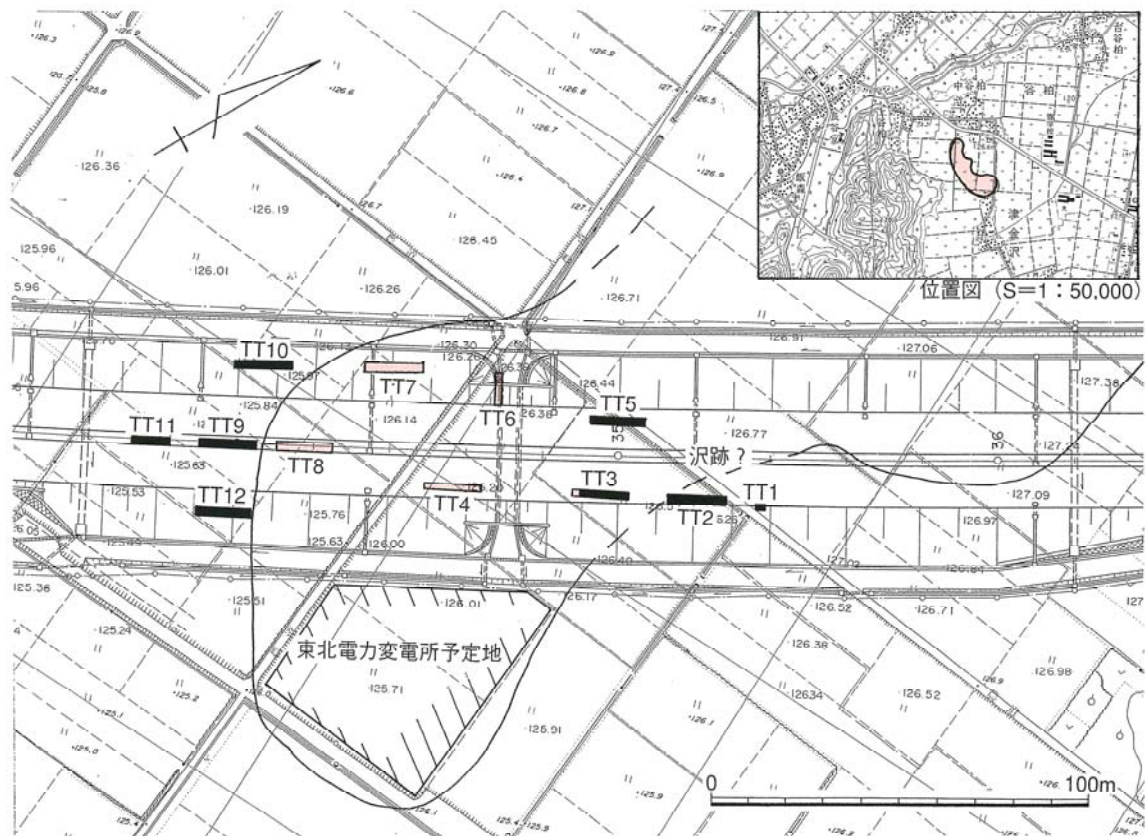
起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事(上山～尾花沢間)

遺跡環境 遺跡は山形市の南西部中谷柏地区と津金沢地区の中間に位置し、本沢川扇状地の扇中央部に立地する。中央自動車道建設に関連し、(財)山形県埋蔵文化財センターによって平成10年4月に第1次発掘調査、平成11年5月から第2次発掘調査が実施されている。地目は水田で、標高は125～127mを測る。

試掘状況 山形市教育委員会が東北電力の変電所建設に関わり、平成11年5月に石田遺跡周辺の試掘調査を行ったところ、奈良・平安時代の遺構が密に分布することを確認したため、隣接する中央自動車道用地について再度試掘調査を実施したものである。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 12ヶ所のトレンチのうち、中央の5ヶ所(TT3・4、6～8)から奈良・平安時代の柱穴や溝跡等の遺構や遺物がまとめて検出された。各TTとも地表下50cmでⅢ層の灰褐色粘土層に達する。その両側のTTからは遺構・遺物は認められなかった。

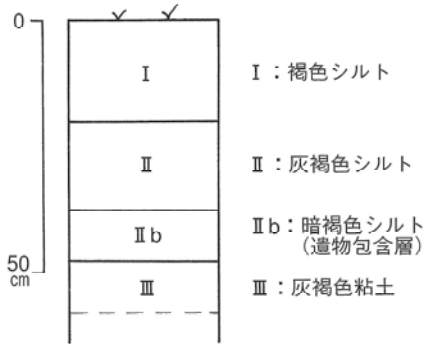
この地域と東北電力変電所予定地は、中央自動車道建設に関連して発掘調査を行った石田遺跡とは沢を挟んでつながっており、同じ遺跡と判断される。



第34図 石田遺跡概要図



調査区近景（東から）



T T 6 土層柱状図



T T 6 遺構検出状況（西から）



T T 4 柱根検出状況（西から）



T T 6 遺物出土状況（西から）

はちがもり
(14)八ヶ森遺跡 (遺跡番号69)

所在地 山形県山形市大字松原字八ヶ森

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成11年11月2・4日

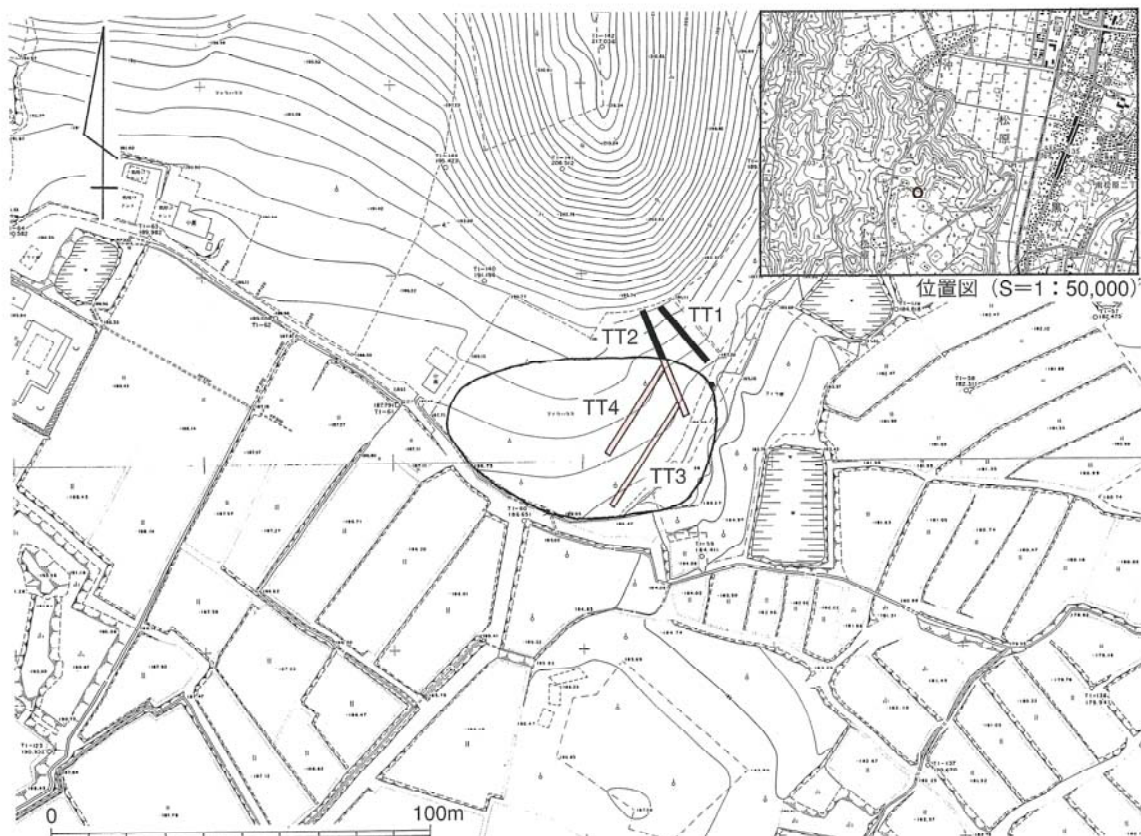
起因事業 山形新都市整備事業

遺跡環境 JR奥羽本線蔵王駅の南西約1.5kmの南面する山麓斜面に立地する。地目はブドウ畑となっており、標高は183mを測る。

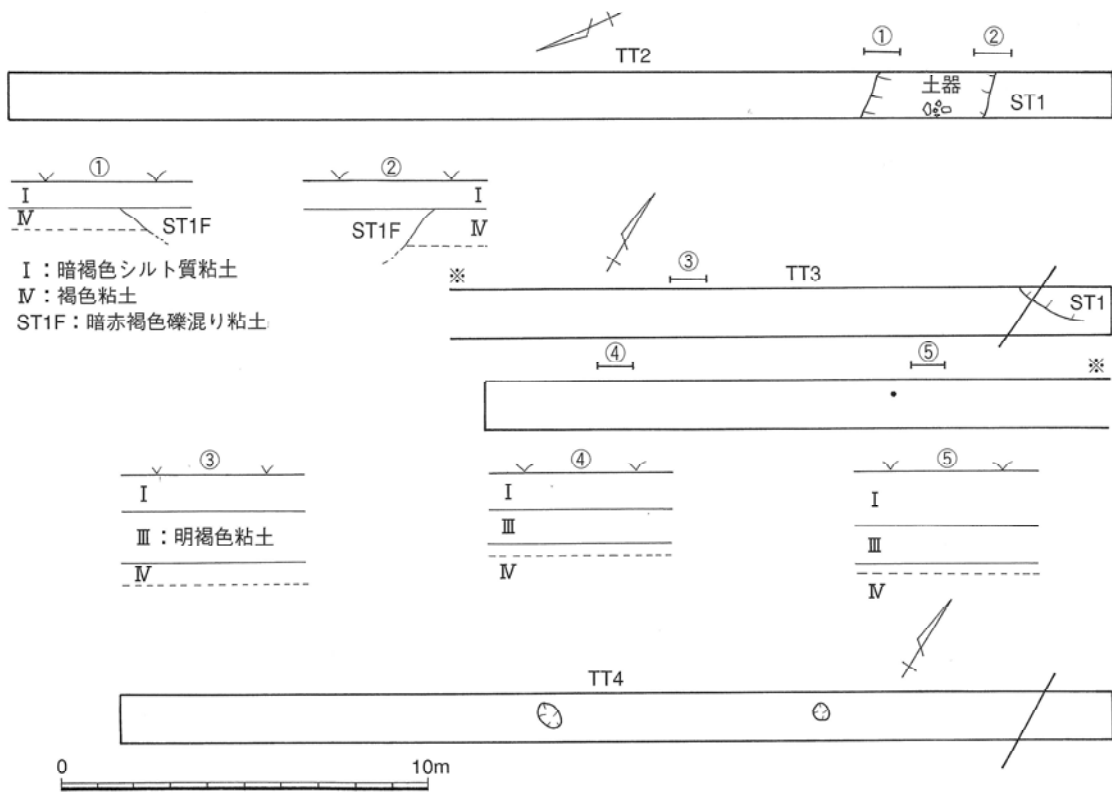
試掘状況 バックホーのバケット幅(1.3m)のトレンチ4本(TT1~4)を設定して、地山までの掘り下げを行った。

調査結果 TT1からは遺構・遺物とも検出されなかった。延長30mのTT2では、南端部で縄文時代の竪穴住居跡とみられる土色変化が確認された。この堆積土中から磨滅の著しい縄文土器1個体分の破片が出土した。TT3では遺構は確認されなかったが、剥片が1点出土している。TT4では遺物の出土はなかったが、柱穴と見られるピットが2基検出された。

本遺跡はなだらかな南向きの山麓斜面に立地する小規模な集落跡と考えられる。遺跡の範囲は地形から判断して東西70m、南北45mを越えることはない。



第35図 八ヶ森遺跡概要図



第36図 八ヶ森遺跡平面図・断面図



遺跡近景・TT4全景（北東から）



TT2 ST1 検出状況（南から）



TT2 ST1 土器出土状況（東から）



出土遺物

(15)坂ノ上遺跡 (平成11年度登録)

所在地 山形県山形市大字黒沢字坂ノ上

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成12年3月23～28日

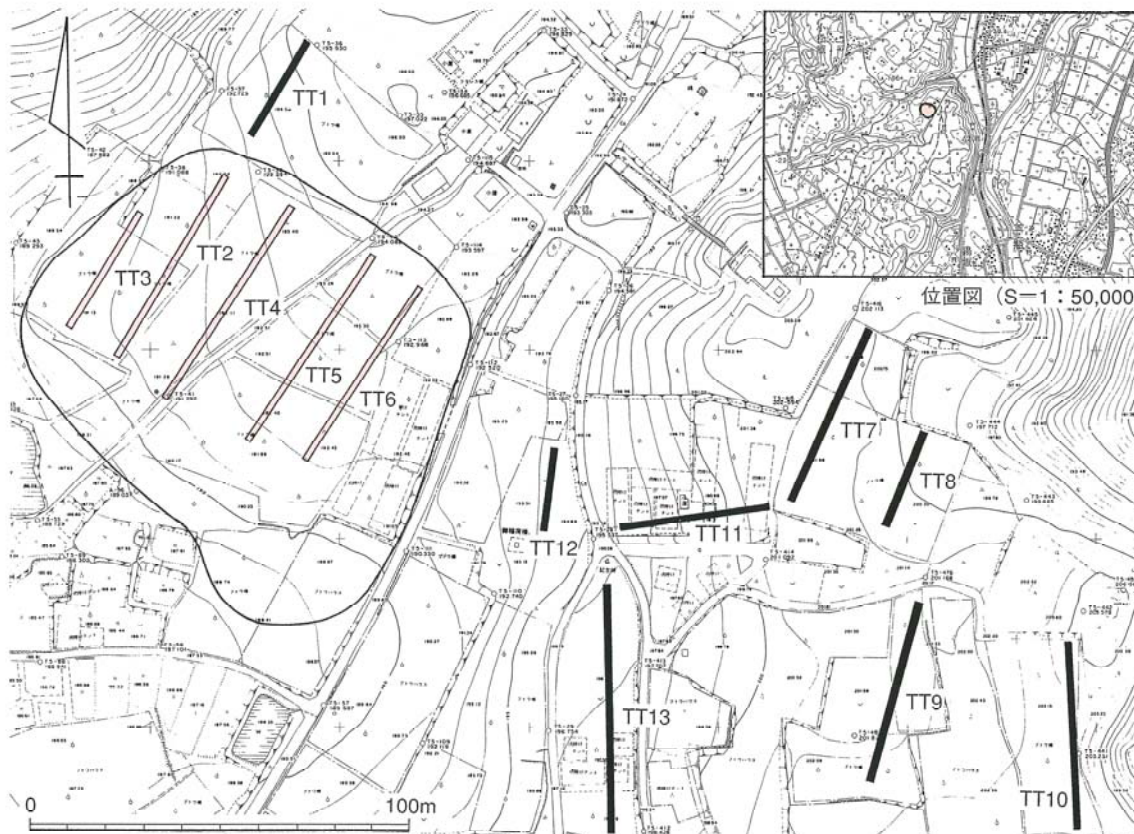
起因事業 山形新都市整備事業

遺跡環境 JR奥羽本線蔵王駅の南南西2kmに位置し、不動川によって大きく解析された右岸の泥流台地上に立地する。標高は192m前後を測り、南面する緩やかな斜面となっている。地目は畑地・果樹園である。

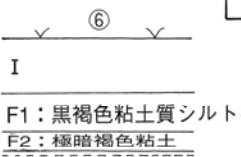
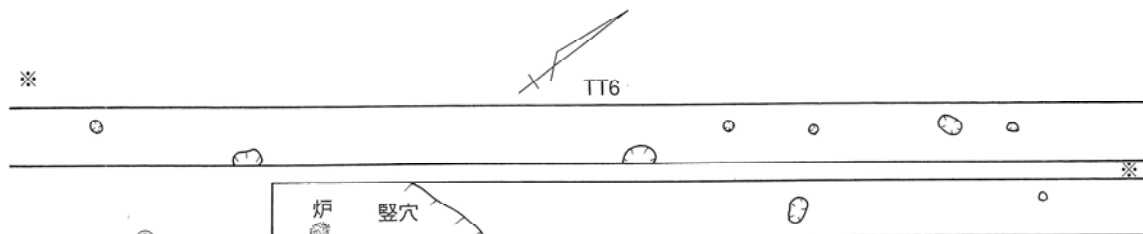
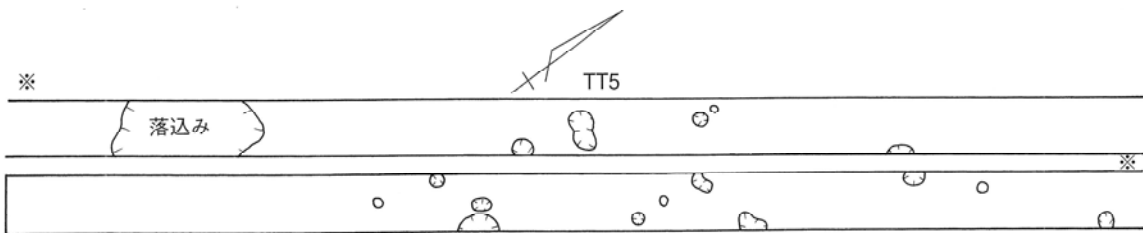
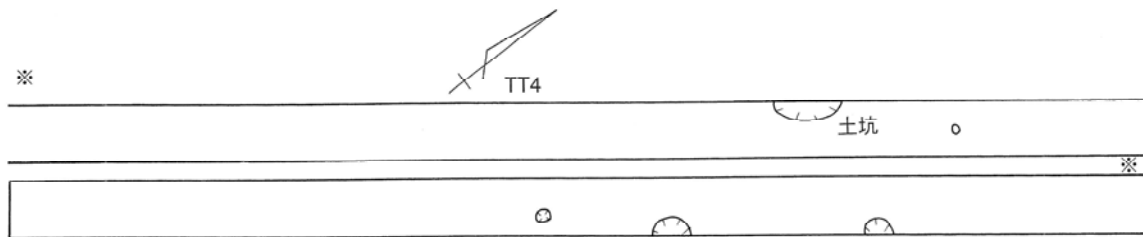
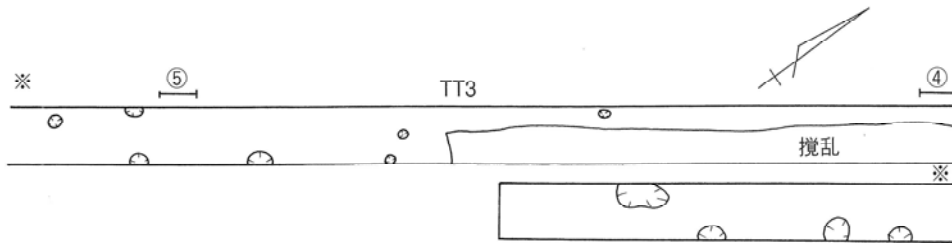
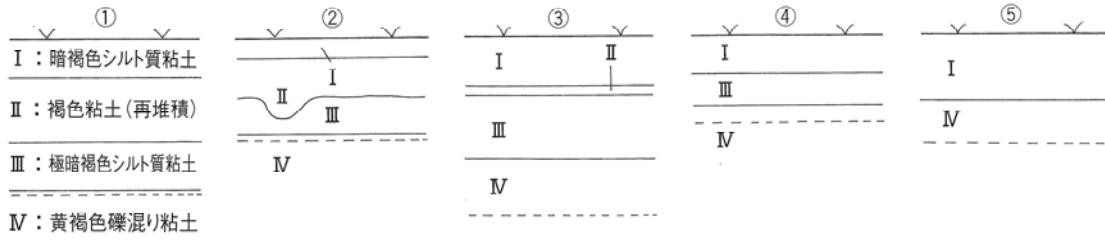
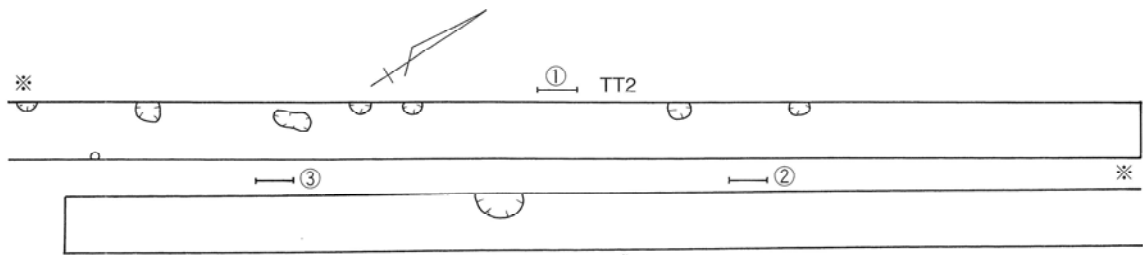
試掘状況 遺跡可能性地No14としてマークした場所の北半部にバックホーのバケット幅の試掘溝を13本設定して地山までの掘り下げを行った。

調査結果 旧羽州街道の西側の各トレンチで縄文時代の遺構や遺物が検出された。羽州街道の東側に設定したトレンチからは遺構、遺物とも発見されなかった。

TT2はIV層が地山となり、この面でピットと土坑が検出された。TT3は大きく攪乱を受けているが、南部でピットが検出された。TT4では土坑、ピットが若干検出された。TT5からは時期不明のピットが15基検出された。TT6の南端部で竪穴住居跡になると考えられる土色変化が検出された。地床炉とみられる焼面も伴った。遺物は前期とみられる縄文土器片、石匙、剥片などがあり、石鏃も採集されている。遺跡の範囲は東西120m、南北90m程であるが、遺構・遺物とも分布密度は低い。



第37図 坂ノ上遺跡概要図



第38図 坂ノ上遺跡平面図・断面図



遺跡近景（東から）



T T 2 全景（南西から）



T T 3 全景（北東から）



T T 4 全景（北東から）



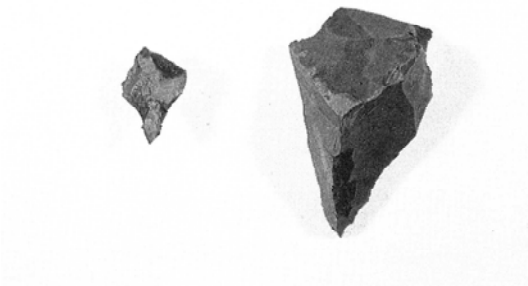
T T 4 土坑検出状況（北東から）



TT 5 全景 (南から)



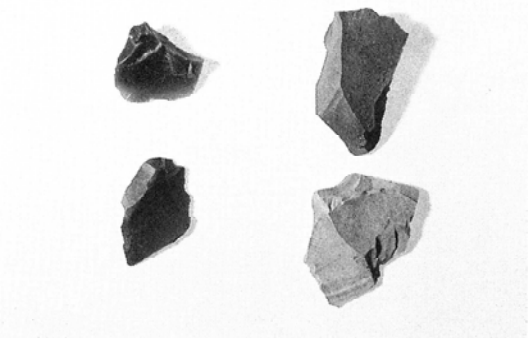
TT 5 遺構検出状況 (南から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



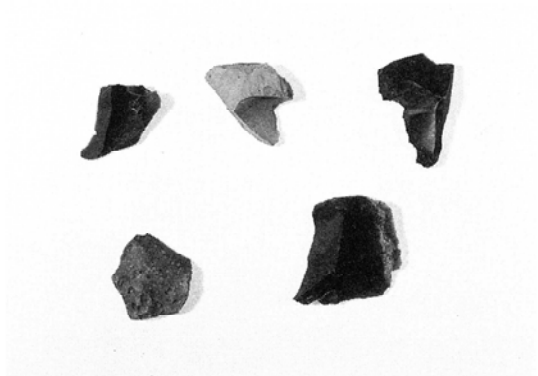
出土遺物 (3)



出土遺物 (4)



出土遺物 (5)



出土遺物 (6)

めまむかい
 (16) 沼向遺跡 (遺跡番号530)

所在地 山形県西村山郡朝日町大字和合字沼向

調査員 長橋 至

調査期日 平成11年6月10～11日、12月8日

起因事業 一般国道287号道路改築(和合バイパス)

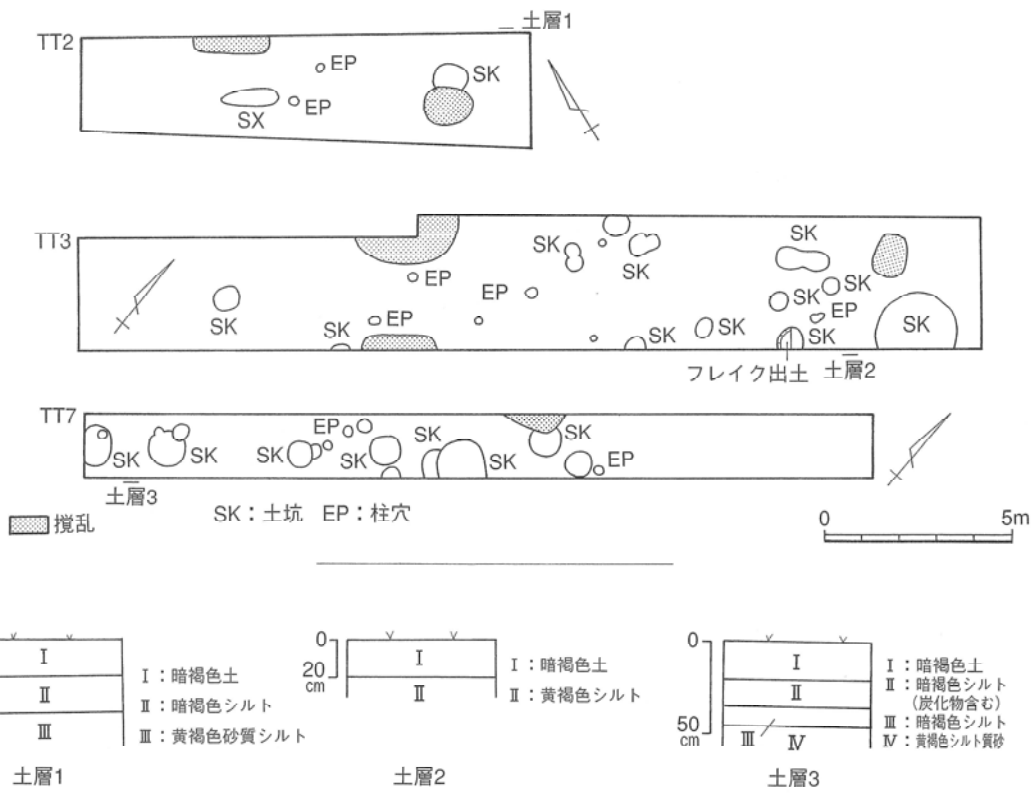
遺跡環境 最上川右岸の河岸段丘上、現国道287号線沿いの宿集落を含む一帯が遺跡範囲と考えられる。地目は宅地・果樹・畑地となっている。標高は約155mを測る。

試掘状況 用地等の関係から試掘調査可能な地点について、重機によるトレンチを9本設定した。遺構の分布状況に応じ、一部拡張をしている。なお、12月には沼向遺跡南西側の丘陵部分(果樹地)について追加調査を実施したが遺構・遺物は未検出だった。

調査結果 遺跡内の調査対象地のうち、家屋移転等の関係で北東側は試掘調査の対象から除外した。また、一部に家屋の基礎、畑地等があり、限定された部分での調査となった。TT2・3・7の各トレンチで遺構が検出された。TT2は土坑1・柱穴2の他、楕円形の土色変化が1箇所確認された。TT3・7では比較的密に土坑・柱穴が検出された。宅地造成や畑地により遺物包含層が認められないため、遺構の時期を探るためTT3の土坑1箇所を半截掘り下げた。その結果、覆土から石器剥片が2点出土した。検出された遺構の時期は縄文時代と考えられる。なお、道路予定地の作業小屋移転により6月10～11日に朝日町教育委員会が一部発掘調査を実施し、土坑等が検出されている。



第39図 沼向遺跡概要図



第40図 沼向遺跡検出遺構平面図・土層断面図



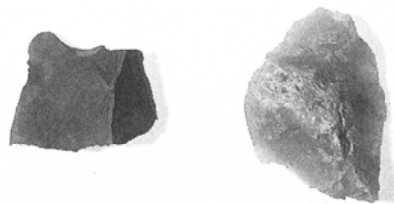
遺跡近景 (南から)



TT7 遺構検出状況 (南西から)



朝日町教委調査区全景 (東から)



出土遺物

図版47 沼向遺跡

(17) 永源寺跡遺跡 (遺跡番号238)

所在地 天童市大字清池字笠仏

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成11年9月7日、12月16・17日

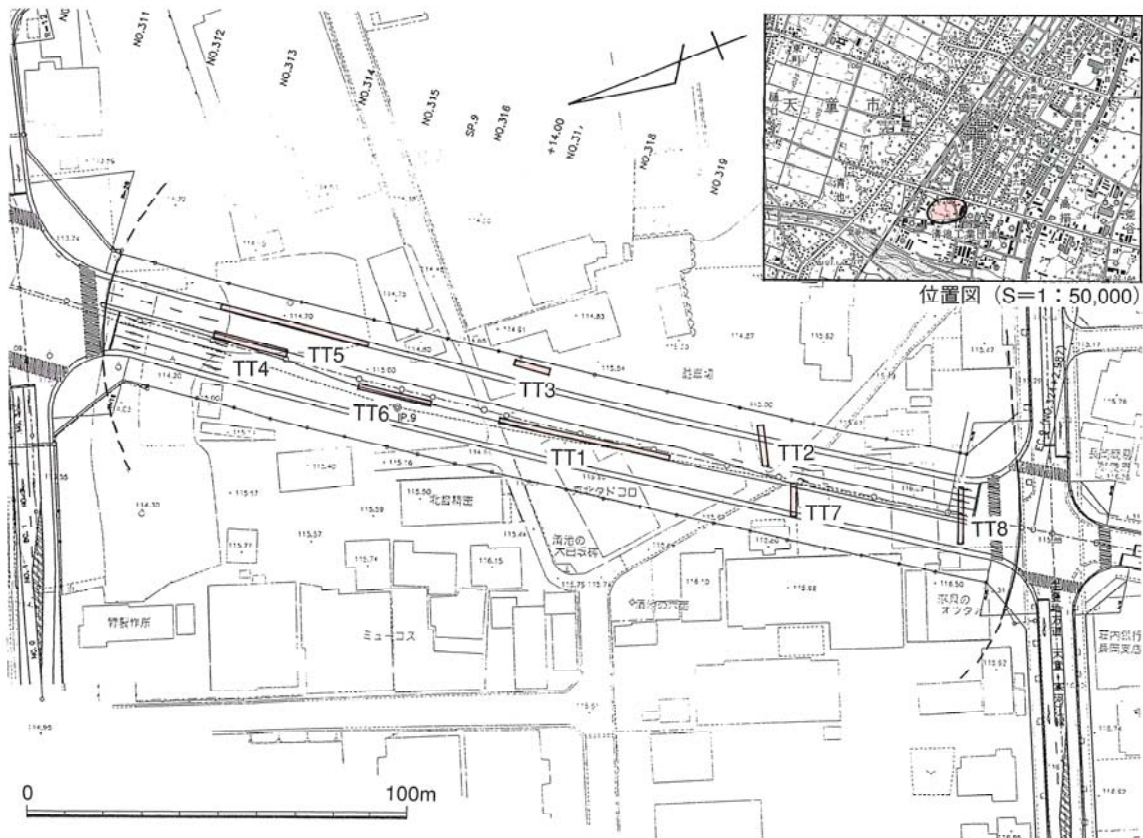
起回事業 道路改築 (主要地方道山形天童線)

遺跡環境 JR奥羽本線漆山駅の北東約1.4kmに位置し、立谷川右岸の自然堤防上に立地する。標高は約115mを測る。中世の寺院「永源寺」のあった場所として登録された遺跡である。旧永源寺との直接的な関係はないと考えられるが、鎌倉時代後期から室町時代初期の板碑や六面幢が遺跡内に所在する。

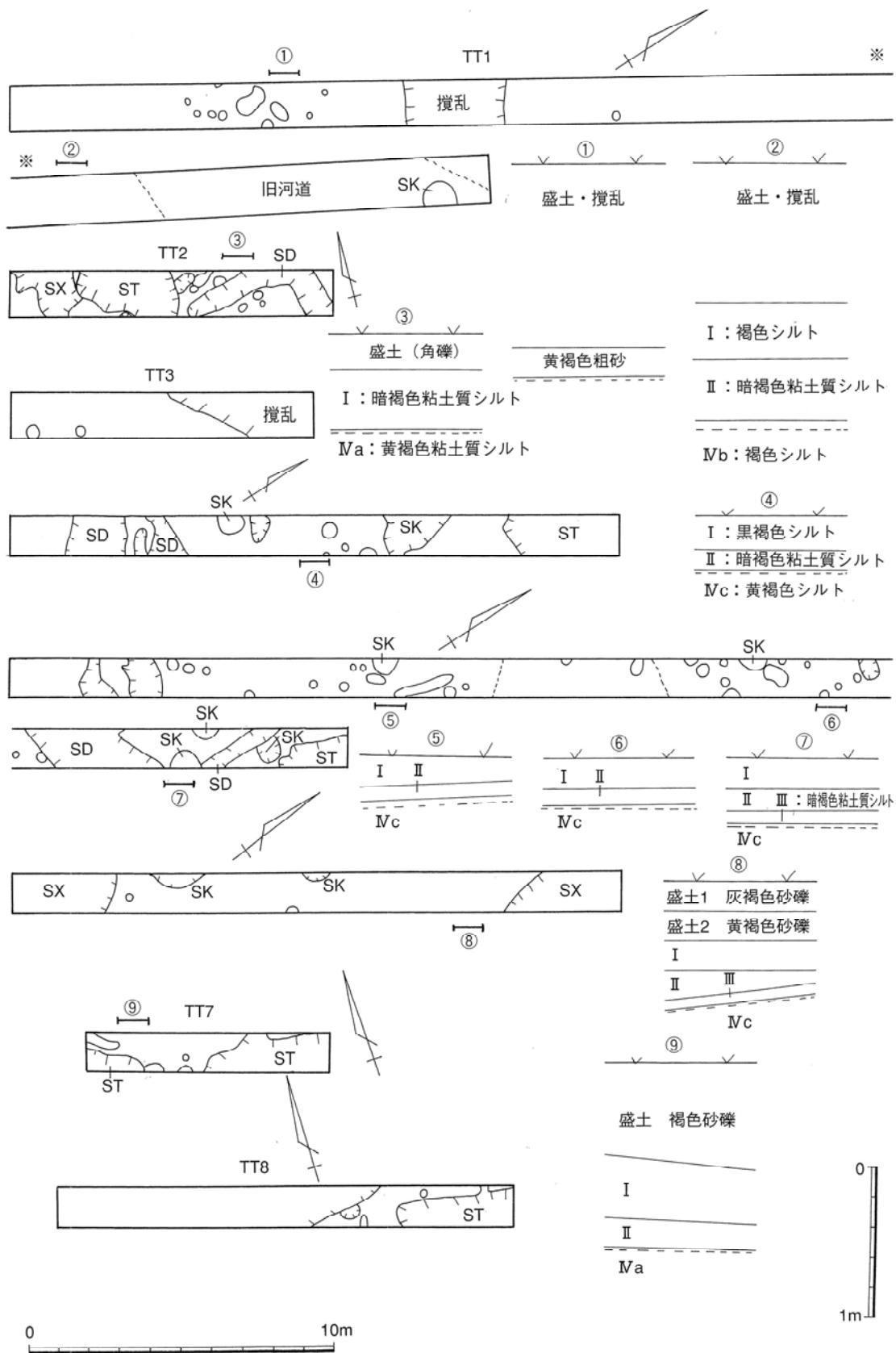
試掘状況 調査は9月と12月に実施した。9月の調査で平安時代の遺跡であることが判明し、従来の遺跡範囲から大きく広がる様相を見せたため、その地域の用地買収が終わった12月に再度実施した。試掘溝は合わせて8本設定し、地山までの掘り下げを行った。

調査結果 工業団地の造成で一部破壊を受けているが、すべての試掘溝で奈良・平安時代の遺構や遺物が検出された。しかし、中世の永源寺に関連する遺構は発見できなかった。

検出された遺構には竪穴住居跡、土坑、溝跡、柱穴、旧河川などがあり、その分布密度も低くはない。遺物は奈良～平安時代の須恵器や土師器、赤焼土器が中心となる。TT1からは縄文時代後期の土器も出土している。遺跡の範囲は、東西方向の広がりについては把握しきれていないが、南北方向は250m程になるものと考えられる。



第41図 永源寺跡遺跡概要図



第42図 永源寺跡遺跡平面図・断面図



遺跡近景（北東から）



T T 2 遺構検出状況（東から）



T T 1 全景（北東から）



T T 4 全景（北東から）



T T 4 北端竪穴住居跡検出状況（南西から）



TT 5 全景 (北東から)



TT 5 土坑・柱穴検出状況 (南から)



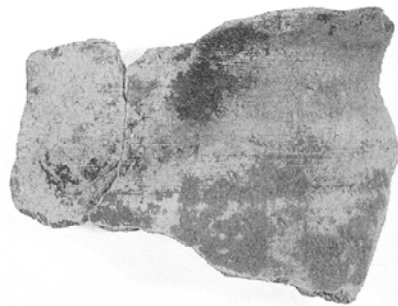
TT 8 竪穴住居跡他検出状況 (東から)



TT 7 遺構検出状況 (東から)



TT 6 全景 (南西から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)

ながおもて
(18)長表遺跡 (平成3年度登録)

所在地 山形市大字今塚字長表23他

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成11年9月21、22日

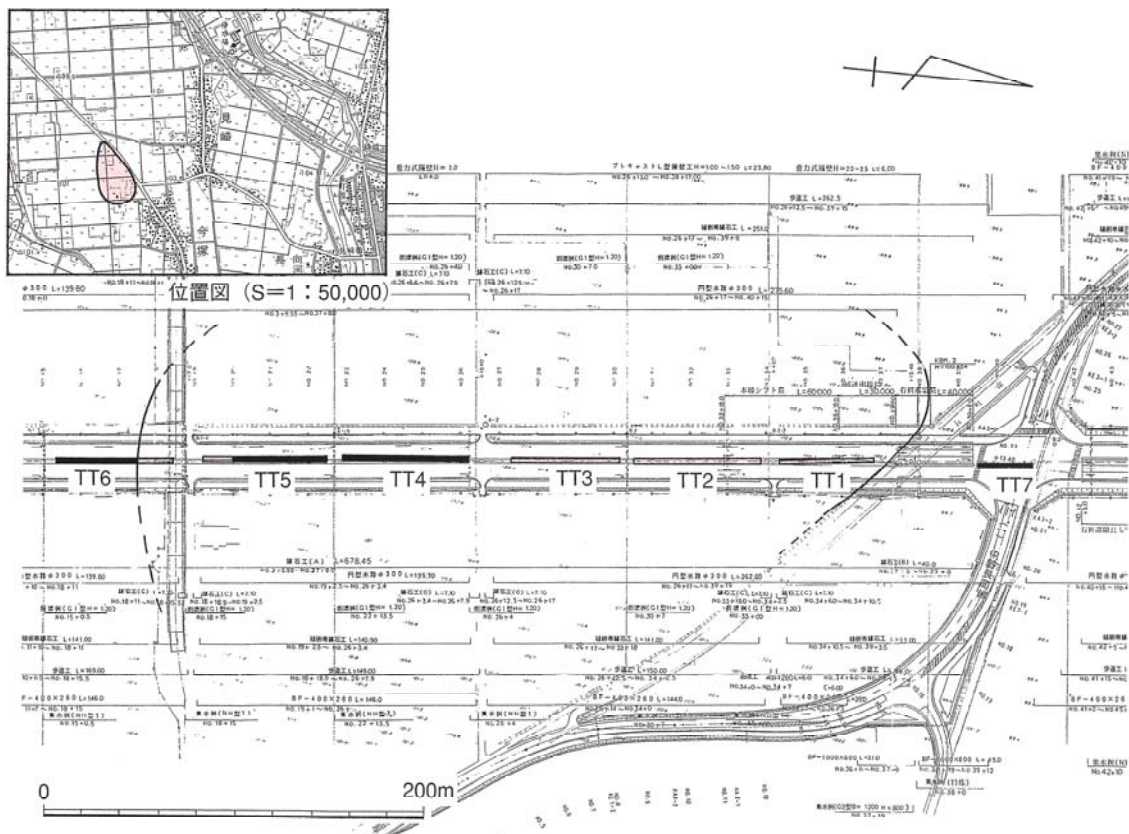
起因事業 道路改築 (主要地方道山形羽入線)

遺跡環境 JR奥羽本線羽前千歳駅の西北西約2.2kmに位置し、馬見ヶ崎扇状地外縁部に形成された旧河道の自然堤防上に立地する。標高は約100mを測る。地目は水田と畑地である。

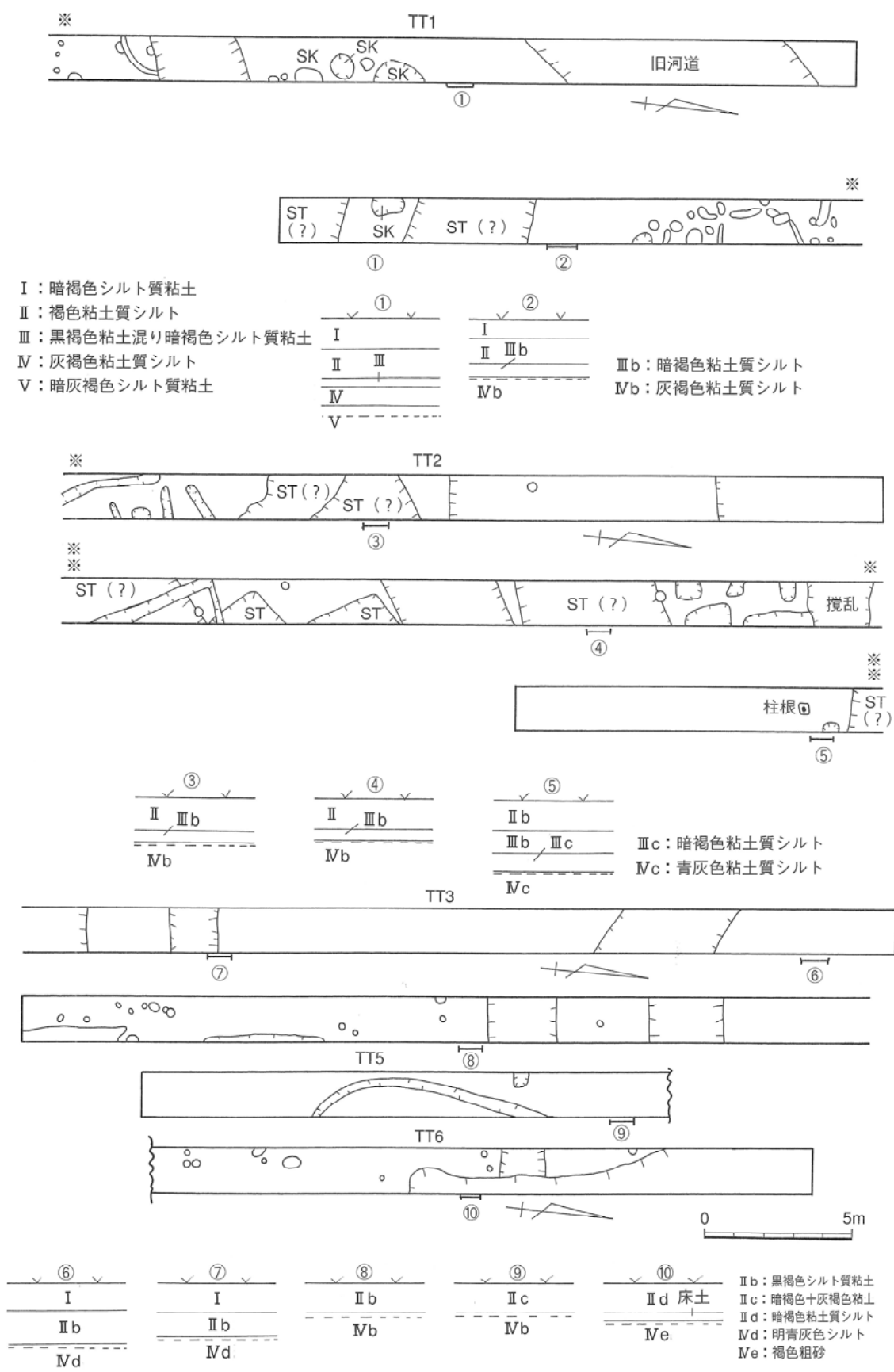
試掘状況 登録地及び隣接地の道路センターに沿って、バックホーのバケット幅の試掘溝を7本設定して地山までの掘り下げを行った。

調査結果 TT1、2、3、5、6の各トレンチで遺構や遺物を検出したが、TT4、及び7では遺構・遺物とも検出されなかった。TT1、2では旧河道、竪穴住居、土坑、溝跡等が検出され、古墳時代前期の土師器が出土した。TT3では新しい時期の溝跡などとピットが検出され、若干の土師器片も出土したが詳細は不明である。TT5、6では溝跡やピットが検出され、中世陶器片が1点出土した。

TT3から北側は古墳時代の集落となり、TT5、6は中世の集落の一部を検出しているものと考えられる。遺跡範囲は東西が不明確であるが、南北は路線に沿って400mの広がりをもつものと推定される。



第43図 長表遺跡概要図



第44図 長表遺跡平面図・断面図



遺跡近景（北から）



TT1 全景（南から）



TT1 土坑群検出状況（南西から）



TT1 ①地点土層断面（西から）



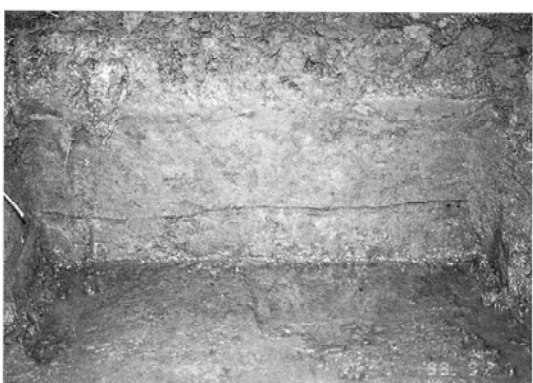
TT2 竪穴住居跡検出状況（北から）



TT 2 土坑群検出状況 (南西から)



TT 2 竪穴住居跡検出状況 (北西から)



TT 2 ④地点土層断面 (西から)



TT 3 全景 (北から)



TT 5 全景 (北から)



TT 6 全景 (北から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(19) 四ツ塚遺跡 (遺跡番号481)

所在地 山形県西村山郡河北町大字吉田字馬場164ほか

調査員 長橋 至

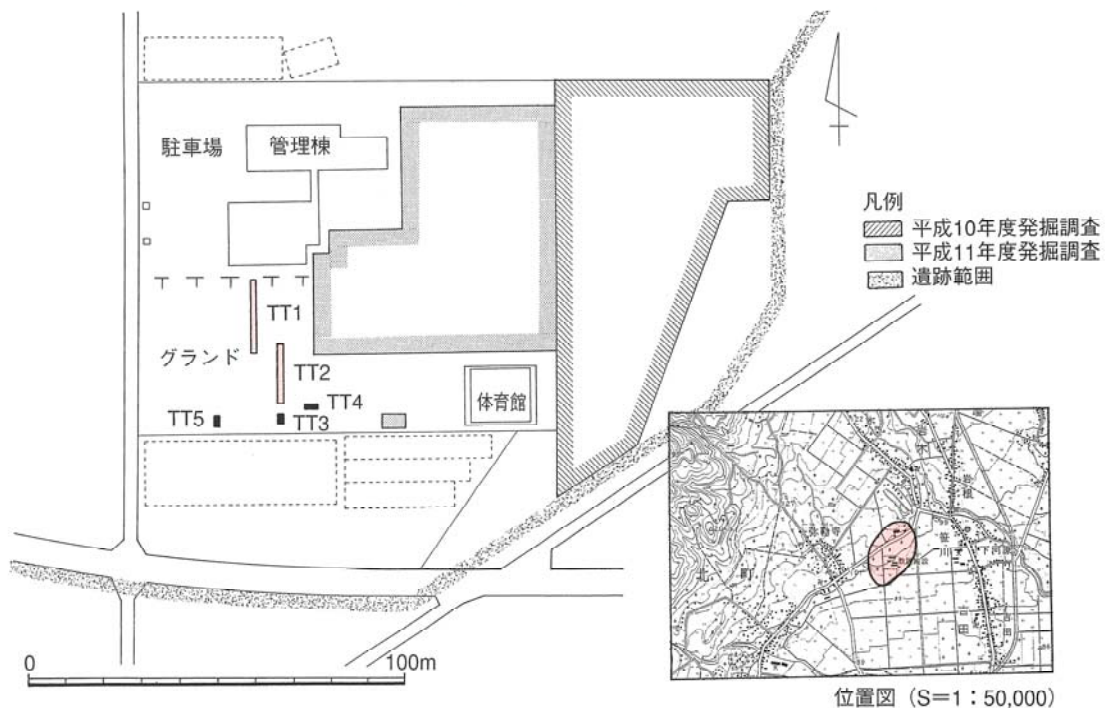
調査期日 立会い調査：平成11年6月14日、B調査：平成11年11月8日

起回事業 山形県立救護施設みやま荘改築整備事業

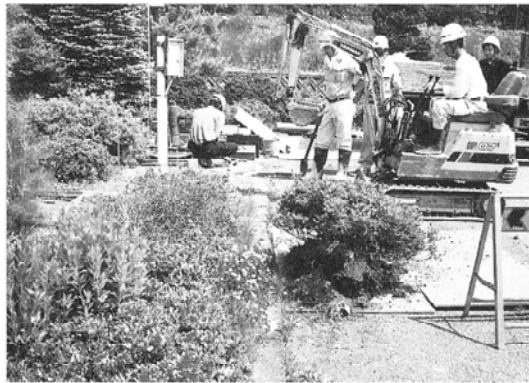
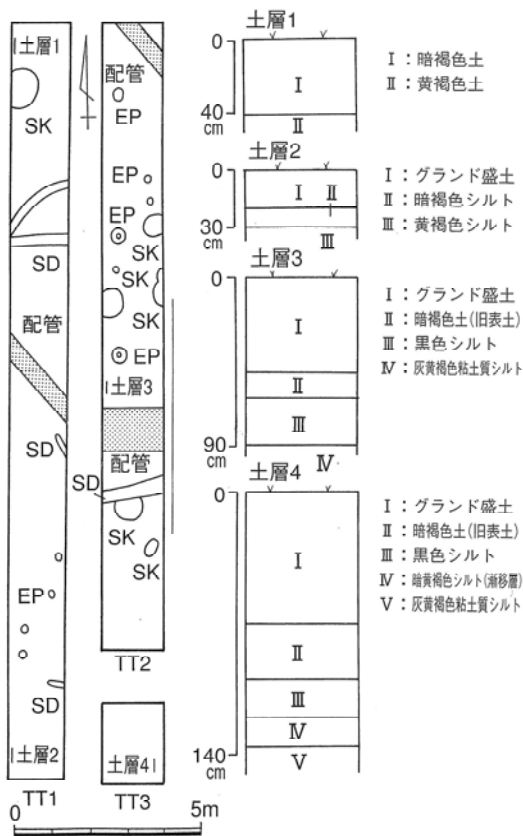
遺跡環境 河北町北西部の山麓の緩傾斜地に立地する。周辺には縄文時代や平安時代の遺跡が散在している。改築整備事業に伴い、平成10～11年度に新設の居住棟部分・管理棟部分について、財団法人山形県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施された。中世・奈良～平安時代の遺跡として調査成果得ている。

試掘状況 6月は排水関係工事掘削にともなう立会い調査である。11月は現グラウンドの駐車場造成工事にかかる事前の試掘調査を、昨年度までに試掘調査を実施していない部分に5箇所の試掘溝（重機使用）を設定し実施した。

調査結果 立会いA地点は既排水施設により掘削を受けており、遺跡への影響はないものと判断された。なお、平成11年度発掘調査実施予定地（この段階では発掘調査実施前）についても一部排水工事関係の立会い調査を実施したが、遺跡への影響はないものと判断された。試掘調査のT1ではグラウンド造成時に若干、削平されており、20cm程のグラウンド盛土直下が遺構検出面となる。T2ではグラウンド造成時に旧表土上に盛土されている状況が見られた。いずれも、土坑・柱穴・溝跡等が検出された。旧地形から南側ほど盛土整地層が厚くなる。T3・5では、150cm以上の盛土が認められた。



第45図 四ツ塚遺跡概要図



排水施設掘削立会い状況 (南から)

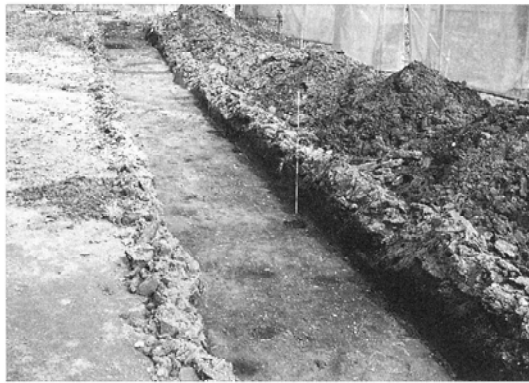


試掘調査状況 (現グランド・北西から)

第46図 四ツ塚遺跡検出遺構平面図・土層断面図



TT1 北側検出遺構 (南から)



TT1 検出遺構全景 (南から)



TT2 検出遺構 (南から)



TT3 土層断面 (西から)

図版52 四ツ塚遺跡

たかだまのみ
(20)高揃南遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県天童市大字高揃字菖蒲江

調査員 佐藤庄一

調査期日 平成11年11月16日

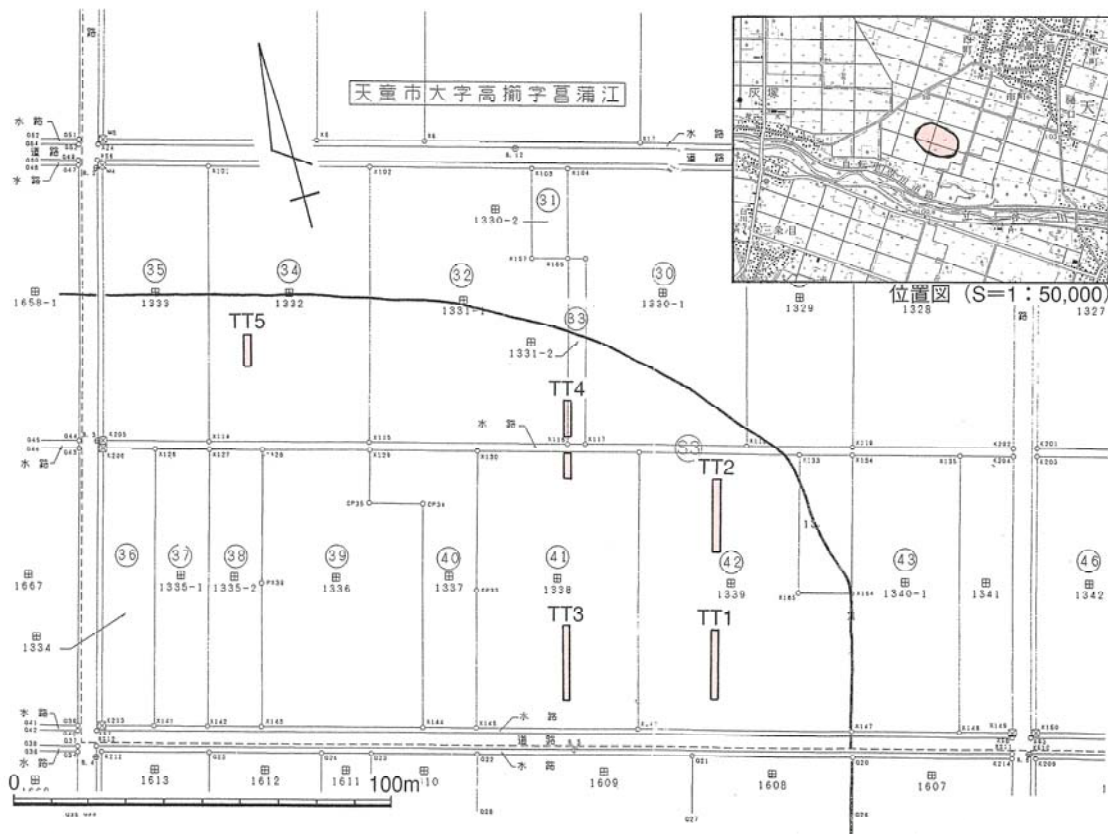
起因事業 山形県総合交通安全センター整備事業

遺跡環境 遺跡は天童市高揃地区南側の水田地帯に位置し、立谷川右岸の平地に立地する。標高は98mを測る。本遺跡の北側120mに菖蒲江1遺跡、西側150mに菖蒲江2遺跡が分布する。

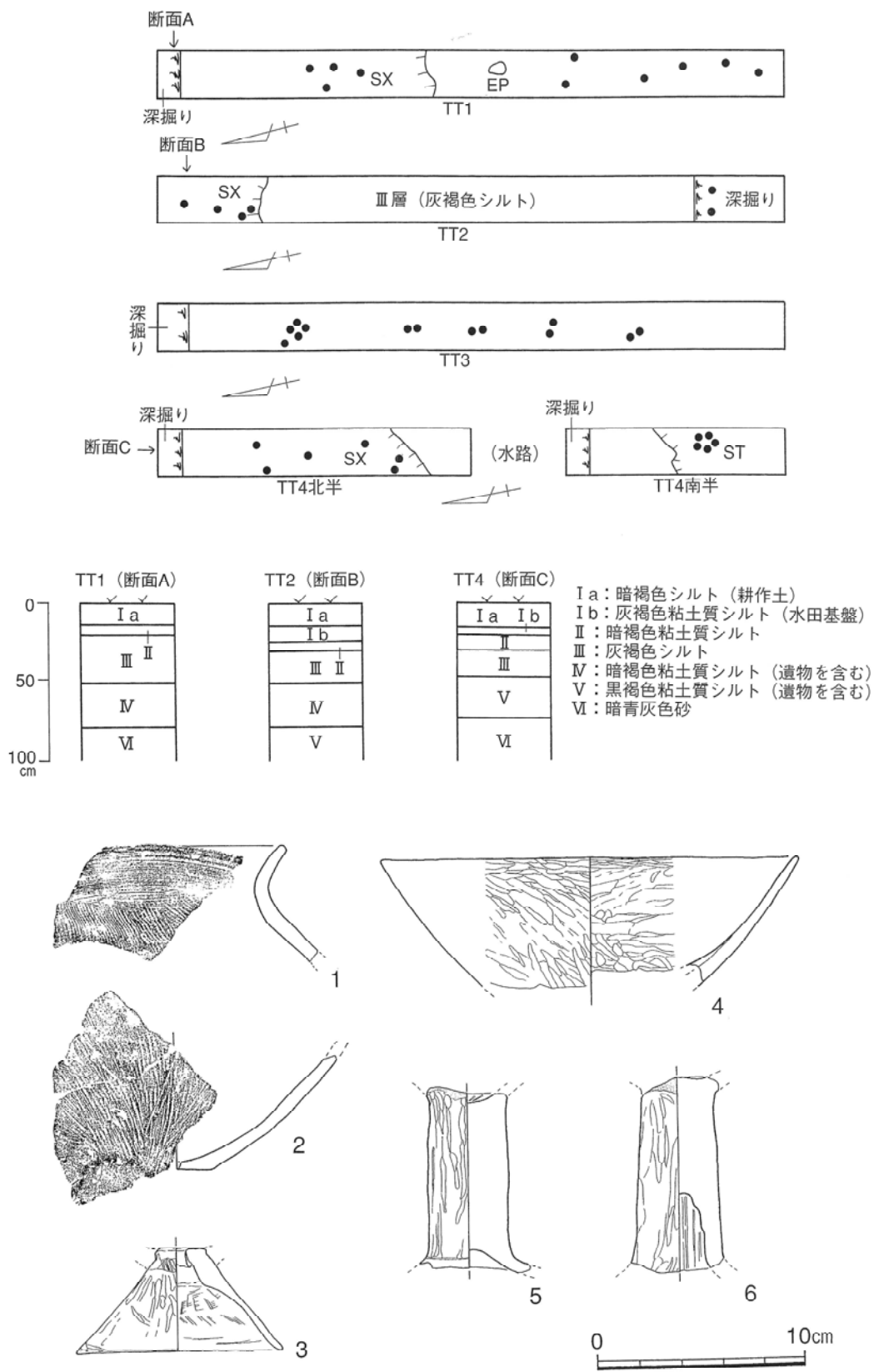
試掘状況 本遺跡については平成10年10月に一度試掘調査を行っているが、事業計画と遺跡保護の調整に資するデータを得るため、再度試掘調査を実施したものである。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 5ヶ所のトレンチのうち、東側の4ヶ所(TT1~4)から古墳時代前期の竪穴住居跡や性格不明の落ち込みが検出された。遺物も土師器の壺・高坏・器台等がまとまって出土している。各TTとも地表下30~50cmで遺物を含むIV層暗褐色粘土質シルトやV層黒褐色粘土質シルトに達する。IV層上面から遺物が出土しはじめるため、遺構の詳しいプラン確認を止めたところが多く、性格不明の落ち込みとした遺構は今後古墳時代の竪穴住居跡になる可能性を有する。

北西部のTT5からは遺物が微量出土しただけで、遺構は認められなかった。



第47図 高揃南遺跡概要図



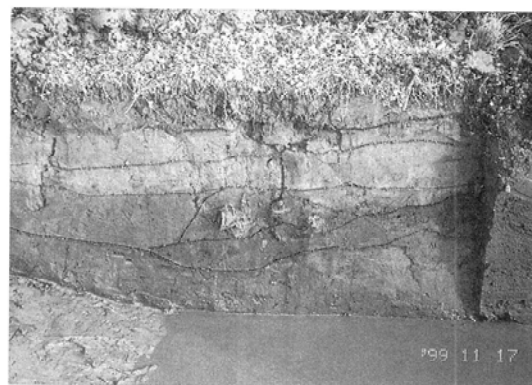
第48図 高嶺南遺跡検出遺構平面図・断面図、遺物実測図



遺跡近景（南西から）



T T 1 全景（南から）



T T 2 土層断面（西から）



T T 3 全景（北から）



T T 4 土器出土状況（西から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

3 記録保存調査の概要

(1) 梅在家遺跡 (平成11年度登録)

所在地 山形県山形市大字下反田字八反

調査員 渋谷孝雄 長橋 至 佐藤庄一

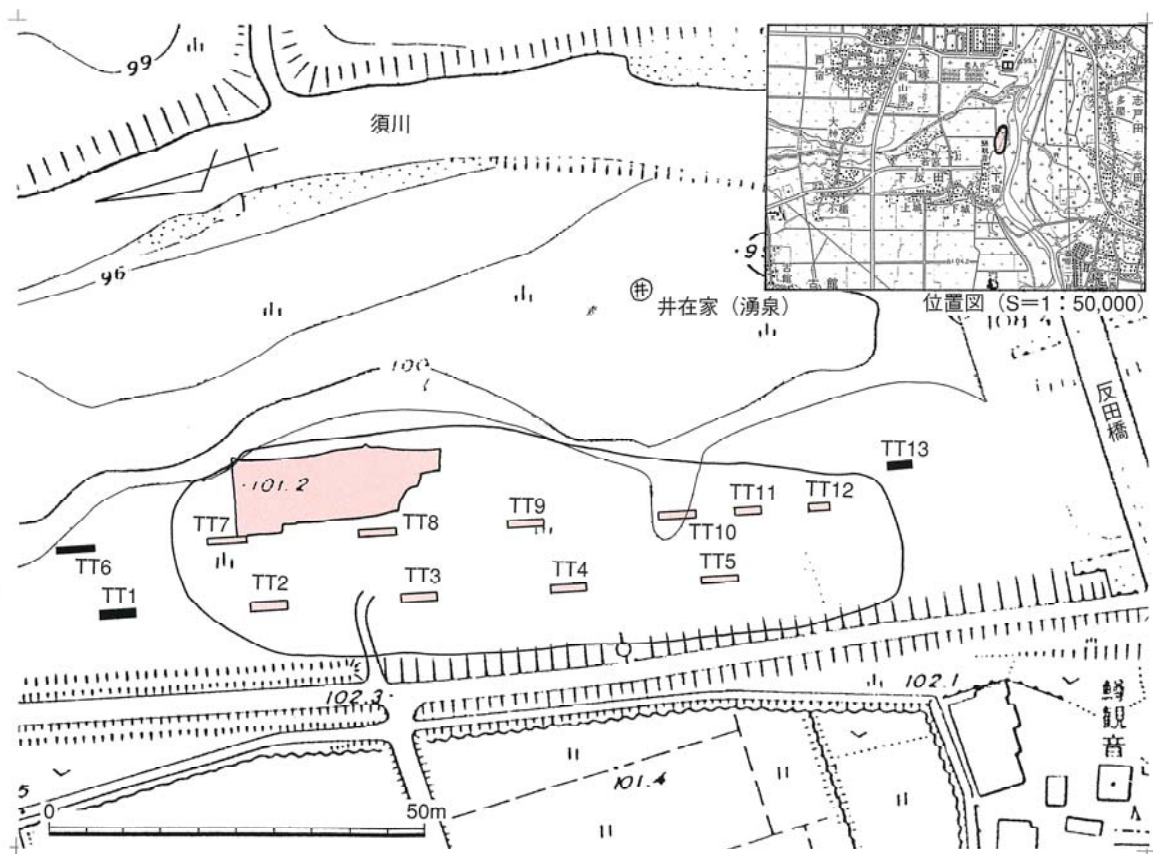
調査期日 平成11年7月21～23日

起因事業 須川護岸工事 (飯塚地区)

遺跡環境 遺跡は山形市の北西部下反田地区の反田橋下流に位置し、須川左岸の河川敷内に立地する。標高は100m前後を測る。平成11年7月12日、建設省須川の飯塚地区護岸工事箇所にて土師器等が散布することが地元民によって発見されたため、同14日に山形県教育委員会職員が現地に行き、平安時代の集落跡であることを初めて確認したものである。遺跡所在地の小字名は八反であるが、県内に同名の遺跡が既にあることと、本地区域が明治時代梅在家と呼称されていたことから、遺跡名は「梅在家遺跡」とした。

なお、今回の調査区の南西約700mに「井在家」と呼ばれる湧泉があり、現在も地下水が湧き出ている。

試掘状況 調査は護岸工事地区の約10,000m²を対象に13ヶ所のトレンチを設定した。重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。また引き続き須川寄りの一段深く掘り下げた場所約500m²について、遺跡状況把握のための確認調査を実施した。なおこの地区については、調査後盛土をして遺跡の保存を図っている。



第49図 梅在家遺跡概要図

調査結果 13ヶ所のトレンチのうち、中央の10ヶ所（T T 2～5、同7～12）から平安時代の遺構と遺物を検出した。T T 2～4・7～9は、盛土を含む表土下40～90cmでⅢ層の明黄褐色粘土層に達する。各T Tで柱穴や溝跡・土坑等の遺構が検出されている。とくにT T 8からは平安時代の竪穴住居跡が良好な形で確認された。

T T 10では幅2mの南北に延びる沢跡が確認されている。T T 11～13は表土が削平され遺構は認められないが、周囲に土器片が散布している。T T 1と6からは遺構・遺物は認められない。表土下40～80cmでⅢ層の明黄褐色粘土層となる。とくにT T 1は地山までの深さが厚く、窪地をなしていると思われる。

今回の試掘調査によって、遺跡の範囲は東西60m、南北190mまで広がることが確認された。遺跡の北側は通称「一本杉」のすぐ南にまで達するが、西側については河川敷外となるため確定できなかった。今後遺跡が河川堤防の西に広がる可能性も考えておく必要がある。

つぎに遺跡の北東部、須川寄りの一段深く掘り下げた場所の確認調査の結果について述べる。なお、確認調査の基準軸は試掘調査の基準軸に合わせて設定し、グリッドの配置は原点を南西隅にとり、X軸を東方向に、Y軸を北方向にしている。グリッドの大きさは2m四方を1単位としている。

本調査区は須川の護岸工事によって上土がかなり削平されており、Ⅳ層褐色砂質シルト層の面で遺構のプランがすぐわかるような状況であった。調査区の西側は盛土を含め表土から1m近い段差がある。第51図下段の西壁の土層断面図からは、旧表土のⅠ層を剥いだ後、褐色の砂礫（Ⅰa層）を盛ったことがわかる。その下にⅡ層の暗褐色砂質シルトが20cm程の厚さで堆積し、Ⅲ層の暗褐色粘土質シルトおよびⅣ層の褐色砂質シルトを掘り込んで平安時代の竪穴住居跡（S T 35）が構築されている。

土層断面にみる住居跡の大きさは4.7m、壁の高さは約30cmあり、南側にカマドの一部と思われる暗赤褐色粘土質シルト層が堆積している。住居跡の埋土は6層に分かれ、上層のF 1とカマドの一部のF 2層に遺物を多く含んでいる。床面は凹凸があるが、底面に貼床の痕跡が認められる。

確認調査地区の大きさは約東西20m、南北50mである。調査区のうち西壁から東側に7m程は遺構がみられないが、これは西壁の土層断面やT T 7や8の状況からみて、工事によって遺構の底面まで掘削されたためと思われる。調査区の中央北寄りに幅7mの帯状の攪乱層がみられるが、これも工事の際に排水のため地面を深掘りしたことによるものと思われる。

確認調査地区内における遺構の分布状況をみると、まず中央に竪穴住居跡が3棟（S T 2・4・38）検出されている。その南西隣にあるS X 1としたものもS D 7と合体して竪穴住居跡となる可能性を有する。これら住居跡群の南側には柱穴や細い溝跡があり、北側には攪乱層を挟んで比較的大きい土坑ないし性格不明の落ち込みが存在する。南側の柱穴や細い溝跡は掘立柱建物跡の一部と考えられるが、竪穴住居跡が工事によって削平された

結果生じた可能性もある。

また、S T 4 や他の遺構が須川の流路で東側が一部削られている状況が認められる。これは現在の須川の流路が平安時代とは異なっていたことを示唆するもので、遺跡の古環境を考える意味で重要な資料を提供したものと見える。地元にも元の須川は今より大分東側を流れていたという言い伝えがあり、今後さらに検討を要する。

トレンチによる試掘調査の結果では、T T 4 と 8 から竪穴住居跡が、T T 3 と 7 から柱穴や溝跡が検出されている。これに確認調査地区の状況を加味すると、住居跡群を中心とする遺跡の主体は、今回の遺跡範囲の北半部に分布する可能性が高い。

確認調査地区は遺跡の盛土保存を前提として、あくまで遺構の分布状況の確認を目的としたものであり、個々の遺構は平面プランの確認に留めている。

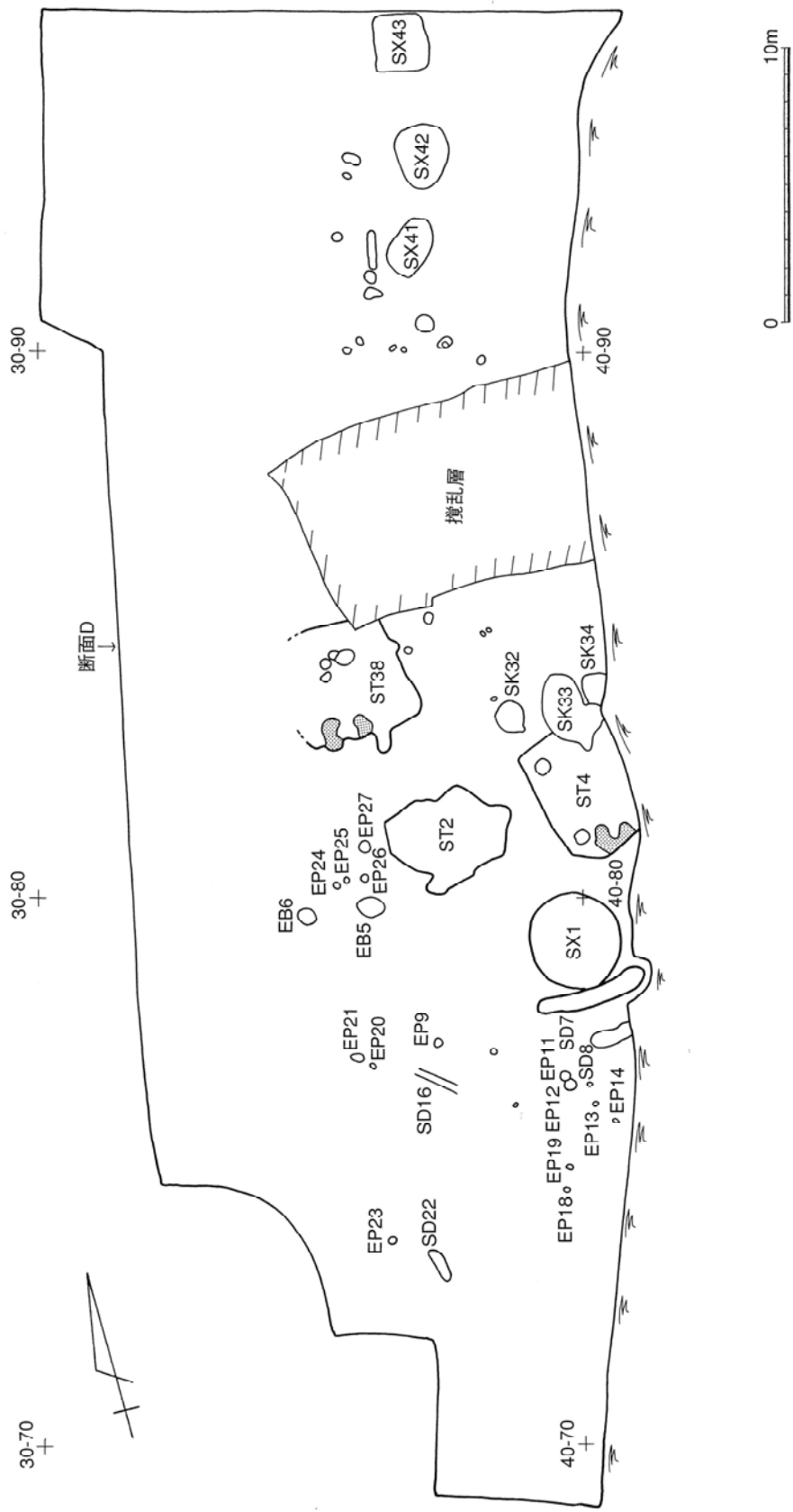
このうち比較的残りの良い竪穴住居跡のS T 4 と S T 38 については、今後の資料とするため若干の精査を行った（第52図）。以下にその概要を述べる。

S T 4 は調査区の中央東端に位置し、平面形はほぼ隅丸方形を呈する。南側が須川の流路、北東部がS K 33・34土坑によって切られている。検出径は東西5.0m、南北3.5mを測る。住居の南壁西寄りにカマドの袖と思われるC字形の焼土を有する。西壁に添って直径50cm前後の柱穴が2個確認されており、住居の支柱穴を構成するものと考えられる。床面はやや凹凸があり、貼床等の痕跡は認められない。埋土は極暗褐色シルト質粘土を基本とするが、その上層にあたる黒褐色シルトも部分的に認められる。遺物はカマド附近から熱を受けた土師器甕、柱穴周辺から須恵器坏・赤焼土器坏の破片が少量出土している。

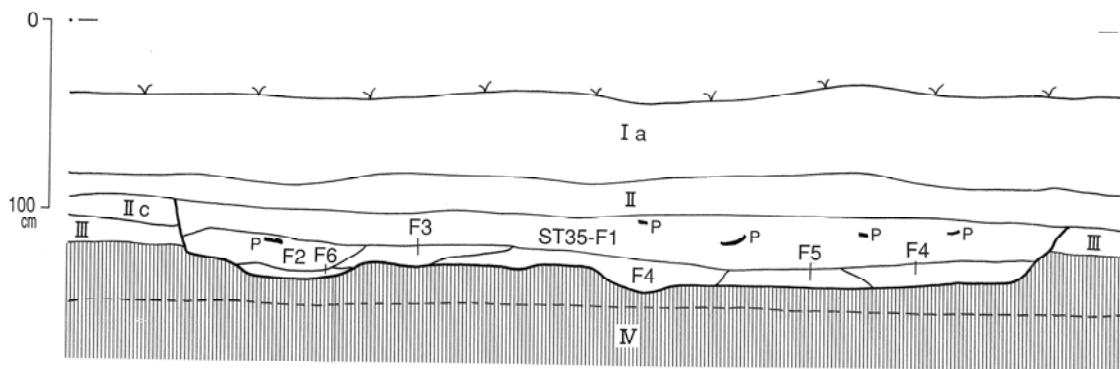
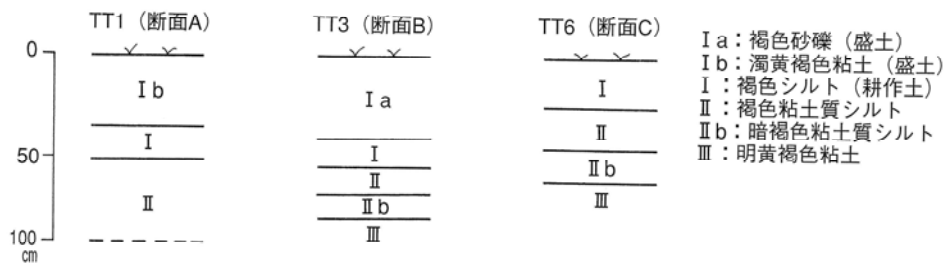
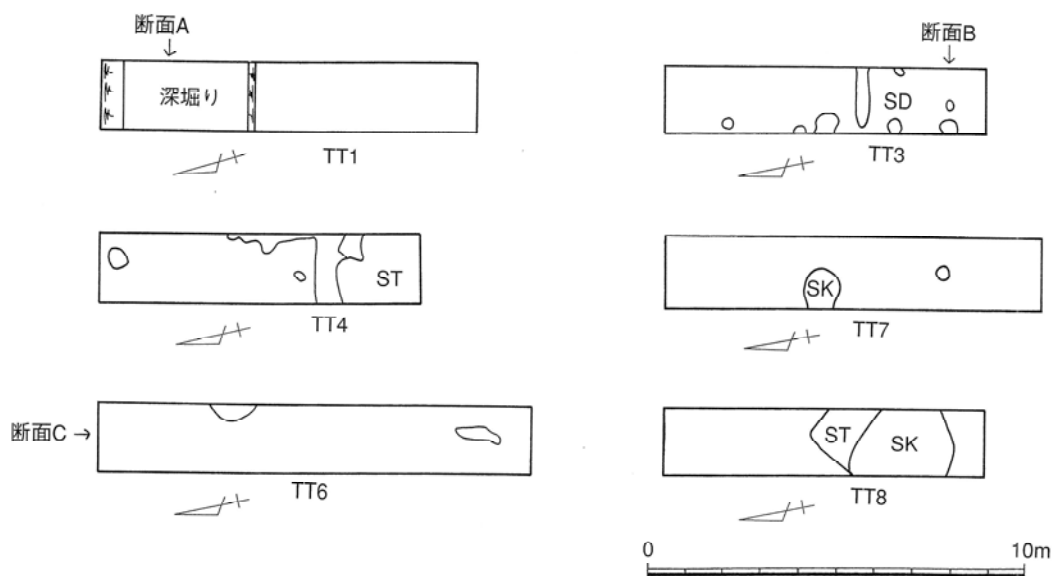
S T 38 は調査区の中央部に位置し、平面形は不整の隅丸方形を呈する。西側が土取りによって切られている。検出径は東西4.5m、南北4.4mを測る。住居の南壁西寄りにカマドの袖と思われるC字形の焼土を有する。カマドの位置は、S T 4 や調査区西側壁の土層断面で確認されたS T 35ともほぼ同じ場所に存在する。住居内北寄りに直径25~70cmの柱穴が4個確認されているが、ほかに柱穴は認められなかった。ただし、住居の南壁と東壁のすぐ外側に直径20~50cmの柱穴が2個あり、家屋の構造に何らかの役割をはたしているものと考えられる。床面はやや凹凸があり、貼床等の痕跡は認められない。埋土は極暗褐色シルト質粘土を基本とするが、その上層にあたる黒褐色シルトも部分的に認められる。遺物はカマド附近から熱を受けた土師器甕、床面周辺から須恵器坏・甕、土師器甕の破片が少量出土している。

このほか、S X 1 は平面形が直径約3.5mの円形を呈するもので、すぐ南側に長径4.2mのS D 7 溝跡が存在する。削平が著しいが、S D 7 と対になって竪穴住居跡を構成する可能性を有する。遺物はS X 1 の埋土内から土師器甕、須恵器坏・蓋・甕、赤焼土器坏の破片がややまとまって出土している。

S T 2 は調査区の中央部東寄りに位置し、平面は不整形で2棟の住居跡が重複しているのかもしれない。



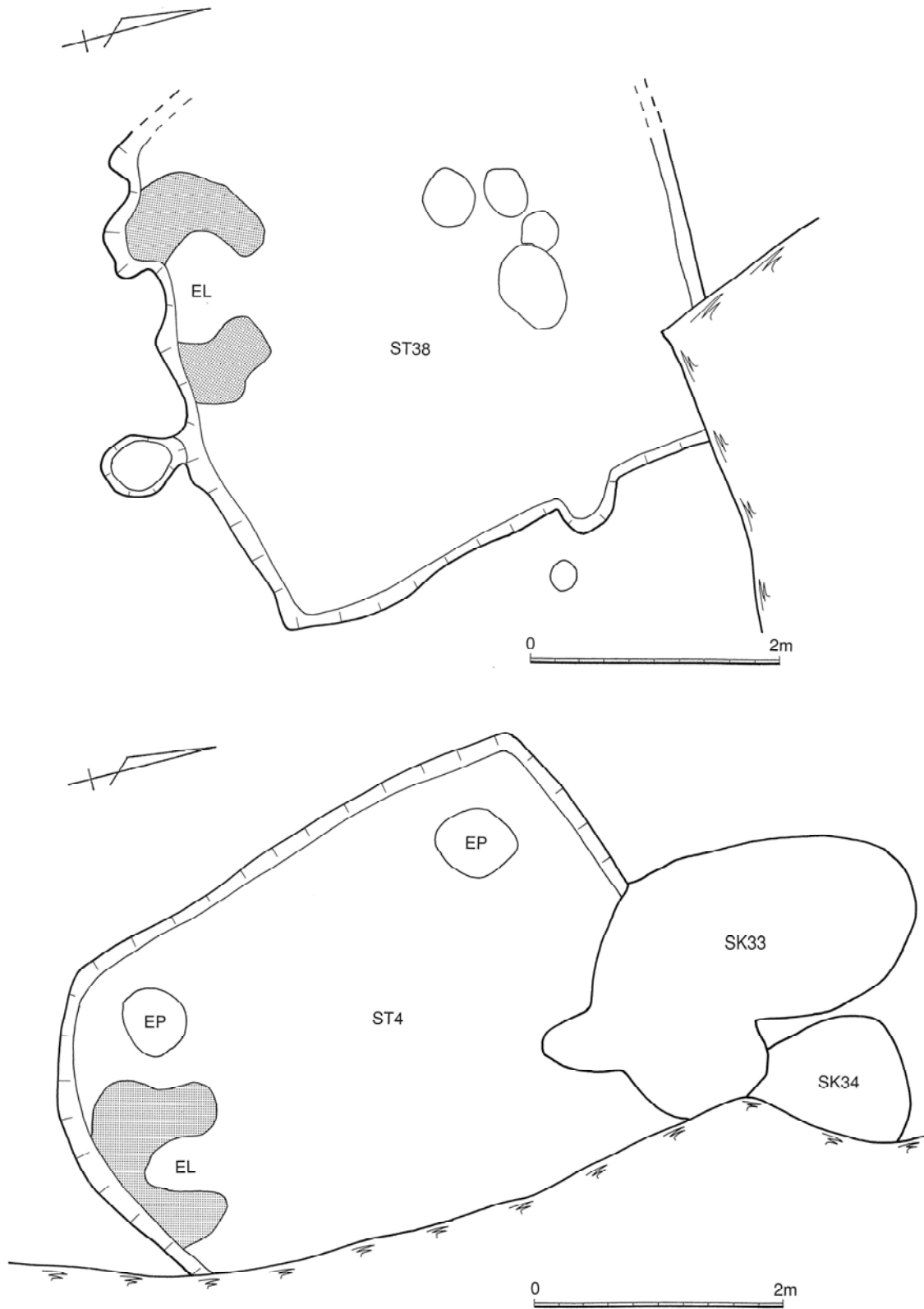
第50図 梅在家遺跡遺構全体図



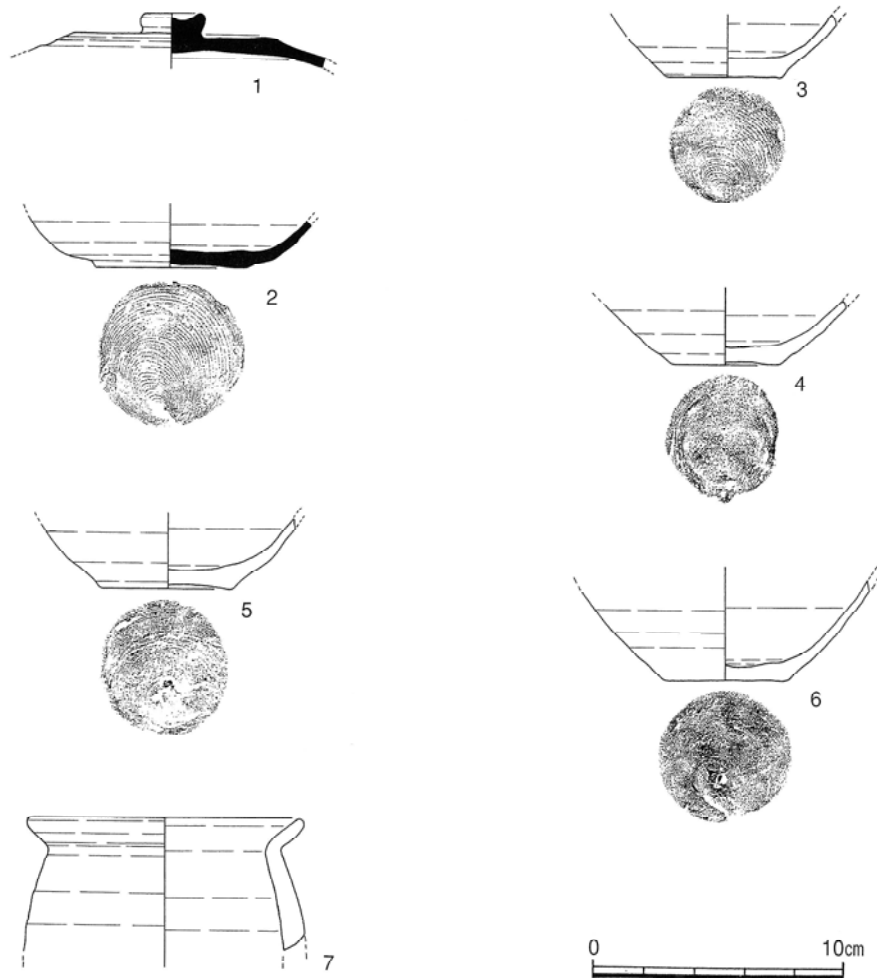
I a: 褐色砂礫 (盛土)
 II: 暗褐色砂質シルト
 II c: 灰褐色砂質シルト
 III: 暗褐色粘土質シルト
 IV: 褐色砂質シルト

ST35-F1: 黒褐色シルト (遺物を多く含む)
 F2: 暗赤褐色粘土質シルト (遺物を多く含む)
 F3: 黒褐色粘土質シルト
 F4: 極暗褐色シルト質粘土
 F5: 褐色粘土質シルト
 F6: 暗褐色シルト質粘土

第51図 梅在家遺跡トレンチ平面図・断面図



第52図 梅在家遺跡遺構平面図・断面図



第53図 梅在家遺跡出土遺物実測図

梅在家遺跡からは試掘調査と確認調査を合わせて整理箱3箱分の土器が出土している。破片が多く接合できるものはなかったが、第53図に実測可能な土器を7点図示した。

出土した土器は、大きく土師器と須恵器・赤焼土器に分けられる。土師器の器種は甕と坏・高台付坏がある。坏・高台付坏は内面が黒色化処理されているものが大半である。須恵器の器種は坏・蓋・甕・壺がある。図示した須恵器の坏（第53図1）と蓋（同2）は共にST4附近から表面採集されたもので、1は底径が大きく、底部の切り離しは回転糸切りである。2は天井部全面に回転へら切りの痕がみられる。これらの時期は平安時代9世紀第2四半期頃と推定される。赤焼土器の器種は坏と甕がある。3～6の坏はTT8の住居跡附近から出土したもので、底径がやや小さく、酸化炎焼成されている。底部の切り離しは回転糸切りである。7の小形甕は口縁部が小さく外反するもので、体部にロクロ調整痕が認められる。これらの時期は概ね平安時代9世紀第3～4四半期頃に推定されるが、他から出土した坏には10世紀第1四半期頃のものも存在する。



遺跡近景（北から）



調査区遺構検出状況（南西から）



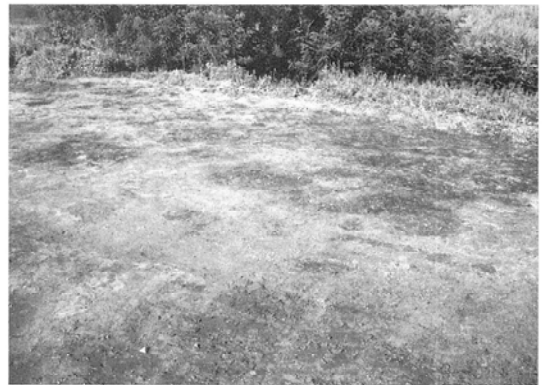
T T 3 全景 (南から)



T T 4 全景 (北から)



調査状況 (南から)



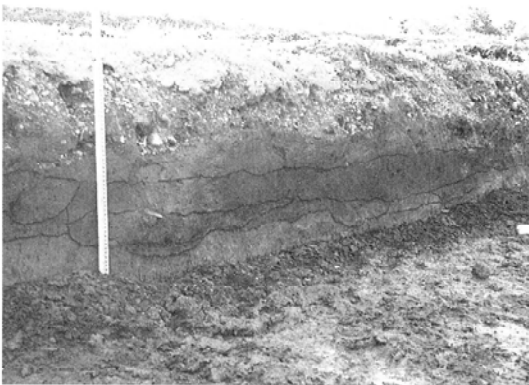
調査区北半近景 (南から)



S T 2・4 検出状況 (西から)



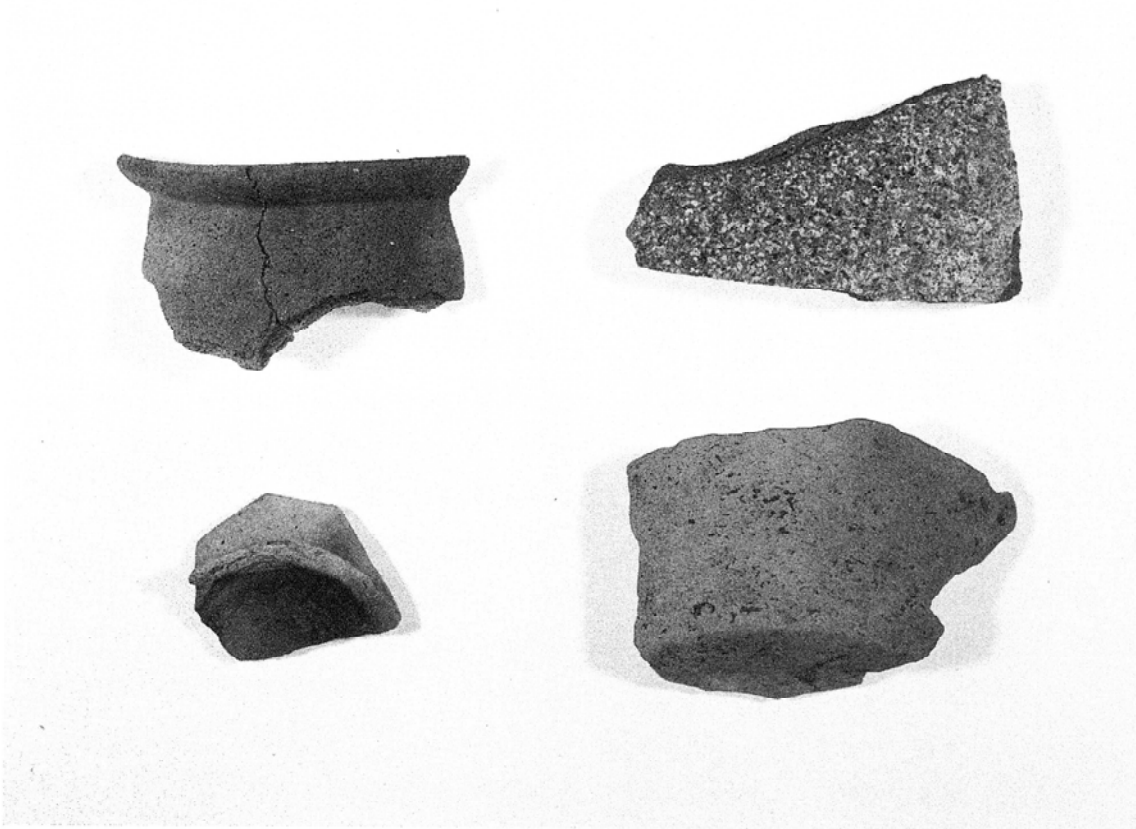
S T 38 検出状況 (北から)



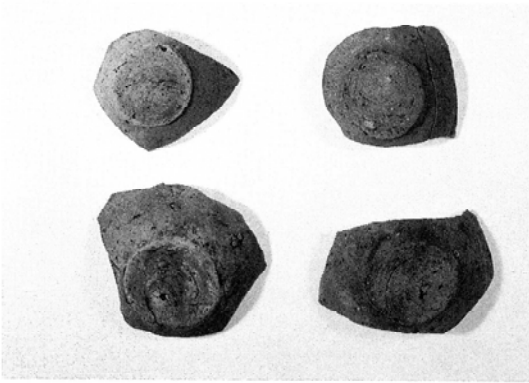
調査区西壁土層断面 (南東から)



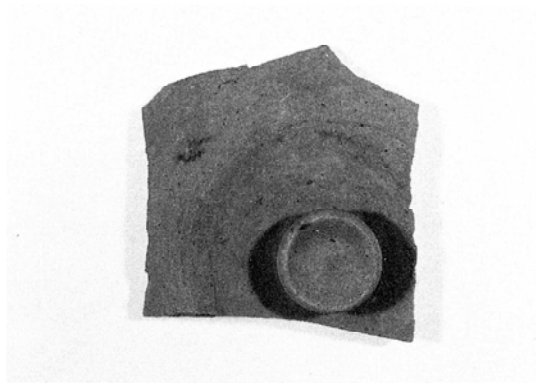
T T 8 遺物出土状況 (南から)



出土遺物 (1)



赤焼土器坏



須惠器蓋



須惠器坏



須惠器高台坏

(2) ^{みやのした}宮ノ下遺跡 (遺跡番号2086)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字宮ノ下他

調査員 渋谷孝雄 佐藤庄一

調査期日 平成11年8月9～12日

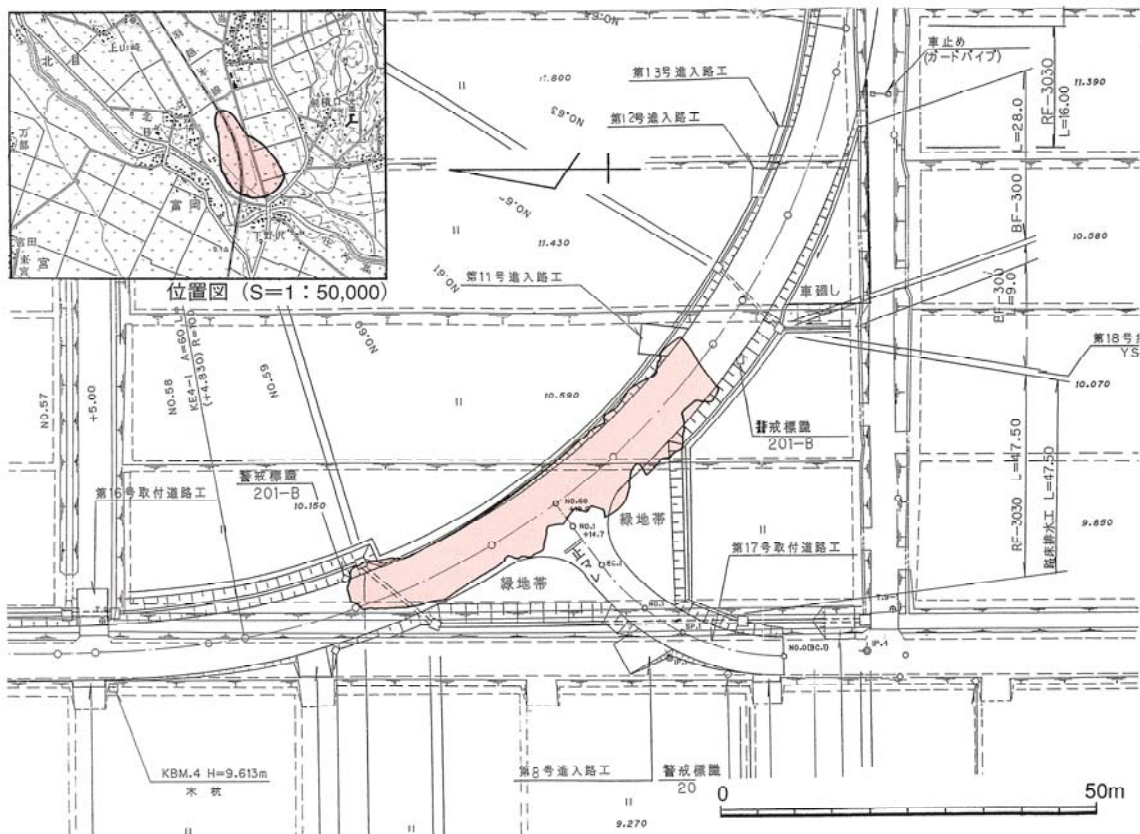
起回事業 一般農道整備事業北目地区

遺跡環境 遺跡は遊佐町の北方2kmの北目地区東側の水田地帯に位置し、庄内高瀬川の自然堤防上に立地する。標高は8～11mを測る。本遺跡の周辺には、北目長田遺跡や宅田遺跡等の平安時代の集落跡や奈良時代後半の剣竜神社窠跡が分布する。

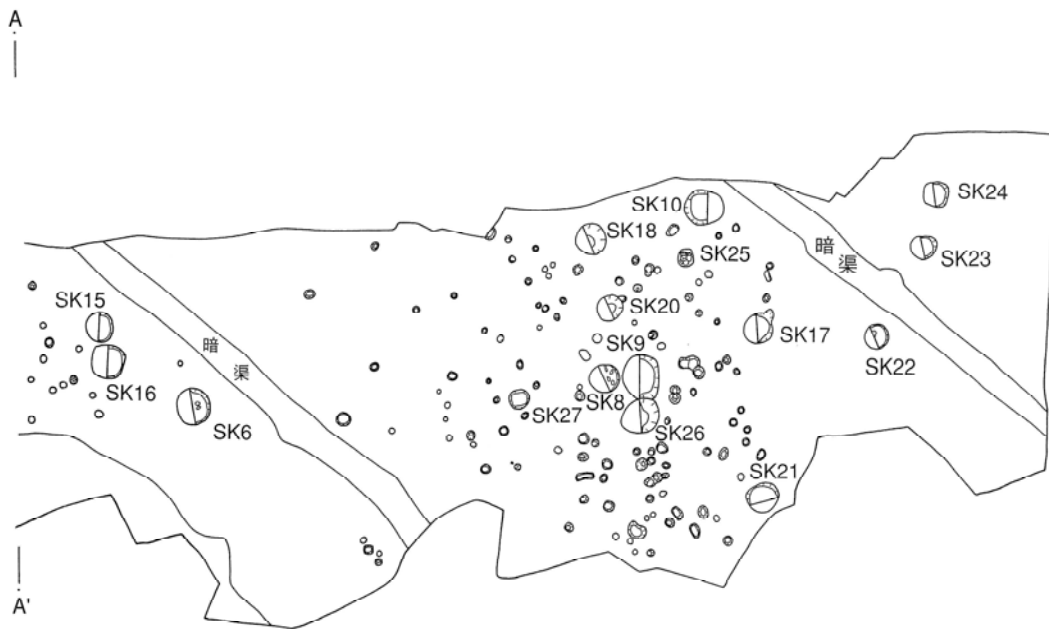
試掘状況 本遺跡については平成7年5～8月に県営ほ場整備事業に関連して(財)山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている。今回は農道整備事業が遺跡の南端を通ることになったため、山形県教育委員会が事前に発掘調査を実施したものである。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理および遺構精査を行った。

調査結果 調査は農道建設予定地のうち、遺跡に係る約500㎡について実施した。農道に添って発掘区を設定したため、調査区の形は弧状を呈する。

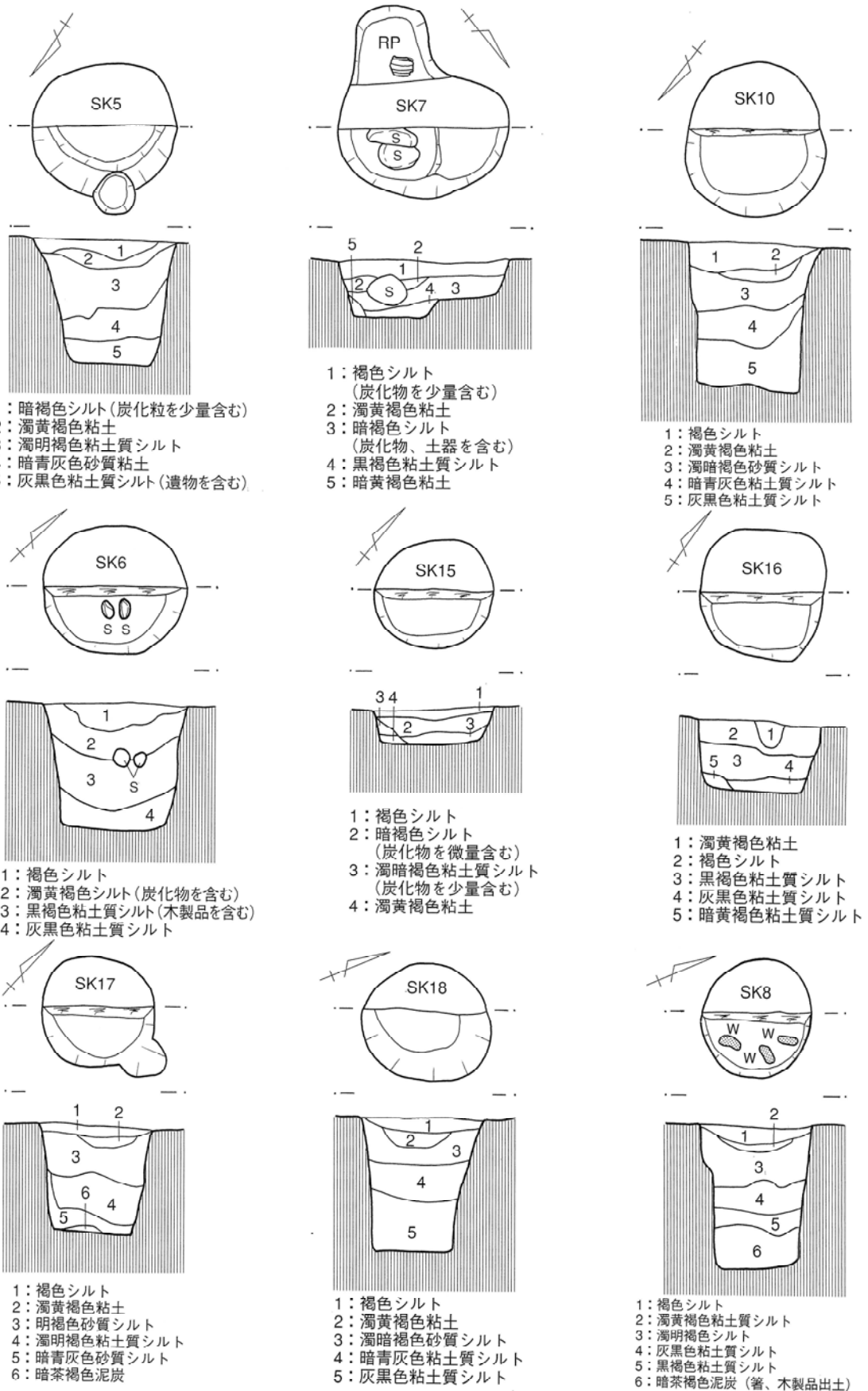
調査区附近の地層は、I層が暗褐色シルト(水田耕作土)、II層が黒褐色シルト、III層が暗青灰色粘土質シルトとなる。調査の結果、発掘区のはほぼ全面から室町時代頃の遺構が検出された。遺構の概略は、土坑20基、溝跡3条、多数の柱穴等である。とくに土坑は、80cm以上の深い掘り込みを示すものが多い。



第54図 宮ノ下遺跡概要図



第55図 宮ノ下遺跡遺構平面図



第56図 宮ノ下遺跡遺構平面図・断面図

遺構のうち土坑は、大きく調査区の中央部と南側の2ヶ所に分布する。土坑の平面形は直径80～100cmの円形を示すものが大半であるが、SK7や17のように若干の張り出し部をもつものもある。今回検出された20基の土坑は、その断面の形からA群とB群の二つに大別される。

A群の土坑は、掘り込みが浅く、断面形が逆台形を呈するもので、SK7・15・16・22～24がこれに相当する。埋土は基本的に3層位で、ほぼ水平な堆積状況を示す。このうちSK7土坑からは、室町時代14世紀頃の珠洲系陶器の播鉢片が出土している。今回の宮ノ下遺跡からは遺物の出土量が極めて少なく、遺構の年代を示す貴重な資料である。A群土坑の性格としては、塵捨て用の穴ないしは墓坑としての役割が想定される。

B群土坑は、掘り込みが深く、断面形が円筒形を呈するもので、SK4～6・8～10・16～18・20がこれに相当する。埋土は基本的に5～6層で、中央がやや窪んだ堆積状況を示す。とくに注目されるのは、上から2枚目の地層に黄褐色ないし灰褐色シルトの地山に似た埋土を有することである。このうちSK6土坑からは、木製の箸等が出土している。B群土坑の性格としては、墓坑ないし井戸跡としての役割が想定される。

土坑以外には、直径30cm前後の円形の柱穴が調査区から多数検出されている。調査区の北端と中央および南側に柱穴が幾つか直線条に並ぶ箇所が認められるが、掘立柱建物跡を構成するまでにはいたらなかった。土坑の性格が墓坑にしる井戸跡にしる、附近にそれを作った人々の居住区域があるはずで、今後の検討課題としたい。



調査区近景（南西から）



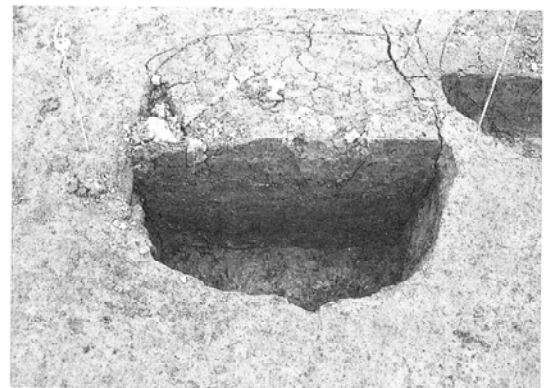
発掘調査状況（北から）



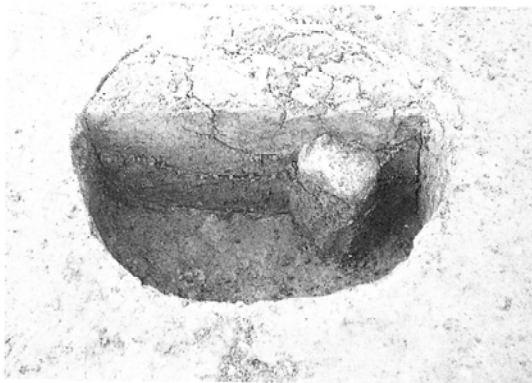
北半部近景（南西から）



A区南半部近景（南西から）



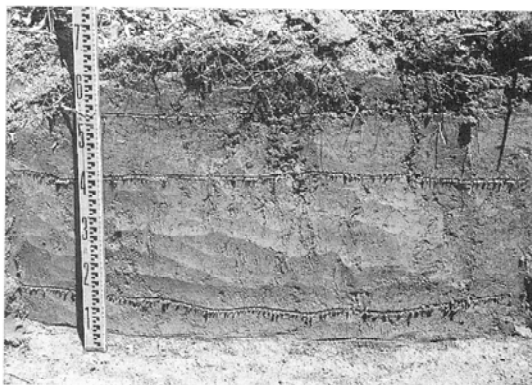
S K 16 土層断面（南から）



S K 22 土層断面（南東から）



B区全景（西から）



B区北壁土層断面（南から）



S K 7 遺物出土状況（南から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(3) ^{やまがたじゆうさん まる}山形城三の丸跡 (山形県中世城館遺跡調査報告書201-002)

所在地 山形県山形市城南町他

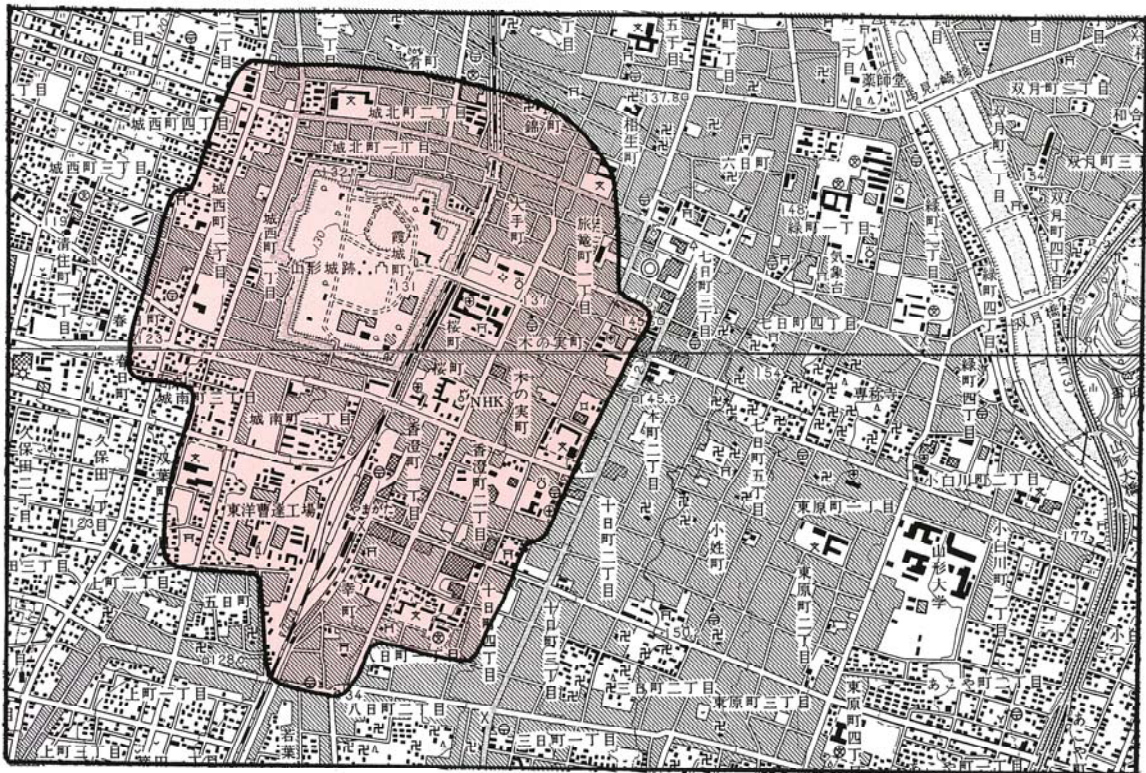
調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成10年7月31日、8月3・4・10・11日、9月1・7・8日、10月15日、平成11年1月18~21日 (13日間)

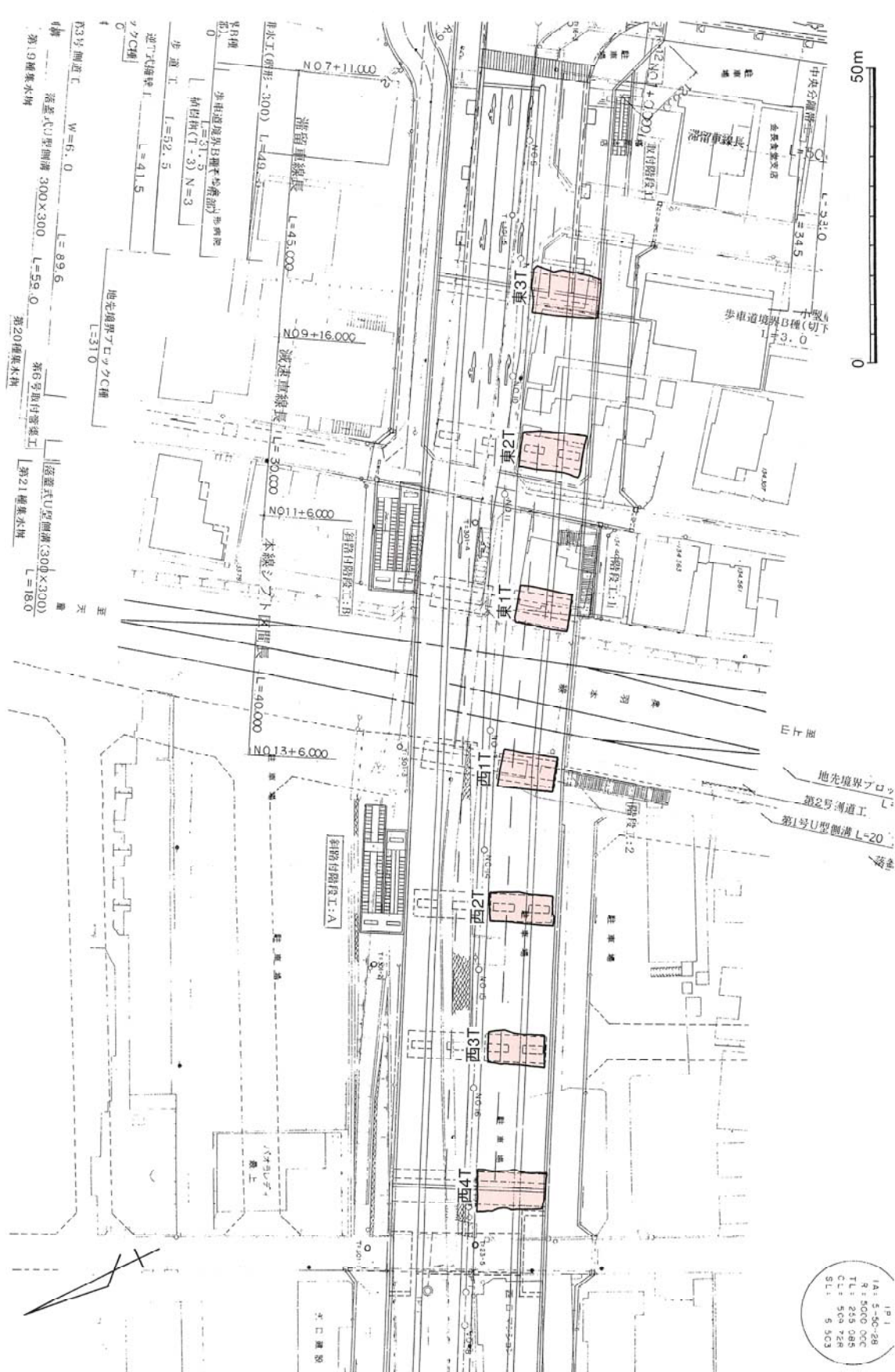
起回事業 都市計画街路事業東原・村木沢線城南陸橋架け替え工事

遺跡環境 山形城跡三の丸跡は山形市街地の中心部に位置し、東西1.5km、南北2.0km程の範囲となる。今回の調査地はJR山形駅と山形城本丸の中間にあり、二の丸南辺の堀から100m南に位置する。標高は132~134mを測る。地目は宅地である。

調査の経過 平成9年度の山形駅西口新都心ビル建設に伴う試掘調査で、縄文時代から近世に至る各時代の遺物が出土し、古代や近世の遺構が多数存在することが明らかとなった。こういった状況は旧東ソー敷地内の双葉町遺跡でも同様であり、山形城三の丸の地区内ながら多時代の遺構が重複する様相が見て取れた。こういった事実を踏まえ、土地区画整理事業で計画された「城南陸橋」の架け替え工事が山形新幹線の新庄延伸の開業に合わせるため、早期着工が図られることとなった。工事は土木部山形建設事務所の担当となり、保存協議の結果、遺構の破壊が避けきれない橋脚部分について、文化財課で調査を担当して記録保存を図ることとなった。発掘調査は工事の進行に合わせての調査となり、西T2、西T3、西T4、西T1、東T1、東T2、東T3の順で実施した。



第57図 山形城三の丸跡位置図 (S = 1 : 25,000)



第58図 山形城三の丸跡概要図

調査の結果

西1トレンチ（第59・60図）

面精査で掘り方4基、土坑2基、溝跡1条、落ち込み1基、ピット1基等を検出した。掘り方は掘立柱建物を構成する。以下、主要な検出遺構と出土遺物の概要を述べる。

SB5

調査区内で4基の掘り方を検出した。すべての掘り方の底面に礎石が据えられている。これらは、南北柱列の東側（EB1～3）、西側（EB4）と捉えられる。柱間距離は桁行きと考えられるEB1・2間、2・3間が210cm、梁行きと考えられるEB3・4間が420cmとなることから、7尺を基本としているものと考えられる。

SK1

調査区北端にある不整形な土坑で、堆積層は3層、土師器片と近世の磁器が出土した。

SK2

調査区の北西端で検出した土坑で、SK3に切られる。堆積土は8層に分かれ、土師器片が1点だけ出土したが、遺構の時期は古代には遡らないと考えられる。

SD3

西部で検出した。堆積土は5層に分かれ、土師器2点、信楽1点、磁器片1点、鉄片1点が出土した。

SX6

南端部で検出した。16世紀代の胎土目唐津の破片が1点出土している。

西2トレンチ（第61図）

井戸跡1基、溝跡1条、溝状の落ち込み1基を検出した。東壁の断面図からは遺構確認面の凹凸が激しいことが読みとれるが、全体的に一様な地山となるまで掘り下げを行った。

なお、この調査区の遺構確認面（地山）は部分的に礫層を帯状に含む、黒褐色砂である。

SE1

調査区の北端で検出した。掘り方は直径320cm、石組みの内法は130cm前後となる。確認面からの深さは150cmを測る。近世のかわらけ2点、瓦1点が出土した。

SD2

調査区中央を東西に走る溝跡で、Ⅲ層を除去した面が確認面となると考えられる。もともとは上場幅で250cm前後になるもので、確認面から130cm程の薬研堀状の断面を有していたと見られる。堆積土は3層に分かれ、須恵器壺と土師器甕の破片がそれぞれ1点出土したが、溝の形態から見て古代に遡るものではないと考えられる。

SX3

調査区北寄りで検出されたL字状の平面形で南側が一段低い落ち込みである。近代の陶器1点が出土した。

西3トレンチ（第62図）

井戸跡1基、土坑3基、落ち込み1基が検出された。地山は褐色砂礫である。

S K201

東西200cm、南北は平均175cmの北辺に出入りのある長方形の土坑である。確認面からの深さは17cmと浅い。堆積土は1層で土師器坏、甕の破片がそれぞれ1点、瓦器2点、近世の磁器1点が出土した。

S K202

調査区の南西部で検出した中央部が一段深くなる土坑で、調査区外へと延びている。直径455cm、一段低い部分は一辺260cm程の方形プランとなる。確認面からの深さは、最深部で135cmを測る。土師器甕1点、近世陶器3点、磁器7点、瓦1点が出土した。

S K203

調査区の東部で検出した径230cm程の二段掘り込みの土坑である。最深部で107cmを測る。遺物は出土していない。

S X204、205

S X204は調査区の北西で検出した大きな落ち込みで、S E206を切っている。深さは40～50cmで現代の陶磁器片とポリ容器が出土している。現代のゴミ穴である。

S X205は調査区の北東隅で検出した落ち込みである。縄文土器片1点の他、カスガイが1点出土しており、遺構の時期は近世以降である。

S E206

調査区の北部で検出した井戸跡である。径15～20cmの河原石が用いられている。多くの石は除去されており、中程に1～3段が確認されるに過ぎない。遺物は出土していない。

西4トレンチ (第63・64図)

土坑4基、ピット13基、溝跡2条、落ち込み5基等が検出された。

S D301・314

S D301は調査区の西半部を占める大きな溝跡である。調査区内では「コ」の字状になるS D314を切っている。堆積土の2層には大小の河原石が多量含まれている。底面には凹凸がある。東部は確認面から20cm前後の深さであるが、西部では50cm弱となる。平安時代の土師器の甕12点と赤焼土器坏5点、完形に近いかわらけ1点、陶器16点、磁器16点、瓦11点等の近世の遺物が出土している。近・現代の遺物はなく、近世の遺構と考えられる。

S D314は中央部が一段低くなっている。堆積土には径10～15cmの円礫が多量含まれている。かわらけ1点と縄文時代の石匙1点が出土している。

S X302・303、305

調査区の北東部で検出した長方形の落ち込みである。S X303が302を切っている。S X302は辺の出入りはあるが南北400cm以上、東西200cm前後、深さは23～40cmとなる。S X302から土師器甕の破片が2点出土している。

S X305は調査区の南東部で部分的に検出した深さ30cm前後の落ち込みで、土師器甕2点、近世陶器1点が出土している。

S K310・311

調査区の中央東寄りで検出した小土坑で、S K310が311を切っている。S K310から土師器坏が2点、S K311からは須恵器甕1点、鼠海鼠の釉薬の陶器片が1点出土している。遺構の時期は近世であろう。

S K312・313

調査区北東部で検出した土坑で、S K312は、S K313とS X304に切られている。両者とも遺物の出土はない。

東1トレンチ (第65図)

調査区の南東から北西を縦断する旧河道とピット2基が検出された。地山は礫を含む黄褐色シルトである。

旧河道は調査区の南西部を残して、特徴的な黒色、灰黒色の砂が堆積土となっているが、幅250cmであることが、トレンチ調査で明確となった。遺物はなく、時期は不明である。

東2トレンチ (第66図)

部分検出も含み5基の土坑、溝跡2条、落ち込み1基が検出された。

S K 1

調査区南東部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸135cm、短軸95~103cm、確認面からの深さは25cmを測る。底面にのる形で河原石6点が出土している。土師器甕4点、坏1点、かわらけ1点、陶器2点、磁器2点、鉄釘1点が出土した。

S K 2

S K 1の北側で検出した2基の切り合う土坑である。2 aは長軸200cm、短軸150cm前後の長方形の土坑で、壁の周囲に河原石を1列配置している。確認面からの深さは10cmを測る。2 bは2 aに切られる長軸200cm、短軸120cm前後の長方形の土坑である。底面は中央部が深い鍋底状となり、深さ36cmを測る。須恵器甕1点、土師器甕2点、陶器1点が出土している。

S K 3

調査区の南西隅で検出した3基が切り合う土坑である。3 aは長軸175cm、短軸120cm前後の楕円形のプランで、一部袋状となる土坑である。堆積土は3層に分かれ、中央部が盛り上がるような堆積状況を示している。須恵器坏2点、壺1点、甕1点、土師器甕2点、砥石1点、近世の陶器17点、磁器6点、瓦6点、鉄片3点が出土した。遺構は近世の所産である。3 b、3 cは3 aに切られるが、両者とも詳細は不明である。

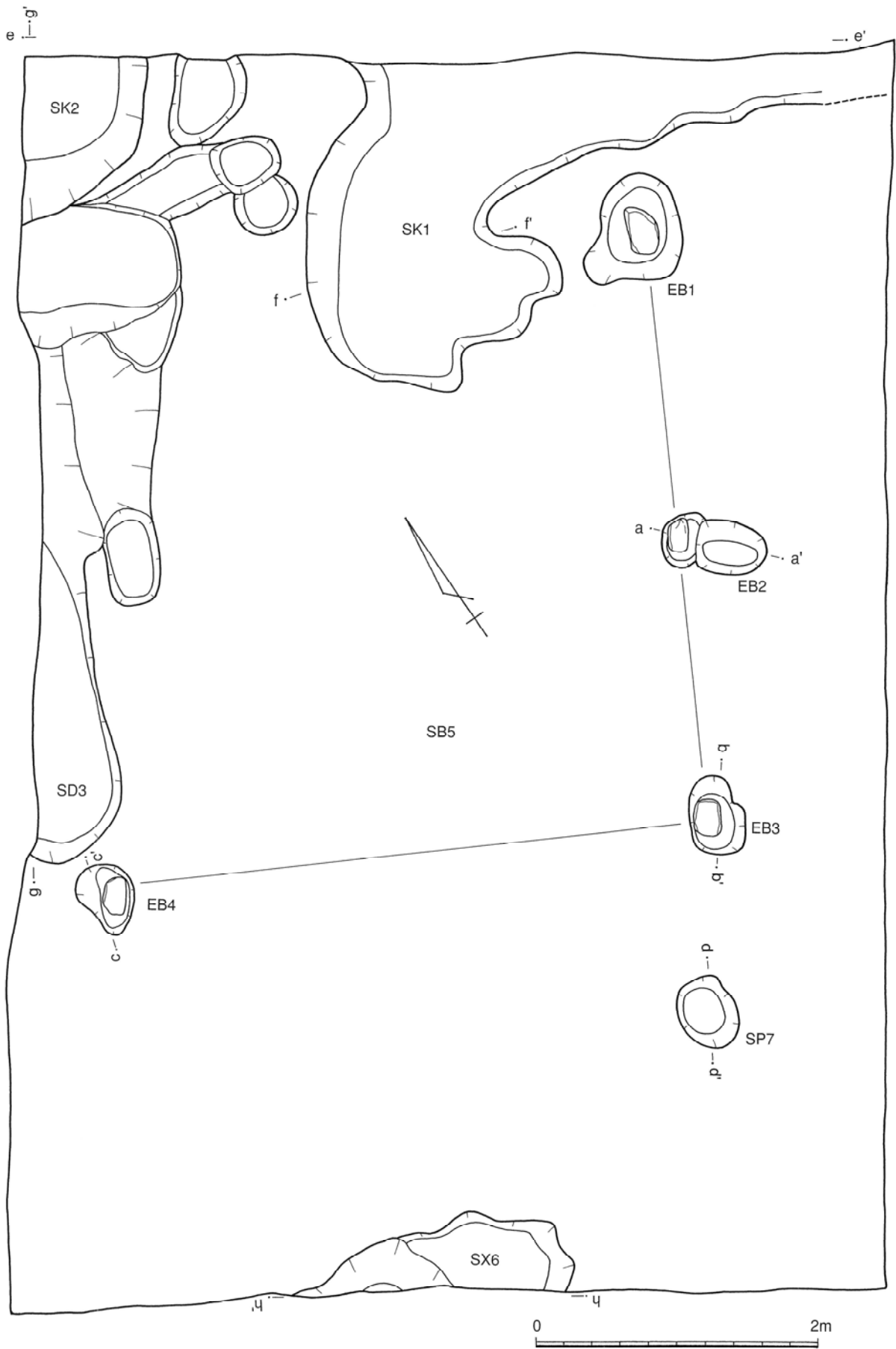
S X 4

調査区の北東部で検出した、不整な形の落ち込みである。堆積土は5層に分かれ、土師器甕10点、須恵器坏1点、甕2点、壺1点、近世の瓦2点、陶器2点が出土した。

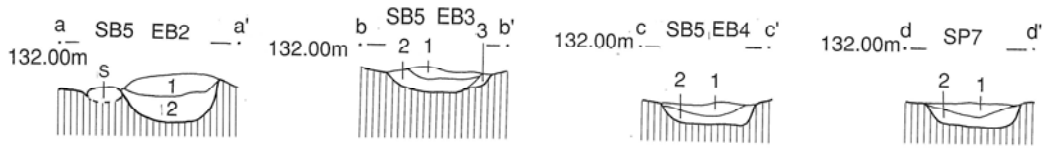
S D 5、6

S D 5は調査区を東西に横断する溝跡である。確認面からの深さは63cmである。土師器甕が24点出土している。中世以降の遺物は1点もなく、古代の遺構の可能性はある。

S D 6は調査区南東部を斜めに横断する幅45~70cmの溝で、土師器甕が2点出土した。



第59図 山形城三の丸跡西1トレンチ検出遺構平面図



SB5・EB2

- 1: 暗褐色砂質シルト (黄褐色シルト、焼土粒、炭化物を若干含む)
- 2: 1に青灰色細砂の大ブロックを含む

SB5・EB3

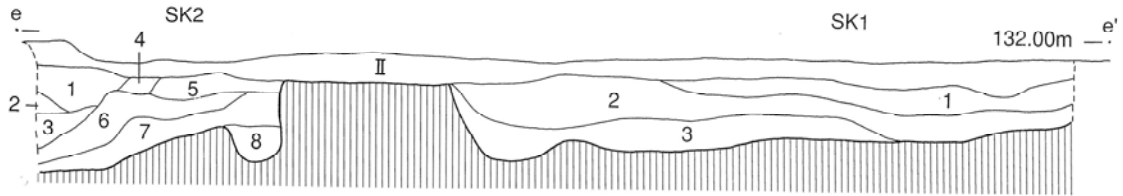
- 1: 褐色砂質シルト (暗褐色シルトのブロックと斑状になる)
- 2: 暗褐色砂質シルト (黒色シルトの大ブロック、黄褐色シルトのブロック含む)

SB5・EB4

- 1: 褐色礫混じり砂質シルト (焼土粒、炭化物を含む)
- 2: 暗青灰色細砂 (暗褐色シルトのブロックを含む)

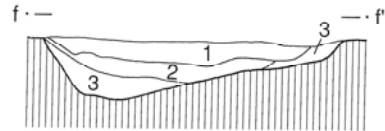
SP7

- 1: 暗褐色シルト (黄褐色シルト、焼土粒、灰褐色砂を多量含む)
- 2: 暗灰褐色シルト質砂



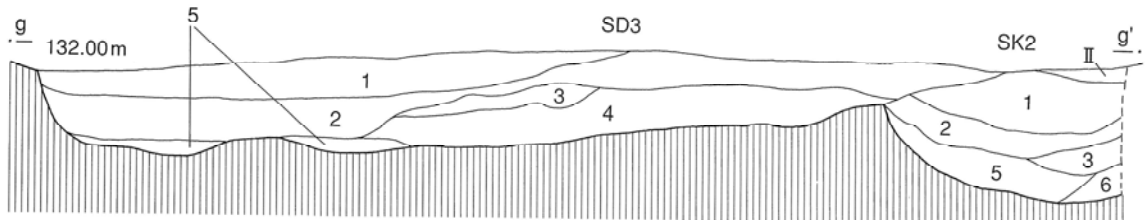
SK2

- 1: 黒褐色砂質シルト (炭化物、礫含む)
- 2: 1に黄褐色粘土質シルトのブロックが入る
- 3: 暗褐色砂質シルト
- 4: 褐色シルト (ほぼ純粋)
- 5: 灰褐色粗砂 (暗褐色シルトを含む)
- 6: 黄褐色粘土質シルト (灰褐色砂質シルトの大ブロックを含む)
- 7: 灰黄褐色砂質シルトに5、6のブロックが入る
- 8: 極暗青灰色粗砂 (暗褐色シルトブロックを含む)



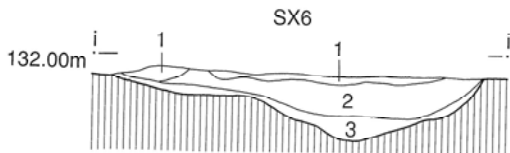
SK1

- 1: 暗褐色シルトと黄褐色粘土質シルトが斑状になる
- 2: 黒褐色シルト (砂質となる)
- 3: 暗青灰色粗砂に2のブロックが混じる



SD3

- 1: 暗褐色砂質シルト (焼土粒、炭化物、黄褐色シルトの小ブロックを霜降り状に含む)
- 2: 黒褐色砂質シルト (径5cm大の黄褐色砂質シルト、大粒の炭化物を含む)
- 3: 極褐色砂質シルト (径1~2cm大の黄褐色砂質シルト、大粒の炭化物を含む)
- 4: 褐色砂質シルト (暗褐色シルトの大ブロックと斑状をなす)
- 5: 暗灰褐色粗砂 (焼土粒、黄褐色シルトの大ブロックと若干の炭化物を含む)

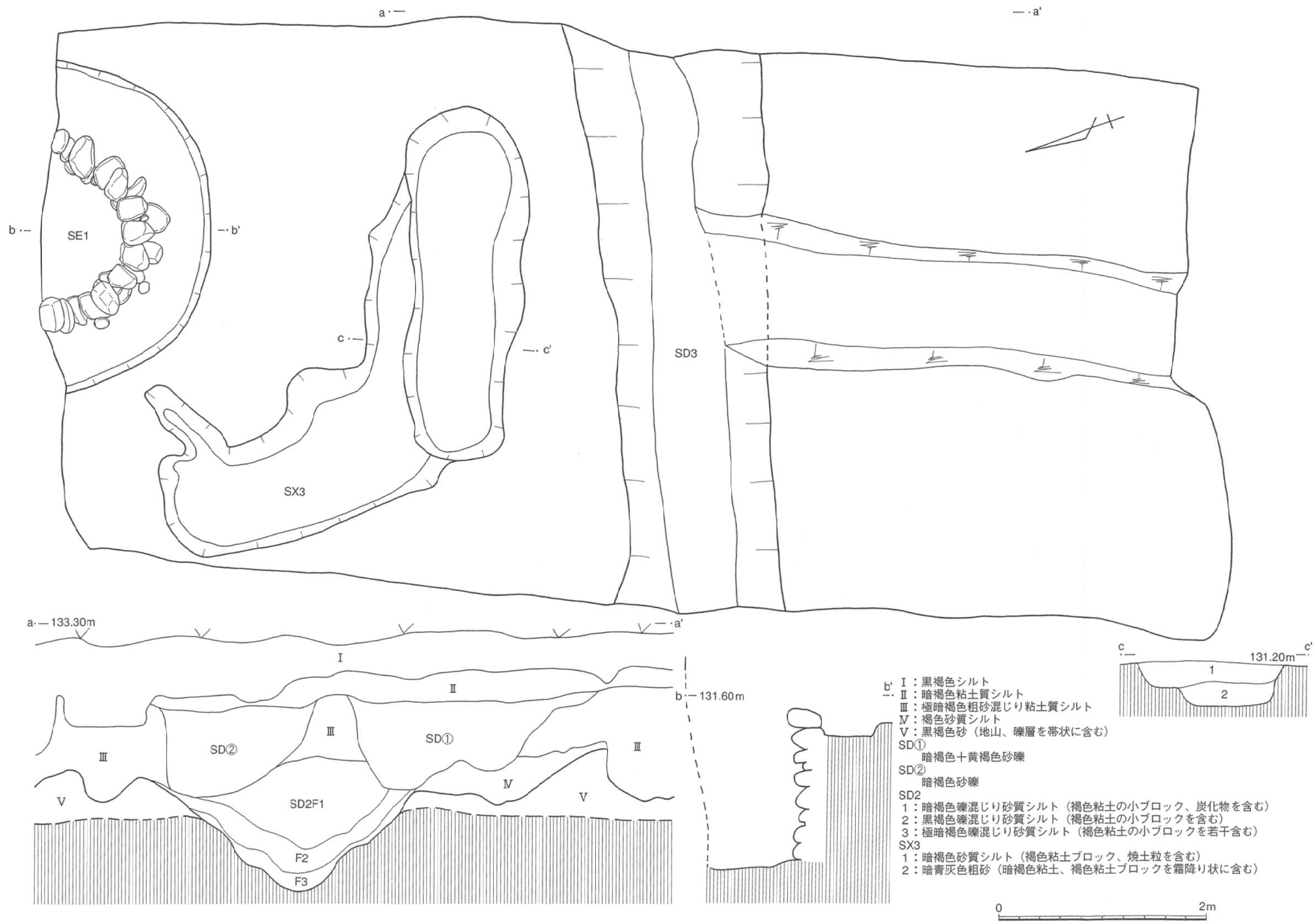


SX6

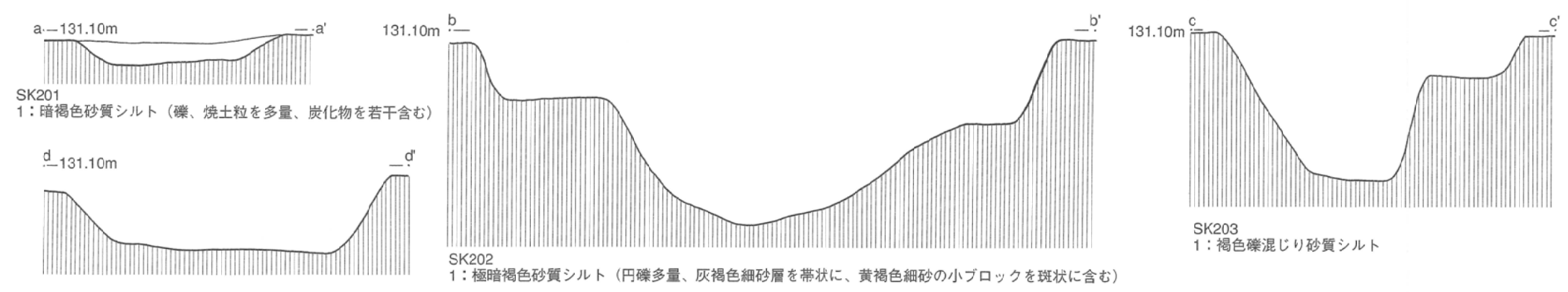
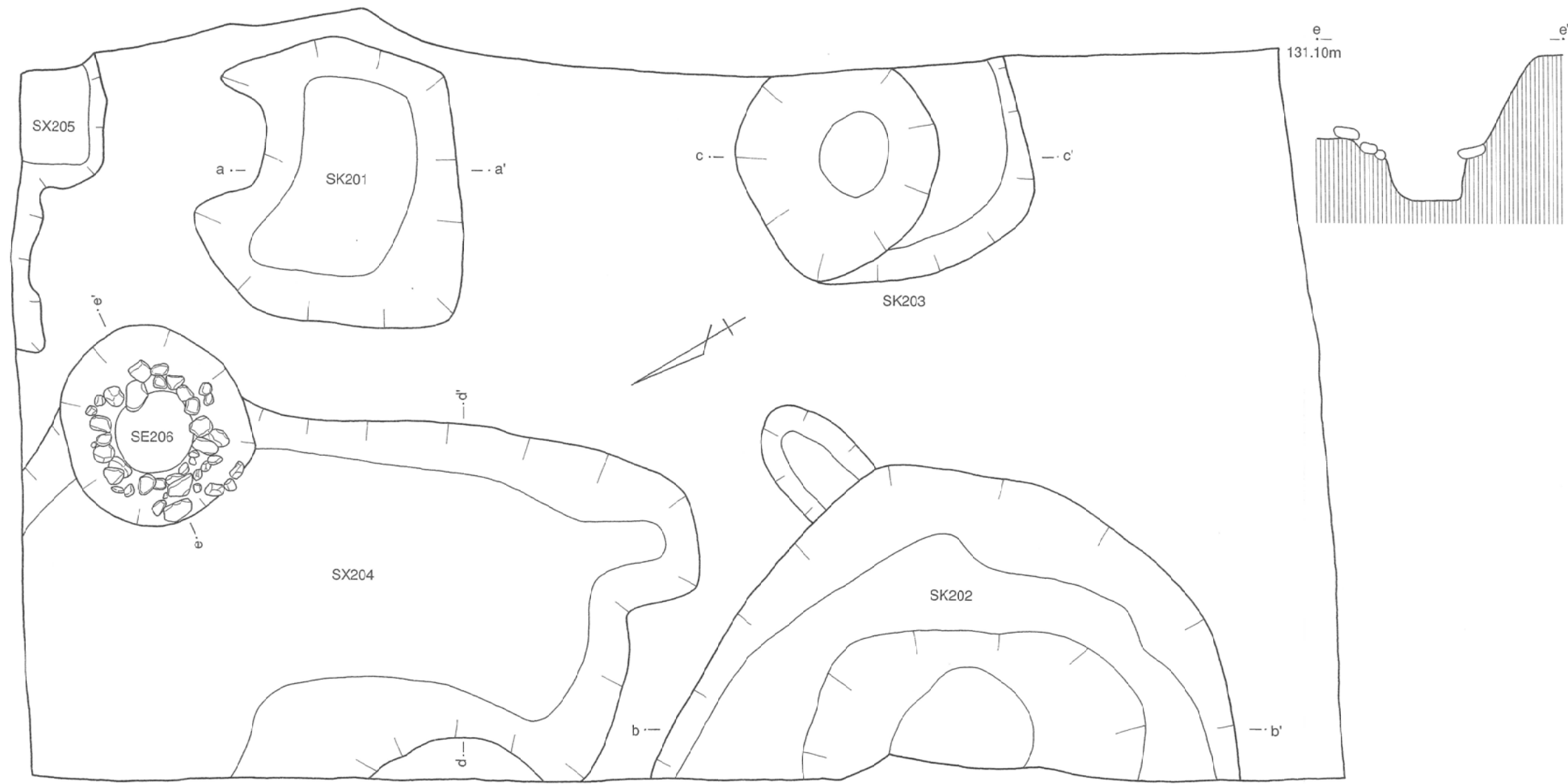
- 1: 褐色砂質シルト (炭化物、焼土粒を含む)
- 2: 暗褐色砂質シルト (黄褐色シルトの大ブロック、炭化物、焼土粒を若干含む)
- 3: 暗青灰色粗砂 (暗褐色シルトの大ブロック、黄褐色粗砂の小ブロックを含む)



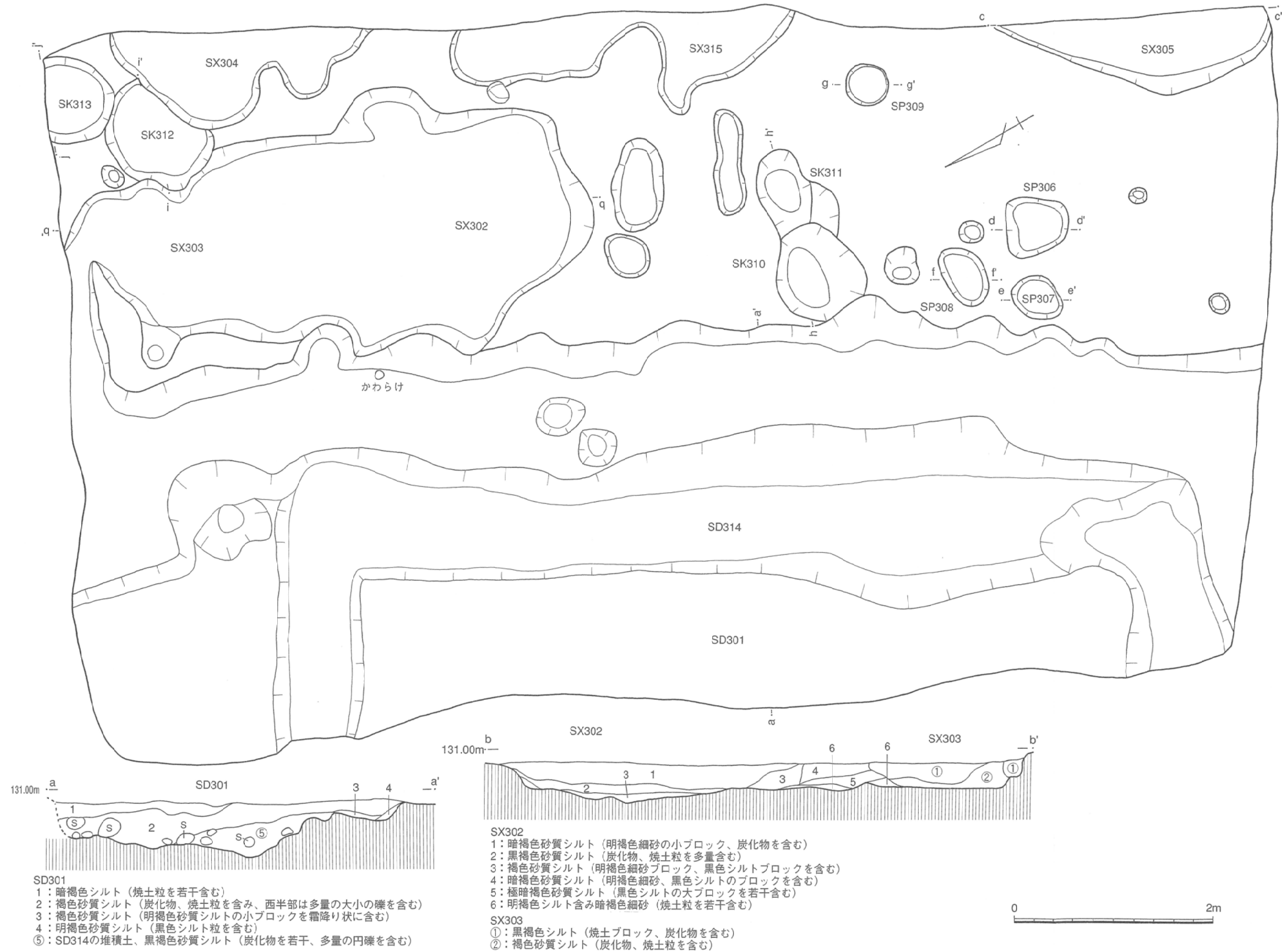
第60図 山形城三の丸跡西1トレンチ検出遺構断面図



第61図 山形城三の丸跡西2トレンチ平面図・断面図



第62図 山形城三の丸跡西3トレンチ平面図・断面図



第63図 山形城三の丸跡西4トレンチ平面図・断面図(1)

SK 7、8

SK 7は調査区の北西隅で検出した深さ113cmの土坑である。遺物は出土していない。

SK 8は調査区の北辺で検出した深さ47cmの土坑である。遺物は出土していない。

東3トレンチ (第67図)

井戸跡2基、土坑5基が検出された。

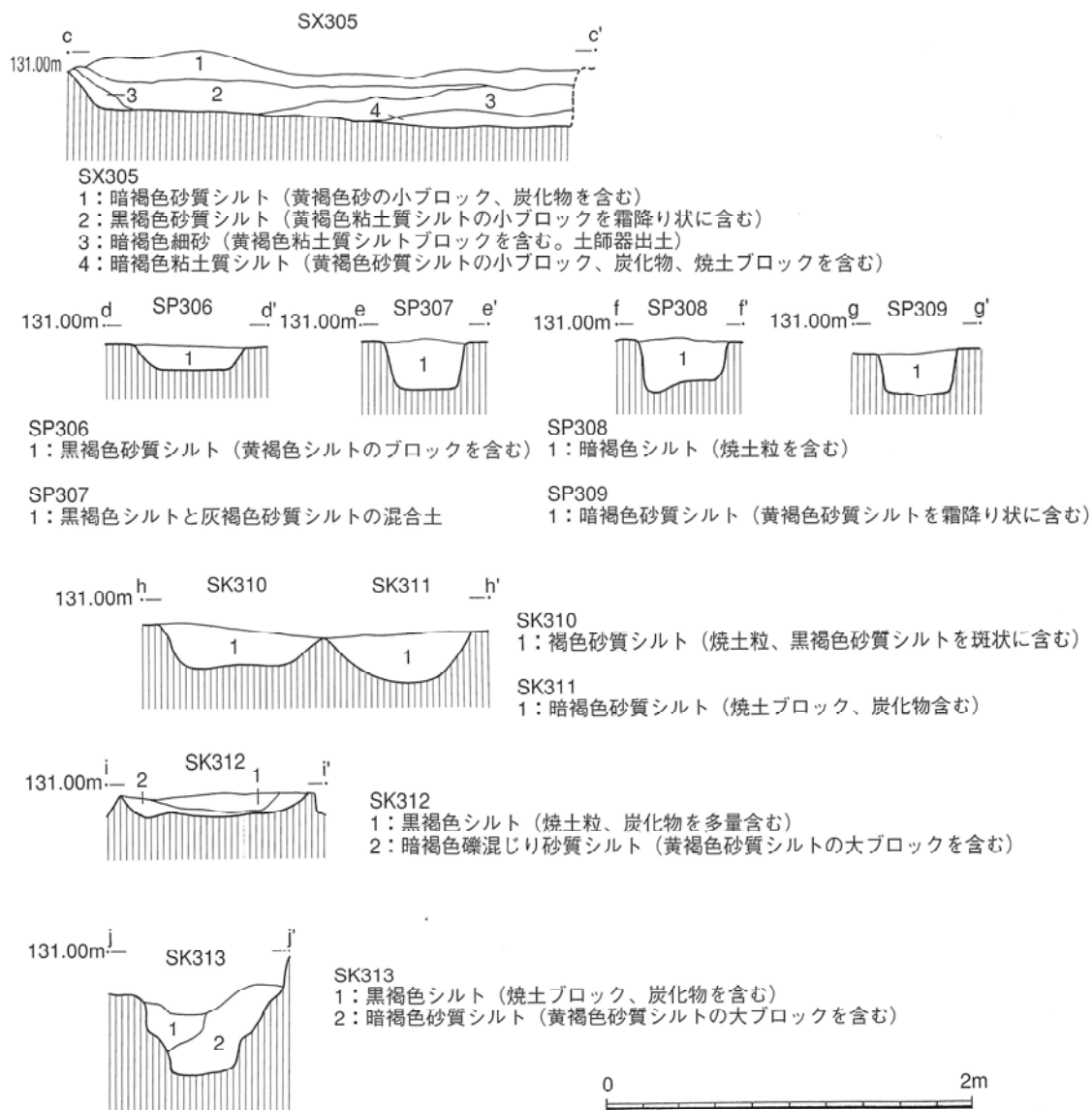
SE 1、2

SE 1は内法で100~140cm、確認面からの深さ190cm以上の規模の井戸である。SE 2も内法が125~135cmの井戸で、確認面からの深さは200cm以上である。両者とも現代の陶磁器が出土しており、旧地権者が使用した記憶のある井戸とのことである。

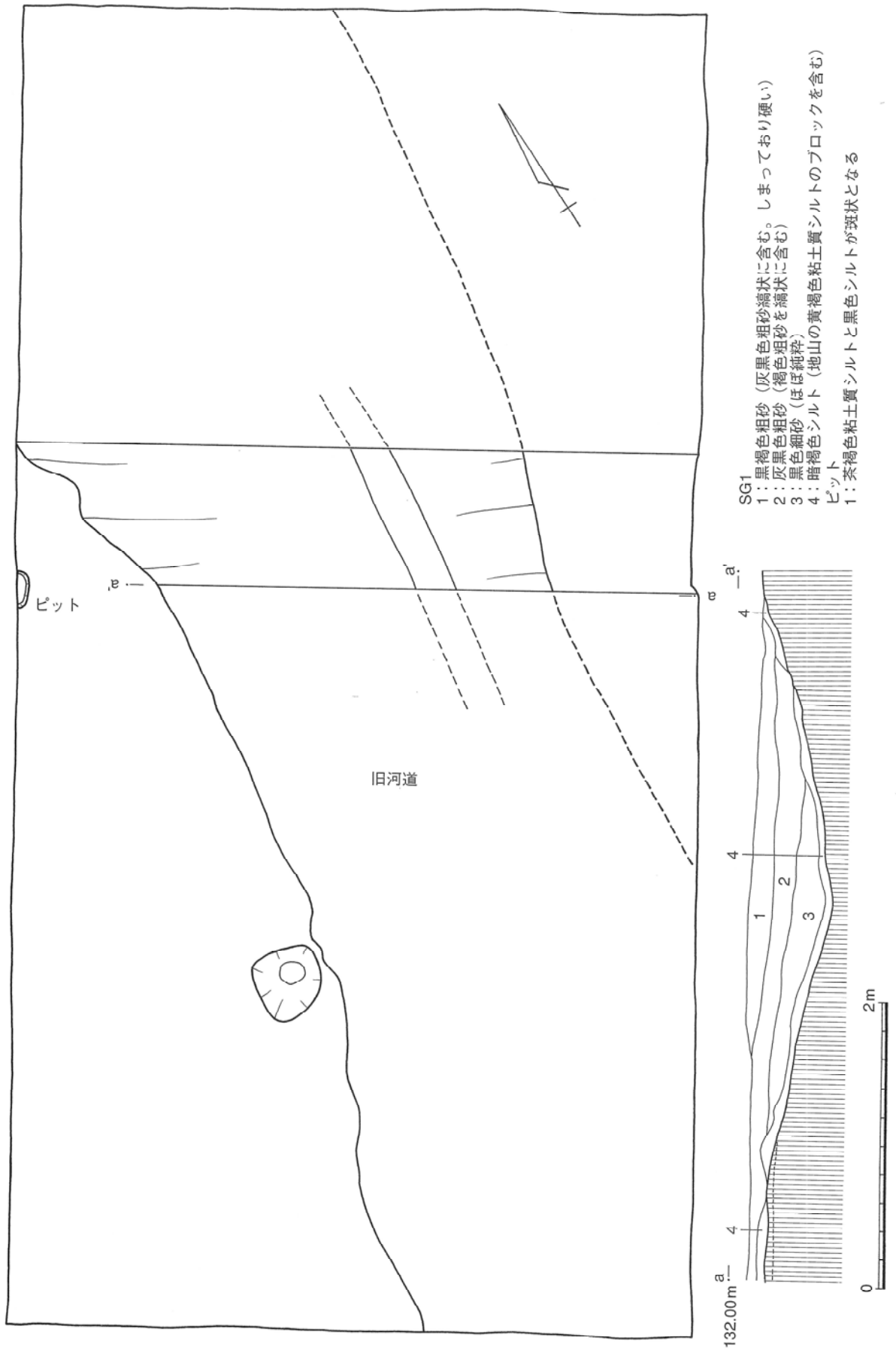
SK 3、4、5、6、7

SK 3、4、5、6の各土坑はガラス片や現代の陶器を含む、現代のゴミ穴である。

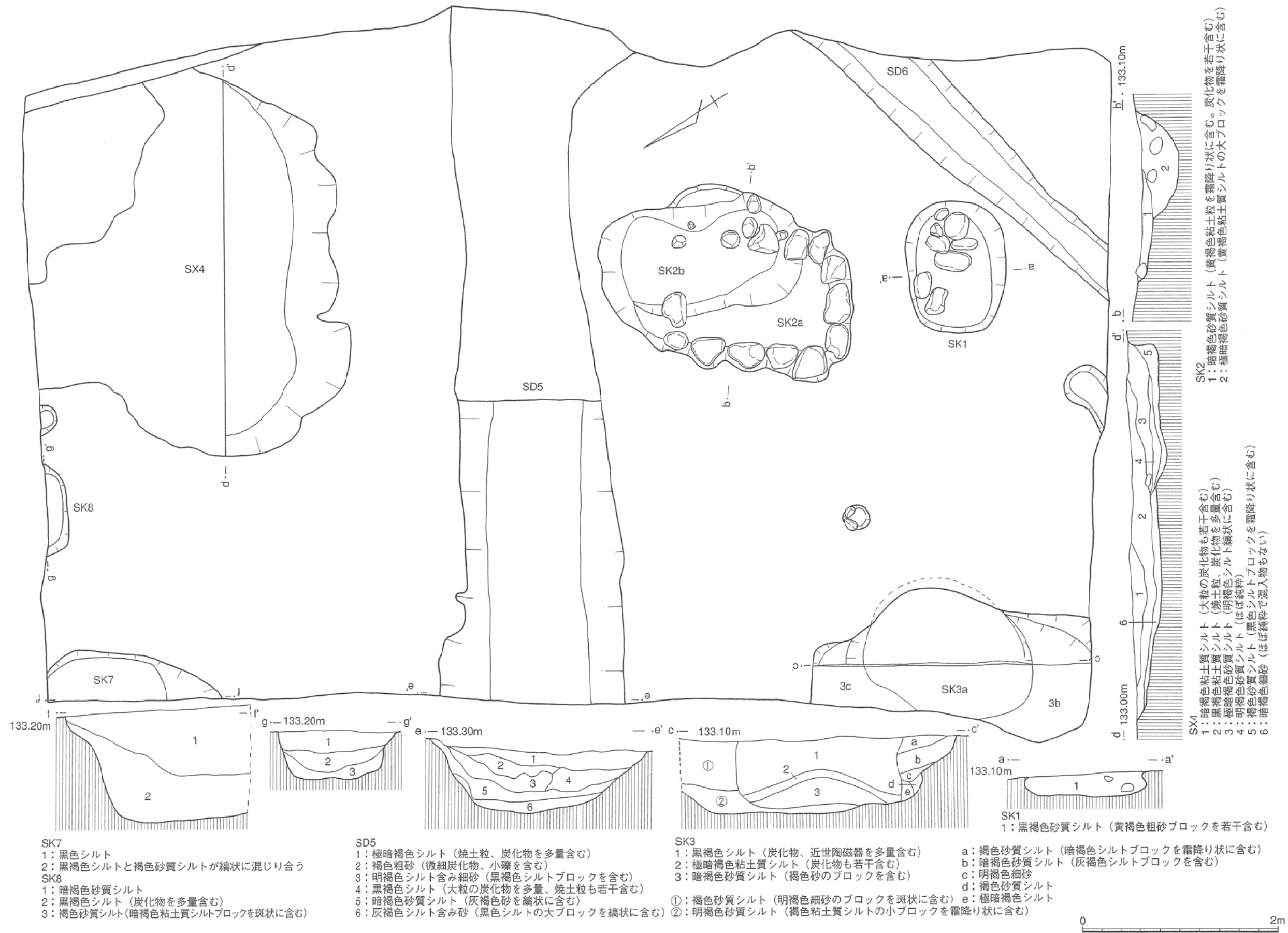
SK 7は深さ10cmの土坑である。須恵器壺1点が出土したが、時期は近世以降であろう。



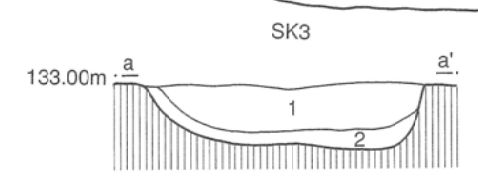
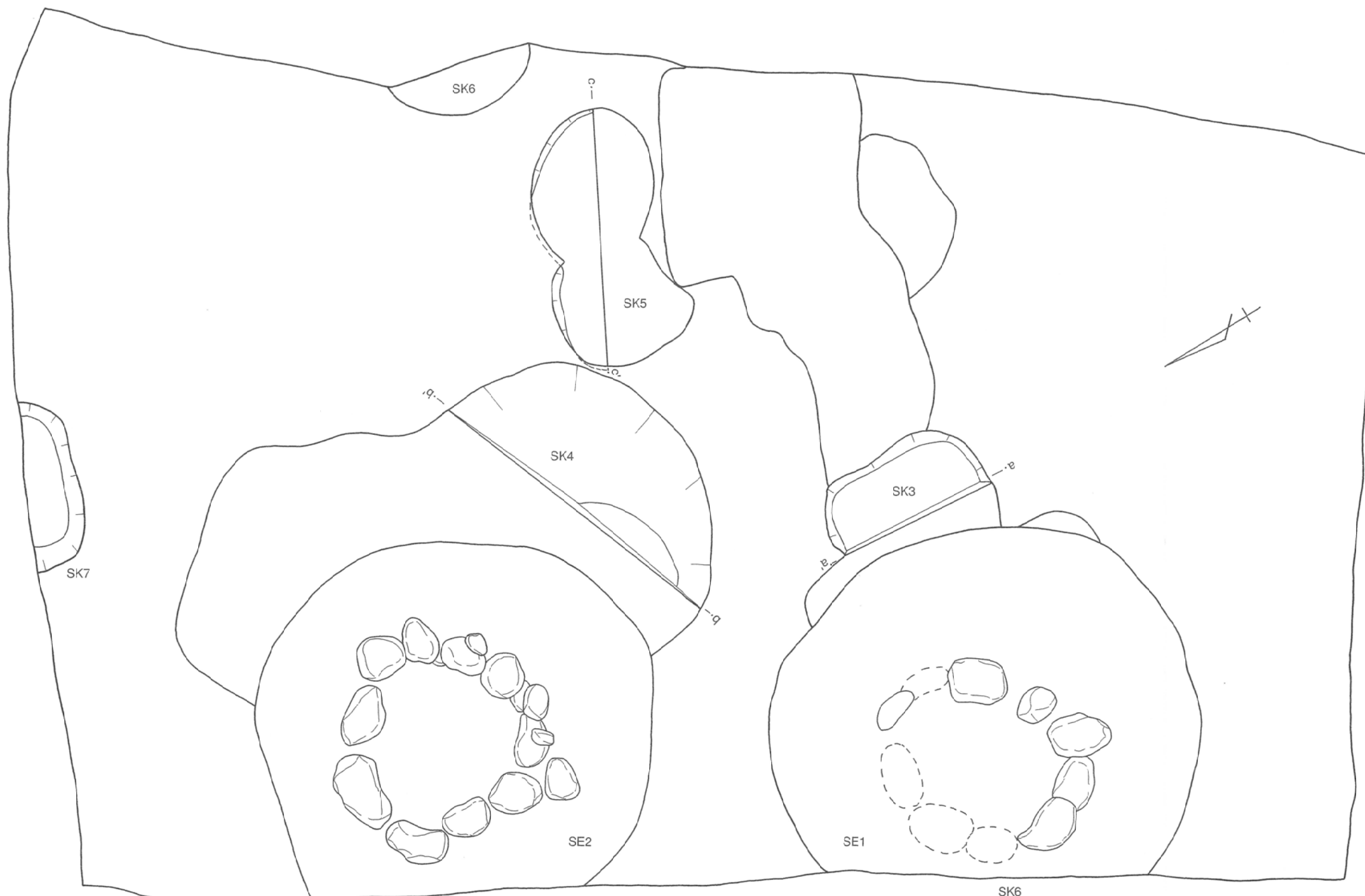
第64図 山形城三の丸跡西4トレンチ断面図(2)



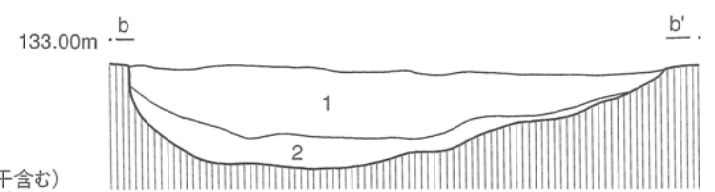
第65図 山形城三の丸跡東1 トレンチ平面図・断面図



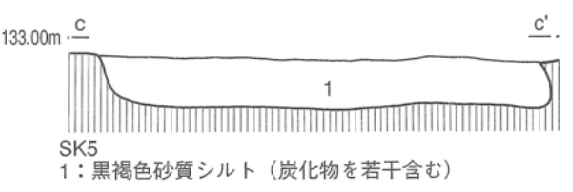
第66図 山形城三の丸跡東2 トレンチ平面図・断面図



SK3
 1: 黒褐色砂質シルト (大粒の炭化物、粗砂、焼土粒を若干含む)
 2: 黄褐色粗砂 (暗褐色シルトブロックを霜降り状に含む)



SK4
 1: 黒色砂質シルト (大量の炭化物、焼土を含む。下底部に灰黄褐色シルトの大ブロックと炭化物層を含む)
 2: 黒褐色シルト (大粒の焼土、炭化物を多量含む)



SK5
 1: 黒褐色砂質シルト (炭化物を若干含む)

SK6
 1: 褐色砂質シルト (黒色シルトブロックを含み、大量の近・現代陶磁器を含む)
 SK7
 1: 暗褐色砂質シルト (炭化物、焼土粒を含む)
 SE1
 掘り方: 黒褐色礫混じり砂質シルト
 内 部: 現代陶磁器、瓦を含む暗褐色砂質シルト
 SE2
 掘り方: 暗褐色粗砂、礫混じりシルト
 内 部: ガラスを含む暗褐色砂礫



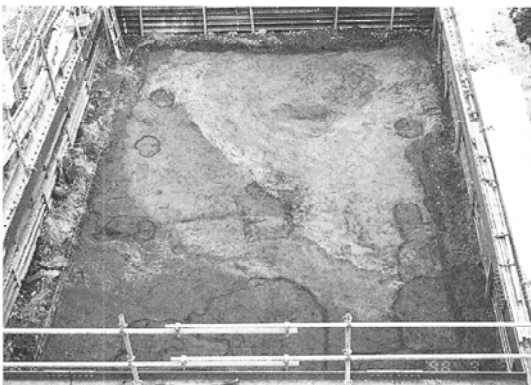
第67図 山形城三の丸跡東3トレンチ平面図・断面図



西1T 調査区近景（東北東から）



西1T 表土除去状況（北から）



西1T 遺構検出状況（北から）



西1T 遺構検出状況（南東から）



西1T 遺構精査状況（南西から）



西1T SK1土層断面（南から）



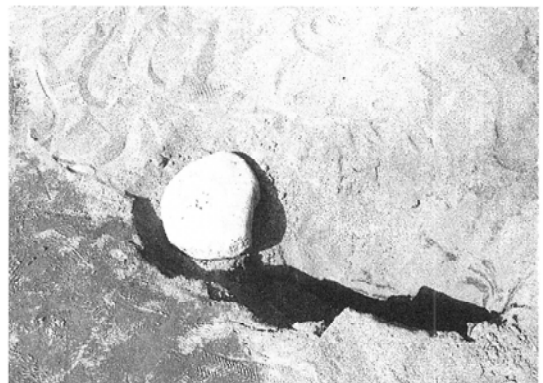
西1T SD3土層断面（東から）



西1T SK2土層断面（南東から）



西1T SB5 EB1完掘 (南から)



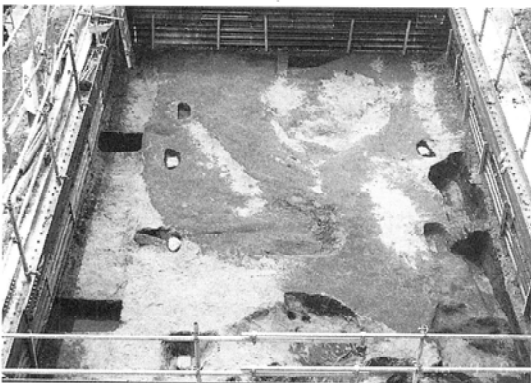
西1T SB5 EB2完掘 (南から)



西1T SB5 EB3完掘 (南から)



西1T SB5 EB4完掘 (南から)



西1T 完掘状況 (北から)



西2T 表土除去状況 (北西から)



西2T 遺構検出状況 (北から)



西2T SE1検出状況 (南東から)



西2T SE1精査状況(東から)



西2T SE1完掘状況(北から)



西2T SX3土層断面(西から)



西2T SX3完掘状況(北東から)



西2T SD2土層断面(西から)



西2T SD2完掘状況(西から)



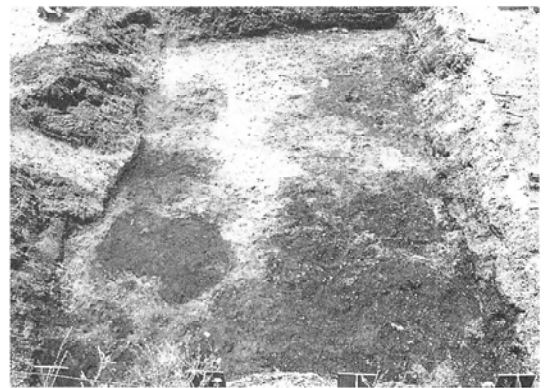
西2T SE1、SD2・3完掘状況(南東から)



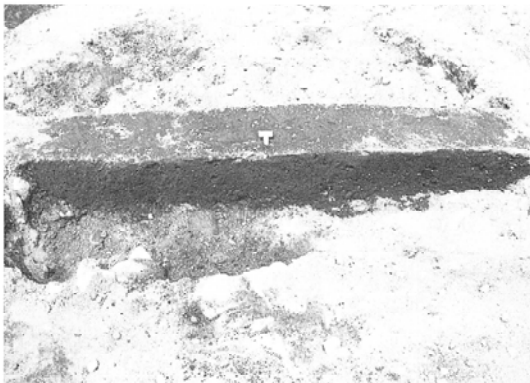
西2T 完掘状況(北から)



西3 T 遺構検出作業 (北西から)



西3 T 遺構検出状況 (北から)



西3 T SK201 土層断面 (西から)



西3 T SK202 土層断面 (南から)



西3 T SE206 精査状況 (北東から)



西3 T SE206 完掘状況 (北から)



西3 T 完掘状況 (北西から)



西3 T 完掘状況 (北から)



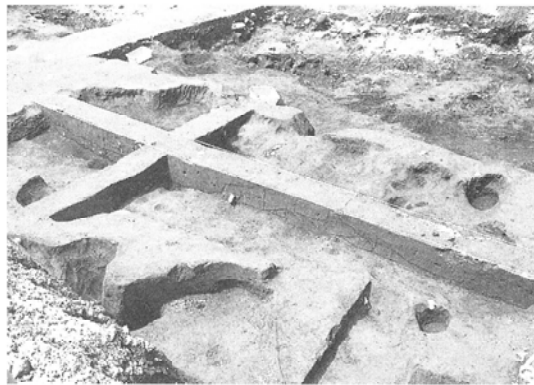
西4 T 遺構検出状況 (北東から)



西4 T 精査状況 (北東から)



西4 T S D 301・304 土層断面 (南から)



西4 T S X 302・303 土層断面 (北東から)



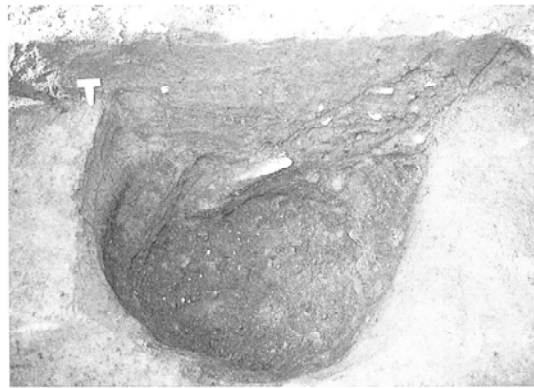
西4 T S D 301 かわらけ出土状況 (西から)



西4 T S K 305 土層断面 (西から)



西4 T 実測風景 (北東から)



西4 T S K 313 土層断面 (南から)



西4 T S D 301・314 完掘状況 (北東から)



西4 T S X 302・303 完掘状況 (南から)



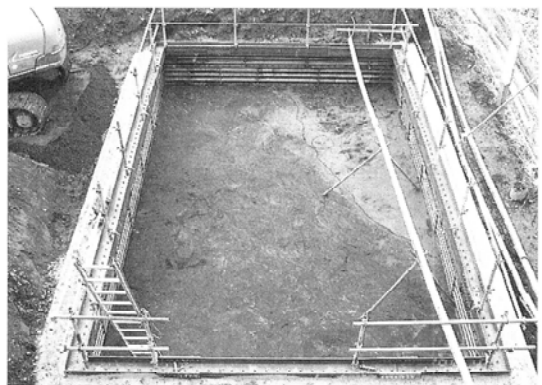
西4 T S K 312・313 完掘状況 (東から)



西4 T 完掘状況 (北東から)



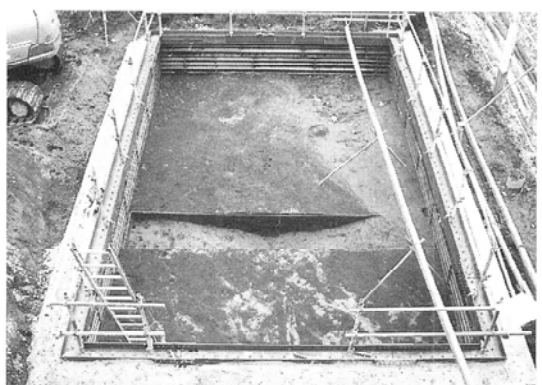
東1 T 面整理事業 (北から)



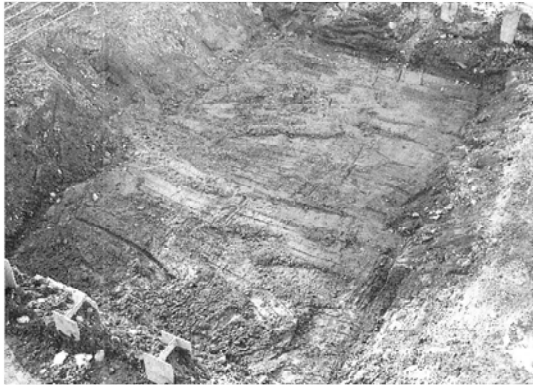
東1 T 旧河道検出状況 (北から)



東1 T 旧河道土層断面 (北西から)



東1 T 調査終了時全景 (北から)



東2T 表土除去終了(北西から)



東2T 遺構検出状況(北から)



東2T SX4検出状況(北から)



東2T SK1・2他検出状況(南東から)



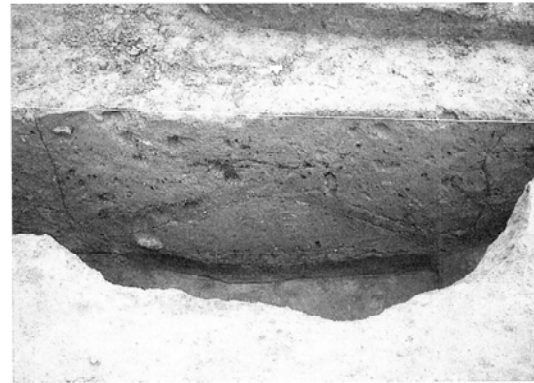
東2T SK3検出状況(南東から)



東2T SK1土層断面(東から)



東2T SK2土層断面(南から)



東2T SK3土層断面(東から)



東2T SX4土層断面（南西から）



東2T SD5土層断面（東から）



東2T SK7土層断面（東から）



東2T SK8土層断面（南から）



東2T 調査終了時全景（北から）



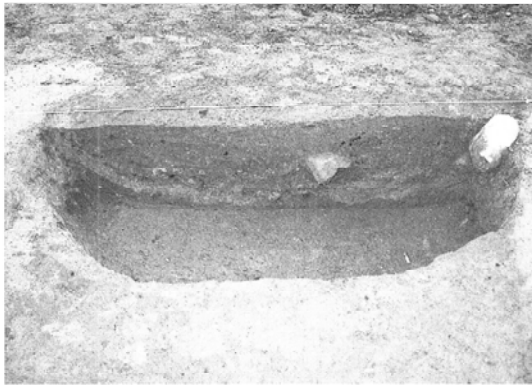
東3T 遺構検出状況（北東から）



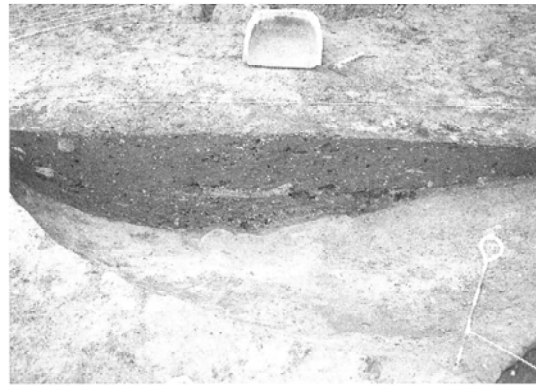
東3T 遺構検出状況（北西から）



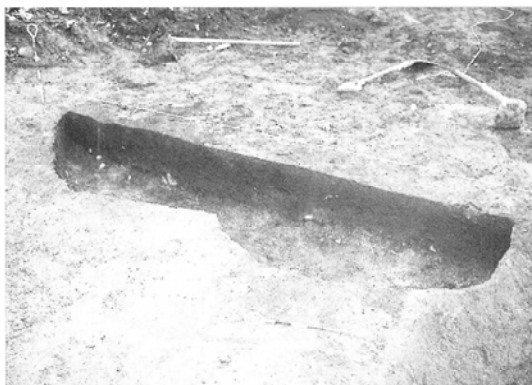
東3T SE1掘り下げ状況（北から）



東3T SK3土層断面(東から)



東3T SK4土層断面(南から)



東3T SK5土層断面(北から)



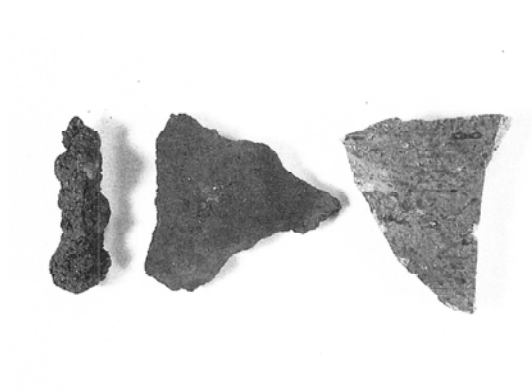
東3T 調査終了全景(北東から)



出土遺物(西1T SK1)



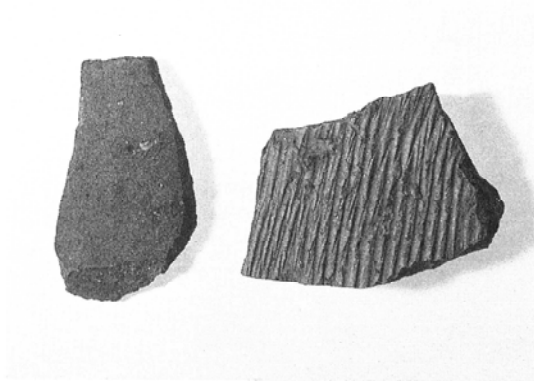
出土遺物(西1T SK2)



出土遺物(西1T SD3)



出土遺物(西1T SK6F2)



出土遺物 (西1T 包含層)



出土遺物 (西2T SE1)



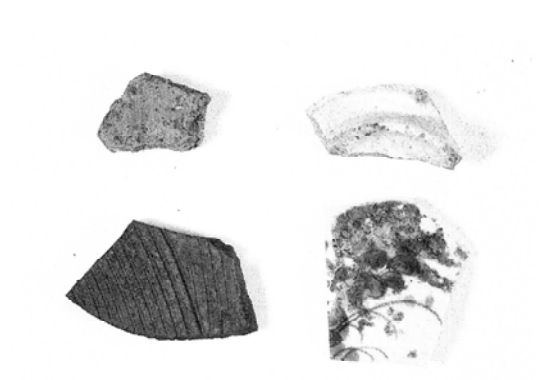
出土遺物 (西2T SD2)



出土遺物 (西2T SX3F)



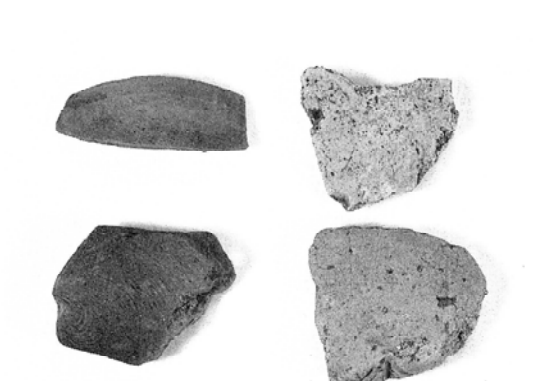
出土遺物 (西3T SK201)



出土遺物 (西3T SK202)



出土遺物 (西3T SX205)



出土遺物 (西4T SD301)



出土遺物 (西4 T S D 301)



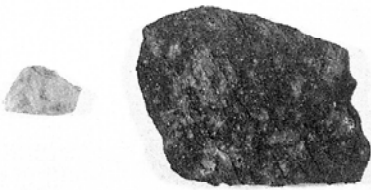
出土遺物 (西4 T S D 301)



出土遺物 (西4 T S X 302)



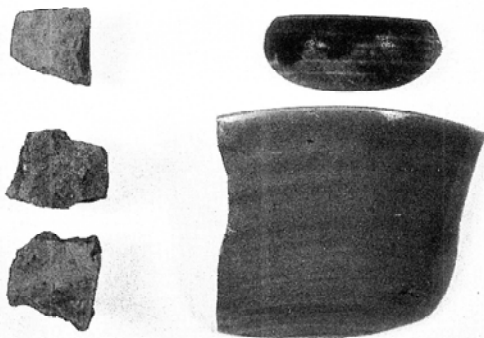
出土遺物 (西4 T S K 310)



出土遺物 (西4 T S K 311)



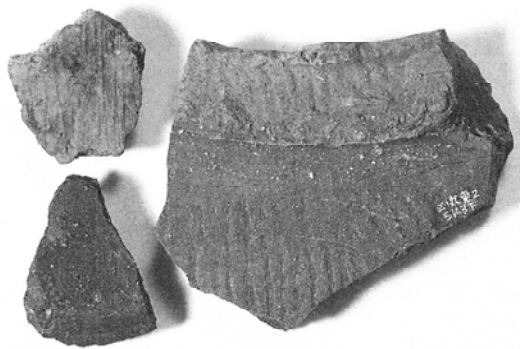
出土遺物 (西4 T S K 314)



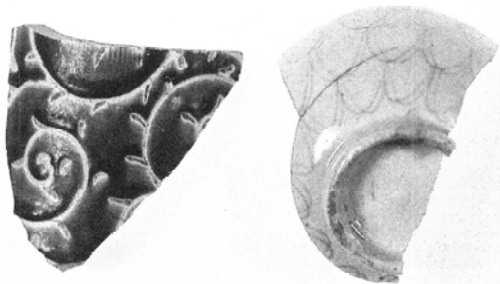
出土遺物 (東2 T S K 1)



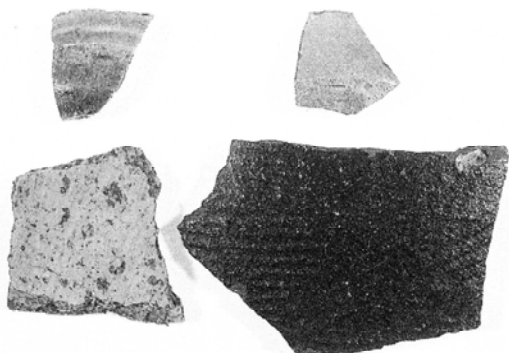
出土遺物 (東2 T S K 2)



出土遺物 (東2T SK3)



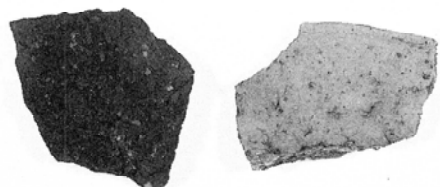
出土遺物 (東2T SK3)



出土遺物 (東2T SX4)



出土遺物 (東2T SD5F)



出土遺物 (東2T SK6F)



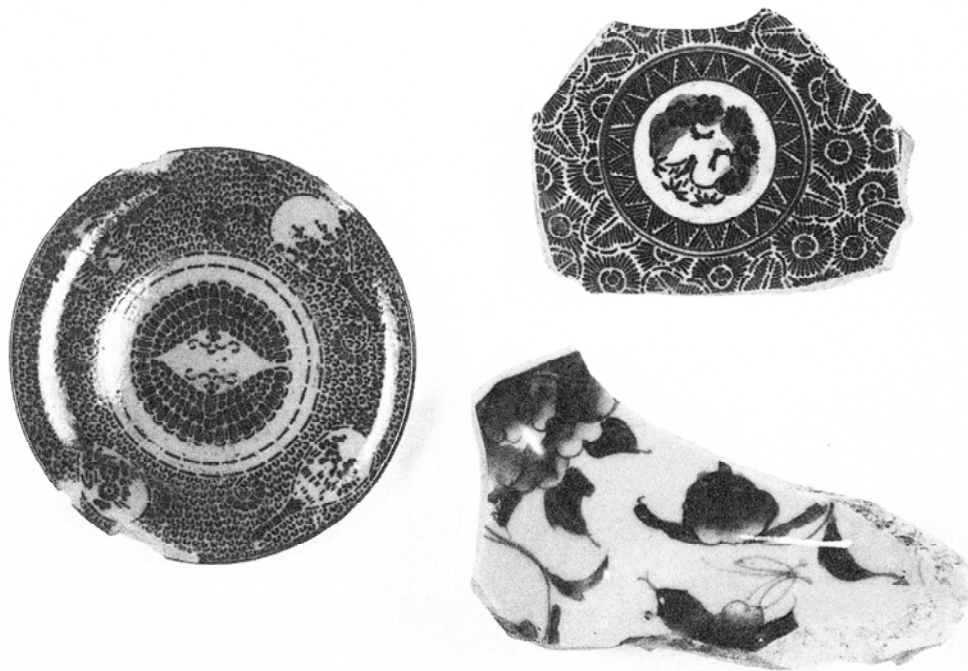
出土遺物 (東2T SK7F)



出土遺物 (東3T SE1)



出土遺物 (東3T SK4F)



出土遺物（東3T）



出土遺物（東3T）

おおたる
(4)大樽遺跡 (米沢市遺跡地図G-150)

所在地 山形県米沢市館山4丁目ほか

調査員 渋谷孝雄

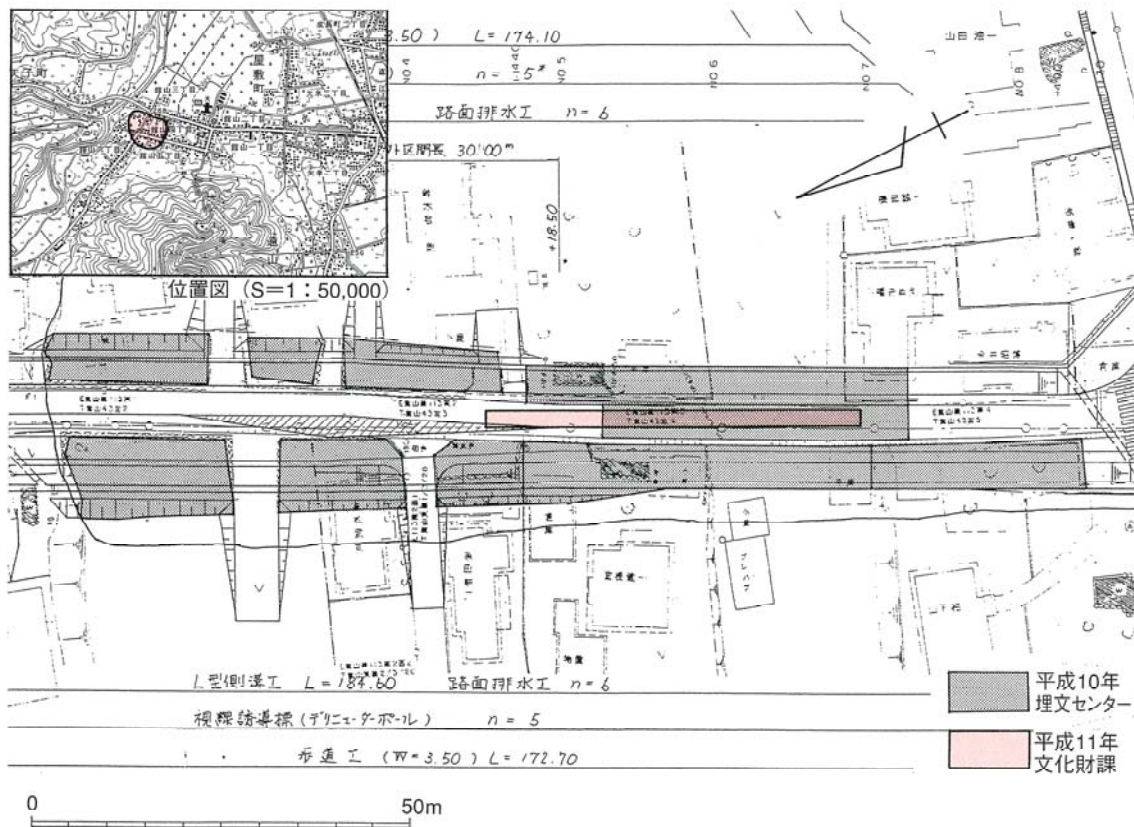
調査協力 黒坂雅人 (財)山形県埋蔵文化財センター

調査期日 平成11年6月21~29日 (実質7日間)

起回事業 一般県道綱木西米沢停車場線道路改良

遺跡環境 J R米坂線西米沢駅の西南西約1.4kmに位置し、大樽川右岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡を含む範囲内で中世の館山平城が登録されており、遺跡の近くには国指定史跡「一ノ坂遺跡」、館山a~d遺跡等の縄文時代の遺跡が数多く所在している。

調査の経過 今回の道路改良事業に伴い、本線部分は県教育委員会で、事業に伴う移転宅地については米沢市教育委員会でそれぞれ担当することとなった。県教委では平成9年度に事業実施予定地のうち、用地その他の状況から調査が可能な場所に4ヶ所の試掘溝を設定して、試掘調査を行った。この結果、宅地内では現代の攪乱も認められたが、縄文時代後期の遺構と遺物が多数発見された。この調査資料を基にした協議により、平成10年度に(財)山形県埋蔵文化財センターに委託して緊急発掘調査を実施することとなった。発掘調査は平成10年9月7日~11月13日まで行われ、縄文時代前期、中期、後期の土坑と後期前半を中心に早期から後期中葉までの縄文土器が出土している。また、中世の堀跡1条と墓壙2基も検出された(國井1999)。



第68図 大樽遺跡概要図

この調査では、現道部分の通行止めができなかったため、その部分の調査は11年度に繰り越されることとなった。現道部分には水道管の埋設など、過去の工事によって、破壊されてしまった部分も多いとの見方もあったため、この部分の工事に際して、米沢建設事務所の協力を得て、文化財課直営で調査を行うことになったものである。

調査は6月21日の路床の砂利撤去に始まった。包含層や遺構が残っていると判断された地区の北側から開始し、現道内では幅約2mの部分に破壊を受けずに残っていることが判明した。調査は5m毎に区切った調査区とし、これを単位として路床の撤去、包含層の掘り下げ、遺構の確認、遺構の精査、記録の作成という順番で作業を進め、6月29日までの実質7日間で、延長50mの区間の調査を行った。

調査の結果 今回の調査では土坑14基、埋設土器、ピットなどの遺構が検出され、遺構内や包含層から整理箱に8箱相当の縄文土器や石器が出土した。以下に検出遺構と出土した遺物についてその概要を述べる。

基本層序 (第69図)

調査区の南端から南は自然地形で一段高くなることが判明し、これより北の部分では路床の砂礫(水道管理め土と同様)の下位にⅡ～Ⅶ層の黒系統の土層が続き、Ⅷ層で遺構の確認面となる小礫を含む暗褐色砂質シルトとなることが確認された。但し、Ⅳ～Ⅶ層には遺物が含まれていない。

遺構と遺物の分布 (第69図)

土坑の分布は1～6区までで、7～10区には柱穴と埋設土器が存在する。また、7区には東西に走る攪乱部が存在する。遺物は各区の包含層と遺構からも出土したが、その多くは8～10区の遺物包含層から集中して出土している。

土坑と出土遺物 (第70～73図)

S K 1

1・2区で検出した径160cm程の不整円形の土坑である。部分的に袋状となる。堆積土は4層に分かれ、空洞部も認められた。近世の陶器が出土している。

S K 2

2区で検出した口径80～90の略円形の袋状土坑である。深さは27cm、堆積土は6層に分かれる。第72図1～6に示した縄文時代中期末、後期初頭～前半の土器が出土している。

S K 3

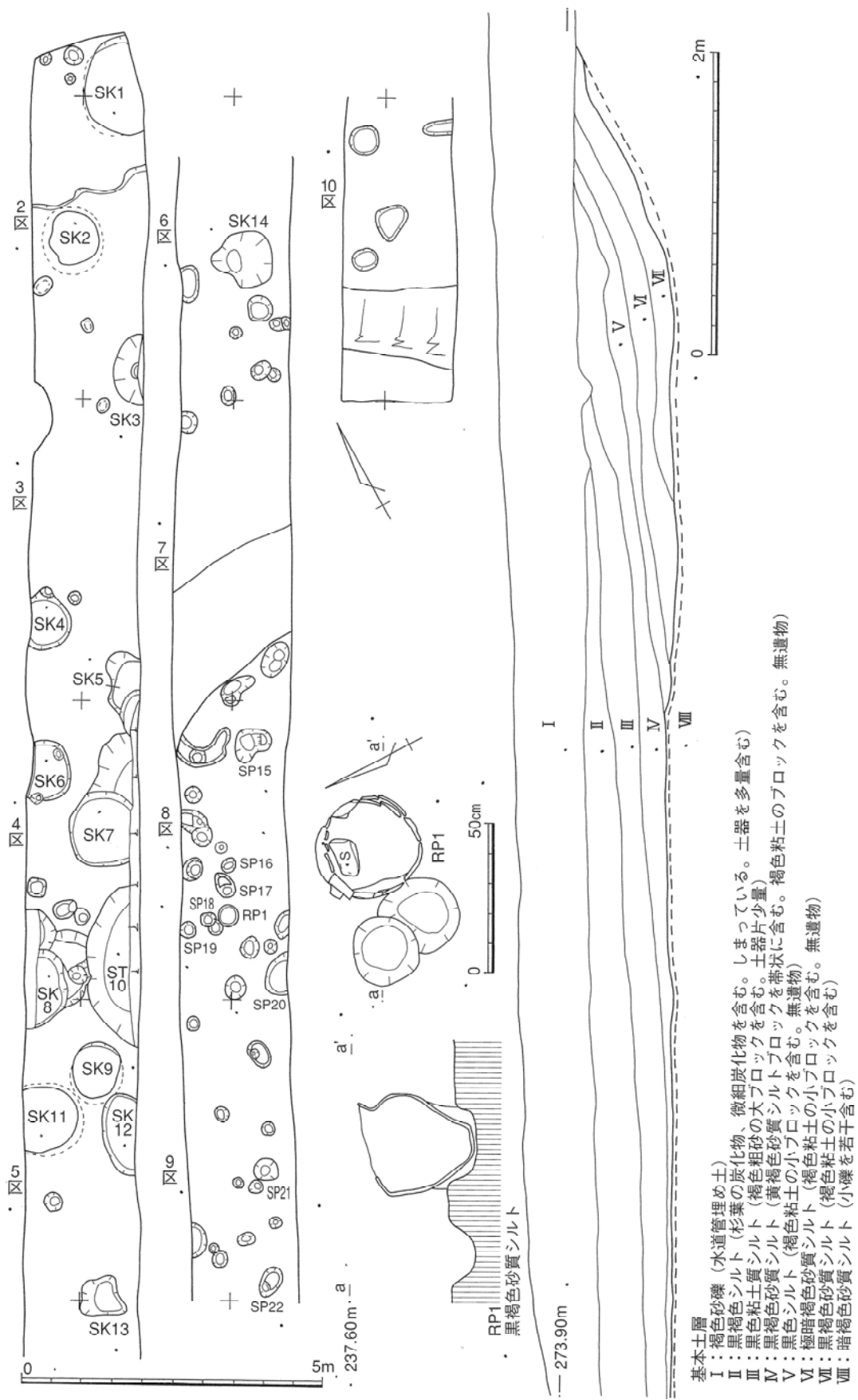
2区で検出した。径115cm以上で底面の中央が一段低くなっている。深さは16cm、一段低い部分で27cmを測る。堆積土は3層に分かれる。後期前半の土器が出土している(7・8)。

S K 4

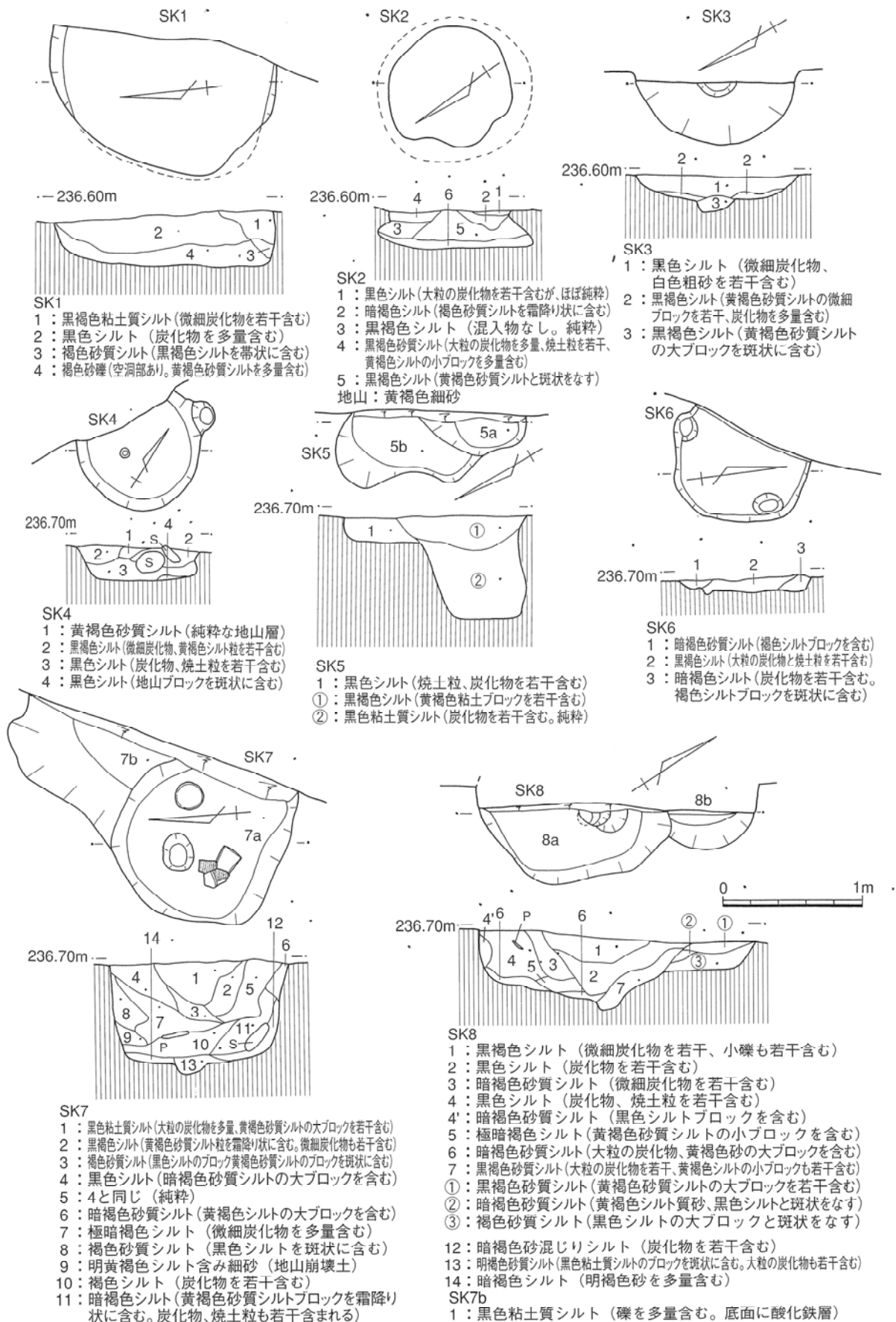
3区で検出した。径90cm前後の円形プラン、確認面からの深さは24cmで、堆積土は4層に分かれる。中期中葉(10・12)、中期末葉(13)、後期前葉(9・11)の土器が出土している。

S K 5

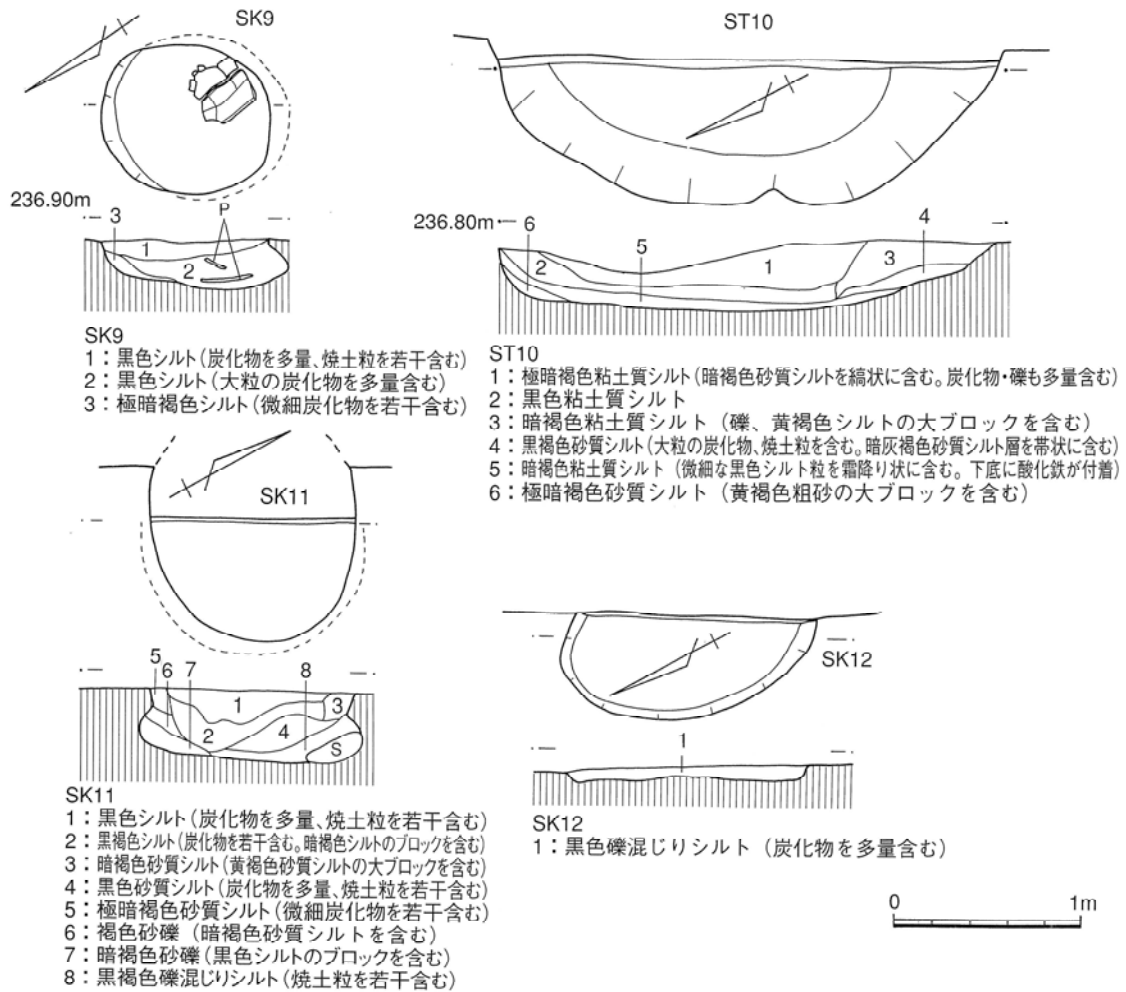
3・4区の東壁寄りで検出した。深さ17cmの浅い土坑(b)と、これを切る深さ73cmの深



第69図 大樽遺跡遺構配置図他



第70図 大樽遺跡検出遺構平面図・断面図 (1)



第71図 大樽遺跡検出遺構平面図・断面図 (2)

い土坑(a)が切り合っている。遺物は出土していない。

SK 6

4区の西壁で検出した。一辺80cmほどの隅丸方形のプランを持つ。確認面からの深さは10cm未満で、底面に2基のピットが検出された。遺物の出土はない。

SK 7

4区で検出された。浅い土坑(b)と、それを切る深い土坑(a)で、7 aは径125cm前後の略円形のプランを持ち、確認面からの深さは70cm、底面にピットが認められる。堆積土は14層に分かれ、下層の10層を中心に多くの土器が出土している。後期初頭の土器(14~16、17)の他、早期の田戸上層式(17)や中期の大木8 a式(19・20)の土器片も出土している。また、4単位の波状をなす後期初頭の深鉢形土器の一括資料も出土した。

SK 8

4・5区の西壁寄りで検出した土坑である。2基が切り合い、8 aの方が新しい。8 bは直径130cmほどの不整形のプランを持ち、底面中央にピットがある。確認面からの深さは35~40cmを測り、底面は凹凸がある。8 bは深さ20cmに満たない小土坑である。8 aの

堆積土は7層に、8bは3層に分けられた。24は沈線で区画された中に刺突文が認められる中期末葉の土器である。23、25～27は後期前半の土器である。29は網代底である。

S K 9

5区で検出した。南北90cm、東西75cm程の略円形の土坑で、北部を除き袋状となる。確認面からの深さは最深部で26cm、堆積土第2層から一括土器(第73図22)が出土した。バケツ形を呈する器形で口縁下に1条の沈線が巡り、1箇所で渦巻き文が認められる他は不規則な沈線となるラフな作りの後期初頭の土器である。第73図30は中期中葉の土器である。

S K 11

5区の西壁寄りで検出された。開口部は東西120cm以上、南北105cmの楕円形を示す、袋状土坑である。確認面からの深さは38cmを測り、底面はほぼ平坦である。堆積土は7層に分かれる。竹管の押し引きで爪形文を描く前期末の土器(34)や、爪形の刺突文の認められる後期三十稲場式の系譜を受けた土器が出土している。

S K 12

5区の東壁寄りで検出された。南北の長軸が140cm程の楕円形プランの土坑で確認面からの深さは8cmである。遺物は出土していない。

S K 13

5・6区で検出した。一辺60cm、出入りのある不整形の土坑である。確認面からの深さは23cm、堆積土は炭化物を若干、礫を多量含む黒色シルトである。遺物の出土はない。

S K 14

6区で検出した掘り鉢状の落ち込みとなる土坑である。確認面からの深さは40cmで中期中葉の大木8a、8b式の土器(35・36)が出土した。

竪穴住居跡と出土遺物(第71、74図)

S T 10は4・5区の東壁寄りで部分的に検出した落ち込みで底面が平坦になることから、現場段階では小規模な竪穴住居の一部と考えた遺構である。確認面からの深さは35cmを測り、堆積土は6層に分かれる。調査区内ではピット等が確認されていない。文様の明確な土器は出土していないが、地文は後期前半に特徴的なものである(第74図31・32)。

埋設土器(第69、75図)

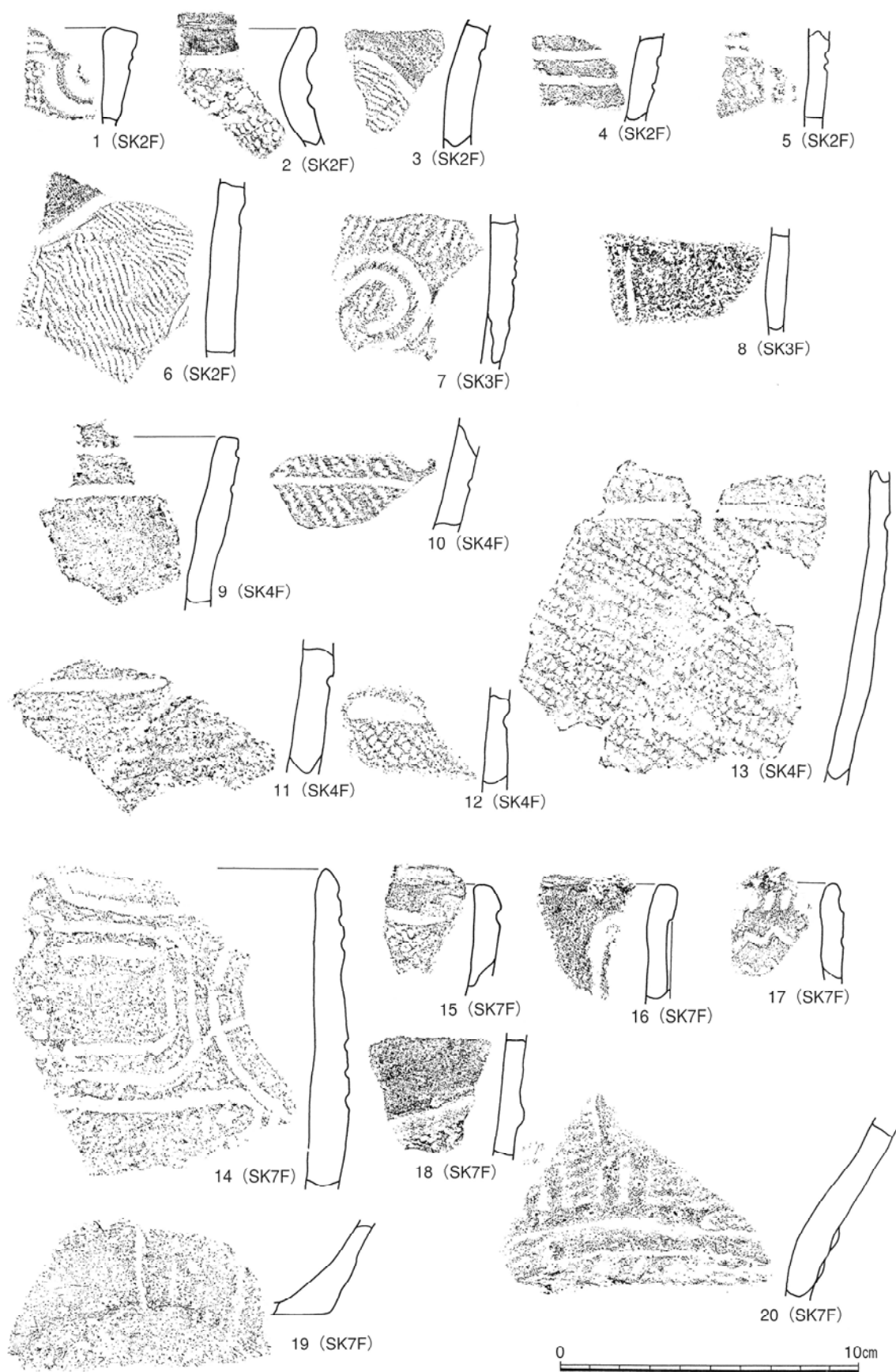
R P 1は8区で検出した埋設土器である。掘り方が認識できず、包含層を掘りきった時点でようやく掘り方が判明した。土器は東北北半の十腰内系の文様を持つ(第75図38)。

包含層の土器(第74、75図)

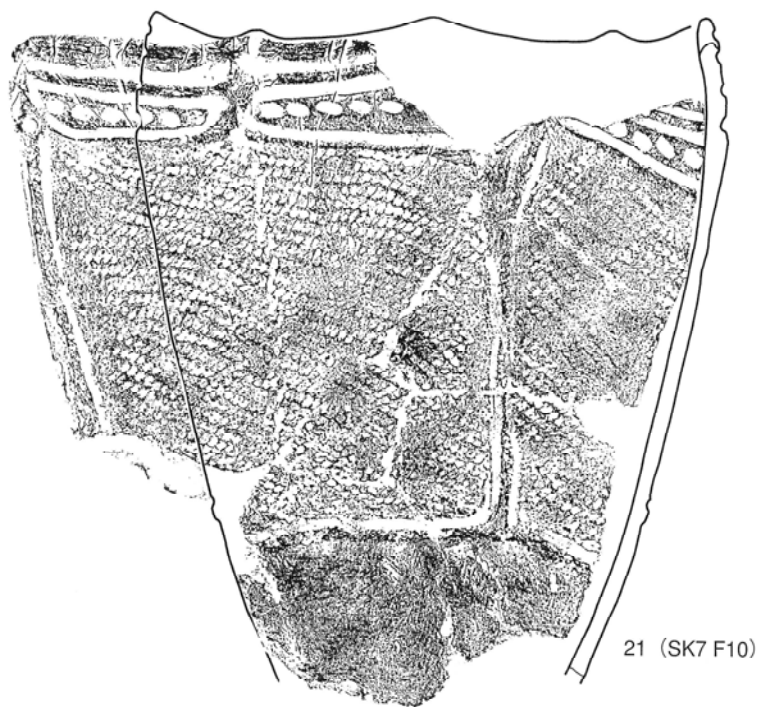
39は前期初頭、40は前期前葉、41・42は前期後葉、43～46は中期中葉、47～58は後期初頭から前葉にかけての土器である。

調査のまとめ

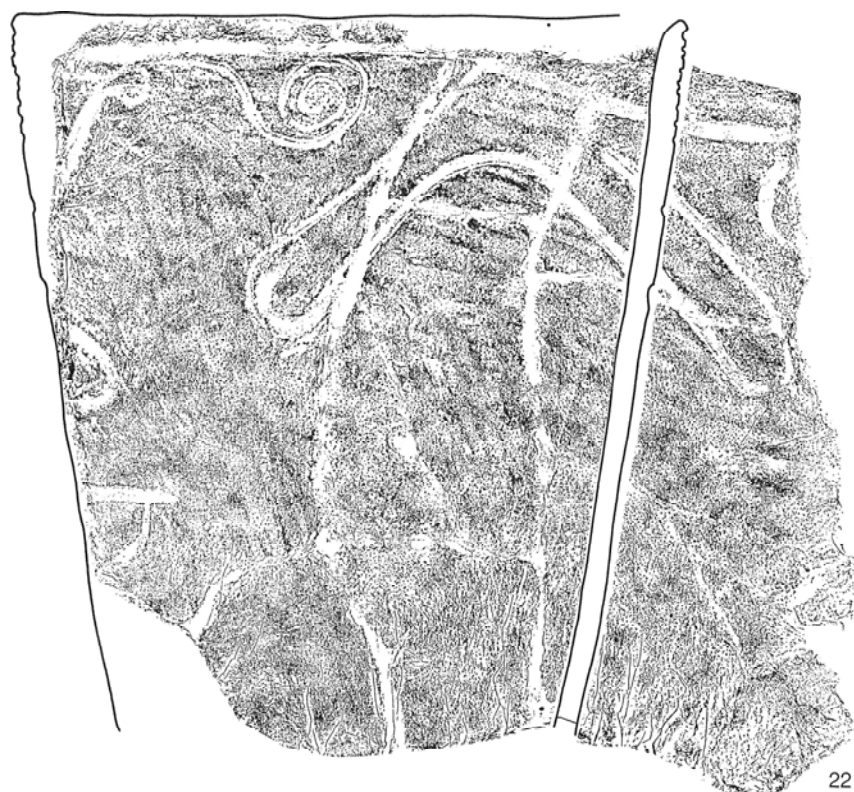
今回の調査では、1基が近世、1基が縄文時代中期の可能性はあるが、多くは縄文時代後期の所産と見られる土坑群が検出された。この中には袋状をなすものも存在した。出土した土器は早期、前期、中期、後期と多彩であるが、後期を除くと再堆積と考えられた。



第72図 大樽遺跡出土土器 (1)



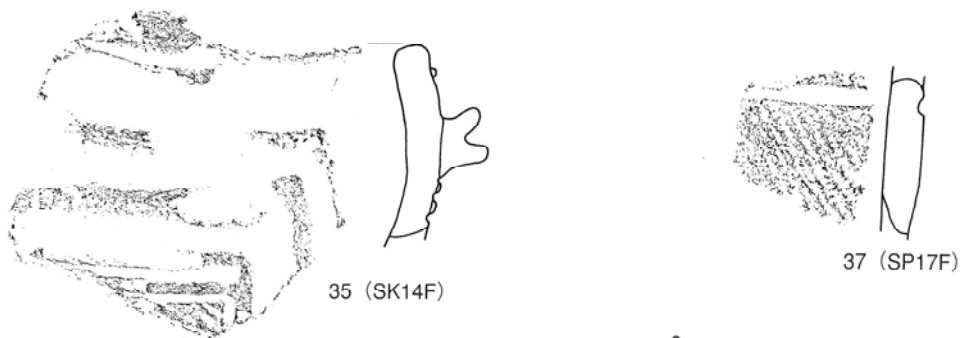
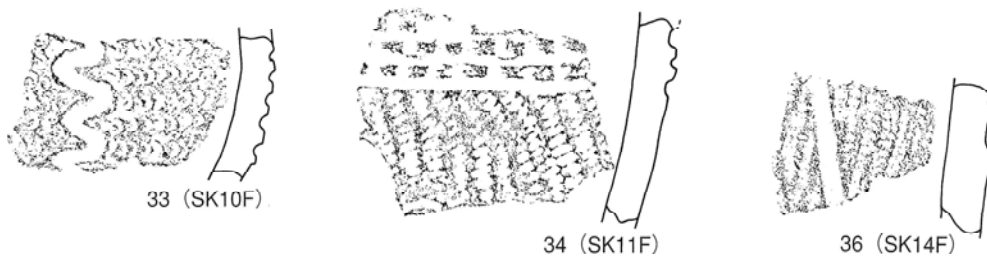
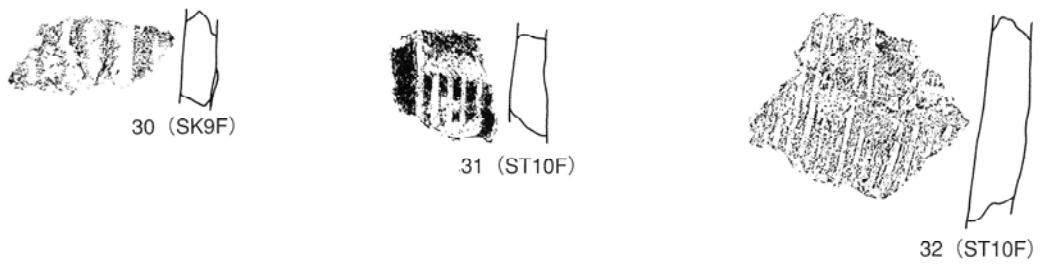
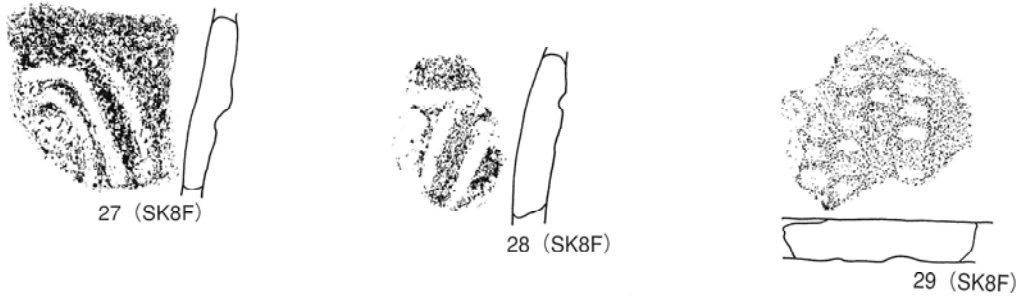
21 (SK7 F10)



22 (SK9)

0 10cm

第73図 大樽遺跡出土土器 (2)

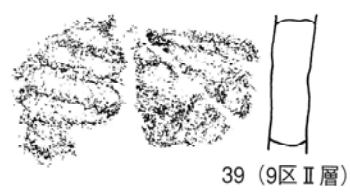


第74図 大樽遺跡出土土器 (3)

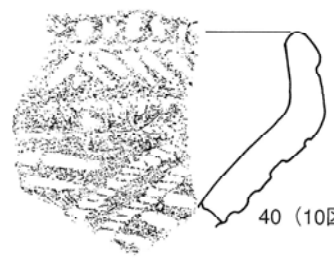


38 (RP1)

0 10cm



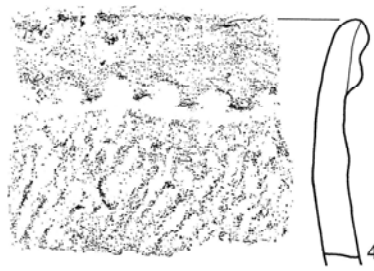
39 (9区II層)



40 (10区II層)



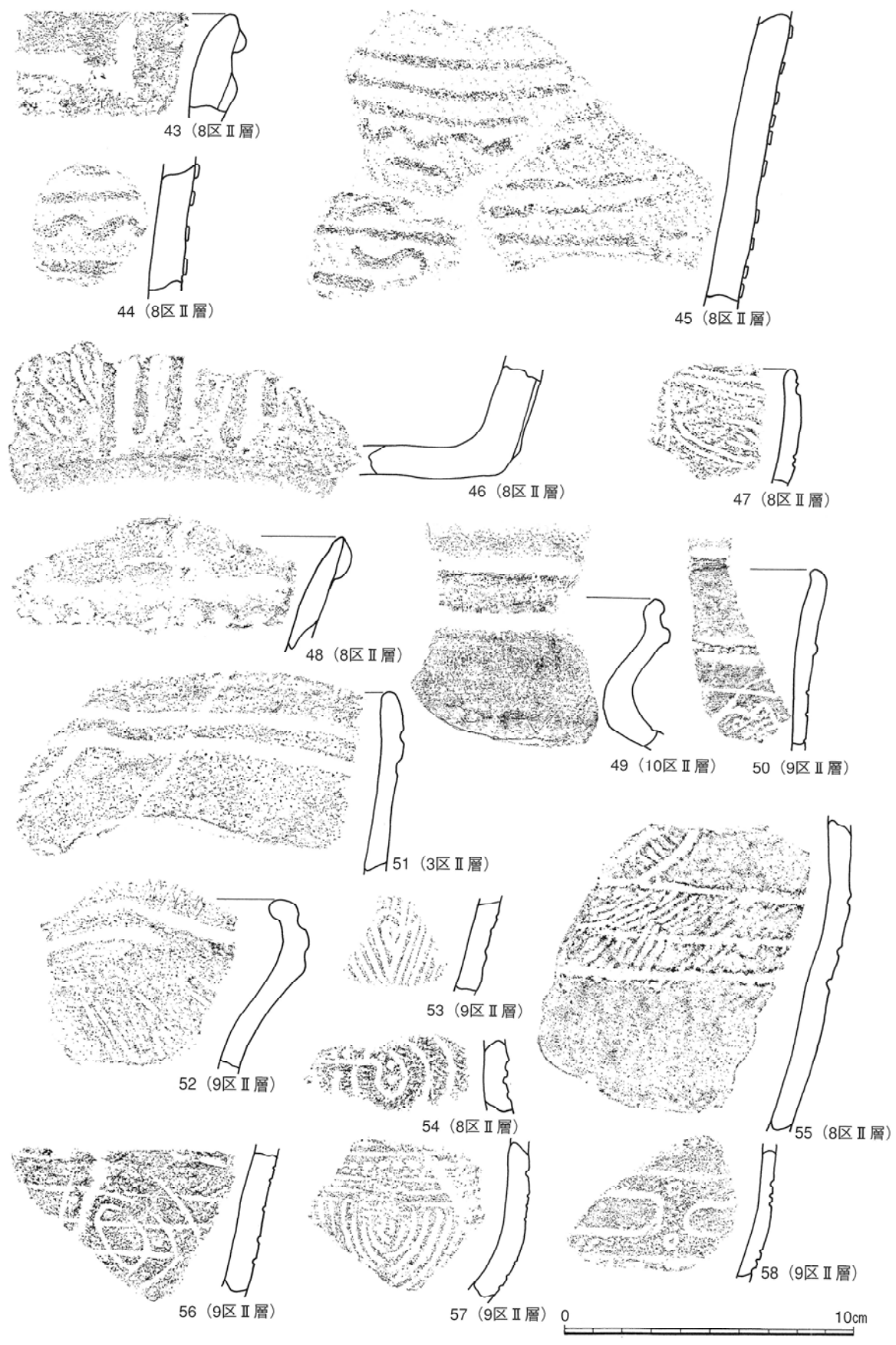
41 (8区II層)



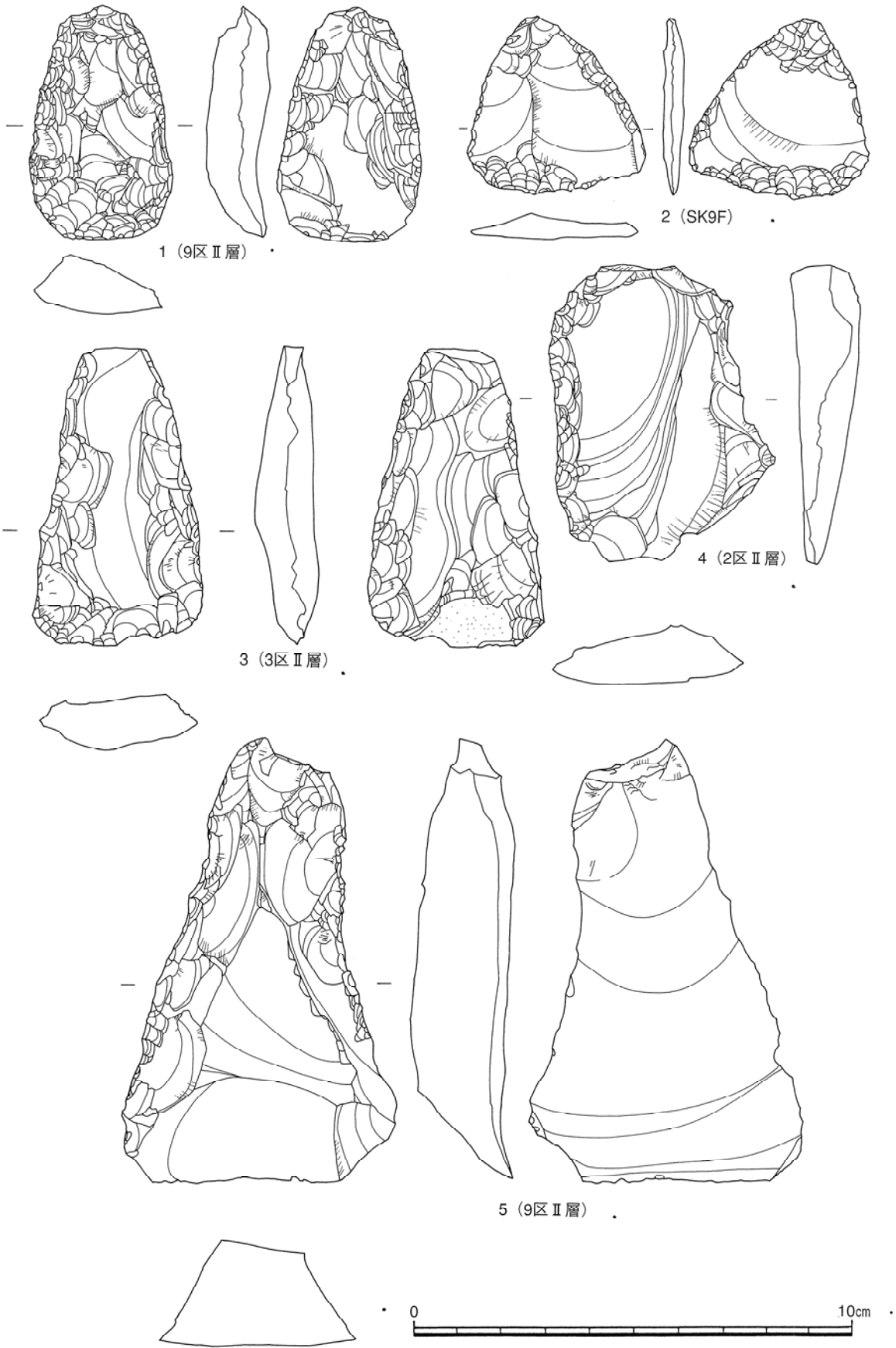
42 (8区II層)

0 10cm

第75図 大樽遺跡出土土器 (4)



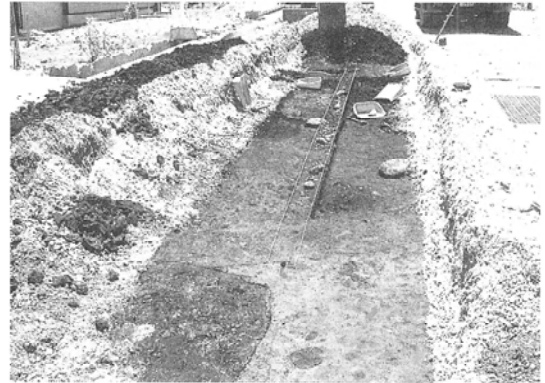
第76図 大樽遺跡出土土器 (5)



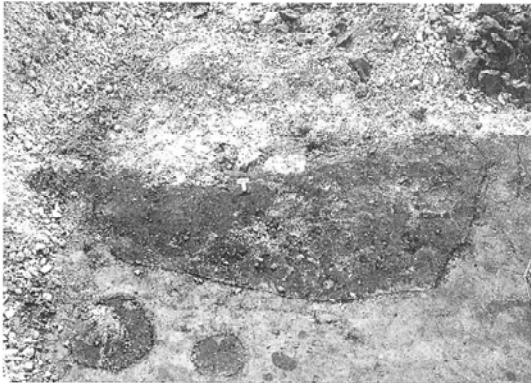
第77図 大樽遺跡出土石器



調査区近景（北から）



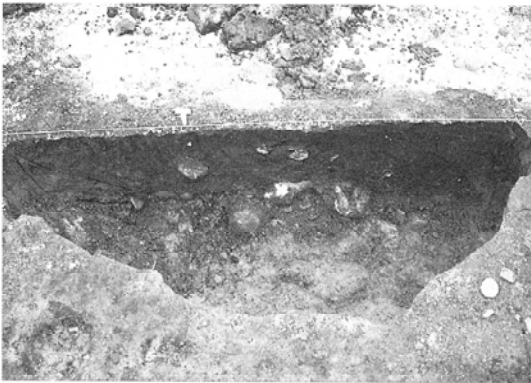
1～2区遺構検出状況（北から）



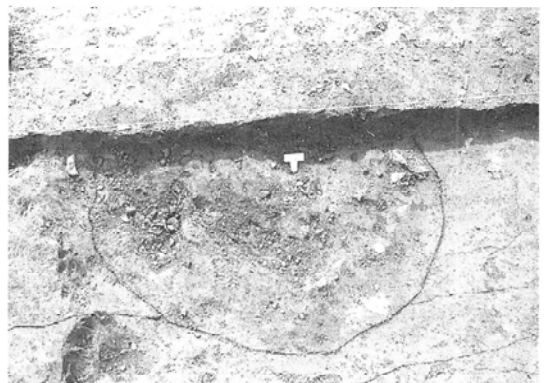
SK 1 検出状況（西から）



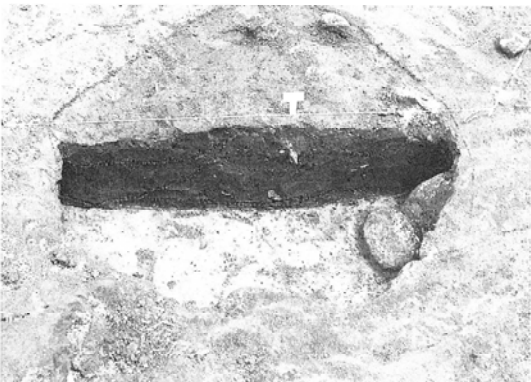
SK 1 漆器断片出土状況（南西から）



SK 1 土層断面（西から）



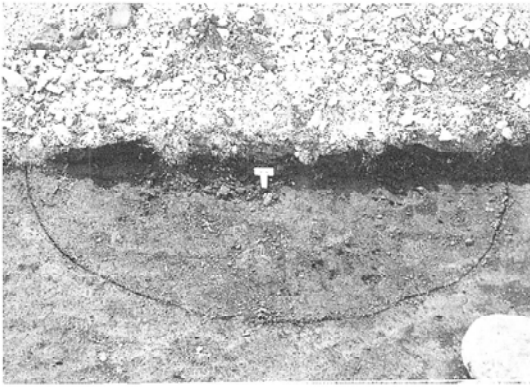
SK 2 検出状況（西から）



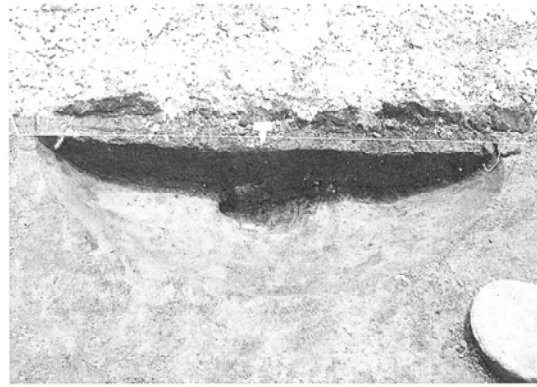
SK 2 土層断面（北西から）



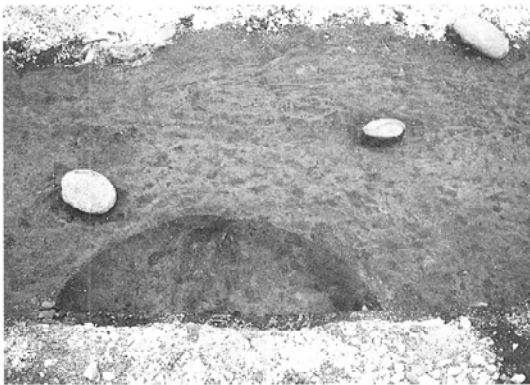
SK 2 完掘状況（西から）



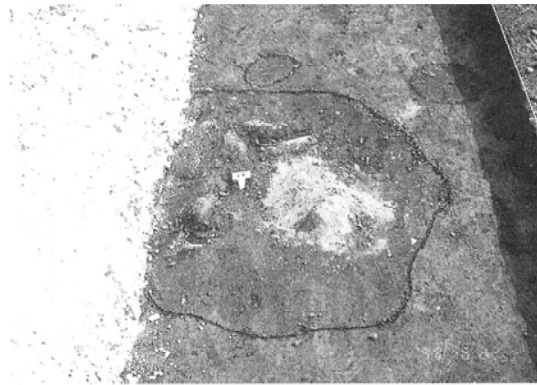
S K 3 検出状況 (西から)



S K 3 土層断面 (西から)



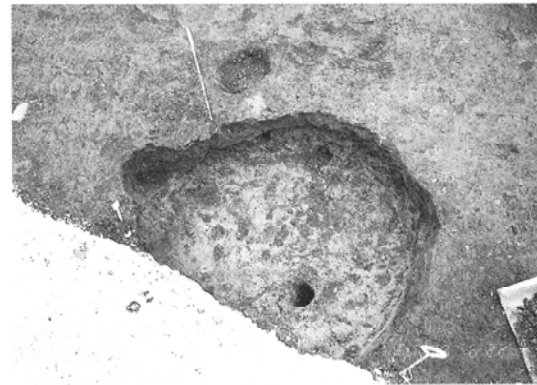
S K 3 完掘状況 (西から)



S K 4 検出状況 (南から)



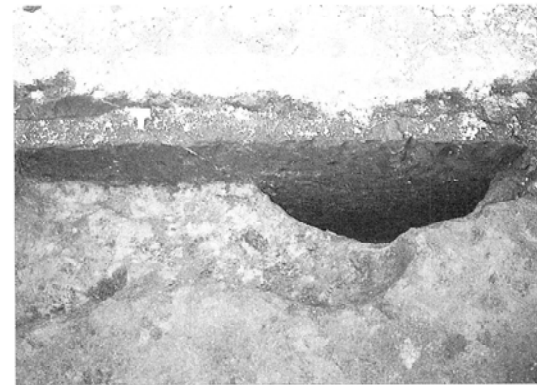
S K 4 土層断面 (南から)



S K 4 完掘状況 (南西から)



S K 5 検出状況 (西から)



S K 5 土層断面 (西から)



1～2区完掘状況（北から）



S K 6 検出状況（南から）



S K 6 土層断面（東から）



S K 6 完掘状況（北から）



S K 7 土層断面（北西から）



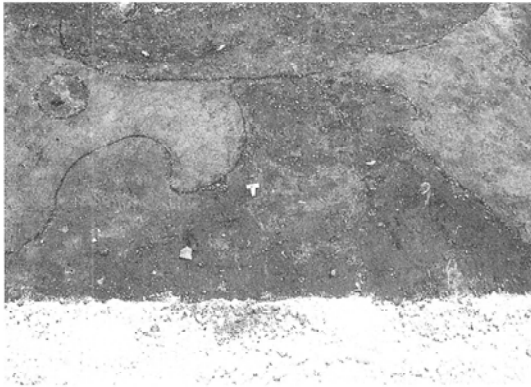
S K 7 一括土器出土状況（西から）



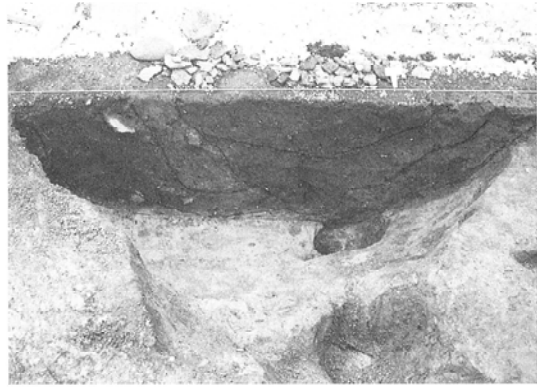
S K 7 a 土層断面（西から）



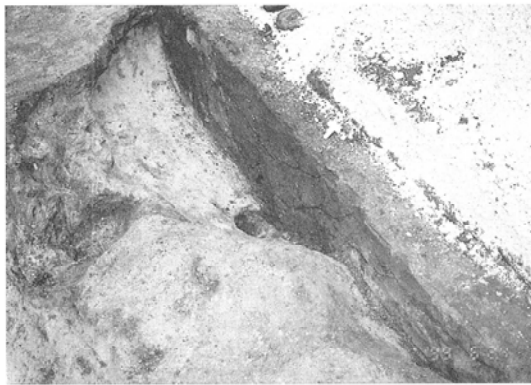
S K 7 完掘状況（北から）



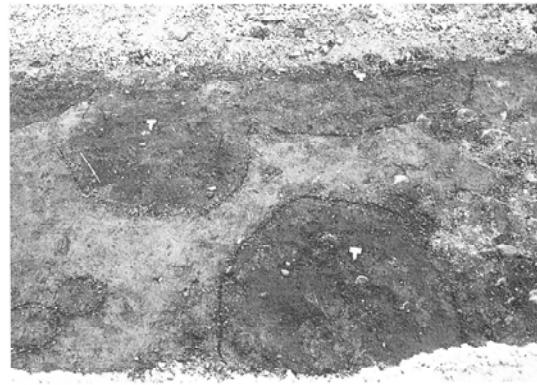
SK 8 検出状況 (西から)



SK 8 a 土層断面 (南東から)



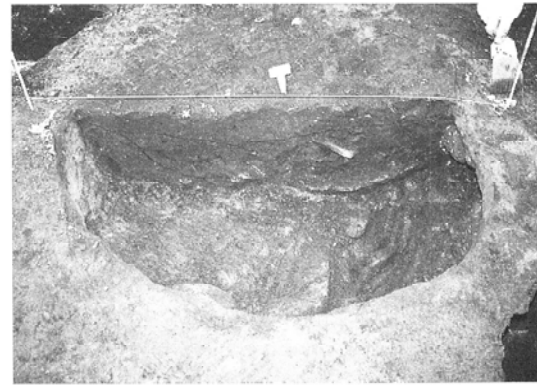
SK 8 土層断面・調査区内完掘状況 (北東から)



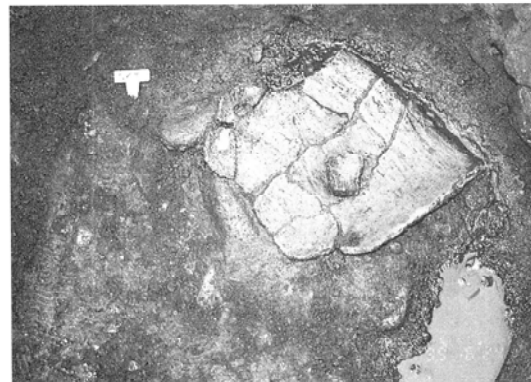
SK 9・11・12 検出状況 (北西から)



SK 9 検出状況 (北西から)



SK 9 土層断面 (北西から)



SK 9 F 2 土器出土状況 (北西から)



SK 9 完掘状況 (南東から)



S T 10 検出状況 (西から)



S T 10 調査区内完掘状況 (北西から)



S T 10 調査区内完掘状況 (北東から)



S K 11 検出状況 (北西から)



S K 11 土層断面 (南東から)



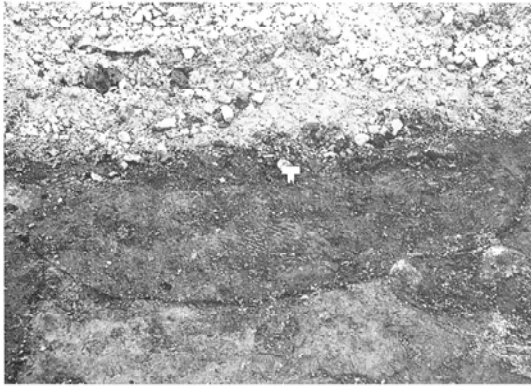
S K 9 ・ 11 ・ 12 完掘状況 (北西から)



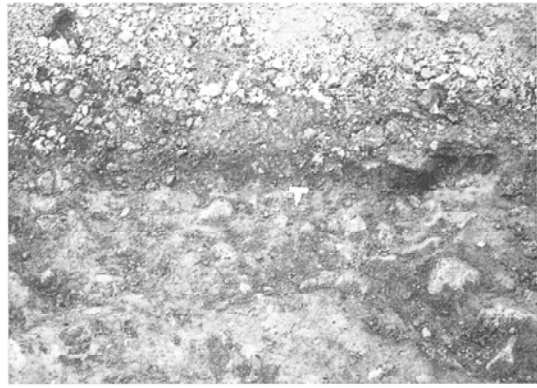
S K 11 完掘状況 (北西から)



S K 5 ～ 8 完掘状況 (北から)



S K12 検出状況（北西から）



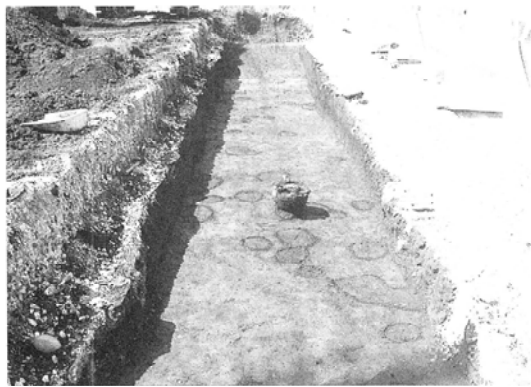
S K12 土層断面（北西から）



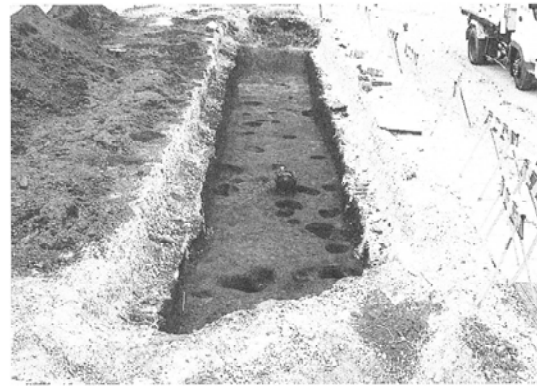
S K14他完掘状況（北西から）



3区南半～7区完掘状況（北から）



8～10区ピット群検出状況（北から）



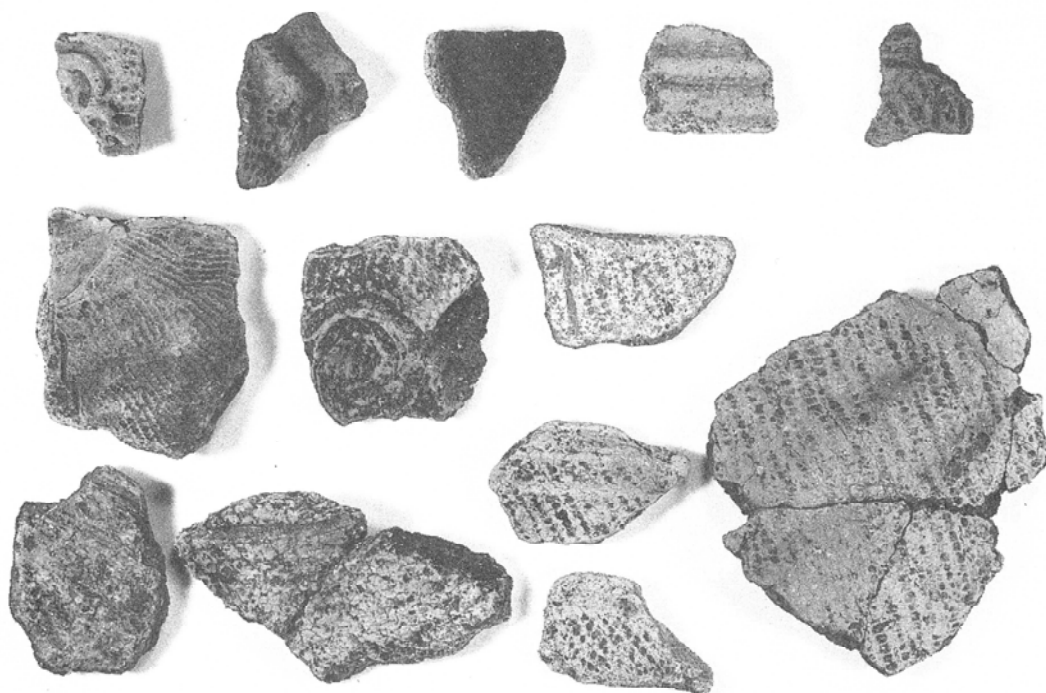
8～10区ピット群完掘状況（北から）



8～10区ピット群完掘状況（南から）



埋設土器検出状況（南から）



出土土器 (1)

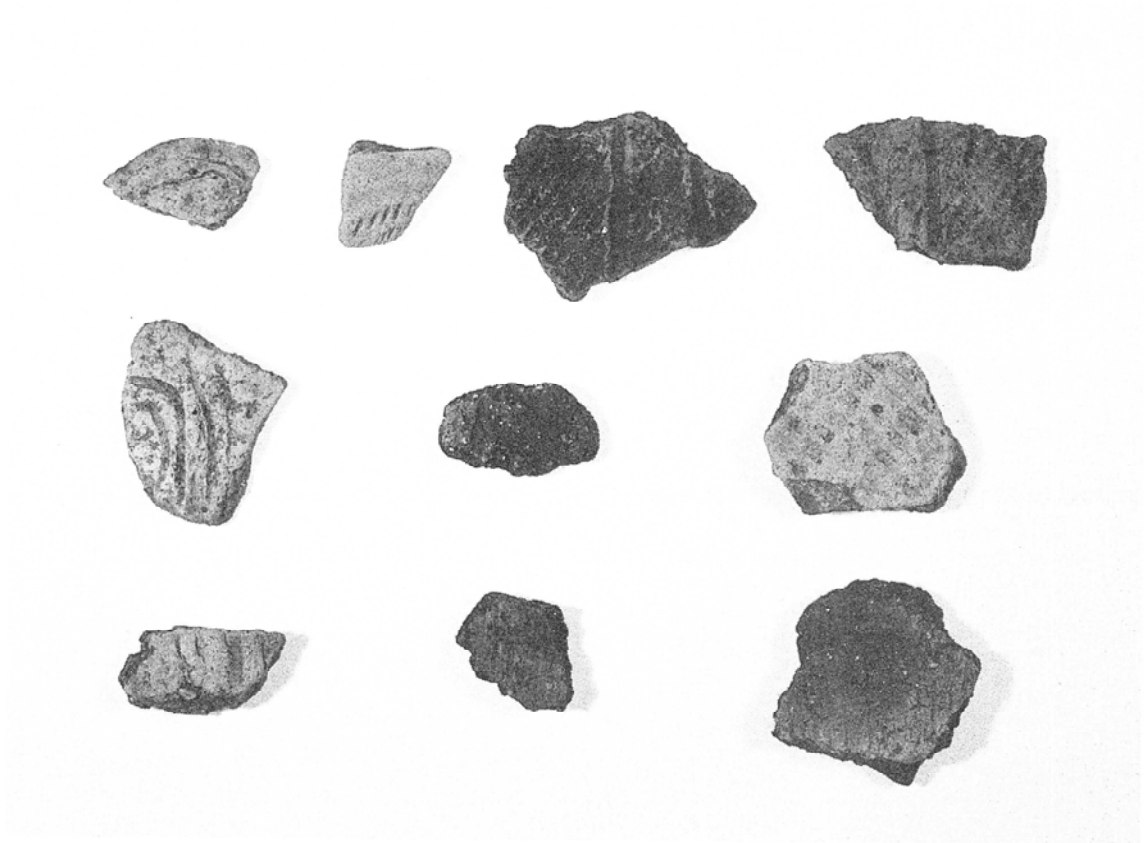


出土土器 (2)

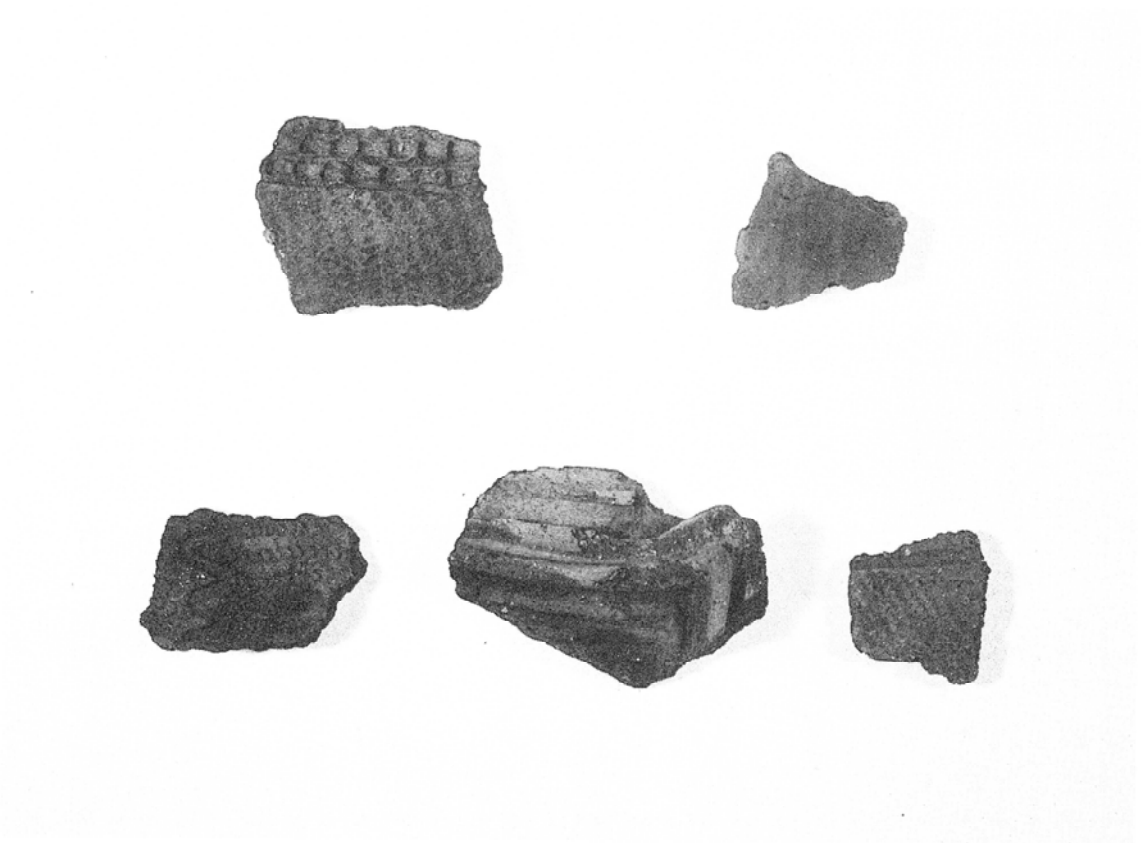


出土土器 (3) (S ≐ 1/2.5)

図版81 大樽遺跡 (8)



出土土器 (4)



出土土器 (5)



出土土器 (6) (S=1/4)



出土土器 (7) (S=1/4)



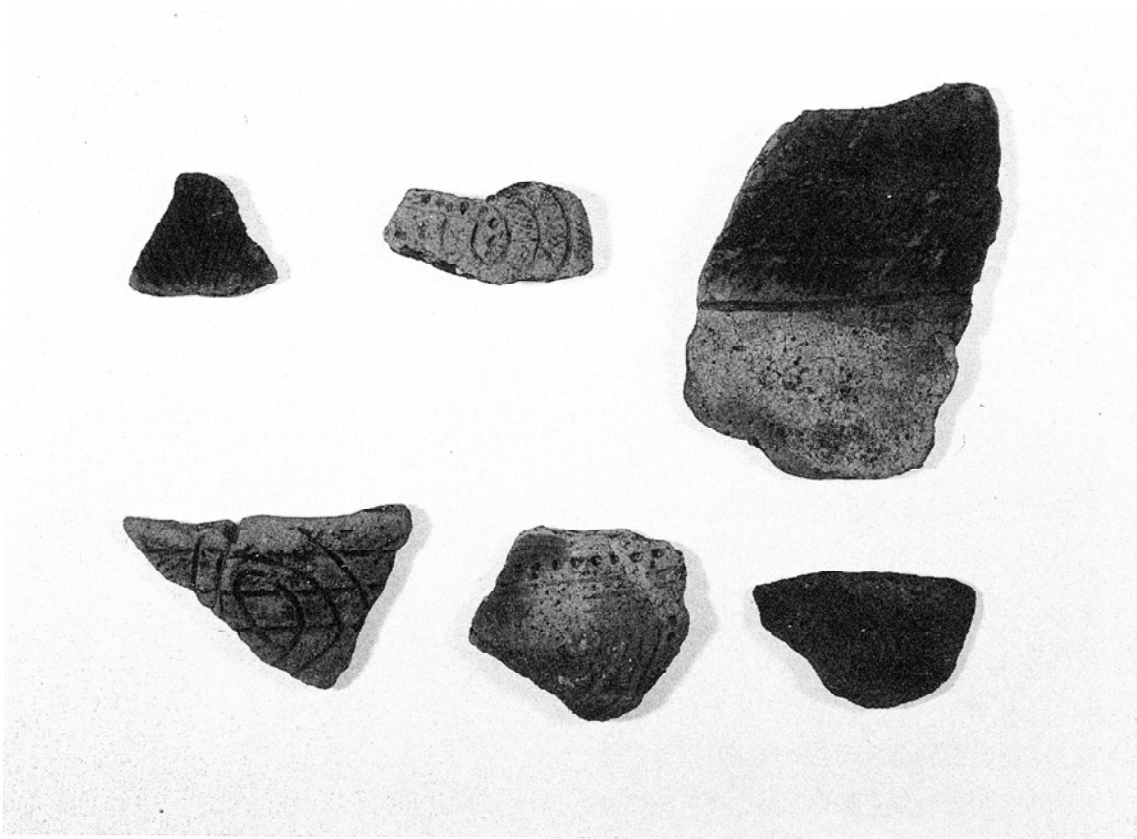
出土土器 (8)



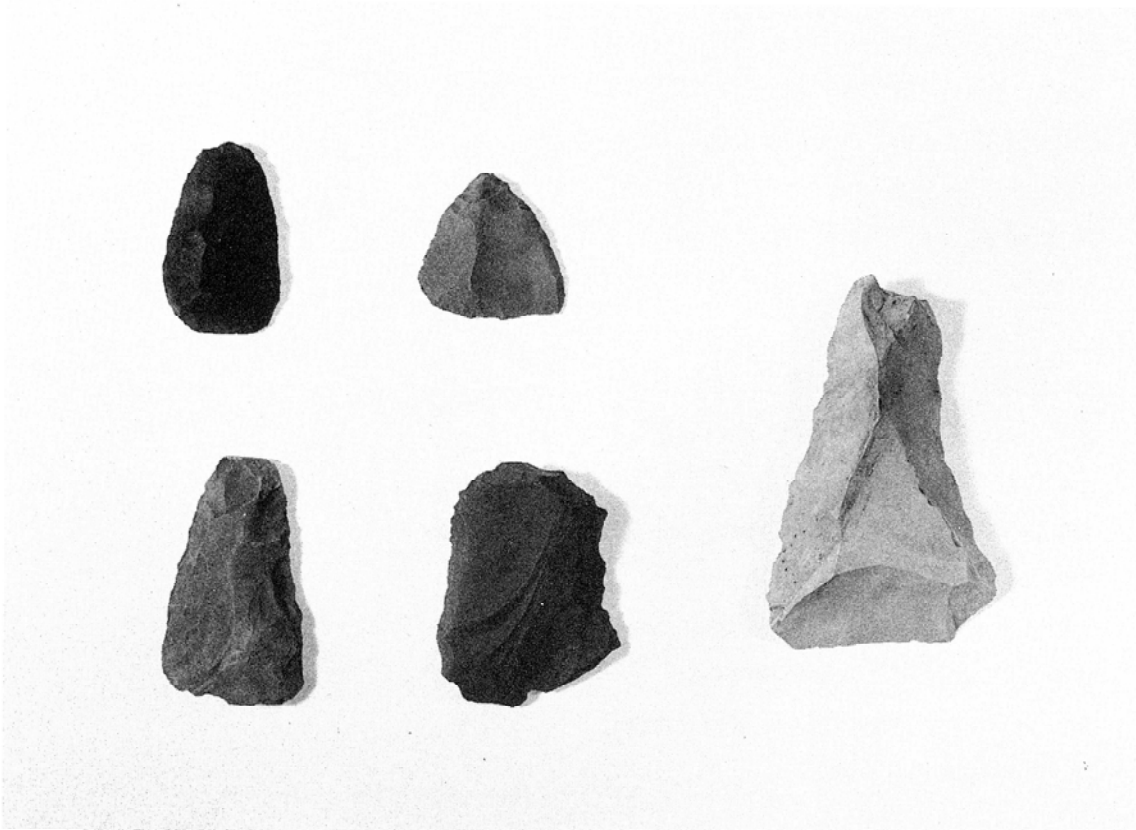
出土土器 (9)



出土土器 (10)



出土土器 (11)



出土石器

(5) 鶴ヶ岡城跡 (遺跡番号1532)

所在地 山形県鶴岡市馬場町

調査員 澁谷孝雄 佐藤庄一

調査期日 平成12年2月15日

平成12年3月6日

起因事業 都市計画街路羽黒橋加茂線標識設置事業

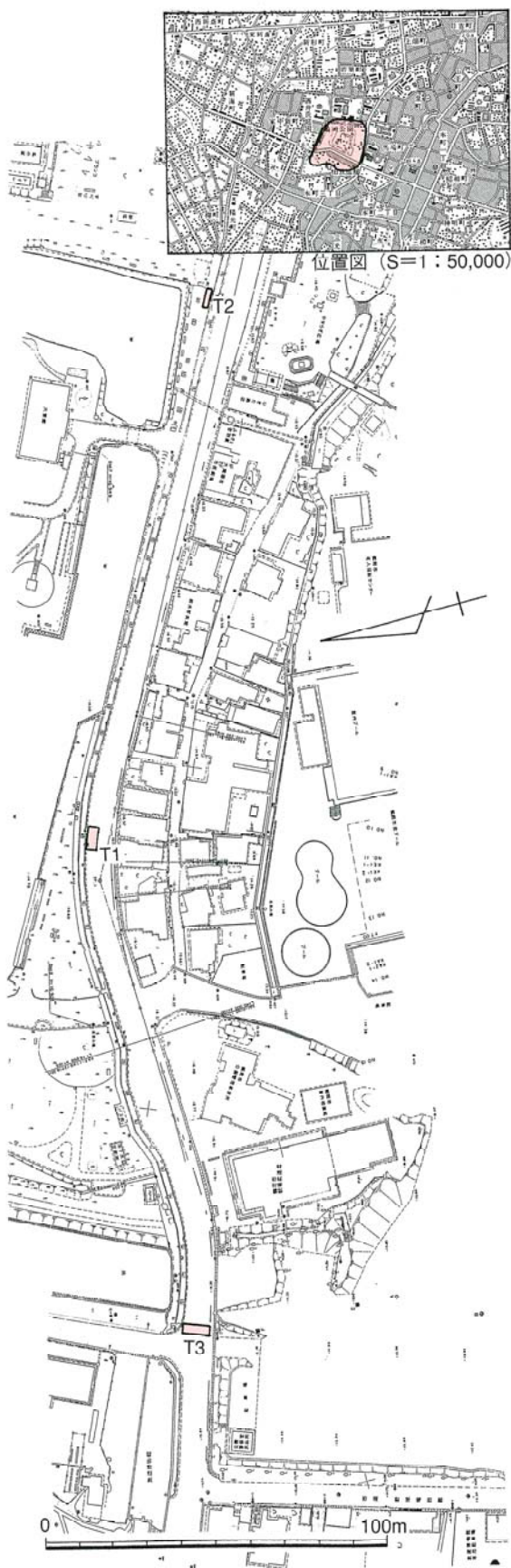
東北公益文科大学建設関係取水
水管・送水管埋設工事

遺跡環境 遺跡は鶴岡市のほぼ中央に位置し、赤川左岸の微高地に立地する。標高は13~18mを測る。城の形状が平城で、本丸・二の丸・三の丸と、各郭の外周を巡る土塁と堀を備える。

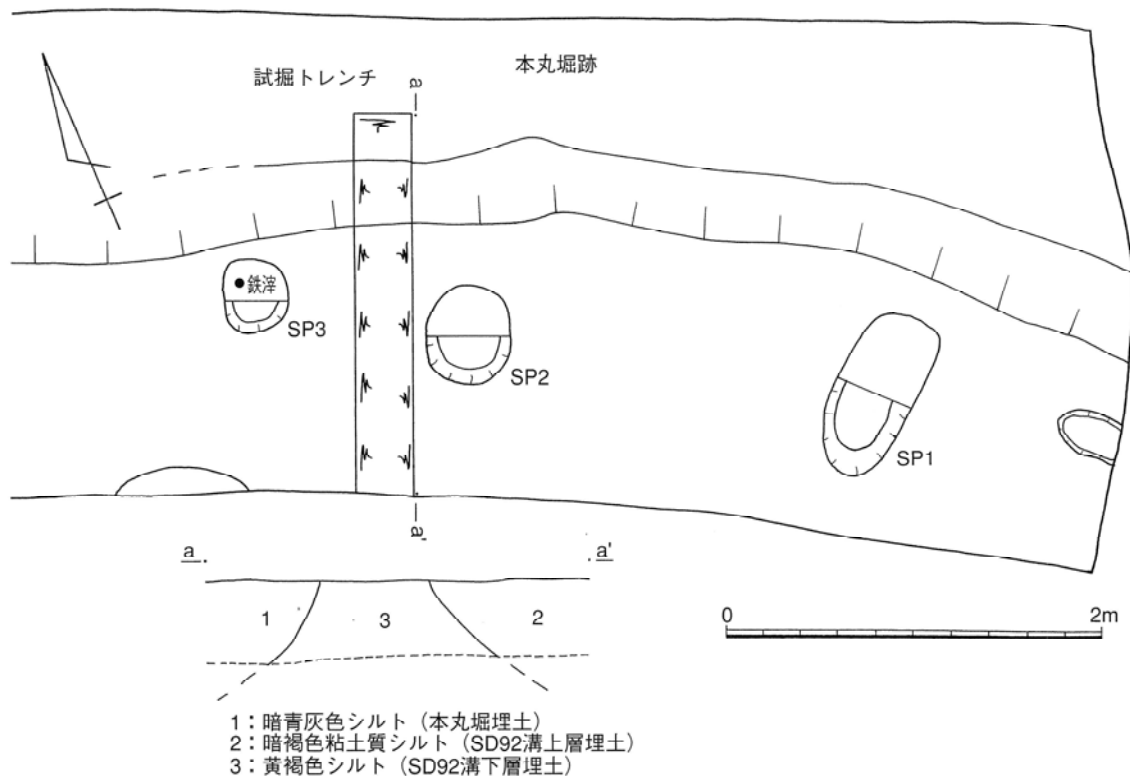
試掘状況 本遺跡については平成10年から都市計画街路羽黒橋加茂線改良工事に係る発掘調査を鶴岡市教育委員会が、東北公益文科大学建設に係る発掘調査を(財)山形県埋蔵文化財センターが実施している。今回は二事業とも規模が小さいことから、県教育委員会で立会調査を行ったものである。調査は重機を使用して地山まで掘り下げ、以後人力で面整理を行った。

調査結果 標識設置工事は2月15日、2ヶ所について立会調査を実施した。T1はバス停留所近くの道路敷内にあたり、一直線に並ぶピット3基(SD1~3)を検出した。ピットのある部分が整地層で高くなっており、その南側は鶴岡市教育委員会が平成11年度に調査したSD92溝跡となる。北側は二の丸、本丸間の堀跡となる。

T2は大寶館の南東部の歩道部にあたり、東西方向の溝跡や土坑等を検出した。各トレンチとも道路下50~70cmで遺構確認面に達し、整地層が厚く堆積している。



第78図 鶴ヶ岡城跡概要図



第79図 鶴ヶ岡城跡 T T 1 平面図

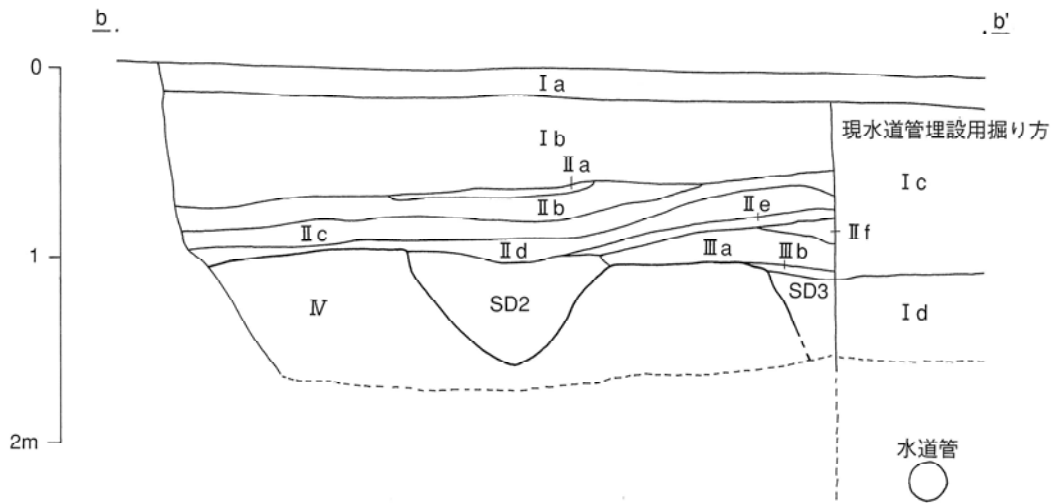
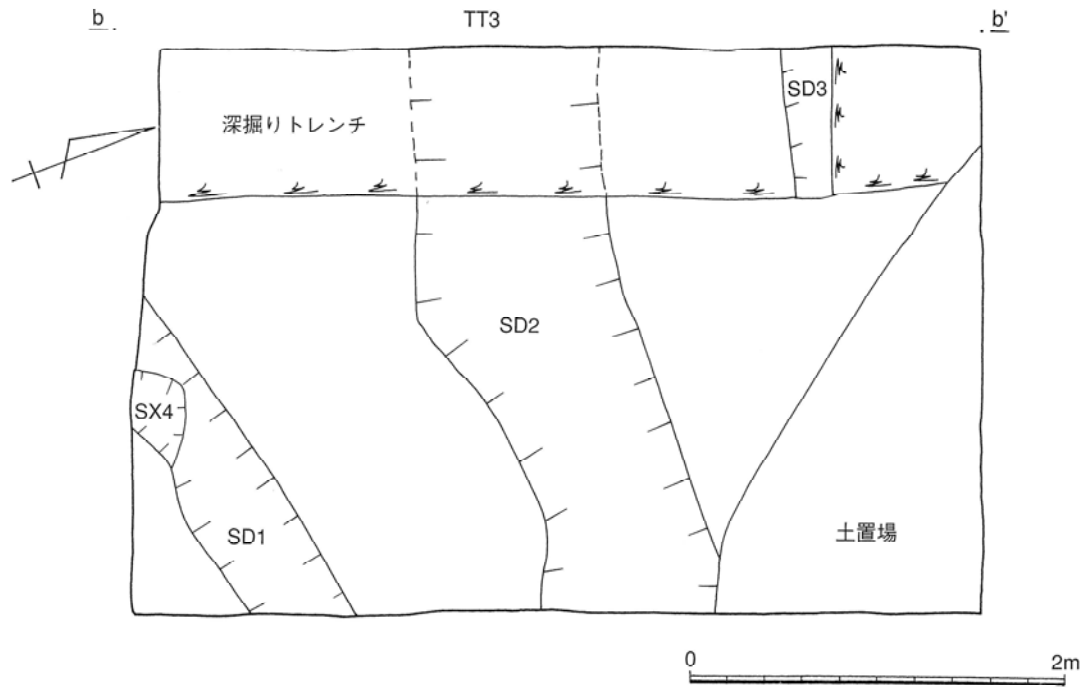
東北公益文科大学建設関係の取水管・送水管埋設工事は3月6日、1ヶ所について立会調査を実施した。調査区は(財)致道博物館南東の交差点中央にあたる。当初、取水管と送水管の埋設部を別々に調査する予定であったが、安全面から両者を合わせたトレンチ(T3)を1本設定した。

調査は道路舗装部とその下の砂礫層の盛土を重機械で約60cm下まで撤去し、順次地層を剥いだのち、II C層の灰褐色粘土面で遺構を確認した。調査区の南東隅で溝跡を1条(SD1)検出した。さらに面を掘り下げたところ、調査区の中央寄りで幅80~100cm長さ2mの溝跡を検出した。この溝跡は西壁の土層断面で確認されたSD2につながるものと思われる。この下面については安全面を考慮して、西側の壁添いを80cm幅で道路下170cmまで掘り下げた。全体的にIV層の黄褐色シルトが厚く堆積し、SD2以外の遺構は認められなかった。

調査区の北側は、近年の水道管を埋設した掘り方によって、歩道部に至るまでの範囲が地表下2mまで攪乱されている。ただし、これに切られたかたちでもう一つの溝跡(SD3)が確認されている。

T3からは近世以前の溝跡を3条検出した。このうちSD3は二の丸堀跡の南端になる可能性を有する。また、今回の調査区の南側には、古絵図から二の丸南西隅の虎口が想定され、今後、取・送水管を延長する場合には再度立会調査が必要になる。

なお両地区のT1~3とも、遺物は出土しなかった。



- | | |
|-----------------|------------------|
| Ia: アスファルト舗装面 | IIIa: 明褐色硬質シルト |
| Ib: 灰黄褐色砂礫層 | IIIb: 青灰色粘土 |
| Ic: 青灰色砂利 | IV: 黄褐色シルト |
| Id: 明黄褐色砂 | SD2-F: 明褐色粘土質シルト |
| IIa: 濁茶褐色硬質シルト | SD3-F: 褐色粘質シルト |
| IIb: 褐色硬質シルト | |
| IIc: 灰褐色粘土 | |
| IId: 暗灰褐色粘土質シルト | |
| IIe: 茶褐色砂 | |
| IIf: 濁褐色粘土質シルト | |

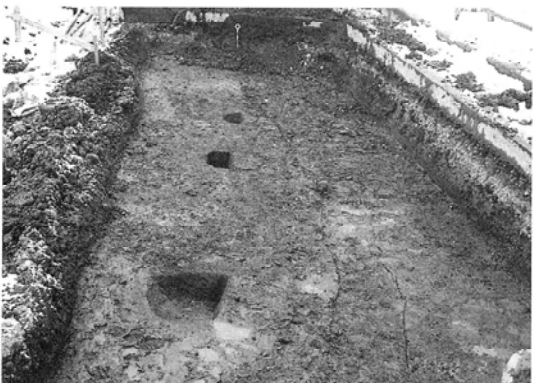
第80図 鶴ヶ岡城跡検出遺構平面図・断面図



遺跡近景（北東から）



標識設置立会 T 1 全景（西から）



標識設置立会 T 1 掘り下げ状況（東から）



標識設置立会 T 2 全景（東から）



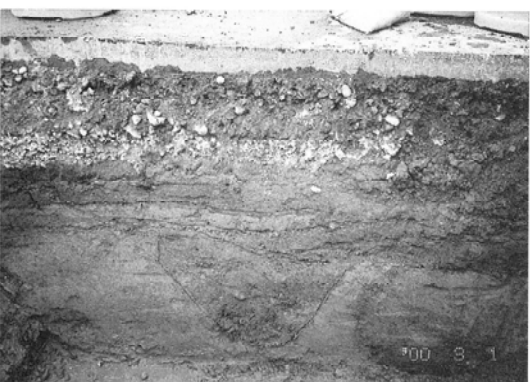
取水管等立会調査状況（西から）



同左 II C 層上面遺構検出状況（東から）



同上 西壁土層断面（東から）



同左 S D 2 西壁土層断面（東から）

(6) 名勝史跡 ^{やまでら}山寺 (昭和25年度指定)

所在地 山形県山形市大字山寺

調査員 佐藤庄一

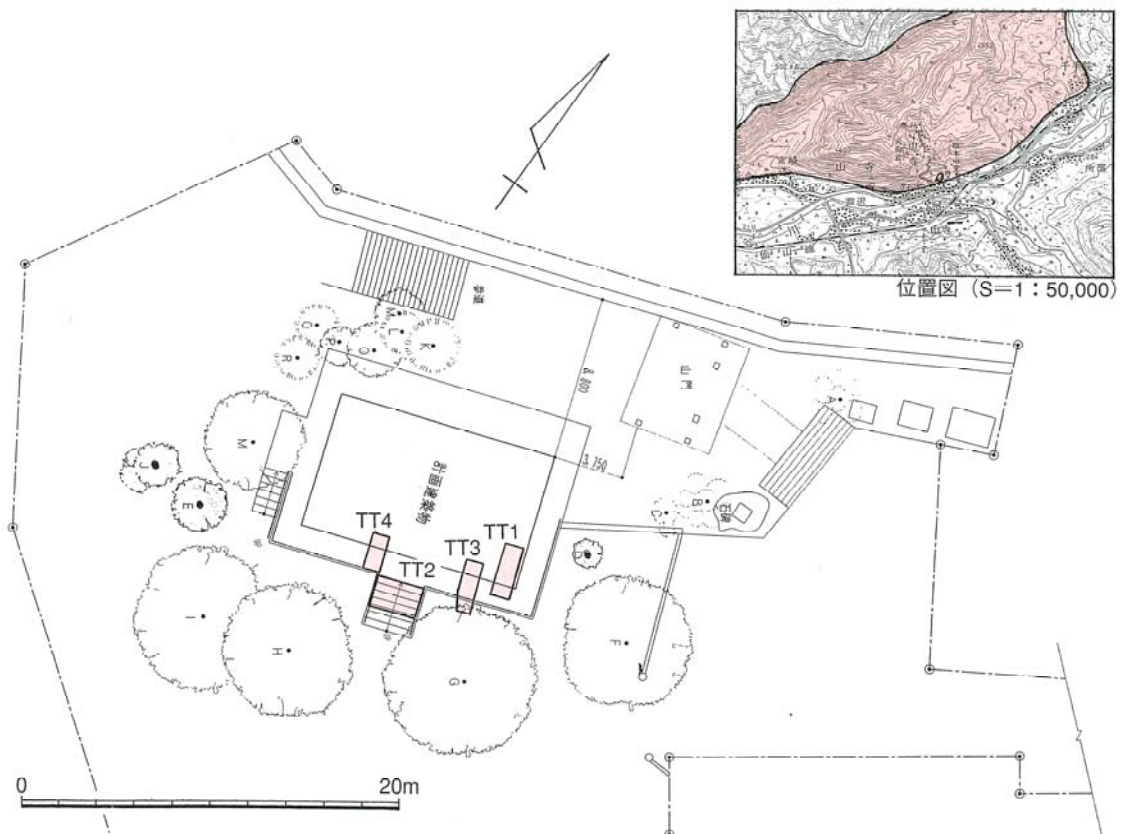
調査期日 平成11年9月27～28日

起因事業 立石寺寺務所改修事業

遺跡環境 史跡は山形市の北西10km、山寺地区北側に位置し、立谷川右岸の山麓に立地する。標高は100～600mを測る。名勝史跡山寺の立石寺寺務所改修事業にあたり現状変更の届出が提出されたため、事前に遺構の有無等の確認調査を実施したものである。立石寺は宝珠山阿所川院立石寺と称し、天台宗に属している。

試掘状況 本史跡については昭和36年10月、重要文化財立石寺中堂の修理工事に関わり、山形大学柏倉亮吉教授の指揮のもとに国立山形大学教育学部が一度発掘調査を実施している。調査は寺務所改修予定地について4ヶ所トレンチを設定し、人力で地山までの掘り下げと面整理を行った。

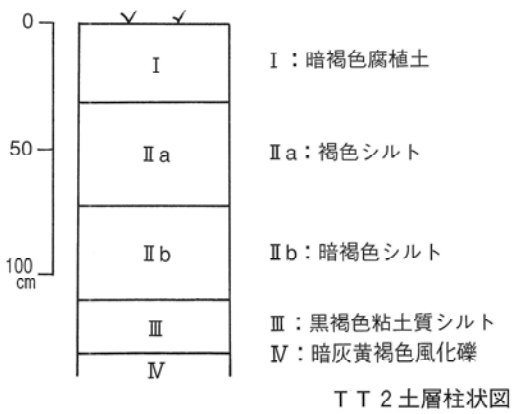
調査結果 4ヶ所のトレンチのうち、南東側の3ヶ所 (TT1～3) から礎石様の台石と柱穴が検出された。調査面積が狭く、建物の配置関係までは不明である。各TTとも地表下30～50cmでⅢ層の風化礫を含む黒褐色粘土質シルトに達する。遺物はTT1から平安時代の赤焼土器片が2片出土している。TT4からは遺構・遺物は認められない。



第81図 名勝史跡 山寺概要図



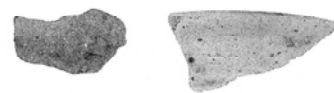
調査区近景（南西から）



TT 1 礎石検出状況（南から）



TT 3 遺構検出状況（北から）



出土遺物

Ⅲ まとめ

平成11年度の遺跡詳細分布調査は、平成12年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査、史跡の現状変更の確認調査も行った。

1 調査遺跡数

調査遺跡数～108遺跡（表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会い調査・史跡確認調査）

その他、調査遺跡数には含めないが、登録遺跡外で遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したもの（調査の結果、遺跡とまらないもの）や、表面踏査で各種開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地（今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの）などについても調査を実施した。

2 新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数 26遺跡

範囲の訂正、名称の変更等の措置が講ぜられた遺跡数 4遺跡

遺跡登録の抹消の措置をする遺跡数 4遺跡

以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

(1) 新規発見遺跡（平成11年度登録遺跡）

（遺跡名）	（所在地）
1 鷺の瀬遺跡	最上郡真室川町大字木の下
2 アコウギ1遺跡	村山市大字白鳥字アコウギ
3 アコウギ2遺跡	村山市大字白鳥字アコウギ
4 新田古墳	東田川郡藤島町大字鷺畑字新田
5 西山古墳	東田川郡藤島町大字添川字西山
6 西山2遺跡	東田川郡藤島町大字添川字西山
7 西山3遺跡	東田川郡藤島町大字添川字西山
8 河島八反遺跡	村山市大字河島元塩川字八反529-3他
9 蟬田遺跡	村山市大字名取字蟬田943他
10 松橋遺跡	村山市大字名取字松橋8-1他
11 田向遺跡	村山市大字名取字田向3318-16他
12 経塚森遺跡	村山市大字名取字経塚森3328-20他
13 清水遺跡	村山市大字名取字清水2005他
14 清水北遺跡	村山市大字名取字清水北2005他

15	沢田遺跡	村山市大字本飯田字沢田4232他
16	北原 2 遺跡	村山市大字本飯田字北原2160-54他
17	壁山 2 遺跡	村山市大字本飯田字壁山3481- 4 他
18	北原 3 遺跡	村山市大字本飯田字北原2160-54他
19	北原 4 遺跡	村山市大字本飯田字北原2160-60他
20	沼田 2 遺跡	村山市大字土生田字沼田4040他
21	八合田遺跡	村山市大字土生田字八合田2565- 1 他
22	北島遺跡	村山市大字土生田字北島1756他
23	道出遺跡	村山市大字土生田字道出1638- 1
24	中台 4 遺跡	最上郡真室川町大字釜淵字中台
25	中台 5 遺跡	最上郡真室川町大字釜淵字中台
26	中台 6 遺跡	最上郡真室川町大字釜淵字中台

(2) 範囲・名称の変更する遺跡

	(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
1	蓮華城遺跡	位置の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
2	念仏壇 A 遺跡	位置の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
3	念仏壇 B 遺跡	位置の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
4	トウボウ遺跡	位置の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』

(3) 登録を抹消する遺跡

1	姥ヶ沢遺跡	登録の抹消	平成12年 3 月『分布調査報告書26』
2	大沢口遺跡	登録の抹消	平成12年 3 月『分布調査報告書26』
3	弓張平 N 遺跡	登録の抹消	昭和54年 3 月『分布調査報告書 7』
4	村山農校遺跡	登録の抹消	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』

表一 3 掲載遺跡位置図（2万5千分の1）索引

No	遺 跡 名	図 幅 名	No	遺 跡 名	図 幅 名
1	横沼	藤島	56	道出	延沢・尾花沢
2	立泉川	新庄	57	百枚1	延沢・尾花沢
3	蓮花城	大沢	58	百枚2	延沢・尾花沢
4	鷺の瀬	大沢	59	今宿C	延沢・尾花沢
5	川代山E	羽黒山	60	家ノ廻り	延沢・尾花沢
6	ぐみの木小場	羽黒山	61	西原	延沢・尾花沢
7	念仏壇A	富並	62	弓張平N	本導寺
8	念仏壇B	富並	63	小田島城	楯岡
9	トウボウ	富並	64	秋山B	大沢
10	アコウギ1	富並	65	小国沢	富並
11	アコウギ2	富並	66	影沢北	山形北部・寒河江
12	家根合	藤島	67	壇の前	小国東部
13	庄前4	天童	68	片谷地	山形南部
14	姥ヶ沢	升田	69	藤島城	藤島
15	泥沢	升田	70	大日塚	酒田西部
16	泥沢楯	升田	71	蔵増押切	寒河江
17	鷺畑B	羽黒山	72	日向	羽前中山
18	新田古墳	羽黒山	73	沼沢館	舟形
19	西山古墳	羽黒山	74	志茂の手館	瀬見
20	西山2	羽黒山	75	金山城	及位・金山
21	西山3	羽黒山	76	宮内南館	赤湯
22	藤九郎清水A	羽黒山	77	日本国	鶴岡
23	藤九郎清水D	羽黒山	78	松山城	余目
24	丸山	上山	79	村山農高	楯岡
25	大沢口	羽前赤倉	80	豊龍館	宮宿
26	長峯山B	富並	81	中川原C	新庄
27	手塚館	長井	82	中台1	及位
28	向平A・B	下名川	83	中台2	及位
29	水沢館	三瀬	84	中台3	及位
30	八ツ沼城	宮宿	85	中台4	及位
31	梨郷南館	羽前小松	86	中台5	及位
32	福田山B	舟形	87	中台6	及位
33	渋江	山形北部	88	白鳥館	富並
34	石田	山形南部	89	高在家館	米沢北部
35	長瀬本楯館	楯岡・谷地	90	内方館	米沢北部
36	八反	楯岡・谷地	91	北小屋屋敷	米沢北部
37	河島八反	楯岡・谷地	92	金城館	長井
38	蟬田	楯岡・谷地・延沢・富並	93	二タ子A	升田・観音寺
39	松橋	楯岡・谷地・延沢・富並	94	かっぱ	羽前赤倉
40	田向	楯岡・谷地・延沢・富並	95	二階堂氏屋敷	寒河江
41	経塚森	楯岡・谷地・延沢・富並	96	宮ノ下	吹浦
42	清水	楯岡・谷地・延沢・富並	97	梅在家	山形北部
43	清水北	楯岡・谷地・延沢・富並	98	飛泉寺跡	小国東部
44	東熊野苗畑	延沢	99	八ヶ森	山形南部
45	大原口	延沢	100	長者屋敷	山形南部
46	沢田	延沢	101	山形城三の丸	山形北部
47	北原2	延沢	102	鶴ヶ岡城	鶴岡
48	壁山2	延沢	103	沼向	左沢
49	北原3	延沢	104	永源寺跡	山形北部・天童
50	北原4	延沢	105	長表	山形北部
51	沼田	延沢	106	大樽	米沢
52	沼田2	延沢	107	四ツ塚	谷地
53	八合田	延沢	108	高揃南	寒河江
54	北島	延沢・尾花沢	109	山寺	山寺
55	森の原	延沢・尾花沢			

報 告 書 抄 録

書 名	ぶんぶちょうさほうこくしょ 分布調査報告書(27)							
副 書 名								
シ リ ーズ 名	山形県埋蔵文化財調査報告書							
シ リ ーズ 番号	第201集							
編 著 者 名	長橋 至 渋谷孝雄 佐藤庄一							
編 集 機 関	山形県教育委員会							
所 在 地	990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号 TEL 023-630-2879							
発 行 年 月 日	西暦 2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うめざいけ 梅在家	やまがたけんやまがたし おおあざ 山形県山形市大字 しもそりだ あざはったん 下反田字八反	06201	平成11年 度登録	38度 16分 18秒	140度 16分 39秒	19990721～ 19990723	500	須川護岸工事 (飯塚地区)
みやのした 宮ノ下	やまがたけん あくみ ぐん ゆ ぎ まち 山形県飽海郡遊佐町 おおあざきため あざみやのした 大字北目字宮ノ下他	06461	2086	39度 02分 15秒	139度 54分 42秒	19990809～ 19990812	500	一般農道整備 事業北目地区
やまがたじょうさん まる 山形城三の丸	やまがたけんやまがたし じょうなんまち 山形県山形市城南町 他	06201	山形県中 世城館遺 跡調査報 告 201-002	38度 14分 53秒	140度 19分 57秒	19980731 19980803 ・04・10・11 ・19981015 19990118～ 19990121	510	都市計画街路 事業東原・村 木沢線城南陸 橋架け替え工 事
おおたる 大樽	やまがたけんよねざわ し たてやま 山形県米沢市館山 よんちやうめ 四丁目	06202	1207	37度 54分 37秒	140度 04分 23秒	19990621～ 19990629	100	一般県道綱木 西米沢停車場 線道路改良

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梅在家	集落跡	平安時代	竪穴住居跡5棟、土坑3基、性格不明落込み4基、溝跡、柱穴	平安時代須恵器(坏蓋甕)、赤焼土器(甕)等 整理箱3箱分	須川の河川敷内から検出された平安時代(9世紀)の竪穴住居を伴う集落跡。山形盆地を北流する須川の流路変遷を考える上での好資料となる。 遺跡は、遺構の分布状況の確認調査および、一部発掘調査を実施後、建設省の協力により、埋め戻しをおこない、現状保存とした。
宮ノ下	集落跡	室町時代	土坑20基、溝跡3条、柱穴	珠洲系陶器(播鉢)、木製品(箸) 整理箱1箱分	これまでの発掘調査による知見(平安時代の集落跡、山形県埋蔵文化財センター調査報告書第32集「宮ノ下遺跡発掘調査報告書」)に加え、今回の調査では、室町時代の集落跡も存在することが明らかとなった。
山形城三の丸	城館跡	近世	西1トレンチ(掘り方4基、土坑2基、溝跡1条他) 西2トレンチ(井戸跡1基、溝跡1条、溝状落込み1基) 西3トレンチ(井戸跡1基、土坑3基、落込み1基) 西4トレンチ(土坑4基、柱穴13基、溝跡2条、落込み5基) 東1トレンチ(旧河道、柱穴2基) 東2トレンチ(土坑5基、溝跡2条、落込み1基) 東3トレンチ(井戸跡2基、土坑5基)	縄文時代の石匙、平安時代の須恵器・赤焼土器片・土師器片 近世の陶磁器、近世の瓦 整理箱10箱分	山形城二の丸南側の三の丸跡の調査。工事工程により小規模な調査を数次にわたり実施。 遺構の大半は近世の所産と考えられるが、古代まで遡る遺構も存在する。馬見ヶ崎川扇状地に形成された縄文から近世までの遺構が存在する。
大樽	集落跡	縄文時代(中期末～後期前半)	土坑14基、埋設土器、柱穴等	縄文土器・石器等 整理箱8箱分	検出された大半の遺構は縄文時代後期の所産と考えられる。主に後期の土坑群が検出された。中には袋状の土坑となるものも存在する。遺物は縄文時代早期・前期・中期・後期と多彩だが、後期以外は再堆積とみられる。

山形県埋蔵文化財調査報告書第201集

分布調査報告書(27)

平成11年度以降農林土木事業他関係遺跡
東北中央自動車道相馬尾花沢線関係遺跡
建設省事業関係遺跡

平成13年3月19日 印刷

平成13年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社
